

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	鬼怒川ゴム工業株式会社			
所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地			
事業者番号	0602			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,912	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	19 ゴム製品製造業			
分類番号 (中分類)	19			
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：自動車用ゴムホース製造		
	区分	企業		
	前年度	資本金	500	百万円
		従業員数	463	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035001	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部	2,912
合 計			2,912

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 埼玉ホース部品生産部 受付
		所在地 1 埼玉県入間市大字新光235番地
		閲覧可能時間 1 9:00~18:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ホース部品経営管理部	04-2932-1211	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境理念**  
 当社は、地球の環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりのある社会造りに貢献していきます。

**環境方針**  
 当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用していきます。

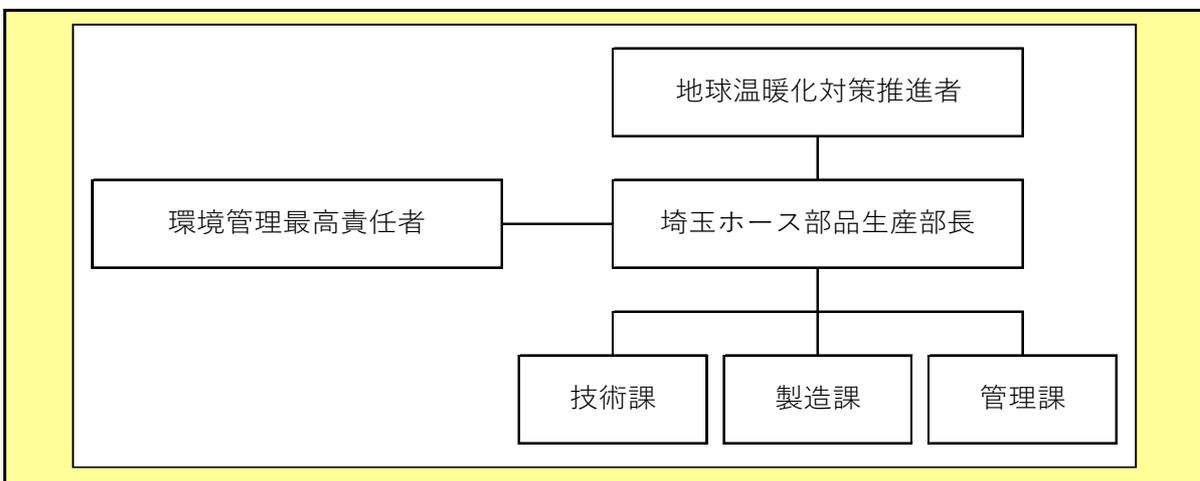
1) 当社の事業活動が地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、継続的な改善を進めながら地球環境の保全に努めます。

2) 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。

3) 関連する法規及び条令、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。

4) 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,078	5,329	5,708		
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,078	5,329	5,708		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0602	事業所番号	035001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部		
事業所所在地	市区町村	入間市	
	字・地番	大字新光235番地	
産業分類名(中分類)	19 ゴム製品製造業		
分類番号(中分類)	19		
事業活動の概要	事業内容	自動車用ゴムホース製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,464	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,366	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,585	2,715	2,912		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,078	5,329	5,708		
前年度比 (%)	—	4.9	7.1		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
三フッ化窒素					
温室効果ガスの合計	5,078	5,329	5,708		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.4753	1.4400	1.3539		
前年度比 (%)	—	-2.4	-6.0		
活動規模の指標	単位				
ゴム使用量	t/年	3,442.00	3,700.64	4,215.92	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和1年に対して令和2年のCO <sub>2</sub> 排出量が減少した主な要因としては生産量の減少（半導体減産影響に伴う客先減産）
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和2年に対して令和3年のCO <sub>2</sub> 排出量が増加した主な要因としては客先半導体減産、新型コロナ影響が令和2年度より令和3年度が多少回復した事もあり生産量が増加（前年度比+8.7%）した影響による。又、CO <sub>2</sub> 排出量原単位が令和2年度に対し令和3年度が現象した主な要因については、各種の省エネ効果が出ている
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	前年に比べエネルギー使用量が増えた要因として下期に入りコロナ影響、半導体影響が少なくなってきたことで生産量が回復したことで増加。排出量自体は生産増に伴い増加しているが、稼働時間の見直し等細かい省エネ対策により原単位は減少している。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,366	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,366	7,366	7,366	7,366	7,366	36,830
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						29,464
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						7,366
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,078	5,329	5,708			16,115
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	31.06%	27.65%	22.51%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,288	2,037	1,658			5,983
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R2	R2	
2	490200		その他 49_その他の削減対策	工場屋根の断熱塗装	R2	R2	
3	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアーコンプレッサーのインバーター化	R2	R2	
4	310500		一般管理事項 31_生産工程のエネルギー管理	生産工程歩留り向上、生産性向上改善活動(継続)	R2	R2	
5	490200		その他 49_その他の削減対策	老朽化設備更新(LPG気化装置)	R3	R3	
6	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明からLED照明への変更	R3	R3	
7	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R3	R3	
8	330200		空調設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化設備更新(冷却チラー、排気ファン)	R5		
9	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化(R4計画分)	R4	R4	
10	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内照明機器のLED化(第2期分)	R4	R4	
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社カナオカグラフィア			
所在地	東京都台東区台東1丁目32-6			
事業者番号	0603			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	6,119	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：プラスチックフィルム等のグラフィア印刷、ラミネート、仕上げ加工の製造業		
	区分	企業		
	前 年度	資本金	100	百万円
		従業員数	784	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060300	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	679
B、C事業所			
C	044501	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場	2,583
C	044502	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場	2,857
合 計			6,119

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 埼玉第二工場
		所在地 1 埼玉県鴻巣市笠原854-1
		閲覧可能時間 1 営業時間8時15分～17時15分の間
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	埼玉第二工場 FSSC推進室	048-543-6211	
2			
3			

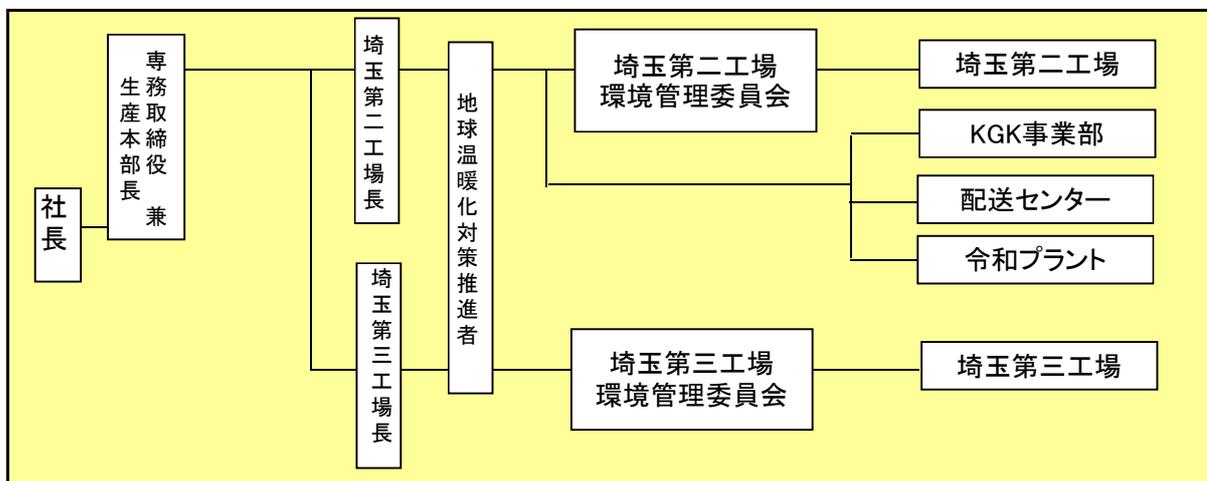
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境方針**  
 株式会社カナオカグラビアは、地域及び地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、事業活動の各段階において環境に対してきめ細かな配慮をし、以下の活動を推進していきます。

1. 環境関連の法規制及び協定その他の合意事項を遵守します。
2. 以下の環境への負荷低減に務め、継続的に改善します。
  - (1) 地球温暖化を防止する為の省エネルギー活動
  - (2) 省資源化、並びにリサイクルに取組み廃棄物の削減
  - (3) 揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出削減
3. 本方針を達成するために、環境目標を具体的に定めて実行し、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	10,821	11,560	12,306		
その他ガス					
温室効果ガスの計	10,821	11,560	12,306		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0603	事業所番号	060300
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	前年度における事業所数	3
代表事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	上谷2115-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製造品：別工場で仕上がったプラスチック加工フィルムの更なる加工。各工場 で仕上がった製品の保管、出荷、配送。 従業員：KGK事業部75名、 配送センター47名、令和プラント60名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	866	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	その他ガス	新しい工場が途中から1つ加わり、3つの事業所合計での管理となります。2事業所は製造ですが、配送センターは別拠点を含めた保管・出荷・配送となる。第3計画開始当初は、KGK事業部（機械や空調での電気使用）と配送センター（照明と空調の電気とパレット洗浄機のガス使用）だけで、この2事業所だけで基準排出量を2019年の数値（866t-CO <sub>2</sub> ）としたが、これから製造が毎年増えていく令和プラントが加わった事で、この基準は達成出来ない基準となりました。また、原単位に関しては扱う物が違う為、共通単位が設定出来ず。				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	鴻巣市上谷2115-5
2	株式会社カナオカグラビア 配送センター	埼玉県鴻巣市上谷2129-1
3	株式会社カナオカグラビア 令和プラント	埼玉県北本市中丸10-194-1
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	411	449	679		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	866	810	884	1,337		
前年度比（%）		—	9.1	51.2		
基準となる排出量に対する削減率（%）		6.5	-2.1	-54.4		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		810	884	1,337		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比（%）		—				
基準となる原単位に対する削減率（%）						
活動規模の指標	単位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	埼玉第二工場、第三工場の売上増に伴い、配送センターの電気使用量は増えたが、排出量の8割以上を占めるK G K事業部の生産数が減った為、2019年度よりも排出量は減った。
令和3年度 (2021年度)	旧埼玉第一工場跡地に令和プラントが11月に建ち、この月から令和プラントの電気使用量が発生した事で、拠点増によるCO <sub>2</sub> 発生増加。 K G K事業部は前年度とあまり変わらず。 配送センターでは、一部の製品が委託先へ移行した事でラック倉庫のクレーン稼働が減ったのと空調の温度設定管理を行った事で電気の使用量が減った。 ガスの使用量に関してはパレット洗浄機の稼働が増えた事で使用量が増えた。
令和4年度 (2022年度)	令和4年度は、令和3年度の11月から稼働が始まった令和プラントの年間を通した稼働が開始した事でエネルギー起源CO <sub>2</sub> は前年度比51%になった。 K G K事業部は夏の作業現場の暑さ改善の為、令和3年12月に大型エアコンを増設。また、売上が前年度比108%と伸びた事もあり、電気の使用量が増えた。 配送センターは電気に関して前年度とほぼ変わらず。ガスの使用量は令和3年度に記載したと同様に更にパレット洗浄機の稼働が増えた事で使用量も増えた。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	KGK事業部2棟ある内の古い棟が全てラ ビットタイプの蛍光灯だった為、LED化。		R1以前	
2	350600	受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気 の損失の防止に関す る措置	KGK事業部ではH31年2月に事務所にデマ ンド計を設置。これにより夏場の電気使用 量を管理する。		R1以前	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	H27年度にLED化行ったKGK事業部古い棟は新しい 棟を建てた事で、使用してはなく、もう1棟が一部LED 化していない為、そのLED化をR5年5月に実施		R5	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

弊社埼玉エリアで製造した製品の配送業と弊社製品の一部の特殊製品を加工する工場、更に2022年1月に埼玉第一工場の跡地に令和プラントが竣工し、これらの3つの事業所が対象。KGK事業部は加工賃払いの工場。一方で配送センターは埼玉第二工場、第三工場、KGK事業部、令和プラントで仕上がった製品の保管、出荷、配送業務を行う事業所です。KGKは工場なので配送センターの7倍位、電気を使用しており、それに見合った両事業所が共通する原単位がない為、3の(3)の「計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況」は設定出来ません（更に、生産工場の令和プラントが加わり、この工場も配送センターとは単位が合わない）。今後、新しい工場の令和プラントの生産が順調に進めば電気使用量が増えます。更に機械を入れるスペースはまだある為、生産機も増えて行く方向です。その為、基準となる排出量は今後見直します。

令和 5 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	笠原854番地1	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	24,104	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	6,026	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,318	2,518	2,583		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,540	4,936	5,066		
前年度比 (%)	—	8.7	2.6		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,540	4,936	5,066		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.1253	1.1387	1.0911		
前年度比 (%)	—	1.2	-4.2		
活動規模の指標	単位				
売上	百万円/年	4,034.42	4,334.75	4,643.14	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>メインの生産機への投入量は前年比103%でした。電気の使用量は対前年97%、ガスの使用量は対前年107%と言う結果でした。            ガスは11月、12月とこの3月が昨対約130%だった為、この3カ月の使用量が足を引っ張った形です。            電気についてはコロナの影響で前半稼働が少し減り、休日出勤をしていた部署が休日出勤を行わなくなった事もあり使用量が減った。            2020年4月頃印刷機導入（2021年12月末移動）</p>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>6月から生産増の対応の為にラミネートの2班体制が3班制になり、1階の印刷・ラミネート室でも土日稼働が始まった（1階の大型生産機は8台あり、その中の2台だけが土日稼働し始めた）。1階では動力として空調と印刷機、ラミネート機の乾燥設備にガスを使用している。当工場では印刷機、ラミネート機が稼働するとそこで発生するVOCを燃やしてその熱源で廃熱ボイラーが稼働する設備がある為、この廃熱ボイラーが稼働するとガス炊きボイラーの使用量が減るのだが、ラミネート機2台だけの稼働では、廃熱ボイラーを動かす程のVOCの燃焼能力がない事で廃熱ボイラーは土日動かしていない。この状況が輪を掛けてガスの使用量を増やしてしまっている。</p>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>昨年度に続き、土日稼働の3班制がラミネートだけではなく、印刷機6台ある内の1台も3班制となった。これにより土日もある程度のVOCが発生するであろうと言う事で、令和4年3月の途中から廃熱ボイラーも土日に稼働させるようになった。この稼働によりガスの購入割合は減ったはずだが、稼働日が増えた事で使用量が増えてしまっている。この燃料増について、電気使用量は対前年比101%だが、ガス使用量は対前年比108%となってしまった。</p>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,026	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	30,130
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						24,104
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						6,026
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,540	4,936	5,066			14,542
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	24.66%	18.09%	15.93%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,486	1,090	960			3,536
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	グラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
6	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製袋機エリアの古い大型パッケージエアコンを最新の高効率エアコンに入れ替え		R2	
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製版エリアでまだ古いパッケージエアコンが2台ある為、高効率のものへ変更予定		R6	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

令和3年度の途中から、顧客注文増に対応すべくラミネートと1部の印刷で土日稼働の3班制を行っている事で、稼働日増による電気とガスの使用量が増えてしまっている。  
この稼働日増は、基準排出量変更手続きの対象とはならないため、目標達成はかなり厳しくなりました。

令和 5 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044502
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場		
事業所所在地	市区町村	羽生市	
	字・地番	川崎一丁目371番地15	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,692	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,423	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,630	2,781	2,857		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,471	5,740	5,903		
前年度比 (%)	—	4.9	2.8		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,471	5,740	5,903		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.5448	1.5134	1.5007		
前年度比 (%)	—	-2.0	-0.8		
活動規模の指標	単位				
売上	百万円/年	3,541.49	3,792.79	3,933.62	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無	印刷・ラミネートの大型機械が入る1階は空調はボイラーが熱源となるが、2019年度までは暖房から冷房に切り替わる季節において効率の悪い使用を行っていた。2020年度から季節の切り替え方法を見直しを行いガスの使用量が4月、5月はかなり減った。 VOC処理装置を熱源とする廃熱ボイラー設備が老朽化してきた事もあり、12月に修理を行った事で、この設備の稼働が良くなり、2月以降もガスの使用量が大きく減った。 2021年2月に「新テント 600㎡」増加した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和2年度12月に行った廃熱ボイラー関連の設備の修理による設備の効率が復帰した事で廃熱ボイラーの稼働が増え、更には増築による基準排出量の変更協議も受理され基準排出量の変更があった事もあり、生産増による電気の使用量は増えたが、基準排出量の20%以上の削減が出来た。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	前年度に対して全体生産量は96%だったが、前年度から本年度の前半まで原材料となるフィルム供給が安定しなかったことで、顧客納期を間に合わす為に効率の悪い分断加工が増えてしまい、作業時間は対前年106%に増加。 また、人手不足による印刷機械停機（特に廃熱ボイラーを稼働させる為のRTO設備へ一番多くVOCを供給できる印刷・ラミネートが一遍に出来るインライン機械が一番よく止まっていた）もあり、廃熱ボイラーの効率稼働が悪くなり、その分のガスの使用量が増えてしまった。 更にCO <sub>2</sub> 増の要因として、本年度の夏季は前年より暑い日が多く、平均気温でも1.5～2度高かった事で電気、ガス共に使用量が増えてしまった。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,423	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,423	7,423	7,423	7,423	7,423	37,115
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						29,692
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						7,423
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,471	5,740	5,903			17,114
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	26.30%	22.67%	20.48%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,952	1,683	1,520			5,155
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

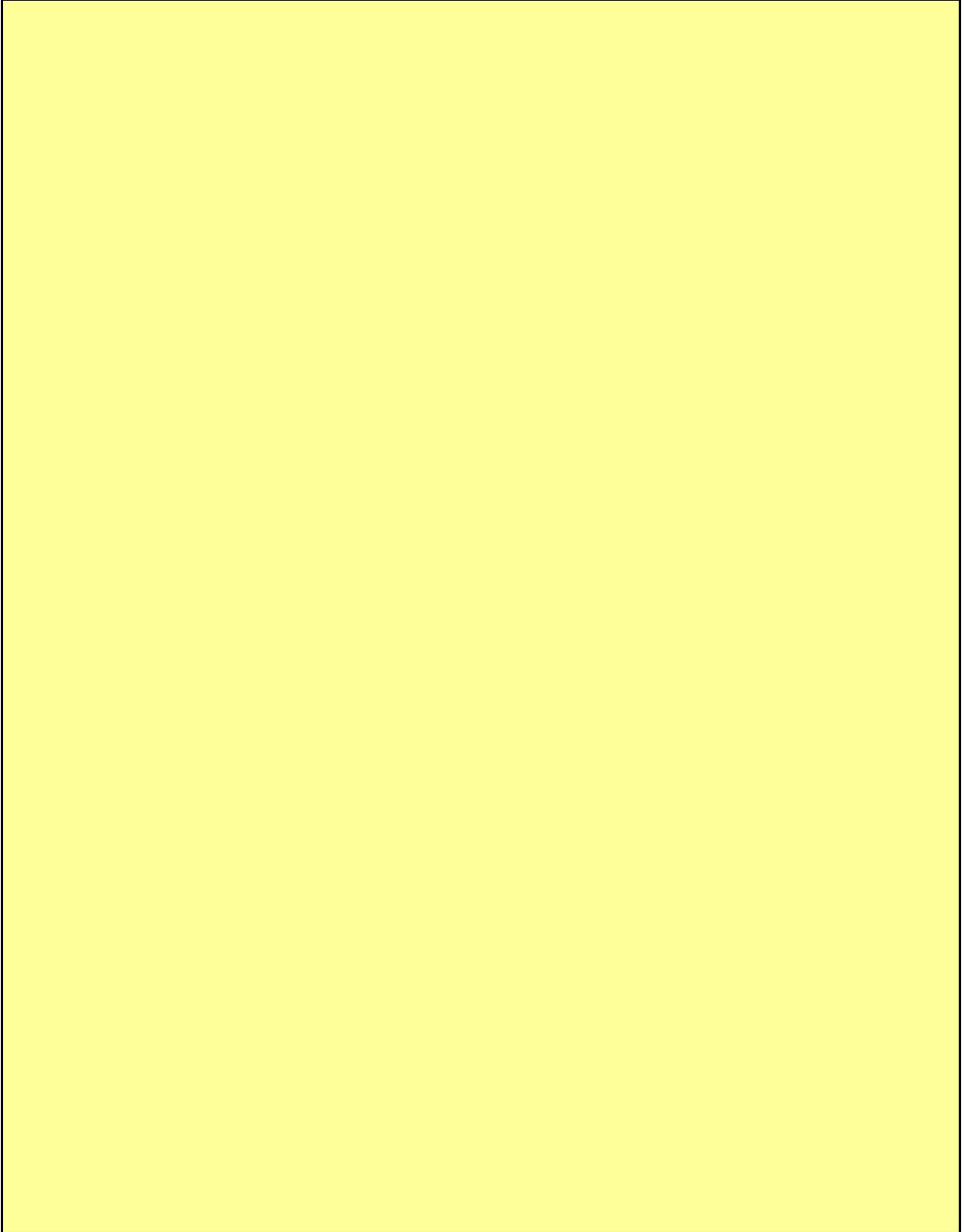
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	設立からグラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
6	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	VOC処理装置から廃熱ボイラーに繋がる一連の設備の老朽化の部品を交換し、効率改善を行う		R2	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 湖池屋		
所在地	東京都板橋区成増5丁目9-7		
事業者番号	0604		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	9,219	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	スナック菓子(主にポテトチップス)製造・販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	2,269 百万円
		従業員数	858 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	013801	株式会社湖池屋 関東工場	9,219
合 計			9,219

（4）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="https://koike-ya.com/csr/index.html">https://koike-ya.com/csr/index.html</a>
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲 覧 場 所 1	株式会社湖池屋 マーケティング部 広報課
		所 在 地 1	東京都板橋区成増5-9-7
		閲 覧 可 能 時 間 1	9:00～16:00（土日祝日除く）
		閲 覧 場 所 2	株式会社湖池屋 関東工場 総務課
		所 在 地 2	埼玉県加須市久下1615
		閲 覧 可 能 時 間 2	9:00～16:00（土日祝日除く）
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社マーケティング部広報課	080-3582-2708	
2	関東工場総務課	0480-65-1064	
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

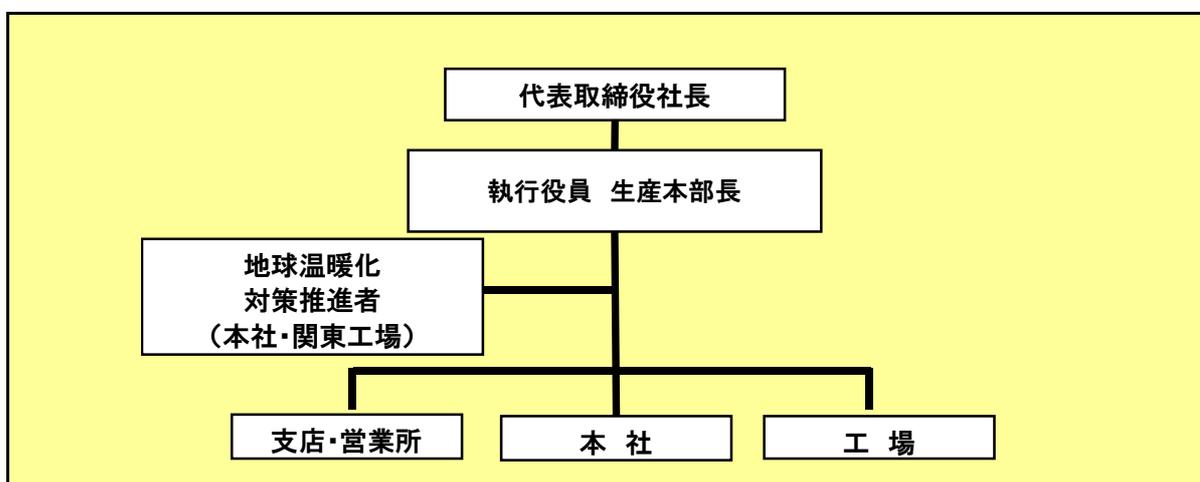
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**グループ環境行動指針**

1. 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設定し、事業活動に取り組めます。
2. 事業活動による廃棄物の削減及び再資源化、省資源、省エネルギーを推進するとともに、地球環境に負荷を与える物質の削減に取り組めます。
3. 環境に配慮した原料・資材調達、商品開発、生産に努めます。
4. 環境保全のための社会貢献活動に取り組めます。
5. 環境教育を通じ、環境保全に対する意識向上を図るとともに、全社員が環境意識を持って行動します。

環境行動指針に準拠し、民生部門の削減行動、産業部門の設備投資により省エネルギーに取り組み、温室効果ガス排出量の削減に結びつけます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	18,601	17,716	17,940		
その他ガス					
温室効果ガスの計	18,601	17,716	17,940		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0604	事業所番号	013801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社湖池屋 関東工場		
事業所所在地	市区町村	加須市	
	字・地番	久下1615番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容: スナック菓子(主にポテトチップス)製造・販売 従業員数: 720名(平成31年6月末現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し削減計画期間の平均削減率目標を25%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	81,324	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	20,331	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	9,559	9,104	9,219		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	18,601	17,716	17,940		
前年度比 (%)	—	-4.8	1.3		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	18,601	17,716	17,940		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.0875	1.1380	1.0976		
前年度比 (%)	—	4.7	-3.6		
活動規模の指標	単位				
生産量	t/年	17,105.00	15,567.00	16,345.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三工場稼働開始による床面積、生産ラインの増加</li> <li>・対昨年で生産出来高12%増、稼働時間6.6%増</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対昨年で生産出来高9%減、稼働時間2.2%減によるエネルギー消費量の減少（対昨年で電気1.7%減、都市ガス5%減）</li> </ul>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対昨年で生産出来高4%増、稼働時間2%増によるエネルギー消費量の増加（対昨年で電気1%増、都市ガス1%増）</li> </ul>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	20,331	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	20,331	20,331	20,331	20,331	20,331	101,655	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							81,324
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							20,331
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	18,601	17,716	17,940			54,257	
	削減率 (F = (A - E) / A)	8.51%	12.86%	11.76%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	1,730	2,615	2,391			6,736	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

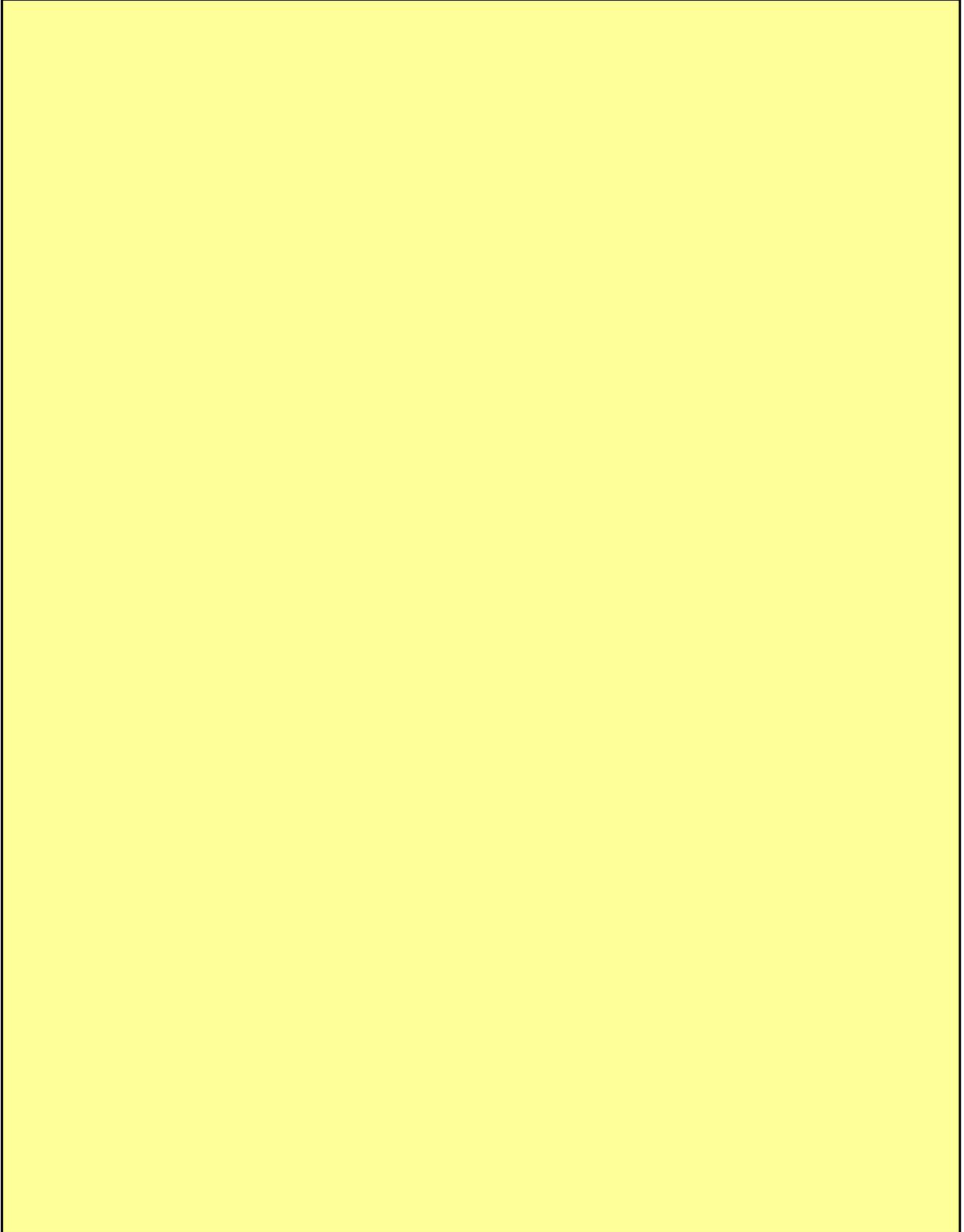
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	人感センサー等による在室検知制御の 導入	R5		5.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明器具のLED化	R4	R4	50.0
3	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空気調和設備の更新(効率の向上)	R5		20.0
4	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	屋上屋根への断熱塗料の塗布	R5		10.0
5	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	日照調整フィルムの貼り付け	R5		5.0
6	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	コンテナ殺菌機表面の断熱強化	R5		10.0
7	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	スチームトラップの点検・清掃及び更 新	R5		10.0
8	340500	発電専用設 備、コージェ ネレーション 設備	34_熱の動力等へ の変換の合理化に 関する措置	ガスコージェネレーションシステム導 入による消費エネルギー削減	R1以前	R1以前	
9	320200	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	L2-Tech認証設備の導入	R1以前	R1以前	
10	360700	ポンプ、ファ ン、ブロー ー、コンプレ ッサー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	効率の良い設備の導入もしくは更新	R5		65.0
11	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラーブローの排熱の有効活用	R5		2.7
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社 プレナスフーズ	
所在地		北葛飾郡杉戸町深輪398-12	
事業者番号		0605	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		2,908	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		09 食料品製造業	
分類番号 (中分類)		09	
事業活動の 概要	事業内容		事業所内容 冷凍調理食品製造業 精米
	区分		企業
	前 年度	資本金	50
従業員数		420	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	060501	株式会社プレナスフーズ CENTOS	2,908
合 計			2,908

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社 プレナスフーズ
		所在地 1	埼玉県北葛飾郡杉戸町深輪398-12
		閲覧可能時間 1	午前9:00～午後4:30、月～金(祝日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1		0480-36-7228	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**(1) 目的**

- ・循環型社会推進における環境法令に対応することで企業責任を果たす
- ・企業全体の環境負荷や取り組みを把握し、企業価値向上に向けてステークホルダーに発信する

**(2) 対象課題**

- ①CO<sub>2</sub> 排出量削減対策
- ②プラスチック対策（レジ袋、プラスチック容器関連）
- ③食品ロス削減・食品リサイクル対策

**(3) 対象範囲**

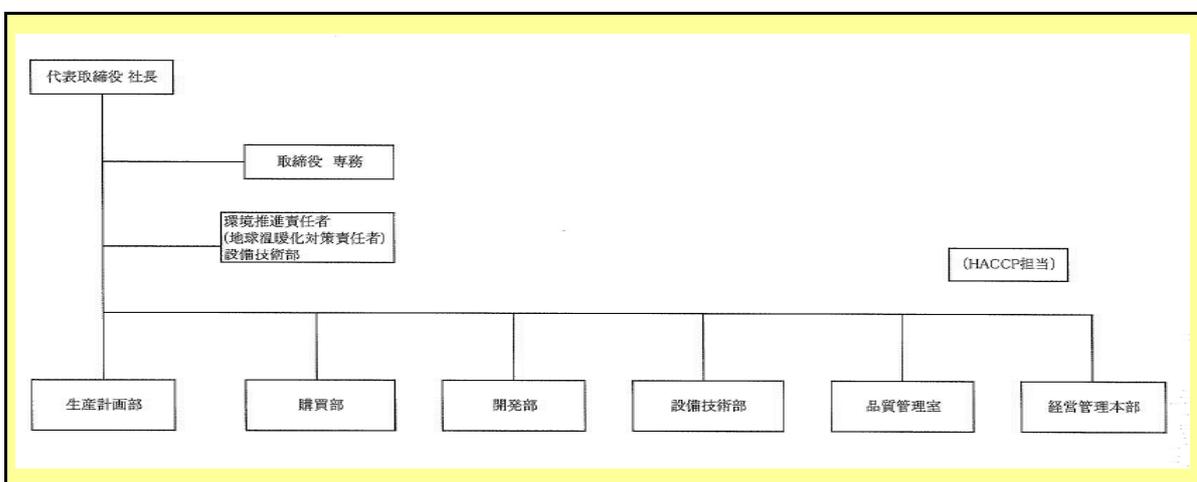
プレナス及びプレナスグループ会社

※まずは国内で取り組み、国外の取り組み是非については確認必要

**(4) 取り組み概要**

- ①全社環境負荷数値の把握、自社環境法令対応の状況確認
- ②対象課題への取り組み
- ③取り組みの開示（持続可能な社会への貢献、企業価値の向上）

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,383	5,752	5,964		
その他ガス					
温室効果ガスの 合 計	5,383	5,752	5,964		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0605	事業所番号	060501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社プレナスフーズ CENTOS		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡杉戸町	
	字・地番	深輪398-12	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業所内容 冷凍調理食品製造業 精米	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和元年度のCO <sub>2</sub> 排出量4,809 t-CO <sub>2</sub> を基準として、令和2及び3年度の排出量を2%以上削減します。令和4年度からは、C事業所になるため、令和4~6年度の排出量を基準排出量の6%以上削減します。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,619	2,802	2,908		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,383	5,752	5,964		
前 年 度 比 ( % )	—	6.9	3.7		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,383	5,752	5,964		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1855	0.1820	0.1870		
前 年 度 比 ( % )	—	-1.9	2.7		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t/年	29,022.00	31,600.00	31,900.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
調温庫設備の増設、生産量の増加、生産時間の延長						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
調温庫設備の増設による電力使用量の増加、生産量の増加、生産時間の延長						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
調温庫設備の増設による電力使用量の増加、生産量の増加、生産時間の延長						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)			6.00%	6.00%	6.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,383	5,752	5,964			17,099	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )							
各年度の排出量の検証				未実施				

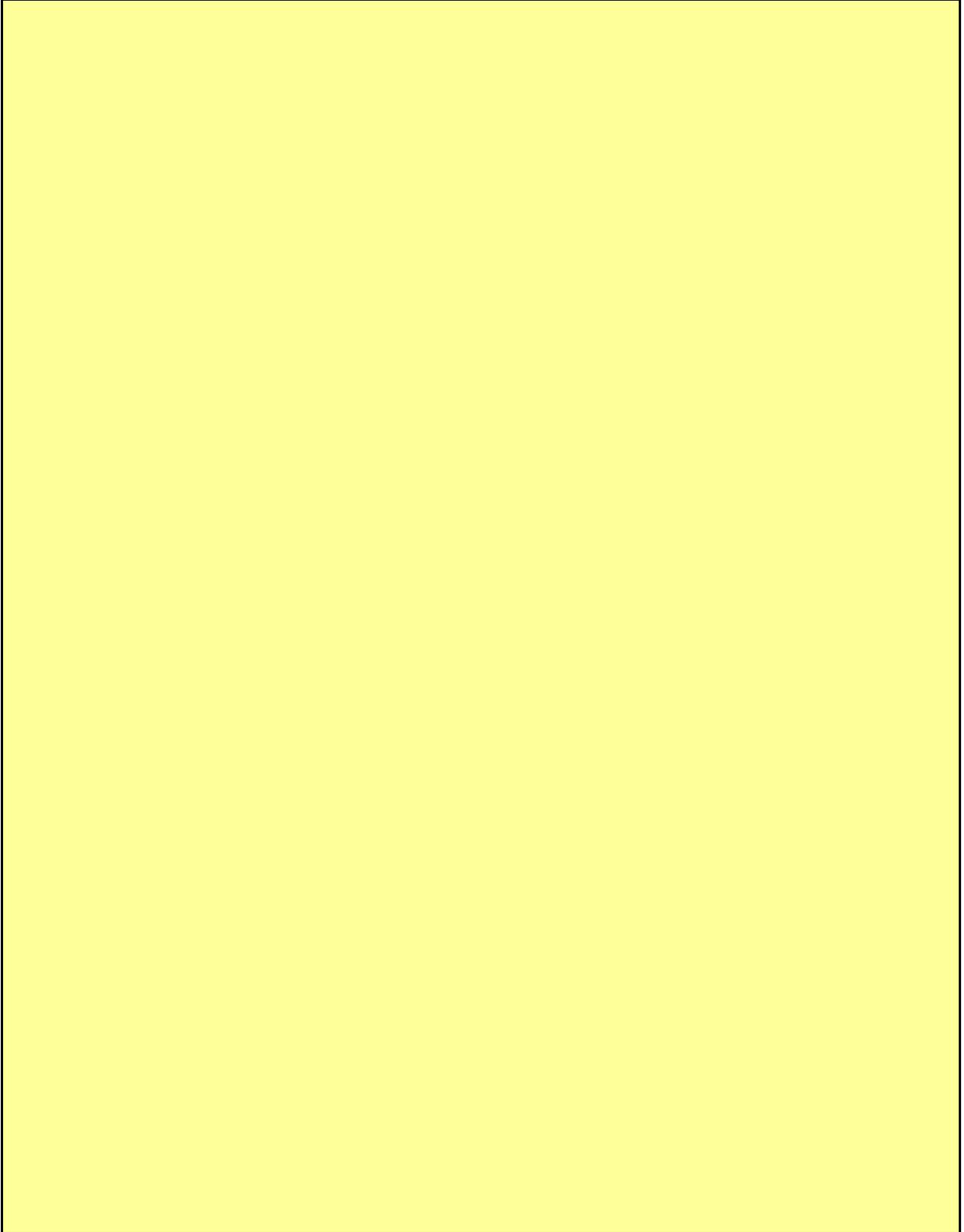
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関わる推進組織の整備	R2	R4	
2	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラー2台稼働から1台稼働に変更	R2	R4	20.0
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	生産停止日のボイラー稼働停止	R2	R4	20.0
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気バルブに保温材の設置	R2	R4	10.0
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	外調機のデマンド制御	R2	R4	20.0
6	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	キュービクルに電力削減装置ecomを設置	R4	R5	100.0
7	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	おまかSaveAirによる厚生棟の空調機制御装置を設置	R4	R5	20.0
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	佐川印刷株式会社			
所在地	京都府向日市森本町戊亥5番地の3			
事業者番号	0607			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,178	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	商品カタログ・パンフレット等商業印刷物の 総合企画制作、印刷・製本加工・組版・製版 等		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	1,750	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060700	佐川印刷株式会社 越谷工場	6
B、C事業所			
C	052301	佐川印刷株式会社 松伏工場	1,172
合計			1,178

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	松伏工場 総務課	048-991-4520	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

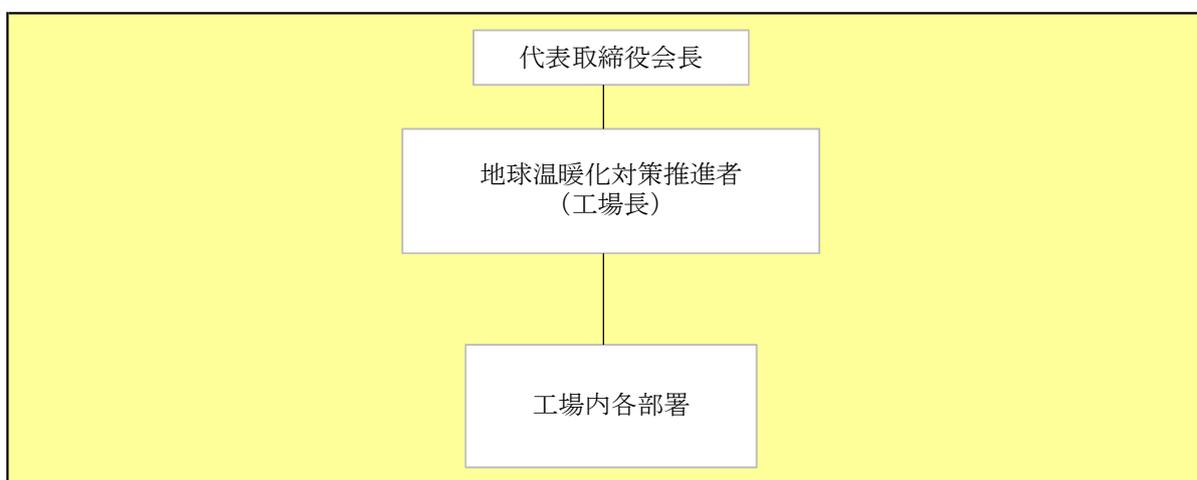
## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

佐川印刷は、地球温暖化防止・環境改善に力を入れており、再生紙の使用、CTP導入によるフィルムレス（資源保護）など、さまざまな活動に取り組んでいます。

## 【資源使用量の低減と廃棄物低減の継続】

私たちは、生産活動において生じる環境汚染要因、資源の使用量、再資源化されない、排出物の排出量の低減を図るため、目的・目標を定め継続的に環境保全活動を展開します。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,364	2,398	2,310		
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,364	2,398	2,310		

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0607	事業所番号	060700
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	佐川印刷株式会社 越谷工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	越谷市	
	字・地番	西方2639-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製本加工・アッセンブリー業務 主な設備：製本設備、立体倉庫		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	827	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	第2計画期間に引き続き可能な限りの対策を講じ、平成26年度の排出量(827t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年度末までに15%の削減努力を継続します					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	佐川印刷株式会社 越谷工場	越谷市西方2639-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	107	50	6		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	827	211	98	12		
前年度比 (%)		—	-53.6	-87.8		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		74.5	88.1	98.5		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		211	98	12		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		3.8364	6.1250			
前年度比 (%)		—	59.7			
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単位					
出荷額	百万円/年	55.00	16.00	0.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	生産ラインの縮小により、CO2排出量が大幅に減少したと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	生産ラインを廃止し、出荷業務メインとなったためCO2排出量が大幅に減少したと考えられる。
令和4年度 (2022年度)	※2022年5月より、工場建て替えのため建物解体。(2年後を目途に立替え予定)
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

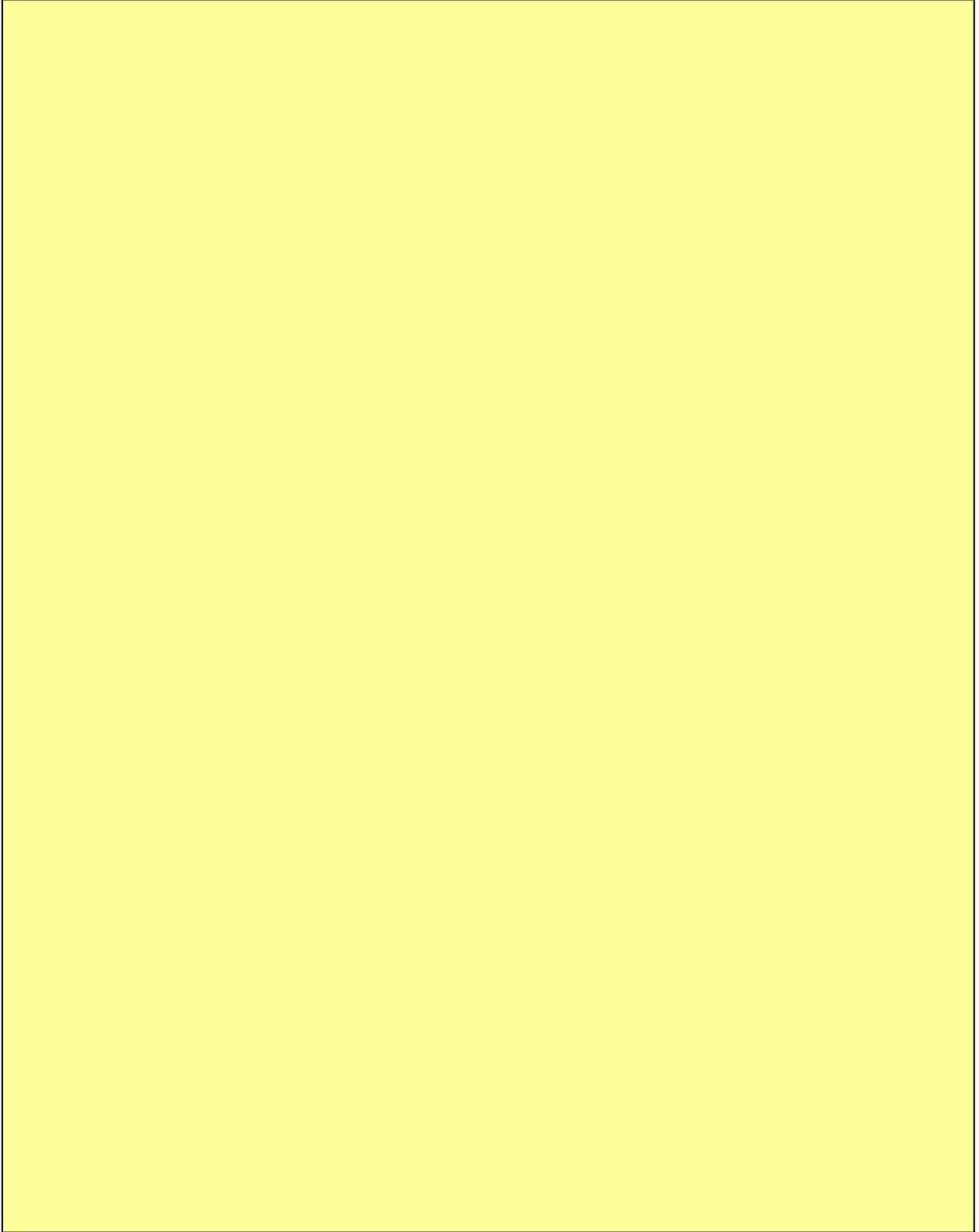
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画も継続>		R1以前	80.0
2	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調温度管理および機器点検 <第3計画も継続>		R1以前	40.0
3	310200	一般管理事 項	31_主要設備等の保 全管理	設備の保守管理 <第3計画も継続>		R2	60.0
4	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	生産ライン縮小による電気動力の抑制		R3	80.0
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0607	事業所番号	052301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	佐川印刷株式会社 松伏工場		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡松伏町	
	字・地番	大字田島東3番地2	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	紙媒体の印刷及び製本 主な設備：オフセット輪転印刷機(両面4色刷機) 製本加工設備(中綴機、折加工機) 巻取自動立体倉庫等	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減対象期間の平均削減率を20%とします。 (必要に応じて排出量取引を活用します)				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,652	t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,095	1,170	1,172		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,153	2,300	2,298		
前 年 度 比 ( % )	—	6.8	-0.1		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,153	2,300	2,298		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	5.6958	5.2874	4.1257		
前 年 度 比 ( % )	—	-7.2	-22.0		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	百万円/年	378.00	435.00	557.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により印刷受注量が減少。</li> <li>・オフリン1号機の更新による、電力使用量削減とCO<sub>2</sub>排出量の減少。</li> <li>・2階共有スペース・事務室等を蛍光灯からLEDに交換。</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>前年より生産量が増加したため、CO<sub>2</sub>排出量は6.8%増加したが、オフリン3号機更新・4号機撤去などにより、基準排出量4,913t-CO<sub>2</sub>に対し53.19%の削減率となった。</p>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>製本中綴じ3号機の撤去と、老朽化した1号機と2号機を新台に更新。 4月より、製本課昼勤体制から昼夜稼働体制へ変更したため製本課単体では電力使用が前年の倍になったが、工場全体としては電力・ガス使用量が前年比較でほぼ同じとなった。 工場全体の生産量・出荷額ともに、前年比128%となっている事から機械待機時間を稼働時間へ変える事ができたため、効率の良い機械稼働へ繋がった。</p>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	4,913	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,913	4,913	4,913	4,913	4,913	24,565
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						19,652
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,153	2,300	2,298			6,751
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	56.18%	53.19%	53.23%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,760	2,613	2,615			7,988
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施			

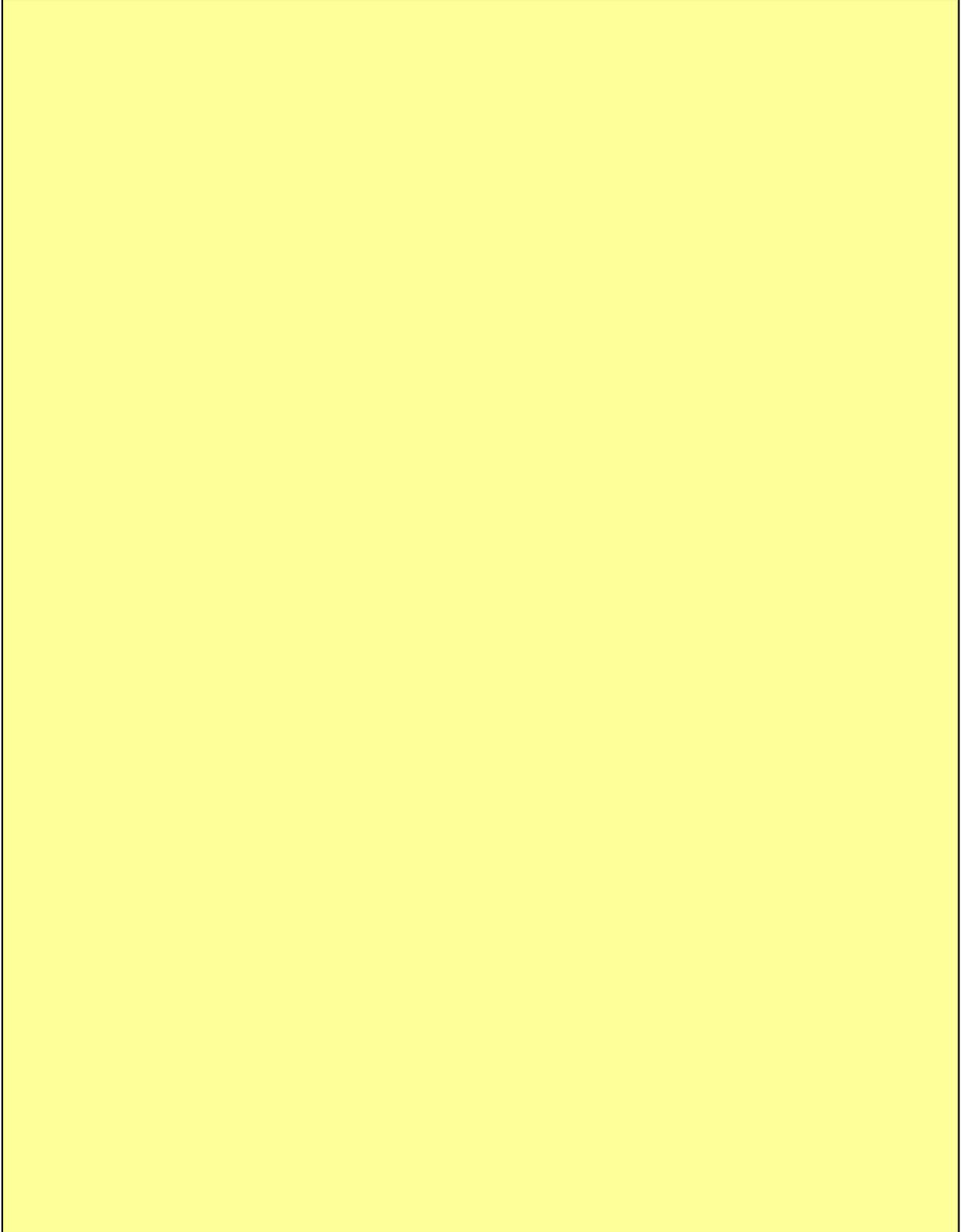
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
2	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する 措置	デマンド装置によるピーク電力管理 昼休みシフトによるピーク電力抑制 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
3	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による合理化 (A輪1台) <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
4	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による エネルギー使用量削減	R2	150.0
5	330200		空調和設備・ 換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調設備更新後の効率的な運用 <第3計画期間も継続>	R1以前	50.0
6	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転課コンプレッサーの効率的運用 ・インバーター機能の活用/咄嗟圧力 調整<第3計画期間も継続>	R1以前	70.0
7	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	チラー更新による合理化	R1以前	70.0
8	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新(非常灯) <第3計画期間も継続>	R1以前	120.0
9	490200		その他	49_その他の削減対 策	外壁補修・塗装による断熱効果 天窓補修による換気改善 <第3計画期間も継続>	R1以前	100.0
10	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	生産体制の管理強化と効率的な機械稼 働	R2	200.0
11	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転1号機更新によるエネルギー使用量 削減	R2	80.0
12	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転3号機更新・4号機廃止によるエネ ルギー使用量削減	R3	148.0
13	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	駐車場水銀灯・製本室・刷版室の LED照明への更新	R4	23.0
14	170300		負荷平準化	17_新エネルギー	太陽光自家発電導入による、エネ ルギー使用量の削減	R5	95.0
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場			
所在地	埼玉県北本市中丸9丁目55番地			
事業者番号	0608			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	4,261	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の概要	事業内容	2011年1月11日 関東グリコ株式会社として創立 2020年7月1日 グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社に吸収合併され、同北本工場となる 事業内容：菓子（ポッキー、プリッツ等）の製造 その他：見学者施設を併設		
	区分	企業		
	前年度	資本金	80	百万円
		従業員数	600	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	051401	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場	4,261
合 計			4,261

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 弊社応接室
		所在地 1 埼玉県北本市中丸9丁目55番地
		閲覧可能時間 1 9:00~17:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ファクトリーイノベーション推進課	048-593-8209	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

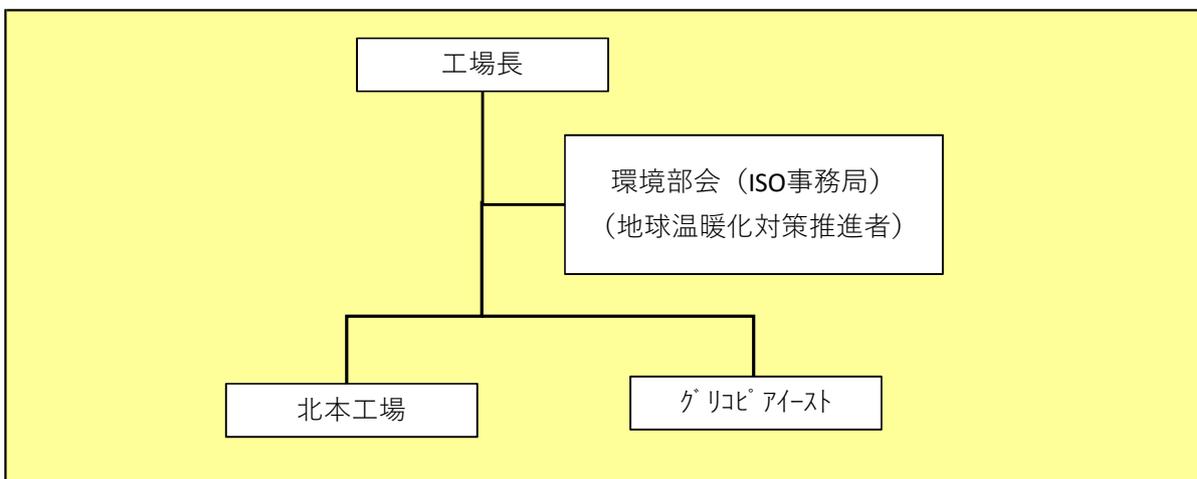
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**グリコグループ環境方針**  
 地球規模での自然保護や豊かな人間性の回復へと向かう現代において、わたしたちは、グリコグループノ企業理念である「おいしさと健康」のもと、環境にやさしい企業活動を推進していきます。

1. わたしたちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。

2. わたしたちは、環境汚染や地球温暖化の防止に取り組み、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	8,732	8,513	8,369		
その他ガス					
温室効果ガスの計	8,732	8,513	8,369		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0608	事業所番号	051401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場		
事業所所在地	市区町村	北本市	
	字・地番	中丸9丁目55番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	創立: 2020年7月1日(関東グリコを吸収合併) 工場稼働: 2011年10月 事業内容: 菓子製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、2~5年度の平均削減率をトップレベル認定後の6.5%以上、6年度は10%以上とする。 必要に応じて排出量取引を利用する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	46,344	t-CO <sub>2</sub>	第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	3,596	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,444	4,334	4,261		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	8,732	8,513	8,369		
前 年 度 比 ( % )	—	-2.5	-1.7		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	8,732	8,513	8,369		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.5332	0.5003	0.5068		
前 年 度 比 ( % )	—	-6.2	1.3		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t	16,377.80	17,014.20	16,513.30	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 666台 外灯のLED化 51台 照度過剰による間引き 139台 照度過剰による出力低下(50001m⇒25001m) 22台 人感センサによる点けっぱなし防止 105台 アンローダ式コンプレッサー75kwをインバータ式75kwへ更新 4台計99.5kwのモーターをトップランナー品に更新 遮熱フィルム(iQUE)の施工 計216㎡					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 551台 照度過剰による間引き 32台 照度過剰による出力低下(50001m⇒25001m) 172台 人感センサによる点けっぱなし防止 45台 アンローダ式コンプレッサー75kwをインバータ式75kwへ更新 4台計99.5kwのモーターをトップランナー品に更新 遮熱フィルム(iQUE)の施工 計208㎡					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 159台 照度過剰による間引き 11台 照度過剰による出力低下(50001m⇒25001m) 55台 アンローダ式コンプレッサー75kwを更新(2011年製⇒2022年製) 冷温同時ヒートポンプチラー導入(コベルコ製)					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,988	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	9,988	9,988	9,988	9,988	9,988	49,940
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定	トップレベル	トップレベル	トップレベル	トップレベル	トップレベル	
	目標削減率(B)	6.50%	6.50%	6.50%	6.50%	10.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						46,344
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						3,596
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	8,732	8,513	8,369			25,614
	削減率 (F = (A - E) / A)	12.58%	14.77%	16.21%			—
	排出削減量 (G = A - E)	1,256	1,475	1,619			4,350
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済			

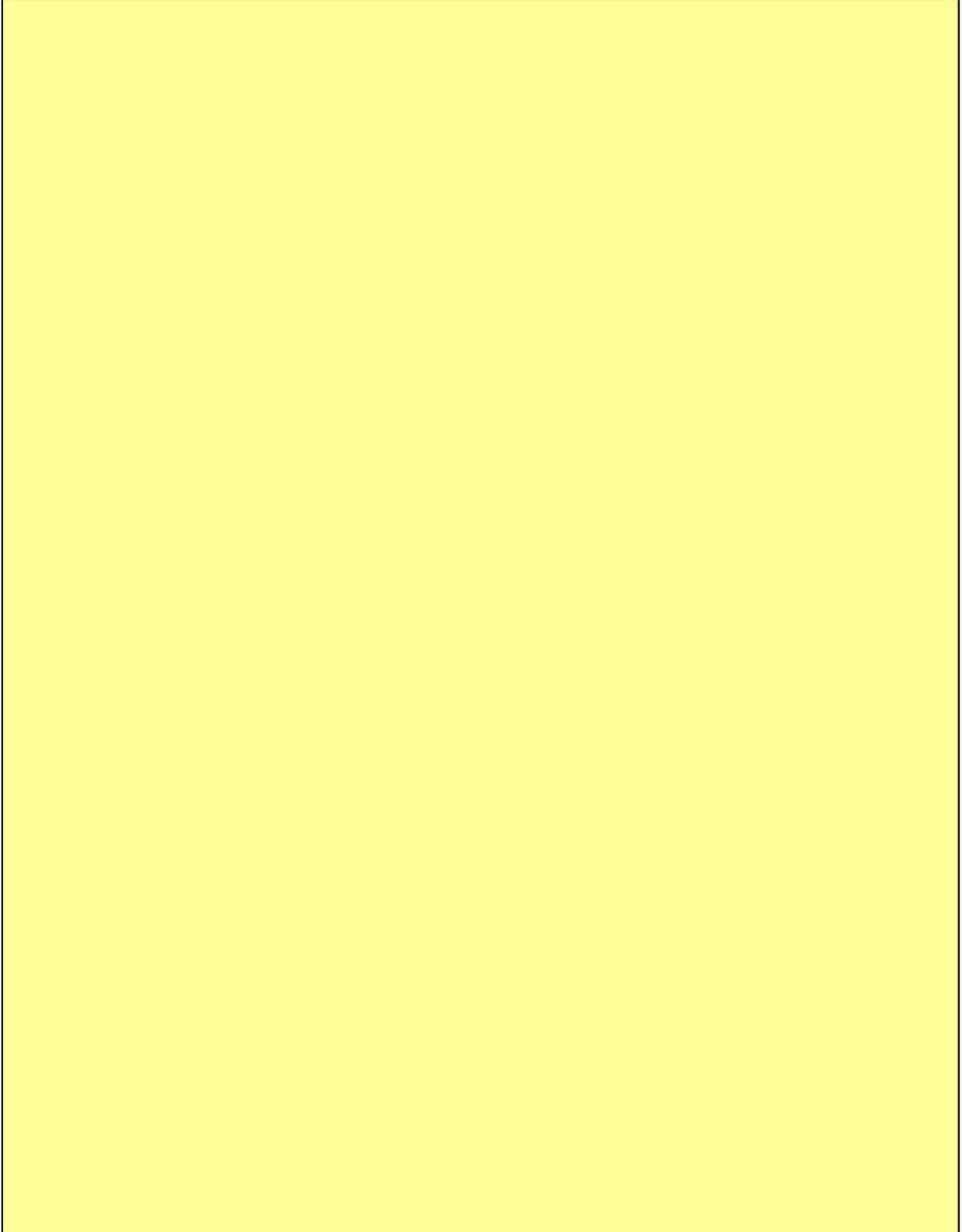
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	360700		36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	ポンプモーターのトップランナーへの 更新	R3	R3	5.0
2	380700		38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R3	R3	51.0
3	360700		36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更 新	R3	R3	10.0
4	490200		49_その他の削減対 策	遮熱フィルムによる空調負荷低減	R3	R3	2.0
5	360700		36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	ポンプモーターのトップランナーへの 更新	R3	R3	5.0
6	130200		13_空調和設備の 効率管理	エアコン室外機への冷媒凝縮促進装置 (のび太くん) の設置	R3	R3	18.0
7	150200		15_照明設備の運用 管理	人感センサによる点けっぱなし防止	R3	R3	10.0
8	380700		38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R4	R4	35.0
9	320200		32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	冷温同時ヒートポンプの導入	R4	R4	118.0
10	380700		38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R5		1.5
11	360700		36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	各フロア電磁弁設置による非生産時の 漏洩防止	R5		17.5
12	320300		32_放射・伝熱等によ る熱の損失の防止に 関する措置	温水ボイラーの設定温度低下	R5		20.0
13	360700		36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	ポンプモーターのトップランナーへの 更新	R5		5.0
14	330200		33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調用冷凍機のCOP自動管理	R5		17.0
15	320300		32_放射・伝熱等によ る熱の損失の防止に 関する措置	オープン断熱塗装	R5		9.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	双日株式会社			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号			
事業者番号	0609			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 （前年度）	1,477	kL/年		
大規模小売店舗面積 （単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所）		㎡		
産業分類名 （中分類）	69 不動産賃貸業・管理業（テナントビルを含む）			
分類番号 （中分類）	69			
事業活動の概要	事業内容	【事業内容】総合商社として、自動車やプラント、航空、医療インフラ、エネルギー、金属資源、化学品、食料、農林資源、消費財、工業団地などの各分野において、物品の販売及び貿易業をはじめとして、国内および海外における各種製品の製造・販売やサービスの提供、各種プロジェクトの企画・調整、投資、ならびに金融活動などグローバルに多角的な事業を実施。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	160,339	百万円
		従業員数	2,523	人
商標又は商号 （連鎖化事業者のみ）				

## （3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	040601	ニッソーモール	1,477
合 計			1,477

## （4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## （5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ニッソーモール管理事務所	048-522-4011	kumagaya-staff@sojitz-sc.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策がグローバルな進展を見せるなか、地域社会においても、消費、物流、ライフスタイル等に多大な影響を与える重大な問題としてとらえ、環境に優しい施設運営を目指し、環境負荷の低減を図り豊かな社会の創造に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,179	3,113	2,903		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,179	3,113	2,903		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0609	事業所番号	040601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ニッソーモール		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	銀座二丁目245番地	
産業分類名(中分類)	56 各種商品小売業		
分類番号(中分類)	56		
事業活動の概要	事業内容	各種商品小売業。従業員数約800名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	削減計画期間の平均削減率を基準排出量の22%以上とします。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	25,556	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,209	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,619	1,585	1,477		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,179	3,113	2,903		
前年度比 (%)	—	-2.1	-6.7		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,179	3,113	2,903		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0641	0.0627	0.0585		
前年度比 (%)	—	-2.1	-6.7		
活動規模の指標単					
床面積	49,624.55	49,624.55	49,624.55		
	m <sup>2</sup>				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	緊急事態宣言等による、休業・時短営業により、CO2排出量が減少した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	緊急事態宣言等による、休業・時短営業により、CO2排出量が減少した。 テナント退店により、CO2排出量が減少した。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	冷温水発生機入替による効率改善により、CO2排出量が減少した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,553	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,553	6,553	6,553	6,553	6,553	32,765	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							25,556
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,209
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,179	3,113	2,903			9,195	
	削減率 (F = (A - E) / A)	51.49%	52.50%	55.70%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	3,374	3,440	3,650			10,464	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エネルギー使用量の数値の把握 (第3計画期間継続中)		R1以前	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	専門店従業員に対する省エネ教育の実施 (第3計画期間継続中)		R1以前	
3	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化に関する推進組織の整備 (第3計画期間継続中)		R1以前	
4	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調設定温度の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
5	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調外気取り入れ量の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
6	130200	空調設備・換気設備	13_空調設備の効率管理	外気冷房の導入と冷温水発生器の台数制御 (第3計画期間継続中)		R1以前	
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	適性照度の管理 (間引き含む) (第3計画期間継続中)		R1以前	
8	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	共用部照明LED化		R1以前	
9	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調機給気ファンモーターインバーター制御導入		R1以前	
10	120100	熱源設備・熱搬送設備	12_燃焼設備の管理	熱源設備の更新検討	R3	R4	
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社王将フードサービス			
所在地	京都市山科区西野山射庭ノ上町294-1			
事業者番号	0610			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,676	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	76 飲食店			
分類番号 (中分類)	76			
事業活動の 概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開		
	区分	企業		
	前年度	資本金	8,166	百万円
		従業員数	2,254	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)	餃子の王将			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061000	餃子の王将 今羽駅前店	1,804
B、C事業所			
C	061001	株式会社王将フードサービス 東松山工場	1,872
合 計			3,676

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 東松山工場
		所在地 1 東松山市大字新郷404番地
		閲覧可能時間 1 9:00~17:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

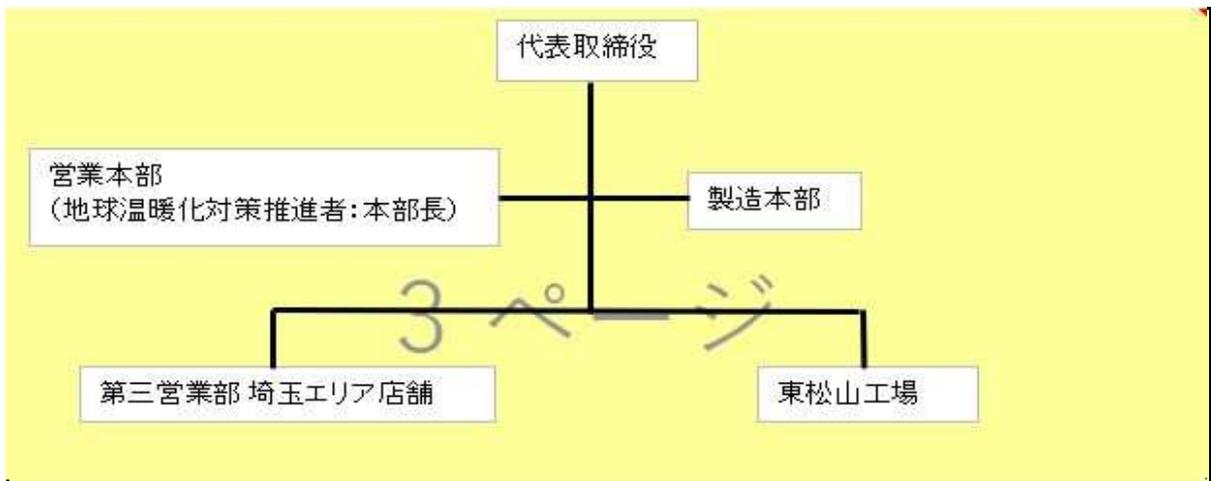
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	西日本営業サポート課	075-592-1411	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境問題全般に対して積極的に対応していく。温暖化防止対策としては消費電力の少ない高効率機器や省電力化に寄与する設備の導入を積極的に推し進める。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,097	6,941	7,223		
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,097	6,941	7,223		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0610	事業所番号	061000
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	餃子の王将 今羽駅前店	前年度における事業所数	32
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市北区	
	字・地番	吉野町1-17-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	76 飲食店		
分類番号(中分類)	76		
事業活動の概要	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	1.2789 t-CO <sub>2</sub> /席
	令和1年度排出量原単位を基準として毎年1%ずつ改善していきます。				
削減目標	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
削減目標	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	餃子の王将 今羽駅前店	さいたま市北区吉野町1-17-5
2	その他別添参照	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

	店舗名	市	区町番地
1	今羽駅前	さいたま市	北区吉野町1-17-5
2	東大成	さいたま市	北区東大成町2-488-6
3	大宮駅西口	さいたま市	大宮区桜木町2-5-7
4	大宮三橋	さいたま市	大宮区三橋4-15-1
5	与野本町	さいたま市	中央区鈴谷9-6-15
6	南浦和	さいたま市	南区南浦和3-8-1
7	武蔵浦和駅前	さいたま市	南区別所7-6-33
8	大宮南中野	さいたま市	見沼区南中野92-5
9	17号さいたま町谷	さいたま市	桜区町谷1丁目6番7号
10	春日部ユリノキ通り	春日部市	豊町4-1-9
11	本川越	川越市	新富町1-1-12
12	熊谷駅東口	熊谷市	筑波3-153-4
13	アリオ川口フードコート	川口市	並木元町1-79
14	アリオ川口レストラン	川口市	並木元町1-79
15	東川口戸塚	川口市	戸塚5-15-10
16	三郷西インター	三郷市	天神1丁目503-5
17	小手指	所沢市	小手指町1丁目8
18	所沢プロペ通り	所沢市	日吉町8-5 フジノビル1階
19	463号バイパス所沢林	所沢市	林3丁目552-1
20	ヤオコー東松山	東松山市	新宿町17-1
21	ふじみ野	ふじみ野市	うれし野1丁目3-8
22	アリオ上尾	上尾市	大字壺丁目367番地
23	草加	草加市	花栗3-20-40
24	北越谷駅西口	越谷市	北越谷4丁目21-4
25	越谷駅東口	越谷市	弥生町16-1 越谷ツインシティ Bシティ1階
26	南越谷ラクーン	越谷市	南越谷1丁目15-1
27	蕨駅東口	蕨市	塚越1-3-2
28	戸田公園五差路	戸田市	上戸田3-10-8
29	北朝霞	朝霞市	浜崎1-12-1
30	和光	和光市	丸山台1-9-3
31	新座駅前	新座市	野火止5-3-11
32	県道377号吉川栄	吉川市	栄町1504-2

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	793	1,667	1,804		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	基準	1,575	3,294	3,553		
	前年度比 (%)	—	109.1	7.9		
	基準となる排出量に対する削減率 (%)					
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温室効果ガスの合計		1,575	3,294	3,553		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	1.2789	1.2069	1.6772	1.8091	
	前年度比 (%)	—	39.0	7.9		
	基準となる原単位に対する削減率 (%)	5.6	-31.1	-41.5		
活動規模の指標	単 位	1,305.00	1,964.00	1,964.00		
	客席数		席			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	新型コロナウイルス蔓延で営業時間短縮などが影響し排出量の減少につながった。
令和3年度 (2021年度)	引き続きコロナ禍における時短営業などの影響があったものの、新店舗の開店等、集客は回復傾向にあり、それに伴い排出量は増加した。
令和4年度 (2022年度)	コロナ禍からの経済活動回復傾向の流れで売り上げが増加し、それに伴いエネルギーの使用量も増加した。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

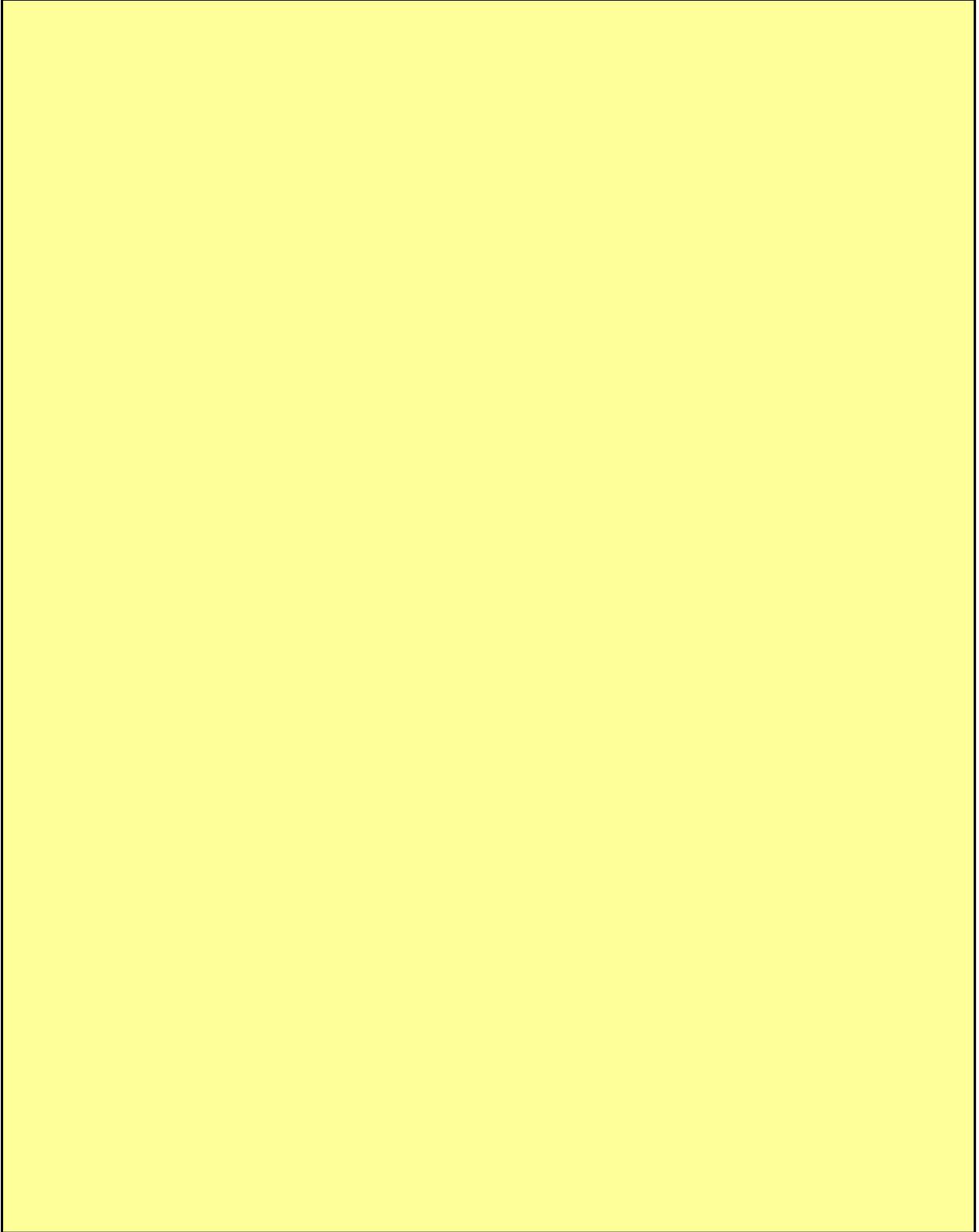
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調設備の更新	R3	R3	
2	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	L E D照明の設置	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0610	事業所番号	061001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社王将フードサービス 東松山工場		
事業所所在地	市区町村	東松山市	
	字・地番	大字新郷404番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を令和2年度~4年度は6%、令和5年度~6年度は13%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,895	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	1,920	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,797	1,860	1,872		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,522	3,647	3,670		
前年度比 (%)	—	3.5	0.6		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,522	3,647	3,670		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.8078	1.0187	1.0486		
前年度比 (%)	—	26.1	2.9		
活動規模の指標	単位				
餃子生産量	t	4,360.00	3,580.00	3,500.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍ではあったが、中食需要の高まりにより工場の減産はなかったため排出量は微増した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	引き続きコロナ禍における蔓延防止等重点措置などの影響は受けたものの、餃子以外の商品が増産になったことにより排出量は増加したと考えられる。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍からの経済活動回復に伴い、併せて販売促進策も功を奏し、売り上げが増加。餃子以外の麺類等の生産量も増えエネルギーの使用量が増加した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	4,363	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,363	4,363	4,363	4,363	4,363	21,815	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							19,895
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							1,920
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,522	3,647	3,670			10,839	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	19.28%	16.41%	15.88%			—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	841	716	693			2,250	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

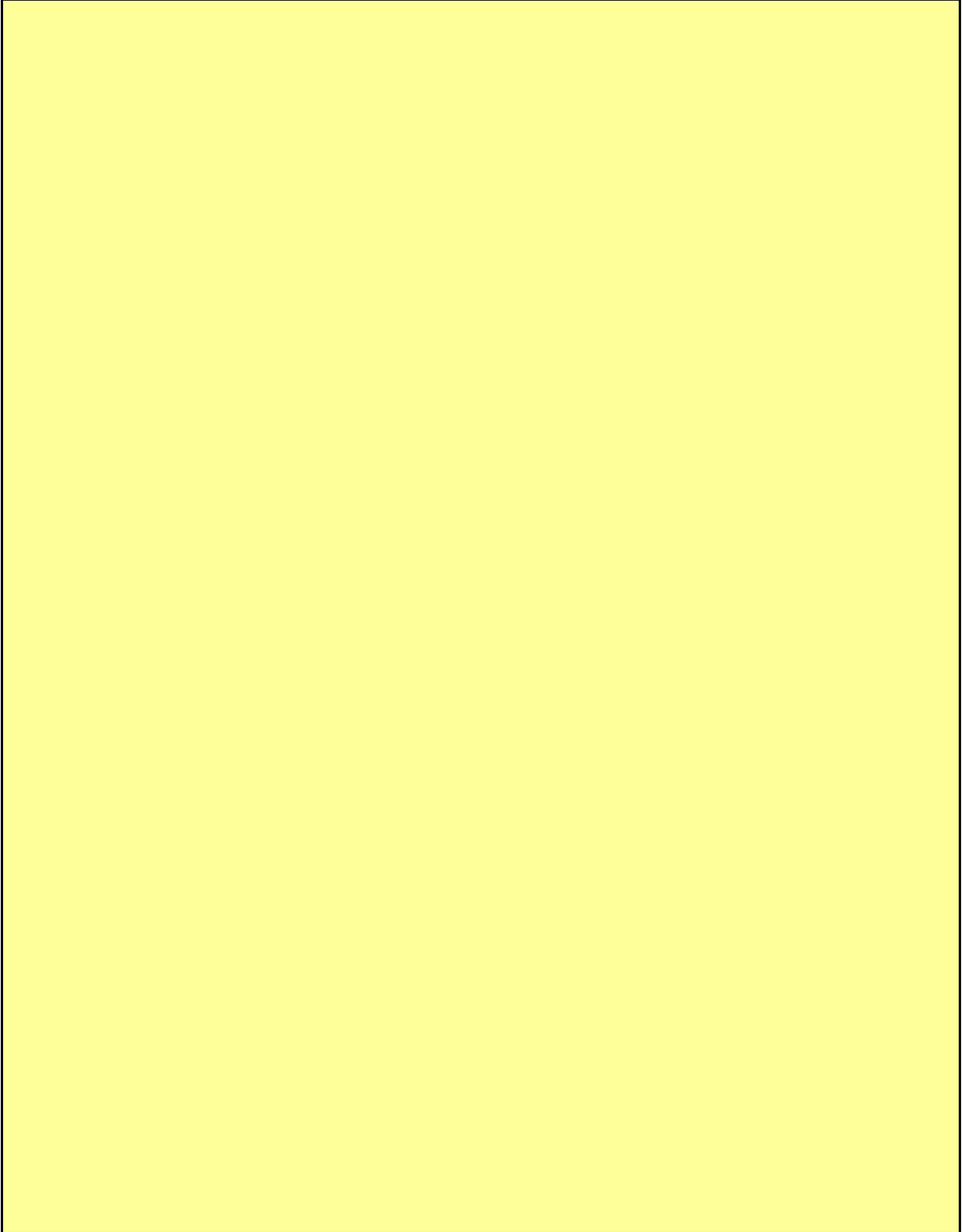
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	空調用の地中熱利用設備の導入	R3	R3	
2	490200	その他	49_その他の削減対策	自家消費用太陽光発電システム	R3	R3	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明の設置	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	日立Astemo株式会社			
所在地	茨城県ひたちなか市高場2520番地			
事業者番号	0611			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 （前年度）	6,963	kL/年		
大規模小売店舗面積 （単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所）		㎡		
産業分類名 （中分類）	31 輸送用機械器具製造業			
分類番号 （中分類）	31			
事業活動の 概要	事業内容	自動車部分品及び輸送用並びに産業用機械器具・システムの 開発、製造、販売及びサービス		
	区分	企業		
	前年度	資本金	51,500	百万円
		従業員数	90,000	人
商標又は商号 （連鎖化事業者のみ）				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
Bテナント等	061101	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場	1,644
B、C事業所			
C	023301	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場	5,319
合 計			6,963

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 日立Astemo(株) 埼玉第一工場
		所在地 1 埼玉県行田市藤原町一丁目14番地1
		閲覧可能時間 1 9:00~16:00(土、日、祝日を除く)
		閲覧場所 2 日立Astemo(株) 埼玉第二工場
		所在地 2 埼玉県比企郡滑川町都25-10
		閲覧可能時間 2 9:00~16:00(休日を除く)
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	保全課	048-554-1151	
2	埼玉第2製造部第1製造課	0493-53-4211	
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

別紙Aを参照下さい。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙B、別紙Cを参照下さい。

## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

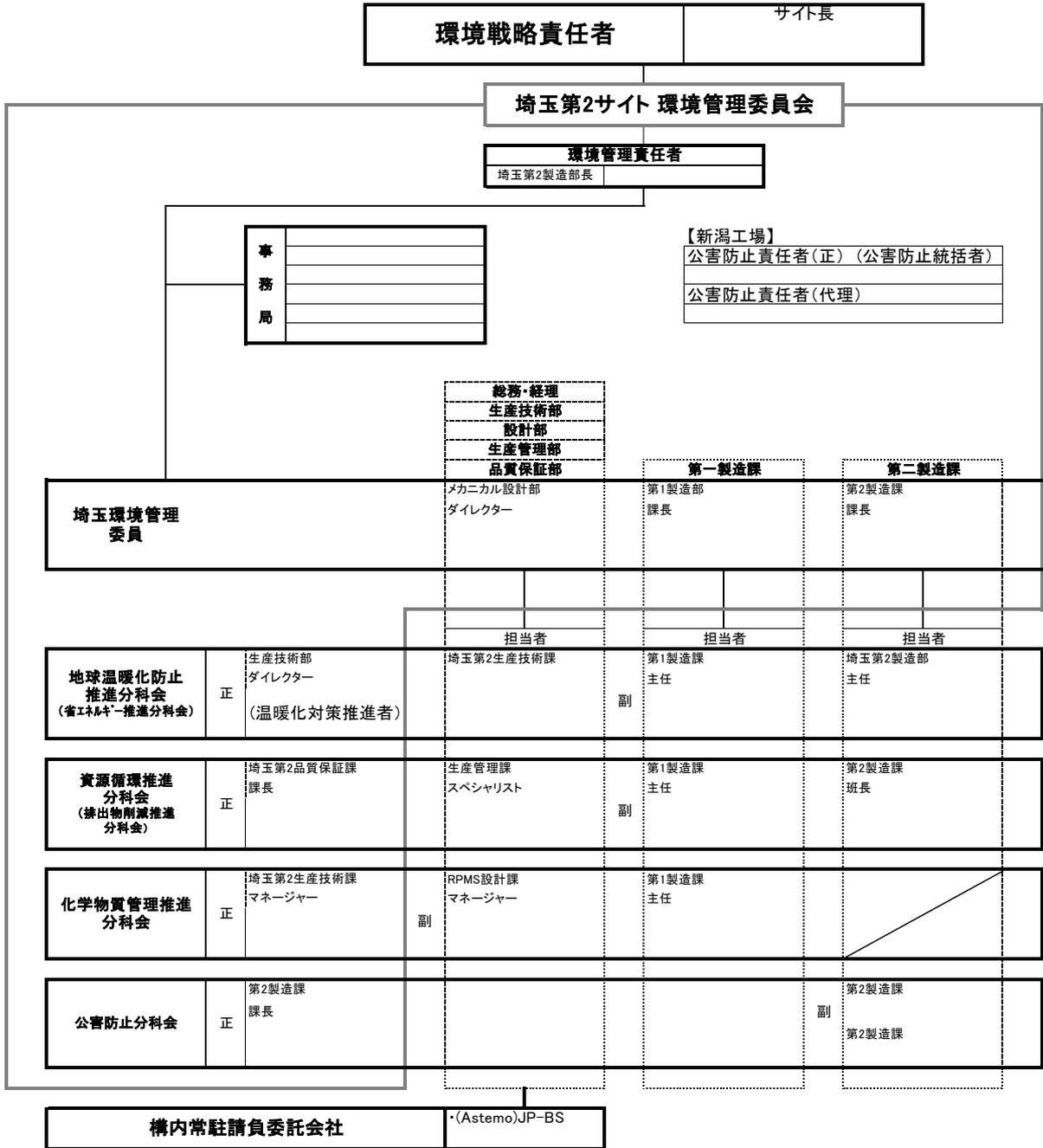
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	13,700	13,178	11,783		
その他ガス					
温室効果ガスの計	13,700	13,178	11,783		

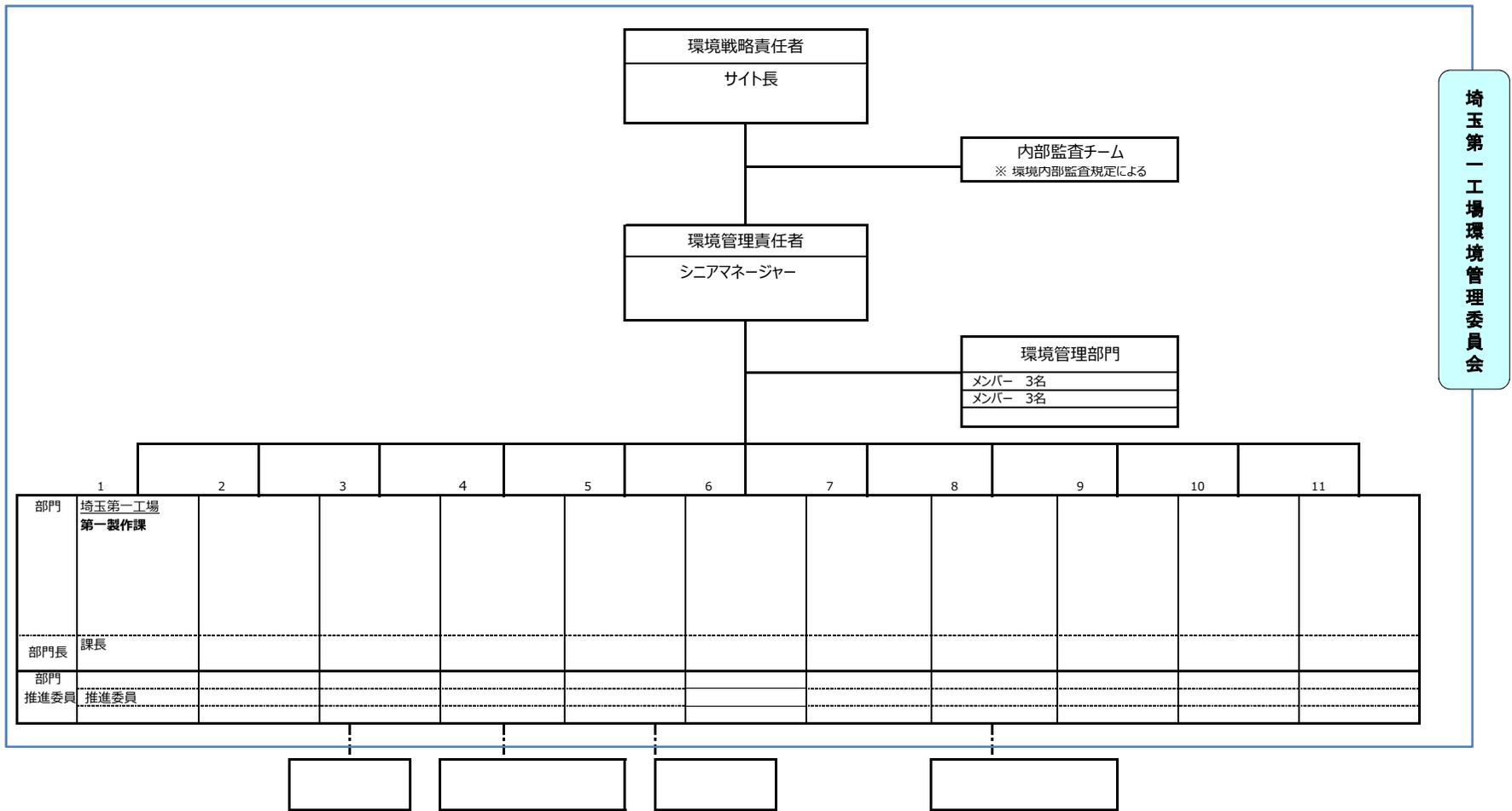
## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

埼玉第2サイト 環境管理組織図



付表-1



環境マネジメント組織の役割・責任・権限

役割	環境戦略責任者	環境管理責任者	部門長又は部署長	推進委員																									
業務内容及び責任と権限	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステムの有効性に説明責任を負う。</li> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステム実施、維持のために必要な資源を利用可能とする。</li> <li>埼玉第一工場環境管理委員会を主催し、議長として議題を議決する。</li> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステムをレビューし、継続的改善を促進する。</li> <li>埼玉第一工場環境管理責任者を任命する。</li> <li>埼玉第一工場の環境管理実行計画を承認する。</li> <li>効果的な環境マネジメント、環境マネジメントシステム要求事項への適合の重要性を伝達する。</li> <li>環境マネジメントシステムの効果的運用に寄与するよう人々を指揮し、支援する。</li> <li>他の管理層の役割におけるリダーシップを支援・醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステムがその意図した成果を達成するために、埼玉第一工場の環境に関する活動の取り纏めを担う。</li> <li>埼玉第一工場の環境目標及び環境管理実行計画を確立する。</li> <li>埼玉第一工場の環境月次報告を承認する。</li> <li>埼玉第一工場環境戦略責任者へ環境パフォーマンスを含む環境マネジメントシステムのパフォーマンス（活動実績）を報告する。</li> <li>埼玉第一工場の著しい環境側面を承認する。</li> <li>埼玉第一工場環境管理部門で定める文書類を承認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場環境管理委員会での決定事項（環境実行計画）を実施、フォローする。</li> <li>※計画において割付けされた項目の実施</li> <li>自部門又は自部署内で働く人々に環境マネジメントシステムの確立、実施、維持、改善に必要な力量及び認識を持たせる。</li> <li>※ISO/TS16949力量と同様</li> <li>環境に関する内部、外部のコミュニケーションを確実に行う。</li> <li>※緊急時連絡のほか、本来業務の環境に関する伝達</li> <li>外部委託契約部署は委託業者に「環境方針」の伝達を行う。</li> <li>※廃棄、中間収集運搬処理業者などの業者への伝達</li> <li>環境マネジメントシステムで必要な環境に関する文章化した情報を維持又は保持し管理する。</li> <li>※部門内の文書の管理</li> <li>自部門又は自部署の本来業務についての環境側面を抽出し、管理下で働く人々に認識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場環境管理委員会での決定事項（環境実行計画）について、自部門に関する実績の取り纏め及び進捗管理を行う。</li> <li>自事業所の教育訓練計画・実績を作成する。</li> <li>環境マネジメントシステムで必要な環境に関する文章化した情報を維持又は保持し管理する。</li> <li>自部門又は自部署の本来業務についての環境側面の取り纏めを行う。</li> </ul>																									
				<table border="1"> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>No.</td><td>改訂年月日</td><td>改訂理由</td><td>承認</td><td>作成</td></tr> </table>	3					2					1					0					No.	改訂年月日	改訂理由	承認	作成
3																													
2																													
1																													
0																													
No.	改訂年月日	改訂理由	承認	作成																									

## 日立Astemoグループ 環境方針

## 環境理念

「私たちは、世界をリードする先進的なモビリティソリューションの提供を通じて、持続可能な社会人々の豊かな生活の実現に貢献します」というambitionのもと、私たちの事業、活動を始め、生み出す製品及びサービスが、地球環境に深く係ることを認識し、その保護を積極的に推進します。

## スローガン

私たちの地球環境保護への行動で、環境と調和した持続可能な社会の実現に貢献します。

## 環境行動指針

## 1. 環境関連法令の順守と汚染の予防

- 1) 環境側面に対する該当法令を順守する。  
このため、必要に応じて自主基準を設定する。
- 2) グローバルなモノづくりに際しては、当該地域の環境に与える影響に配慮し、地域社会の要請に応えられる対策を実施するよう努める。
- 3) 受け入れを決めた環境に関する顧客などからの要求事項を順守する。
- 4) 環境問題の可能性を評価し、汚染予防に努める。万一、環境問題が生じた場合には、環境負荷を最小化するよう適切な措置を講ずる。

## 2. 環境管理機能の整備と継続的改善

- 1) ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを用い、環境関連規定、並びに推進体制を整備し、環境負荷削減目標を定め活動する。
- 2) 継続的改善による環境パフォーマンスの向上を図る。
- 3) これらの取組みにより経営のマネジメントシステム発展に寄与する。

## 3. 製品のライフサイクルにわたるグローバルなモノづくり推進

製品の研究開発・設計、資材調達、生産、流通・販売、使用、廃棄などの各段階における環境負荷の低減をめざしたグローバルなモノづくりを推進する。

- 1) 環境配慮型製品の開発・設計
- 2) 地球温暖化防止のための省エネルギー推進
- 3) 化学物質管理の徹底と排出量削減
- 4) 循環型社会に対応した省資源、資源循環推進

## 4. 生態系の保全

自然と共生する社会を実現するため、事業活動と地域に根ざした自然保護に関する社会貢献活動の両面から、生態系保全の取り組みを推進する。

## 5. 教育訓練、意識の向上

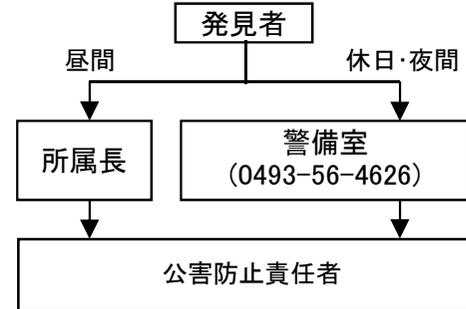
この方針を日立Astemoグループで働く人及び日立Astemoグループのために働く人に周知し、環境に関する法令順守、環境への意識向上、広く社会に目を向け、幅広い観点からの地球環境保護について教育する。

## 6. 情報の開示

環境保護活動についてステークホルダーへの情報開示と積極的なコミュニケーションに努め、相互理解と協力関係の強化に努める。

## 《緊急時の連絡ルート》

<埼玉第二工場>



- \* 緊急時とは、油、薬品、汚水等が雨水側溝に流入した時、及び通常と違う騒音、振動、臭い、煙が発生した時をいう。
- \* 報告内容…いつ、どこで、何がどうして、どうなったかを報告する。
- \* 処置…被害が拡大しない様に応急処置をとること。(応急処置用器材の活用)

【自分の業務(仕事)と環境との関連】  
(認識を持とう！)

1. 自部門(自分)の本来業務は何ですか？
2. 自分の業務が環境に与える悪い影響は何ですか？
3. 環境を良くするために実行している業務や努力は何ですか？
4. 順守義務(法令や客先の要求)や社内ルールを守らないとどうなりますか？

2021年4月 埼玉第2サイト環境管理委員会

令和 5 年度

事業者番号	0611	事業所番号	061101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	比企郡滑川町都	
	字・地番	25-10	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	クノールプレミアムステアリングシステムジャパン株式会社 滑川工場		
産業分類名（中分類）	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号（中分類）	31		
事業活動の概要	埼玉第二工場は乗用車用パワーステアリング、及びマニュアルステアリングの開発・設計・製造を行っている。 令和5年6月時点の従業員数：120名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	3,740	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	1.3760	t-CO <sub>2</sub> /MWh/年
	令和元年度(2019年度)実績(エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量3740t-CO <sub>2</sub> ) に対し年平均6.0%削減						
その他ガス							

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
その他ガス						

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,666	1,558	1,644		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,740	3,277	3,070	3,240		
前年度比 (%)		—	-6.3	5.5		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		12.4	17.9	13.4		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		3,277	3,070	3,240		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.3760	1.4840	1.4855	1.5887		
前年度比 (%)		—	0.1	6.9		
基準となる原単位に対する削減率 (%)		-7.9	-8.0	-15.5		
活動規模の指標	単 位					
内製付加価値額	MY/年	2,208.15	2,066.64	2,039.42		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	上期新型コロナウイルスの感染拡大により受注減のため、工場は操業するがライン稼働の低下による非効率発生
令和3年度 (2021年度)	埼玉第二工場の御殿場へ生産ライン移管のための前倒し生産による非効率な勤務態様によるロスが発生
令和4年度 (2022年度)	排出量増加の要因 埼玉第二工場の御殿場への生産ライン移管が令和4年8月に第一次、12月に第二次移管が実施され、移管に伴う前倒し生産による勤務体制の3直化等によるエネルギーのロスが発生
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

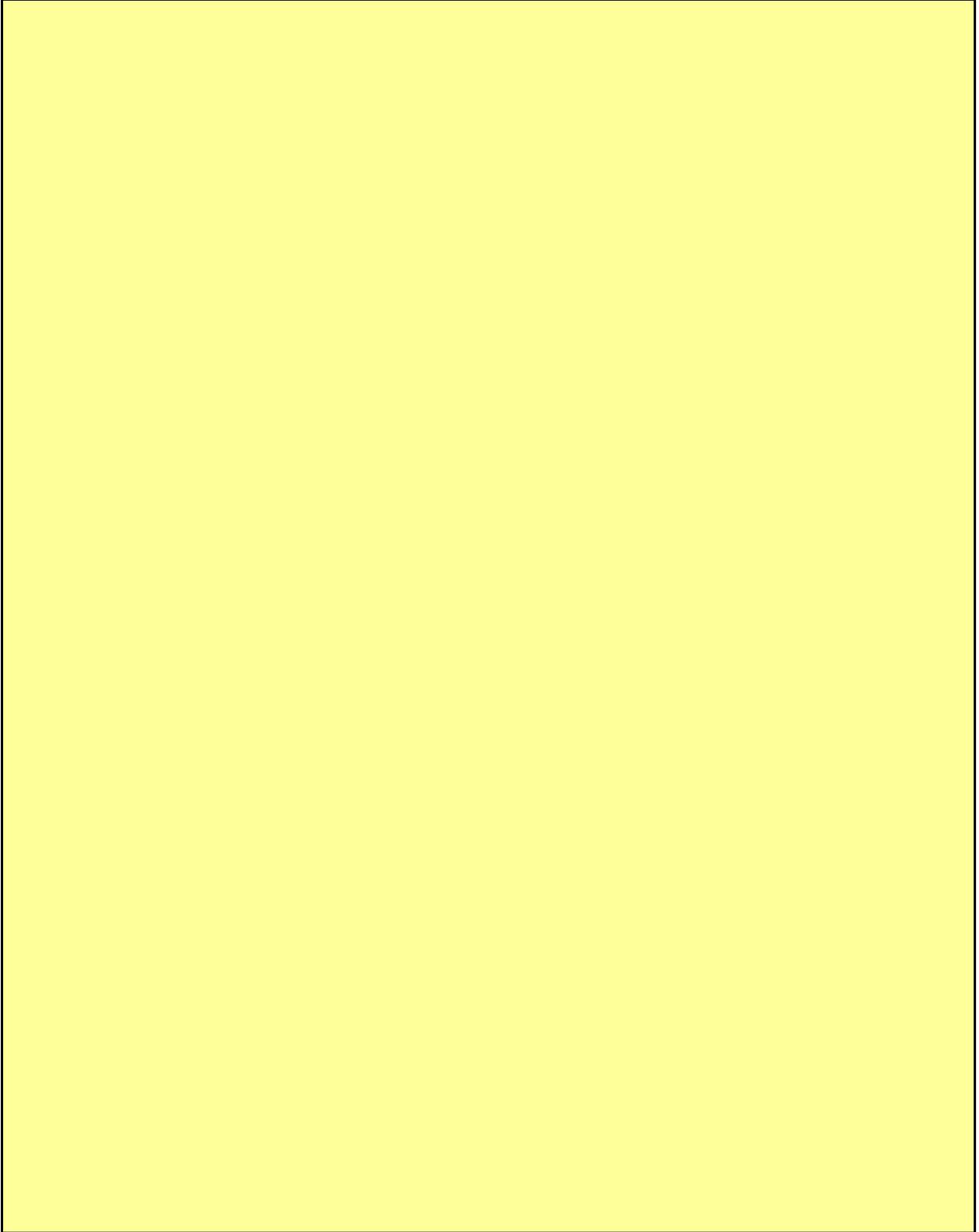
## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアリー漏れ対策の実施	R2	R2	1.0
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機の稼働時間管理	R2	R2	1.0
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	大家(KBSJ)と電気系統別の按分量の見直しを実施	R3	R3	106.8
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0611	事業所番号	023301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場		
事業所所在地	市区町村	行田市	
	字・地番	藤原町一丁目14番地1	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	4 輪車用ショックアブソーバー 従業員数: 850名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】基準排出量 13,885t-CO <sub>2</sub> に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	55,540	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	13,885	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,249	5,095	5,319		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	10,423	10,108	8,543		
前年度比 (%)	—	-3.0	-15.5		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	10,423	10,108	8,543		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	単位				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが、令和元年度に比べ令和2年度は、コロナ影響により生産数が減産(▲12.4%)した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲9.7%)した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが、令和2年度に比べ令和3年度は、コロナ影響により生産数が減産(▲9.0%)した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲3.0%)した。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが、令和4年度は、再エネ電力を購入した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲15.5%)した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	13,885	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	13,885	13,885	13,885	13,885	13,885	69,425	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							55,540
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							13,885
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,423	10,108	8,543			29,074	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	24.93%	27.20%	38.47%			—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	3,462	3,777	5,342			12,581	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

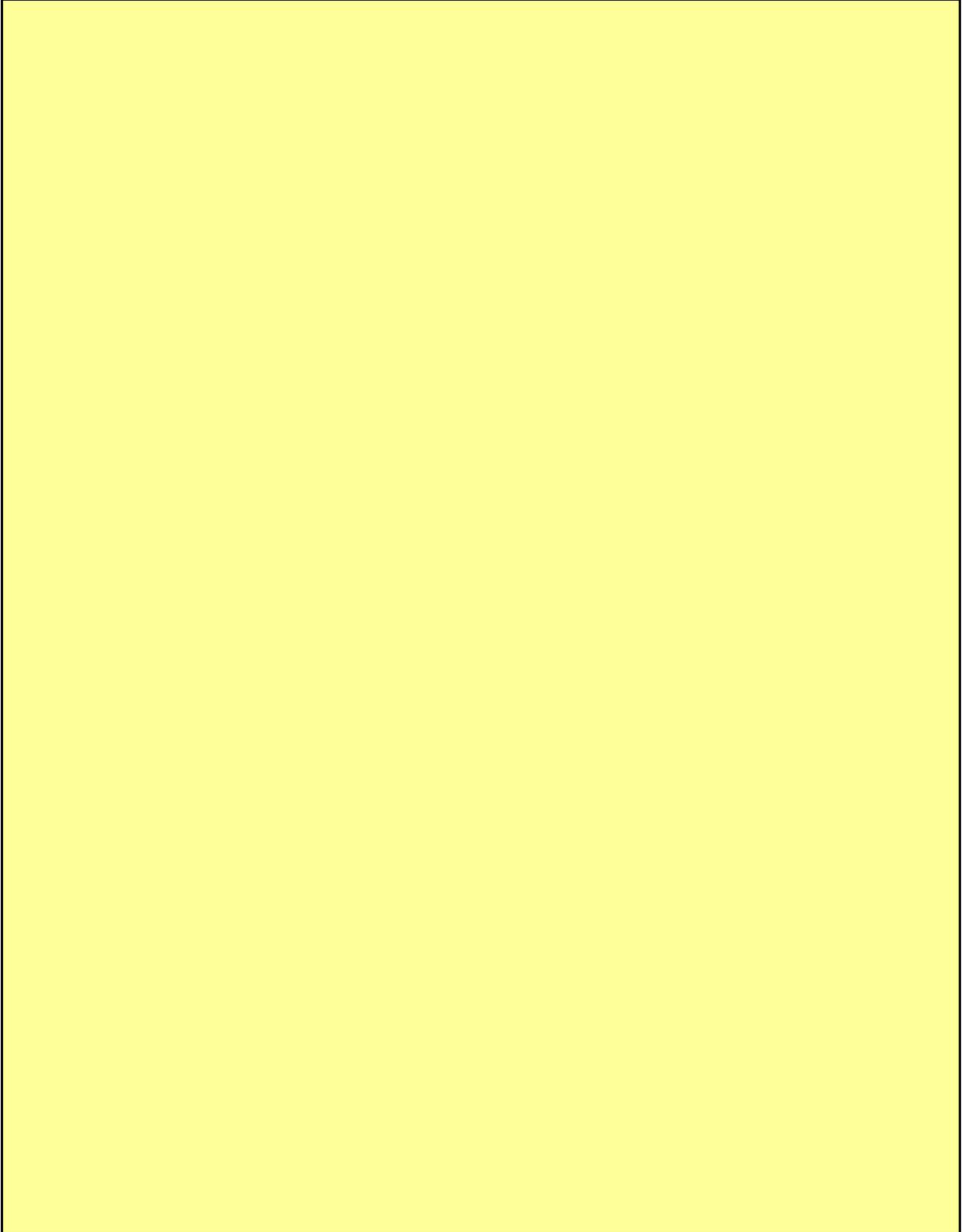
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	省エネ分科会開催 6回/年	R1以前	R1以前	
2	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	塗装用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	177
3	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	A重油焚き吸収式冷温水発生器の熱源変更と全体冷房改修	R1以前	R1以前	93
4	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	33
5	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	400V動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	5
6	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明のLED化	R1以前	R1以前	8
7	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	メッキ用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	22
8	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	温水ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	75
9	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し月報を作成	R1以前	R1以前	
10	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	建屋別エア供給と生産工程別エア集中配管化による供給ロス削減	R1以前	R1以前	36
11	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	空調トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	10
12	320300		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	塗装設備の更新による燃料(都市ガス)の削減	R1以前	R1以前	3
13	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	開発棟トランストップランナータイプへの変更	R1以前	R1以前	5
14	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場照明のLED化	R3	R3	39
15	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー160Kw(2号機)トップランナータイプへの更新	R4	R4	44.6

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	地方独立行政法人埼玉県立病院機構		
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町大字小室818		
事業者番号	0612		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	12,714	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	83 医療業		
分類番号 (中分類)	83		
事業活動の 概要	事業内容	埼玉県の医療対策として必要とされる高度専門医療等を提供するとともに、地域との連携により本件の医療水準の向上に貢献し、県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的としている。	
	区分	その他	
	前年度 資本金		百万円
	前年度 従業員数		人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035101	埼玉県立がんセンター・精神医療センター	5,422
C	035102	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	3,125
C	035104	埼玉県立小児医療センター	4,167
合 計			12,714

## (4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="https://www.saitama-pho.jp/c1401/kikou/byouinkyoku-ondannkataisaku.html">https://www.saitama-pho.jp/c1401/kikou/byouinkyoku-ondannkataisaku.html</a>
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	
		所在地 1	
		閲覧可能時間 1	
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

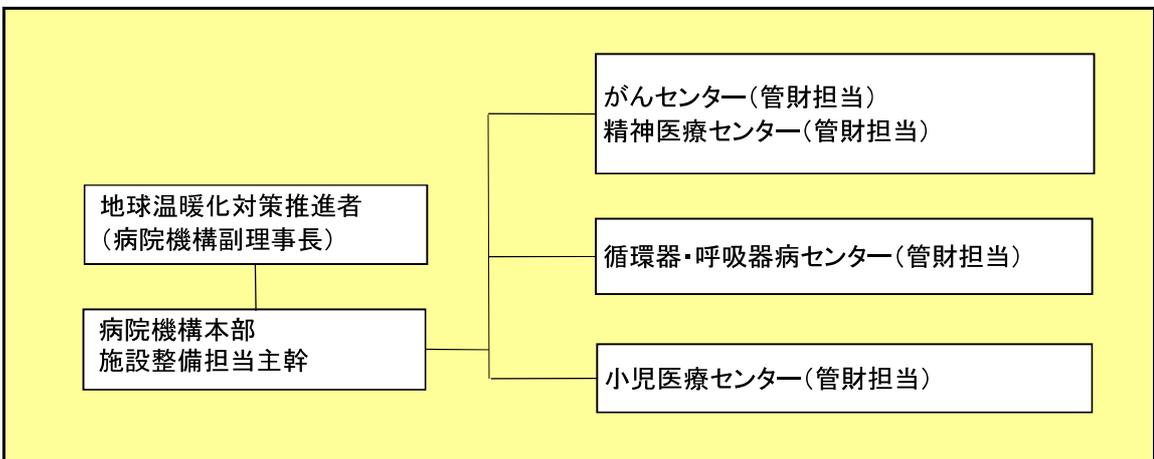
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本部 施設整備担当	048(748)3244	a5970-12@saitama-pho.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

- 環境の保全と創造のための目標を定めます。目標達成のための取組の後、それを点検・評価し、取組の継続的な改善を進めます。
- 事務・事業が環境に与える影響を認識し、自らの役割と責任を自覚して業務を遂行します。
- 県民・事業者と協働して省エネルギー・省資源活動を行い、循環型社会を築きます。
- 環境に関する法令等を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
- 環境の保全と創造のための取組を積極的に公表します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	25,558	25,082	24,988		
その他ガス					
温室効果ガスの計	25,558	25,082	24,988		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立がんセンター・精神医療センター		
事業所所在地	市区町村	北足立郡伊奈町	
	字・地番	大字小室780番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	がん治療専門医療機関 精神医療専門医療機関 病床数 がん(503床) 精神(183床)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間においては、基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を22%とし、省エネルギー活動を継続させていく。			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	70,956	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	17,739	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,582	5,350	5,422		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	10,985	10,532	10,664	
前年度比 (%)	—	-4.1	1.3		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	10,985	10,532	10,664		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1237	0.1186	0.1198	
前年度比 (%)	—	-4.1	1.0		
活動規模の指標単単位					
延床面積	m <sup>2</sup>	88,832.69	88,832.69	89,035.75	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和2年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量に大きな変化は無かった。                  (前年度比: -117t-CO<sub>2</sub> -1.1%減少)                  新型コロナウイルス感染予防のため、病院内の換気対策等の環境改善を実施したが、感染予防のための来院者(面会者等)に制限をかけたこと、外気環境変動の要因により大きな変化が無かったと考えられる。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和3年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量が減少した。                  (前年度比: -464t-CO<sub>2</sub> -4.2%減少)                  新型コロナウイルス感染予防のため、病院内の換気対策等の環境改善を実施したが、感染予防のための来院者(面会者等)に制限をかけたこと、外気環境変動の要因によりCO<sub>2</sub>排出量が減少したと考えられる。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和4年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量が増加した。                  (前年度比: +132 t-CO<sub>2</sub> +1.3%増加)                  新型コロナウイルス感染予防のための来院者(面会者等)制限を一部緩和したことによるものと考えられる。</p>					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	17,739	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	17,739	17,739	17,739	17,739	17,739	88,695
	目標削減率の 緩和措置	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						70,956
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						17,739
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,985	10,532	10,664			32,181
	削減率 (F = (A - E) / A)	38.07%	40.63%	39.88%			—
	排出削減量 (G = A - E)	6,754	7,207	7,075			21,036
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済			

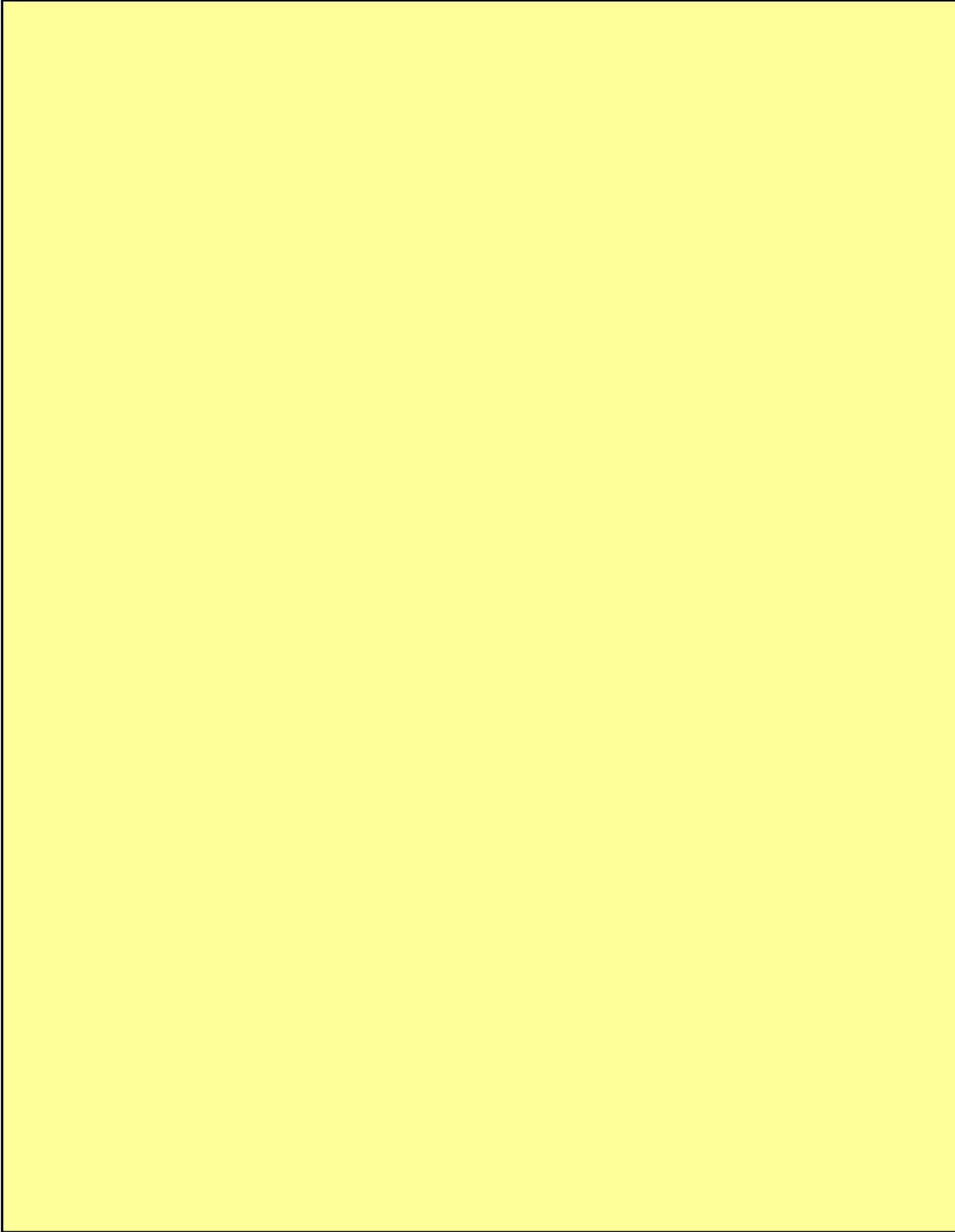
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	省エネルギー運営委員会の実施 <第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	管理設備台帳の整備 <第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
4	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	センター内の空調温度設定値を出来るだけ管理する<第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
5	120700	熱源設備・熱搬送設備	12_蒸気漏えい及び保温の管理	蒸気配管断熱ジャケットの導入	R1以前	R1以前	9.0
6	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導入	R1以前	R1以前	8.0
7	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	13.0
8	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	温水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	1.0
9	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R5		40.0
10	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	温水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R5		22.0
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035102
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立循環器・呼吸器病センター		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	板井1696番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 循環器・呼吸器病治療専門医療機関 病床数 343床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を15%とする(必要に応じて排出量取引を活用する。)			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	34,248	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)	
	削減目標量(計画期間合計)	8,562	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,165	3,142	3,125		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,517	6,472	6,438	
前年度比 (%)	—	-0.7	-0.5		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	6,517	6,472	6,438		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1533	0.1522	0.1514	
前年度比 (%)	—	-0.7	-0.5		
活動規模の指標単					
床面積	42,523.00	42,523.00	42,523.00		
	m <sup>2</sup>				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和2年度は感染症の流行により来院者が減り、厨房などで使うプロパンガスの使用量は減少した。平成31年度が夏季の気温上昇が例年に比べ緩やかであったのに対し令和2年度は例年並であったため、都市ガスの空調使用量は前年より増加する結果となった。トータルでは排出量は増加した。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和3年度は感染症の流行により来院者が減り、厨房などで使うプロパンガスの使用量は減少した。令和2年度が夏季の気温上昇が例年並みだったのに対し令和3年度は例年に比べ緩やかであったため、電気の空調使用量は前年より減少する結果となった。トータルでは排出量は昨年度よりもやや少なかった。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和4年度は例年より冬期及び中間期の気温変化が緩やかであったため、電気の空調使用量は前年より減少する結果となった。トータルでは排出量は昨年度よりもやや少なかった。</p>					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,562	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,562	8,562	8,562	8,562	8,562	42,810	
	目標削減率の 緩和措置	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設		
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							34,248
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							8,562
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,517	6,472	6,438			19,427	
	削減率 (F = (A - E) / A)	23.88%	24.41%	24.81%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,045	2,090	2,124			6,259	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	170200	負荷平準化	17_コージェネレーション	コージェネレーションシステム導入による発電機の高効率運転	R1以前	R1以前	
2	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	照明設備のLED化	R2	R2	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section information.

令和 5 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035104
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立小児医療センター		
事業所所在地	市区町村	さいたま市中央区	
	字・地番	新都心1番地2	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 小児治療専門医療機関 病床数 316床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、平均削減率を令和2~5年度は8%以上、令和6年度は15%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	47,347	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)	
	削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,227	4,245	4,167		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	8,056	8,078	7,886	
前年度比 (%)	—	0.3	-2.4		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	8,056	8,078	7,886		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1231	0.1234	0.1205	
前年度比 (%)	—	0.3	-2.4		
活動規模の指標単位					
床面積	m <sup>2</sup>	65,447.69	65,447.69	65,447.69	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	感染症対策のため、外気の導入量を増加させています。そのため、冬期の暖房負荷と加湿負荷が増加し、CO <sub>2</sub> 排出量が前年度より増加しました。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	感染症対策のため、外気の導入量を増加させる運用を継続しています。また、R3年度は夏期の外気環境はR2年度と比べると比較的穏やかな状況であったため、建物としてのエネルギー量は減少していましたが、一方で冬期については、外気環境がR2年度より厳しかったため暖房負荷・加湿負荷が増加しています。結果、CO <sub>2</sub> 排出量がR2年度より微増しました。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	感染症対策のため、外気の導入量を増加させる運用を継続しています。R4年度は冬期の外気環境はR3年度と比べると比較的穏やかな状況であったため、暖房負荷が減少したことで、冬期のエネルギー使用量が減少しました。また、照明のLED化や通路等の間引き消灯により照明電力量が減少したことに加え、エコチューニングにより熱源設備、空調設備の運用最適化の効果もあり、CO <sub>2</sub> 排出量がR3年度より減少しました。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	10,452	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	10,452	10,452	10,452	10,452	10,452	52,260	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	8.00%	8.00%	8.00%	8.00%	15.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							47,347
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	8,056	8,078	7,886			24,020	
	削減率 (F = (A - E) / A)	22.92%	22.71%	24.55%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,396	2,374	2,566			7,336	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済				

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	管理設備台帳の整備	R1以前	R1以前	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保 全管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
3	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	センター内の空調温度及び湿度設定値 の管理	R1以前	R1以前	
4	120500	熱源設備・熱 搬送設備	12_熱搬送設備の運 転管理	冷水及び温水2次ポンプの末端差圧設定 の適正化	R2	R2	8.7
5	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導 入	R1以前	R1以前	5.0
6	130300	空気調和設 備・換気設備	13_換気設備の運 転管理	駐車場排気ファン夜間間欠運転の導入	R1以前	R1以前	2.0
7	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運 用管理	蛍光灯の間引き	R3	R3	2.0
8	130300	空気調和設 備・換気設備	13_換気設備の運 転管理	空調機・送排風機への省エネベルトの 採用	R3	R3	20.0
9	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	共用部空調機への不感帯導入	R4	R4	7.7
10	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	一般空調機への不感帯導入	R4	R4	21.4
11	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	空調スケジュール設定値制御の導入	R4	R4	28.4
12	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運 用管理	蛍光灯のLED化 (予定: 400本)	R4	R4	8.2
13	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運 用管理	通路等の間引き消灯 (DL100灯取外し)	R4	R4	1.4
14	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	厨房外調機の換気モードの導入	R5		
15	120600	熱源設備・熱 搬送設備	12_廃熱回収の管理	還水再利用設備の導入	R7以降		

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section information.

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社 J R 東日本クロスステーション		
所在地		東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目3番8号サウスゲート新宿ビル6階		
事業者番号		0614		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		6,516	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡	
産業分類名 (中分類)		58 飲食料品小売業		
分類番号 (中分類)		58		
事業活動の概要	事業内容	小売業 卸売業 製造・加工業 飲食店業 商業施設の開発・管理・運営 不動産の貸借・管理自動販売機の運営管理業務 湧水の販売等活用事業 広告事業・宣伝の請負および代理業 貸しロッカー業 高齢者福祉に関する業務清掃事業土木・建築に関する企画・設計・監理・施工業務に付帯または関連事業等 資本金；41億1百万円、従業員数；2,753名（2022年4月1日現在）※契約社員等を除く		
	区分	企業		
	前年度	資本金	4,101	百万円
		従業員数	3,189	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061400	ニューデイズ大宮店	5,112
B、C事業所			
C	035301	株式会社JR東日本クロスステーションフーズカンパニー 弁当事業部戸田工場	1,404
合 計			6,516

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	JR東日本クロスステーション フーズカンパニー 弁当事業部 戸田工場玄関前に掲示
		所在地 1	埼玉県戸田市美女木東1丁目6-1
		閲覧可能時間 1	9時～18時
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	フーズカンパニー食品製造統括事業部生産管理グループ	048-422-2881	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

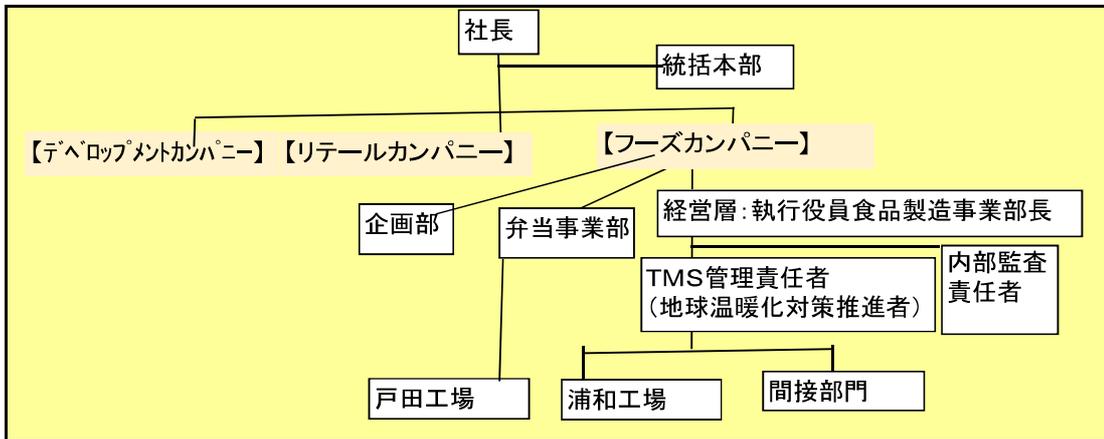
＜弁当事業部・食品製造統括事業部の経営方針＞  
 株式会社JR東日本クロスステーションフーズカンパニーは、食品製造工場として「安心・安全で質の高い製品づくり」を心掛け、お客さまニーズに応え、末永くお客さまに喜ばれる商品提供に専念します。またJR東日本グループ企業の一員として環境にも配慮し社会貢献に努めます。この経営方針を達成するため下記の活動に努めます。

1. お客さま第一主義に徹し、顧客の信頼と満足を得る製品、サービスを提供します。
2. 「食とサービス」の提供にかかわる関連法規、規制及びその他の合意事項を遵守します。
3. 働く従業員に対して職場環境の整備、向上に努めます。
4. 環境保護の一環として、汚染の予防や持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応を含む環境に配慮した企業活動を推進します。
5. 環境と品質のマネジメントシステムを構築、実施、維持し有効性の継続的改善に取り組みます。
6. 従業員の力量向上に取り組みます。
7. 内部・外部とのコミュニケーションに取り組みます。

その実現のため、以下を重点項目として推進します

①製品の信頼と安全の確保	③廃棄物の発生抑制と適正管理
②省エネルギー化の推進	④環境に配慮した製品・サービスの提供

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	7,374	13,504	12,601		
その他ガス					
温室効果ガスの計	7,374	13,504	12,601		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0614	事業所番号	061400
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ニューデイズ大宮店	前年度における事業所数	152
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市大宮区錦町	
	字・地番	630	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	60 その他の小売業		
分類番号(中分類)	60		
事業活動の概要	コンビニエンスストア、商業施設等の小売業、そば・カフェ等の飲食店事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	8,654	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.3548	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	その他ガス	・浦和工場以外 令和3(2021)年度に合併した為、令和3年度の原単位を基準とし、今後プラス1%以内に抑えます。 ・浦和工場 工場単体原油換算1500KLを超えないようにする。					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	8,654	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.3548	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	その他ガス	・浦和工場以外 令和3(2021)年度に合併した為、令和3年度の原単位を基準とし、今後プラス1%以内に抑えます。 ・浦和工場 工場単体原油換算1500KLを超えないようにする。					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ニューデイズ大宮店	さいたま市大宮区錦町630
2	グリーンライフ 熊谷	埼玉県熊谷市筑波2-112
3	3COINS station 北浦和駅	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-3-5
4	銀座コージコーナー 北本	埼玉県北本市北本1-12
5	銀座コージコーナー 熊谷	埼玉県熊谷市筑波2-112
6	ピアードパパ 大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
7	QB HOUSE 川口	埼玉県川口市栄町3-1-24
8	銀座コージコーナー 蕨	埼玉県蕨市中央1-23-1
9	QB HOUSE 大宮西口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
10	駅そば 本庄	埼玉県本庄市銀座3丁目
11	プレミィ・コロミィ/ことりパーティーエキアプレミエ和光	埼玉県和光市本町4-7
12	NewDays さいたま新都心	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3
13	NewDays 越谷レイクタウン	埼玉県越谷市レイクタウン8-16
14	NewDays 吉川	埼玉県吉川市木売1-6-1
15	NewDays 久喜	埼玉県久喜市久喜中央2-1-1
16	NewDays 上尾	埼玉県上尾市柏座1-1-18
17	NewDays 深谷	埼玉県深谷市西島町3-1-8
18	NewDays 川越	埼玉県川越市脇田本町39-19
19	NewDays 川越中央	埼玉県川越市脇田本町39-19
20	NewDays 川口	埼玉県川口市栄町3-1-24
21	NewDays 川口中央	埼玉県川口市栄町3-1-24
22	NewDays 大宮東口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
23	NewDays 東大宮	埼玉県さいたま市見沼区東大宮4-76-1
24	NewDays 南浦和	埼玉県さいたま市南区南浦和二丁目37-2
25	NewDays 南越谷	埼玉県越谷市南越谷1-24-1

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 事業所リスト②

番号	事業所名	所在地
1	NewDays 東所沢	埼玉県所沢市東所沢5-21
2	NewDays 北浦和	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-3-5
3	NewDays 北戸田	埼玉県戸田市新曽字芦原2004
4	NewDays 蓮田	埼玉県蓮田市本町1-2
5	NewDays 籠原	埼玉県熊谷市新堀713
6	NewDays 北与野	埼玉県さいたま市中央区上落合2-3-1
7	NewDays 浦和改札内	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
8	NewDays 熊谷5号	埼玉県熊谷市筑波2-112
9	NewDays KIOSK 栗橋駅店	埼玉県久喜市栗橋北1丁目
10	NewDays 吹上	埼玉県鴻巣市吹上本町1-1-1
11	NewDays 東鷲宮	埼玉県久喜市西大輪
12	NewDays 大宮31号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
13	NewDays 大宮西改札口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
14	NewDays 日進	埼玉県さいたま市北区日進町2丁目
15	NewDays 北朝霞	埼玉県朝霞市浜崎1-1-1
16	NewDays 北本	埼玉県北本市北本1-12
17	NewDays ミニ桶川1号	埼玉県桶川市南1-1
18	NewDaysミニ 熊谷1号	埼玉県熊谷市筑波2-112
19	NewDaysミニ 鴻巣1号	埼玉県鴻巣市本町1-1-1
20	NewDaysミニ 西川口2号	埼玉県川口市並木2-20-1
21	NewDaysミニ 大宮19号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
22	NewDaysミニ 大宮32号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
23	NewDaysミニ 大宮37号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
24	NewDaysミニ 北上尾1号	埼玉県上尾市原新町3
25	NewDaysミニ 本庄早稲田	埼玉県本庄市大字北堀字山ノ根2070

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

### 事業所リスト③

番号	事業所名	所在地
1	NewDaysミニ 北浦和1号	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-3-5
2	NewDaysミニ 蕨6号	埼玉県蕨市中央1-23-1
3	NewDays KIOSK 大宮駅西口1階店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
4	NewDays KIOSK 蕨駅西口店	埼玉県蕨市中央1-23-1
5	NewDays KIOSK 浦和駅改札内北店	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
6	NewDays KIOSK 宮原駅改札外店	埼玉県さいたま市北区宮原町3-518
7	NewDays KIOSK 戸田公園駅改札外店	埼玉県戸田市本町4-15-1
8	NewDays KIOSK 行田改札外	埼玉県行田市老里山町12-1
9	NewDays KIOSK 新三郷	埼玉県三郷市新三郷ららシティ2-4-1
10	NewDays KIOSK 上尾駅コンコース店	埼玉県上尾市柏座1-1-18
11	NewDays KIOSK 西川口駅改札内	埼玉県川口市並木2-20-1
12	NewDays KIOSK 西大宮駅改札内店	埼玉県さいたま市西区西大宮1丁目
13	NewDays KIOSK 吹上駅改札内店	埼玉県鴻巣市吹上本町1-1-1
14	NewDays KIOSK 大宮駅東口南店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
15	NewDays KIOSK 川口駅改札外店	埼玉県川口市栄町3-1-24
16	NewDays KIOSK 土呂駅改札外店	埼玉県さいたま市北区土呂町1-14
17	NewDays KIOSK 南浦和駅改札内店	埼玉県さいたま市南区南浦和二丁目37-2
18	NewDays KIOSK 東大宮駅改札内店	埼玉県さいたま市見沼区東大宮4-76-1
19	NewDays KIOSK 白岡駅改札外店	埼玉県白岡市小久喜1213
20	NewDays KIOSK 北鴻巣駅改札外店	埼玉県鴻巣市赤見台一丁目5-1
21	NewDays KIOSK 武蔵浦和駅改札内店	埼玉県さいたま市南区别所7-12-1
22	NewDays KIOSK 本庄駅改札内コンコース店	埼玉県本庄市銀座3丁目
23	NewDays KIOSK 与野本町改札内店	埼玉県さいたま市中央区本町東2-3-11
24	NewDays KIOSK 蕨駅改札外店	埼玉県蕨市中央1-23-1
25	コレもう食べた？ 上尾	埼玉県上尾市柏座1-1-18

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

## 事業所リスト ④

番号	事業所名	所在地
1	HANAGATAYA 大宮新幹線	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
2	コレもう食べた？ 浦和	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
3	プレミィ・コロミィ エキア朝霞	埼玉県朝霞市本町2丁目13-52
4	くすりSTATION ビーンズ武蔵浦和	埼玉県さいたま市南区别所7-11-6
5	サイボク JR川越駅	埼玉県川越市脇田本町39-19
6	NewDays 浦和西口	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
7	NewDays 熊谷	埼玉県熊谷市筑波2-112
8	NewDays 戸田	埼玉県戸田市大字新曾
9	NewDays 三郷	埼玉県三郷市三郷1-32
10	NewDays 新座	埼玉県新座市野火止5-3-11
11	NewDays 大宮西口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
12	NewDays 東浦和	埼玉県さいたま市緑区東浦和1-23-1
13	NewDays 武蔵浦和	埼玉県さいたま市南区别所7-12-1
14	NewDays 南与野	埼玉県さいたま市中央区鈴谷2-578
15	NewDays 与野	埼玉県さいたま市浦和区上木崎1-1-1
16	コレもう食べた？ 蕨	埼玉県蕨市中央1-23-1
17	GENERAL STORE RAILYARD 大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
18	プレミィ・コロミィ/ことりパーティー グランエミオ所沢	埼玉県所沢市くすのき台1-14-5
19	プレミィ・コロミィ 川口	埼玉県川口市栄町3-1-24
20	NewDays 東川口	埼玉県川口市戸塚1-1-1
21	不二家 北戸田駅店	埼玉県戸田市新曾字芦原2004
22	BAKE CHEESE TART JR大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
23	コレもう食べた？ 川口	埼玉県川口市栄町3-1-24
24	コレもう食べた？ 大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
25	3COINS JR川口駅	埼玉県川口市栄町3-1-24

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

## 事業所リスト⑤

番号	事業所名	所在地
1	京樽・スシロー JR川口駅	埼玉県川口市栄町3-1-24
2	3COINS ビーンズ戸田公園	埼玉県戸田市本町4-15-1
3	シャトレーゼ JR大宮駅東口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
4	BOOK COMPASS ビーンズ戸田公園	埼玉県戸田市本町4-15-1
5	キャンドウセレクト さいたま新都心	埼玉県さいたま市中央区新都心11-1
6	シャトレーゼ JRさいたま新都心駅	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3
7	与野寮	埼玉県さいたま市中央区大字下落合1085-17
8	ecute大宮	さいたま市大宮区錦町630
9	ecute大宮ノース	さいたま市大宮区錦町630
10	BCSさいたま新都	さいたま市大宮区吉敷町4-57-3 JRさいたま新都心駅 改札内
11	BCSステーションラウンジさいたま	さいたま市大宮区吉敷町4-57-3 JRさいたま新都心駅 改札外
12	きらく浦和	さいたま市浦和区高砂1 JR浦和駅構内
13	BCS浦和	さいたま市浦和区高砂1-16-12 JR浦和駅 改札内
14	きらく大宮	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅構内(改札外)
15	そ中山道大宮8・9ホ	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅構内
16	そ中山道大宮ノース	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅構内
17	BCS大宮新幹線	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅(改札内)新幹線待合所
18	TTB大宮	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅構内(改札外)
19	HB大宮	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅 北口改札内埼京線階段下
20	HB大宮第4ホーム	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅 8・9番線ホーム上
21	BE大宮	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅改札外
22	RailwayClub大宮	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅構内改札外西口2階
23	大宮4号売店	さいたま市大宮区錦町630 JR大宮駅(新幹線北のりかえ口改札内)
24	トレインレストラン鉄博	さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館内2階
25	ビューレストラン鉄博	さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館内4階

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

## 事業所リスト⑥

番号	事業所名	所在地
1	キッスカフェ鉄博	さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館1階
2	鉄博(売店)	さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館1階
3	きらく南浦和	さいたま市南区南浦和2-37-3 JR南浦和駅構内
4	きらく北浦和	さいたま市浦和区北浦和3-3-5 JR北浦和駅構内
5	BCS北浦和	さいたま市浦和区北浦和3-3-5 JR北浦和駅西口橋上
6	TTB北浦和	さいたま市浦和区北浦和3-3-5 JR北浦和駅東口1階
7	きらく南越谷北	越谷市南越谷1-21-1 JR南越谷駅構内
8	きらく南越谷店	越谷市南越谷1-21-1 JR南越谷駅構内
9	BCS久喜	久喜市久喜中央2-1-1 JR久喜駅 改札外正面
10	きらく熊谷	熊谷市筑波2-112 JR熊谷駅北口
11	きらく熊谷改札内	熊谷市筑波2-112 JR熊谷駅構内
12	BCS熊谷	熊谷市筑波2-112 JR熊谷駅改札外 北口1階駅前広場
13	そ中山道鴻巣	鴻巣市本町1-1-1 JR鴻巣駅構内
14	きらく上尾	上尾市柏座1-1-18 JR上尾駅構内
15	LM上尾	上尾市柏座1-1-18
16	きらく川越	川越市脇田本町39-19 JR川越駅構内
17	きらく西川口	川口市並木2-20-1 JR西川口駅構内
18	きらく川口	川口市栄町3-1-24 JR川口駅構内
19	BCS川口	川口市栄町3-1-24 JR川口駅改札外 東口ペDESTリアンデッキ上
20	LM川口	川口市栄町3-1-24 JR川口駅改札脇
21	ほんのり川口	川口市栄町3-1-24
22	東川口寮	埼玉県川口市戸塚東2-10-4
23	BCS北本	北本市北本1-12 JR北本駅構内 改札外正面
24	きらく蕨店	蕨市中央1-23-1 JR蕨駅構内
25	BCS蕨	蕨市中央1-23-1 JR蕨駅構内 改札外 東口階段下

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

## 事業所リスト⑦

番号	事業所名	所在地
1	LM蔵	蔵市中央1-23
2	浦和工場	さいたま市桜区田島 9-20-3
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

### 3 事業所の温室効果ガス排出量

#### (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,077	5,531	5,112		

#### (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計画期間					
		基準	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		8,654	4,180	10,649	9,856		
	前年度比 (%)		—	154.8	-7.4		
	基準となる排出量に対する削減率 (%)		51.7	-23.1	-13.9		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>						
	メタン						
	一酸化二窒素						
	ハイドロフルオロカーボン						
	パーフルオロカーボン						
	六ふっ化いおう						
	三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計			4,180	10,649	9,856		

#### (3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計画期間					
		基準	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.3548	0.6658	0.3879	0.2984		
	前年度比 (%)		—	-41.7	-23.1		
	基準となる原単位に対する削減率 (%)		-87.7	-9.3	15.9		
活動規模の指標	単 位						
売上高	百万円/年		6,278.26	27,455.00	33,026.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	<p>(浦和工場以外の店舗) 令和2年度の(株)日本レストランエンタプライズとジェイアール東日本フードビジネス(株)との合併により対象店舗数が2倍以上となったが、エネルギー効率の高い店舗が加わったこともありCO2排出量は前年比144%に留まっている。売上高を指標とするCO2排出量原単位では、【0.873⇒0.711t-CO2】前年比81%となった。</p> <p>(浦和工場) 受注数量が前年比4割減になり、生産量が減少し、設備稼働時間が短くなった。</p>
令和3年度 (2021年度)	<p>(浦和工場以外の店舗) 令和2年度の(株)日本レストランエンタプライズとジェイアール東日本フードビジネス(株)との合併に続き、令和3年度の(株)ジェイアール東日本フーズと(株)JR東日本リテールネット、(株)JR東日本ウォータービジネス、(株)鉄道会館の4社合併実施。前年の(株)ジェイアール東日本フーズの店舗数の52から今年の(株)JR東日本クロスステーションの166に増加。業態も多様化した。</p> <p>(浦和工場) 受注・出荷数量のうち、おにぎり製品は前年度比114%の微増に対し、炊飯米での出荷は大幅減になり、生産設備中エネルギー使用量の多い機器の6月から9月にかけて稼働時間が短くなった。このため電気使用量前年度比96.6%、蒸気購入前年度比98.5%</p>
令和4年度 (2022年度)	<p>■CO2排出量低減要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所数の減（令和3年度 167→令和4年度 152）</li> <li>・省エネ効果の高い設備の導入</li> <li>・店舗オペレーションでの節電施策の実施 など</li> </ul> <p>■CO2排出量増加要素</p> <p>2022年4月20日にエキュート大宮ノース5期として、MIGNON、HANAGATAYAの2ショップがオープン。</p>
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ディベロッパーとの連携によるエネルギー 使用量管理体制の推進	R1以前	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ディベロッパーとの連携によるエネルギー 使用量管理体制の推進	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価  
(※希望者のみ記載) A事業所

自由記述欄

令和 5 年度

事業者番号	0614	事業所番号	035301
-------	------	-------	--------

## 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 事業所の概要

## (1) 事業所種別

事業所種別	C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

## (2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社J R東日本クロスステーションフーズカンパニー 弁当事業部戸田工場		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	美女木東1丁目6の1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容: 弁当、惣菜、パン、麺等の製造及び食材・資材の供給</li> <li>・従業員数: 575名(2023年7月現在)</li> </ul>	

## 2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

## (1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	28,504	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,126	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

## (2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,632	1,459	1,404		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,194	2,855	2,745		
前年度比 (%)	—	-10.6	-3.9		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,194	2,855	2,745		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3126	3.0072	1.2578		
前年度比 (%)	—	30.0	-58.2		
活動規模の指標	単位				
出荷額	百万円/年	1,381.13	949.39	2,182.31	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	出荷数量が前年比4割以上減。生産数量抑制に伴うエネルギー使用量減。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	設備入れ替え工事の実施は令和4年度からになったが、令和3年度に3階生産エリアの生産設備の使用停止だけを行った。これに伴い使用していないエリアの空調停止も実施。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	令和4年度に設備入れ替え工事の実施。これに伴い使用していないエリアの空調停止も実施。令和4年度2月に3階生産エリアの使用再開。東京都にある工場から製造ライン移管受入した本稼働を令和4年度3月から令和5年度7月にかけて順次行った。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,126	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量等	基準排出量(A)	7,126	7,126	7,126	7,126	7,126	35,630
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						28,504
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,126
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,194	2,855	2,745			8,794
	削減率 (F = (A - E) / A)	55.18%	59.94%	61.48%			—
	排出削減量 (G = A - E)	3,932	4,271	4,381			12,584
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明器具のLED化	R1以前	R1以前	
2	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	加熱連続フライヤーを最新タイプに更 新し、加熱時間短縮により、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
3	330200	空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	個別空調機の省エネタイプへの更新	R1以前	R1以前	
4	310100	一般管理事 項	31_推進体制の整備	停止した冷凍食品製造用冷凍機と蒸気 炊飯ラインを撤去	R1以前	R1以前	
5	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	更新期になった冷凍庫・冷蔵庫の冷凍 機を最新タイプに更新し、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
6	330200	空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	仕分けエリアの冷蔵室を撤去してロッ カー室を設置	R2	R2	
7	330200	空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R2	R2	
8	330200	空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R3	R3	
9	310500	一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	倉庫機能の外部委託	R3	R3	
10	310500	一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	東京都にある工場から製造ライン移管 受入	R4	R4	
11	330200	空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	新型蒸気炊飯ラインを設置	R4	R4	
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

令和3年度に工事に備えて停止した施設が多く、令和4年度に工事実施した実質2年間は工事期間と捉えるべきかと考えられる。

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	朝日アグリア株式会社			
所在地	埼玉県児玉郡神川町渡瀬222			
事業者番号	0615			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,767	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の 概要	事業内容	肥料事業、種苗事業、牧草事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	303	百万円
		従業員数	200	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## （3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061500	朝日アグリア株式会社 神川農場	36
Bテナント等	061501	朝日アグリア株式会社 関東工場	3,731
B、C事業所			
合 計			3,767

## （4）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="http://www.asahi-kg.co.jp/agria">http://www.asahi-kg.co.jp/agria</a>
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲 覧 場 所 1	朝日工業株式会社 関東工場
		所 在 地 1	埼玉県児玉郡神川町渡瀬2 2 2 番地
		閲 覧 可 能 時 間 1	AM10：00～11：30、PM1：00～4：00
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
	その他		

## （5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境安全管理課	0274-52-2715	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

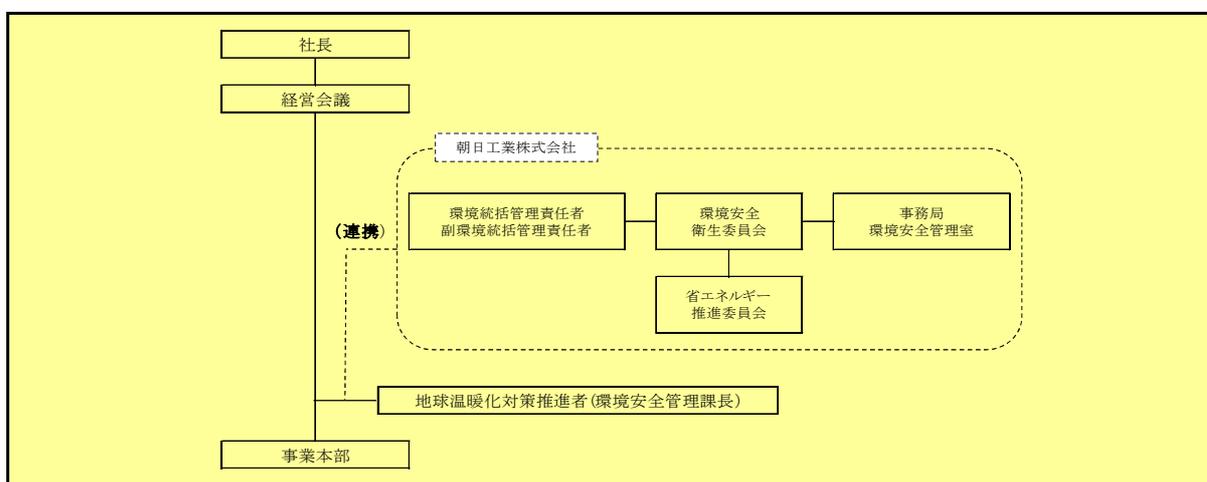
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

[経営理念]  
 誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。  
 良い製品、良いサービスを提供し、地球環境に貢献し続けます。

[CSR指針]  
 社会へ貢献、感謝、恩返しを大切にします。

[環境指針]  
 環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通して、環境へ貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,318	5,960	7,440		
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,318	5,960	7,440		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061500
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	朝日アグリ株式会社 神川農場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	大字新里863-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	71 学術・開発研究機関		
分類番号(中分類)	71		
事業活動の概要	植物育種研究		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	163	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.0239	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	令和2年度の原単位を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。						
削減目標	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
削減目標	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	朝日アグリア株式会社 神川農場	児玉郡神川町大字新里863-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	67	39	36		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	163	163	91	81		
前年度比 (%)		—	-44.2	-11.0		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	44.2	50.3		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		163	91	81		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0239	0.0239	0.0133	0.0119		
前年度比 (%)		—	-44.2	-11.0		
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	44.2	50.3		
活動規模の指標	単位	6,823.00	6,823.00	6,823.00		
ハウス面積	m <sup>2</sup>					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	ハウス暖房を効率的に運用、及び冬季の燃料使用が大きい栽培の規模が前年度より縮小したため、燃料使用量が減少し、CO <sub>2</sub> 排出量が減少
令和4年度 (2022年度)	前年度から継続したハウス暖房の効率的運用により燃料使用量が減少し、CO <sub>2</sub> 排出量が減少。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

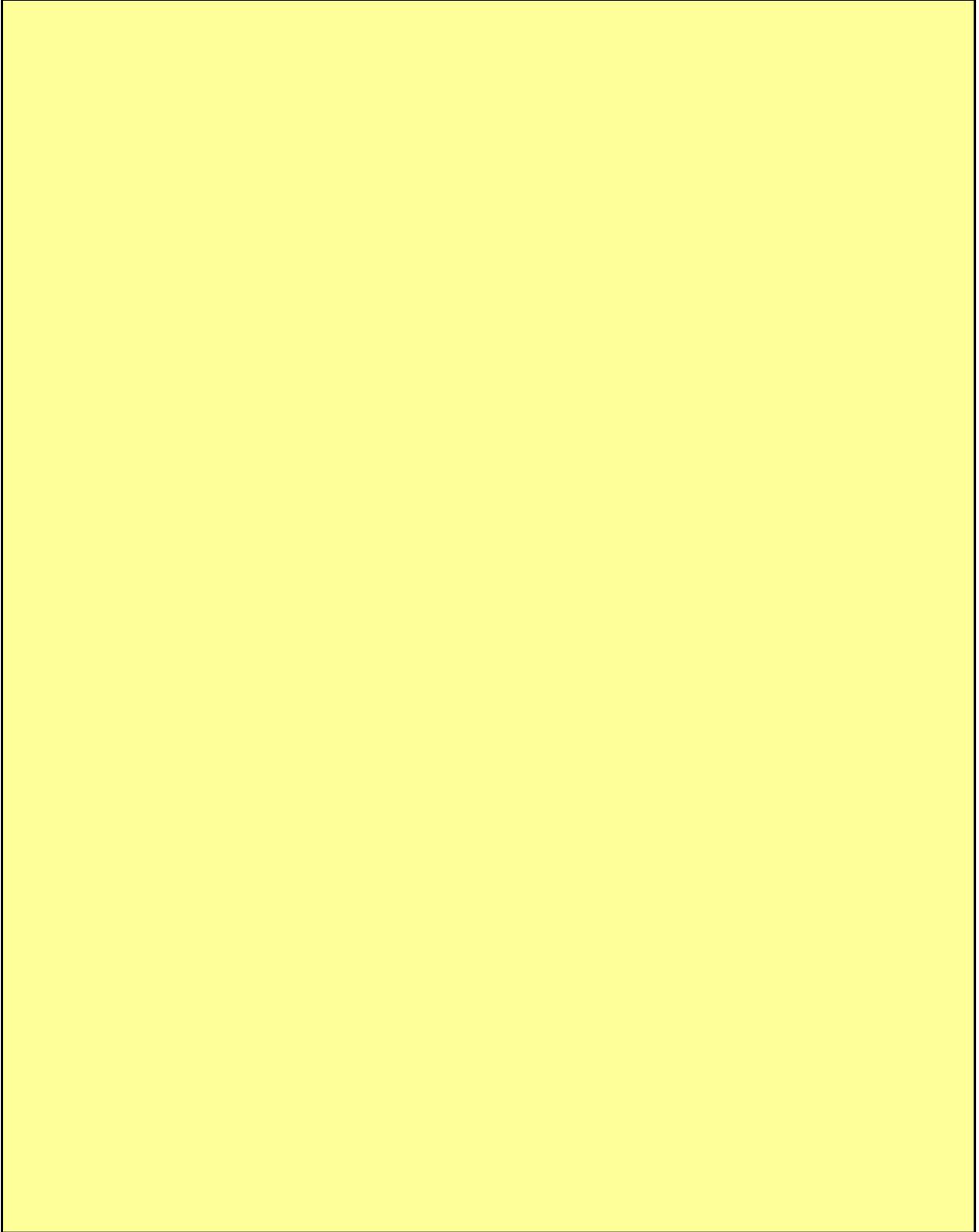
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施	R2	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	暖房設備の効率的運用を実施	R3	R3	
4	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備の効率的運用を実施	R3	R3	
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機器の効率的運用を実施	R3	R3	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	朝日アグリア株式会社 関東工場		
事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	渡瀬222番地	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	朝日工業株式会社 埼玉事業所		
産業分類名（中分類）	16 化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要	肥料事業、種苗事業、牧草事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	6,155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.1065	t-CO <sub>2</sub> /t/年
	令和2年度の排出量を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。 ※朝日アグリアは2020年度に朝日工業の会社分割により子会社となりました。両社にはエネルギー管理の連動性があることから、朝日アグリアはBテナント事業者として報告を行います。基準となる排出量については、朝日アグリア単体での過去の排出量(2002～2007)の特定が難しいため令和2年度の排出量を基準としました。引き続き、朝日工業（C事業所）の削減目標達成に努めます。						
		その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
		その他ガス				

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,121	2,976	3,731		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,155	6,155	5,869	7,359		
前年度比 (%)		—	-4.6	25.4		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	4.6	-19.6		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		6,155	5,869	7,359		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1065	0.1065	0.1047	0.1234		
前年度比 (%)		—	-1.7	17.9		
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	1.7	-15.9		
活動規模の指標	単位					
生産量	t/年	57,803.00	56,044.00	59,620.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	大型ロット化及び連続生産により、生産性が向上しCO <sub>2</sub> 排出量が減少。
令和4年度 (2022年度)	生産量の増加及び化成工場の天然ガス使用効率悪化により、CO <sub>2</sub> 排出量が増加。 また、2022年12月以降朝日工業より菌体工場が移管、エネルギー使用量が増加した。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

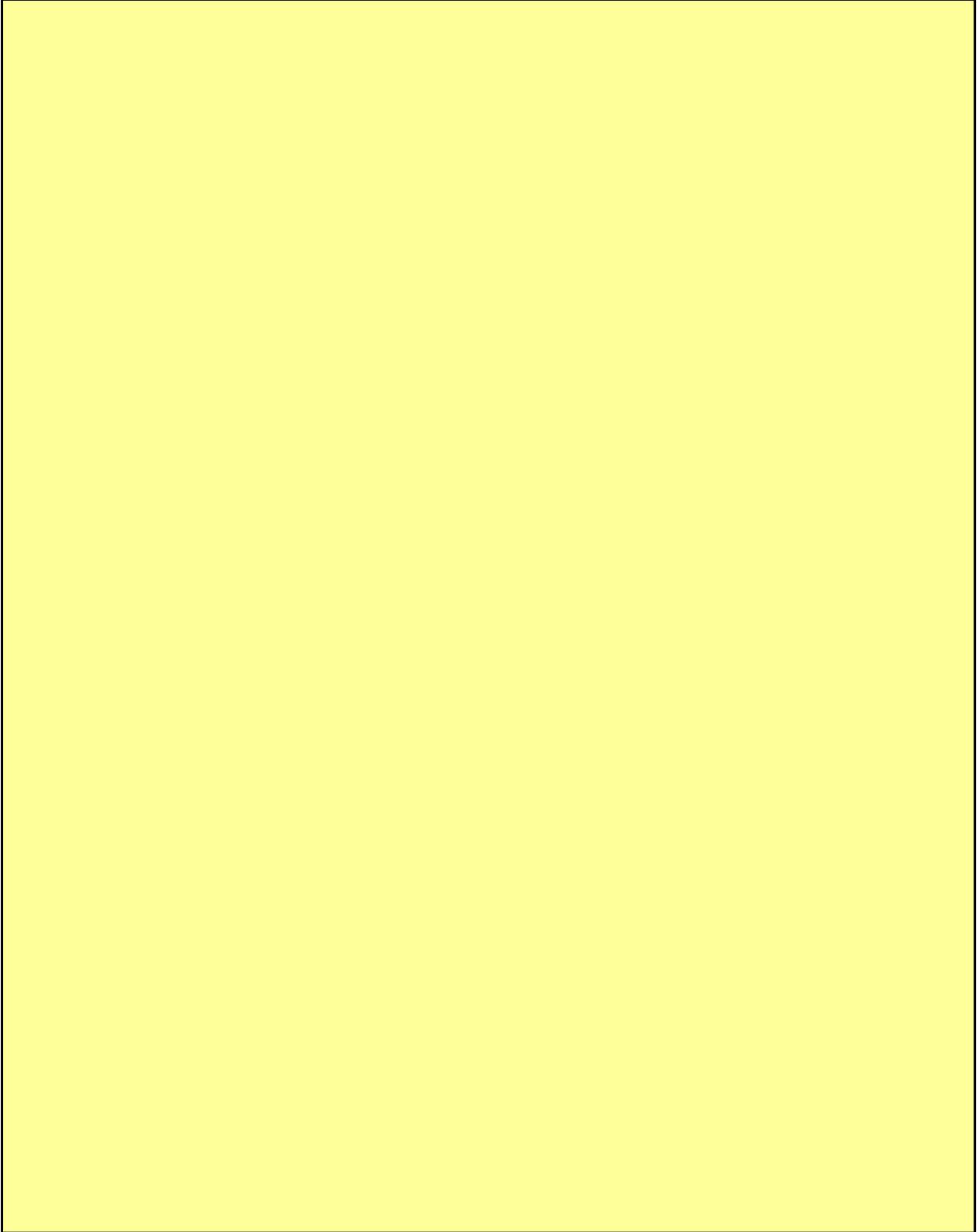
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施。	R2	R2	
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	大型ロット化及び連続生産による待機電力削減	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社Plan・Do・See			
所在地	東京都千代田区丸の内2-1-1			
事業者番号	0616			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,851	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	75 宿泊業			
分類番号 (中分類)	75			
事業活動の 概要	事業内容	1 THE MARK GRAND HOTEL 事業内容：ホテル 敷地面積：5,500㎡ 延べ床面積：35,424.53㎡		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	1,700	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	038501	THE MARK GRAND HOTEL	1,851
合 計			1,851

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	株式会社オペレーションプラス	048-600-5509	energy@themarkgrand.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

I am one of the customersの指針の下に行動し  
 土地に根付いた事業運営をベースに  
 その土地が魅力的になる、価値が上がる取り組みをコツコツ継続してゆき  
 それが環境や温暖化に繋がるように取り組んでまいります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

株式会社 Plan・Do・See  
 コーポレートマネジメント室  
 (地球温暖化対策推進者)  
 ↓  
 THE MARK GRAND HOTEL

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,297	3,469	3,330		
その他ガス					
温室効果ガスの 合 計	3,297	3,469	3,330		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0616	事業所番号	038501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	THE MARK GRAND HOTEL		
事業所所在地	市区町村	さいたま市中央区	
	字・地番	新都心3番2号	
産業分類名(中分類)			
分類番号(中分類)			
事業活動の概要	事業内容	事業内容: ホテル 敷地面積: 5,500㎡	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,756	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	6,689	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(2)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,833	1,925	1,851		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,297	3,469	3,330		
前年度比 (%)	—	5.2	-4.0		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,297	3,469	3,330		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0931	0.0979	0.0940		
前年度比 (%)	—	5.2	-4.0		
活動規模の指標	単位				
床面積	m <sup>2</sup>	35,425.00	35,425.00	35,425.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令等の影響を受け、宿泊及び宴会等利用客数が前年度に比べ半減したことにより、CO<sub>2</sub>排出量が前年度と比較して減少した もの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理用途の都市ガス使用量が前年度比44%減少。</li> <li>照明他用途の電気使用量が前年度比23%減少。</li> <li>空調他用途の冷水使用量が前年度比29%減少。</li> <li>空調他用途の蒸気使用量が前年度比15%減少。</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>緊急事態宣言解除により、ホテル稼働率が徐々に戻りつつあるため、エネルギー使用量の増加。</p>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>照明設備に関する節電対策により、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の減少</p>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,689	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分-(2)
----------	----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,689	6,689	6,689	6,689	6,689	33,445
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						26,756
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						6,689
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,297	3,469	3,330			10,096
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	50.71%	48.14%	50.22%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	3,392	3,220	3,359			9,971
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

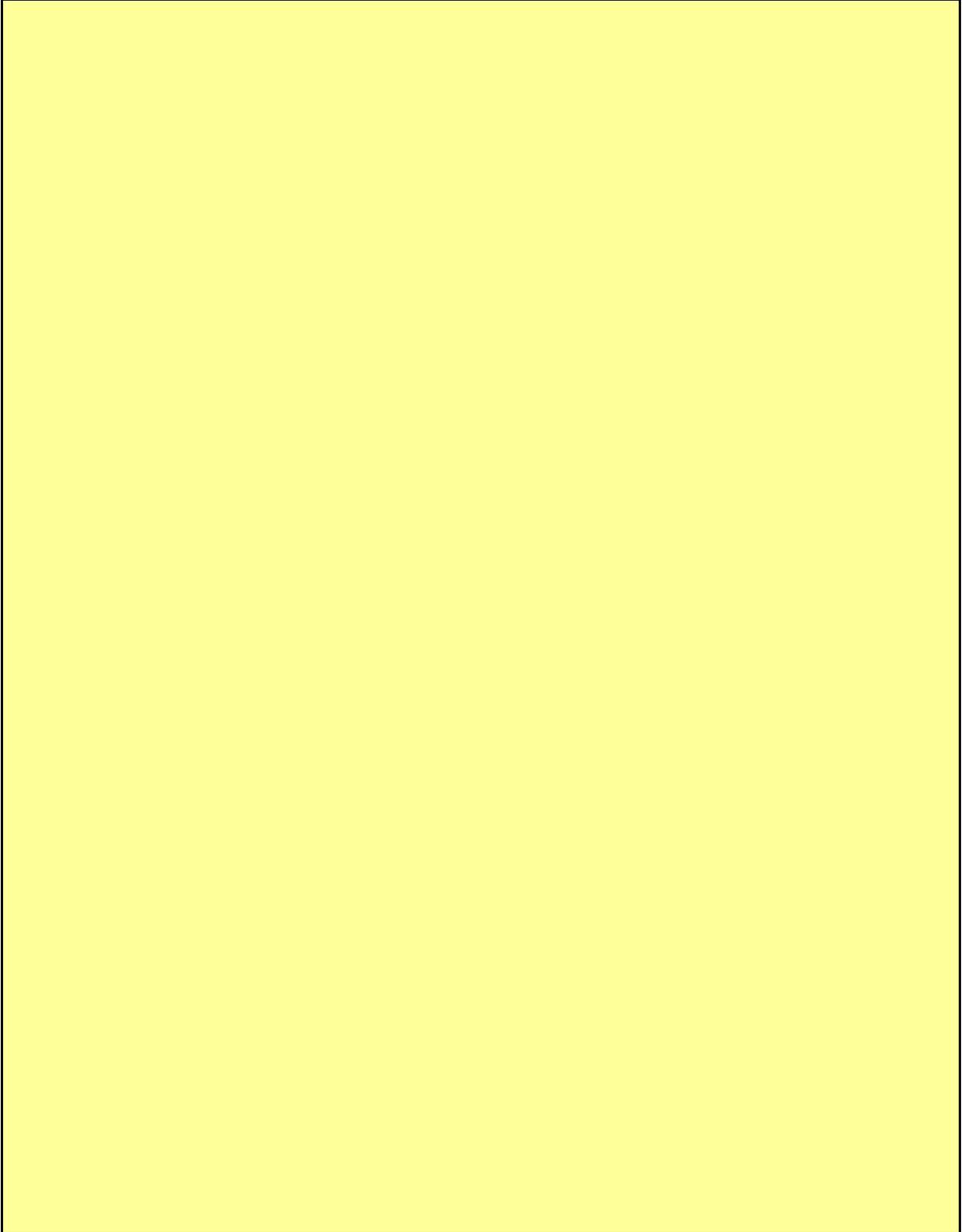
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	120700	熱源設備・熱搬送設備	12_蒸気漏えい及び保温の管理	蒸気断熱ジャケットの装着、保湿剤の着工		R1以前	
2	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	省エネVベルトの採用		R1以前	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	LED照明の採用		R1以前	
4	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷温水ポンプ等インバーター装置の設置		R1以前	
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機へのCO2制御導入		R1以前	
6	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備に関する節電対策【第3計画期間も継続実施】	R4	R4	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	わらべや日洋食品株式会社			
所在地	東京都新宿区富久町13 - 15			
事業者番号	0617			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	8,575	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	調理済食品の製造 1日生産量(グループ全体)最大600万食以上 1,875名(2023年2月末日現在) 臨時従業員 7,670名(1日8時間労働換算)		
	区分	企業		
	前年度	資本金	8,049	百万円
		従業員数	6,821	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	042602	わらべや日洋株式会社 吉川工場	3,277
C	042604	わらべや日洋株式会社 浦和工場	3,036
C	042601	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場	2,262
合 計			8,575

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	わらべや日洋食品株式会社 環境推進室
		所在地 1	東京都新宿区富久町13 - 15
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
		閲覧場所 2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場
		所在地 2	埼玉県さいたま市北区吉野町2-10-1
		閲覧可能時間 2	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
	その他		

## (5) 公表の担当部署

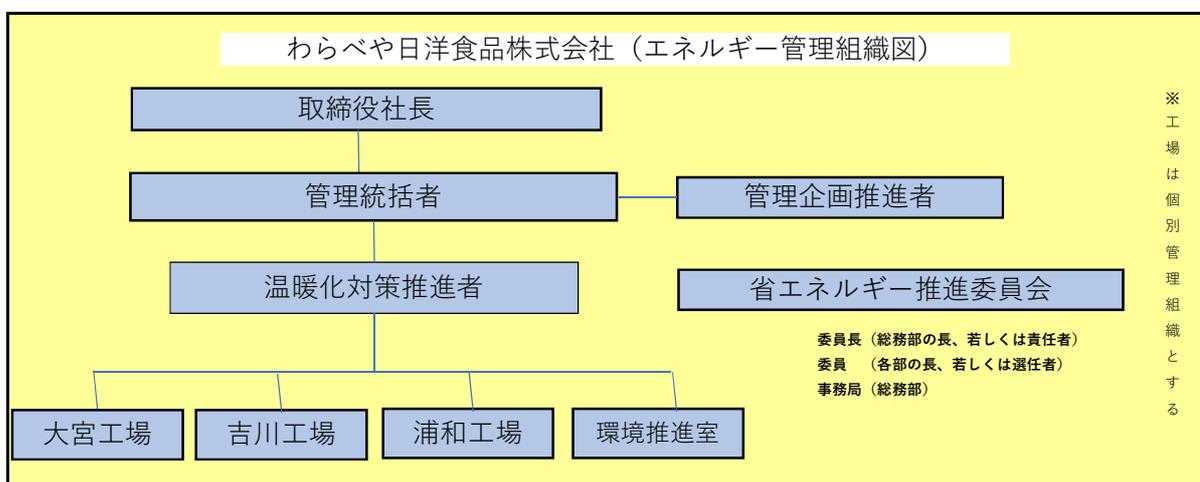
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	わらべや日洋食品株式会社 環境推進室	03-5363-7150	kannkyou.suisinsitu@warabeya.co.jp
2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場管理課	048-668-0851	ohmiya-factory@warabeya.co.jp
3	わらべや日洋食品株式会社 吉川工場管理課	048-992-5001	yoshikawa-factory@warabeya.co.jp

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して地球の豊かな恵みの存続に貢献します。工場に合った削減設備及び対策内容を考慮し、適切な設備計画を実施し対策をおこなっていきます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	16,788	16,575	16,754		
その他ガス					
温室効果ガスの計	16,788	16,575	16,754		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042602
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 吉川工場		
事業所所在地	市区町村	吉川市	
	字・地番	大字南広島4 4 2 番地 1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理済食品の製造</li> <li>・従業員数 440名</li> <li>・敷地面積 11,875.76m<sup>2</sup></li> </ul>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。また、必要に応じて排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	30,016	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,504	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,945	2,852	3,277		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,754	5,575	6,405		
前年度比 (%)	—	-3.1	14.9		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,754	5,575	6,405		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1017	0.1169	0.2020		
前年度比 (%)	—	14.9	72.9		
活動規模の指標	単位				
生産量	万食	56,556.60	47,699.36	31,700.79	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	床面積の増減：11,493.56m <sup>2</sup> →11,509.56m <sup>2</sup> ハロンボンベ庫増設。 建物の用途変更：用途変更は無し。 設備の増減：設備の増減は無し。 その他 ・製造アイテムが増え、全体の食数や稼働時間は減少傾向であった。 ・製造アイテムが増え、切替作業時間も増加してきた。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	床面積の増減：11,509.56m <sup>2</sup> →11,558.53m <sup>2</sup> 焼き菓子部屋の拡張工事。 建物の用途変更：用途変更は無し。 設備の増減：焼き菓子製造により機械の増。 その他 ・製造アイテムが増え、全体の食数や稼働時間は減少傾向であった。 ・製造アイテムが増え、切替作業時間も増加してきた。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	有	設備の増減	有
	床面積の増減：なし 建物の用途変更：米飯温度エリアを改修し、チルド温度エリアへ改修工事。 設備の増減：米飯製品の製造を中止、チルド製品の製造の拡大。 その他 ・製造アイテムが減ったが、全体の食数や稼働時間は増加傾向であった。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,504	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,504	7,504	7,504	7,504	7,504	37,520
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						30,016
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						7,504
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,754	5,575	6,405			17,734
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	23.32%	25.71%	14.65%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,750	1,929	1,099			4,778
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

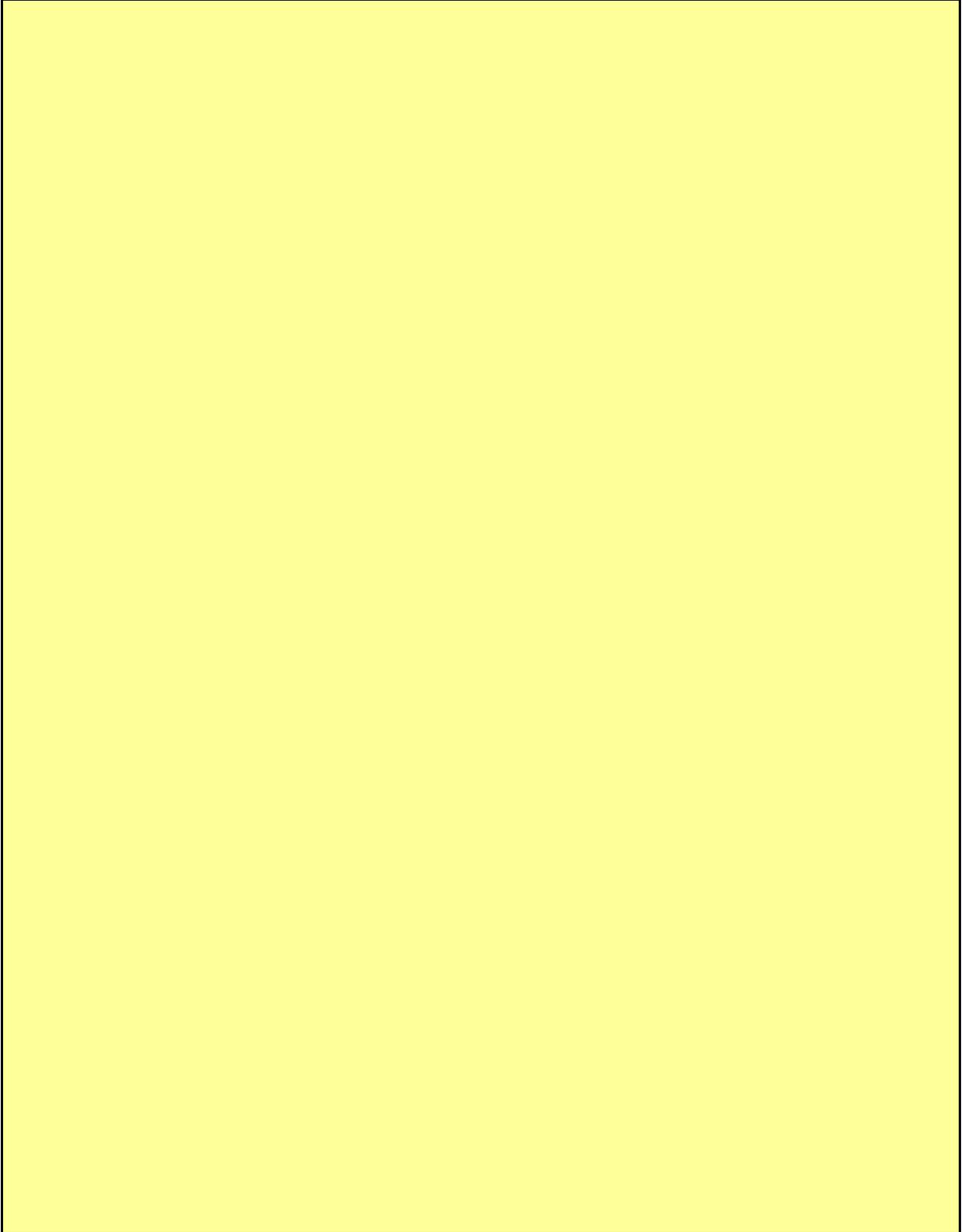
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	エネルギー管理標準による管理実施	R4	R4	
2	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行いコントロールを図る	R4	R4	
3	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏場の電力消費量抑制を行う。	R4	R4	
4	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。	R4	R4	
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。	R4	R4	
6	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	契約電力を前年対比で15%下げる事でエネルギー使用量の抑制を図る。	R4	R4	
7				【上記対策を毎年度継続実施】			
8							
9	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気設備にスチームトラップ設置		R1以前	
10	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備のインバーター制御の調整		R1以前	
11	150200		受変電設備、照明設備、電気設備 15_照明設備の運用管理	照明設備をすべてLEDに変更		R1以前	
12	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	省エネ型空調機に入れ替え	R3	R3	
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042604
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 浦和工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区桜田	
	字・地番	3-3-2	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 調理済食品の製造 従業員 380人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第2計画期間の削減率を令和2年度から令和3年度は6%、令和4年度から令和6年度は13%を目標とする。 必要に応じ、排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	37,123	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	4,217	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,331	3,335	3,036		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,508	6,517	5,937		
前年度比 (%)	—	0.1	-8.9		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	6,508	6,517	5,937		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3771	2.2011	2.1684		
前年度比 (%)	—	-7.4	-1.5		
活動規模の指標	単位				
生産量	万食/年	2,737.80	2,960.78	2,738.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>専用の加熱調理用皿を使う商品が増え、洗浄・消毒等の手間が増えた。          生産品目も増え、切替作業時間も増加してきた。          また、これまでどの商品もある程度のロットがあったものの、ラインにて          30分にも満たない小ロット製品製造が目立った。</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>前年と同様、工程数の多い品目が増え続けている。          また、前年度と比較し、売上114%・食数108%となっていることも          要因の一つ。          蒸気配管各所のスチームトラップを、ドレン放出時の蒸気拡散がない          エネトラップへ、2021年9月～2022年3月の間で、ほぼ全数を          交換し、ボイラーでの燃料・使用水量1割強の低減を実現したものの、          食数等の増加と相殺・微増傾向となっている。</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>12月ごろより、他工場に新ラインが完成した影響もあり、浦和工場での生産食数が減少した。          また、電気使用量の多い蒸気オープンを3台撤去し、電気使用量の少ないジェット          オープンに入れ替えるなど、電気使用量の削減にも取り組んでいる。          その他にも使用できておらず、製造ライン上で通過するだけになっていた機械なども          撤去し、ラインの簡略化に成功した。</p>						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	8,268	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,268	8,268	8,268	8,268	8,268	41,340	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	13.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							37,123
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							4,217
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,508	6,517	5,937			18,962	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	21.29%	21.18%	28.19%			—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,760	1,751	2,331			5,842	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

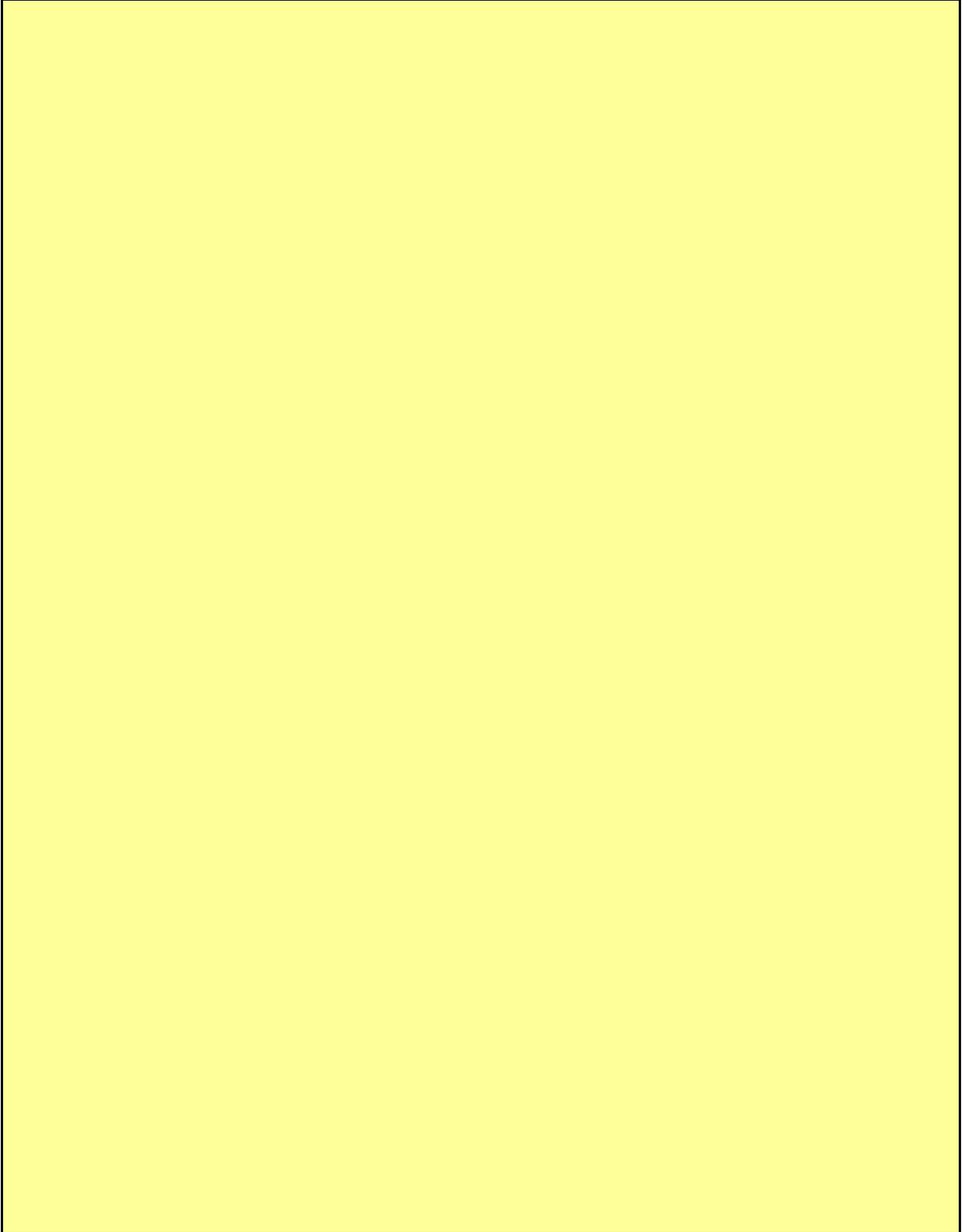
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	デマンド監視装置	R4	R4	
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調室外機	R4	R4	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	証明LED化	R4	R4	
4				【上記対策を継続実施】			
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市北区吉野町	
	字・地番	2丁目10番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：調理済食品の製造 従業員数：460人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。必要に応じて排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,860	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	6,715	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,322	2,299	2,262		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,526	4,483	4,412		
前年度比 (%)	—	-1.0	-1.6		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,526	4,483	4,412		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.7450	0.7398	0.7041		
前年度比 (%)	—	-0.7	-4.8		
活動規模の指標	単位				
生産量	万食	6,075.00	6,060.00	6,266.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量は増加しているが、コロナ禍での稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量は増加しているが、アイテム数の集約により各機器の稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられます。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量は増加しているが、アイテム数の集約により各機器の稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられます。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,715	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,715	6,715	6,715	6,715	6,715	33,575
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						26,860
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						6,715
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,526	4,483	4,412			13,421
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	32.60%	33.24%	34.30%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,189	2,232	2,303			6,724
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

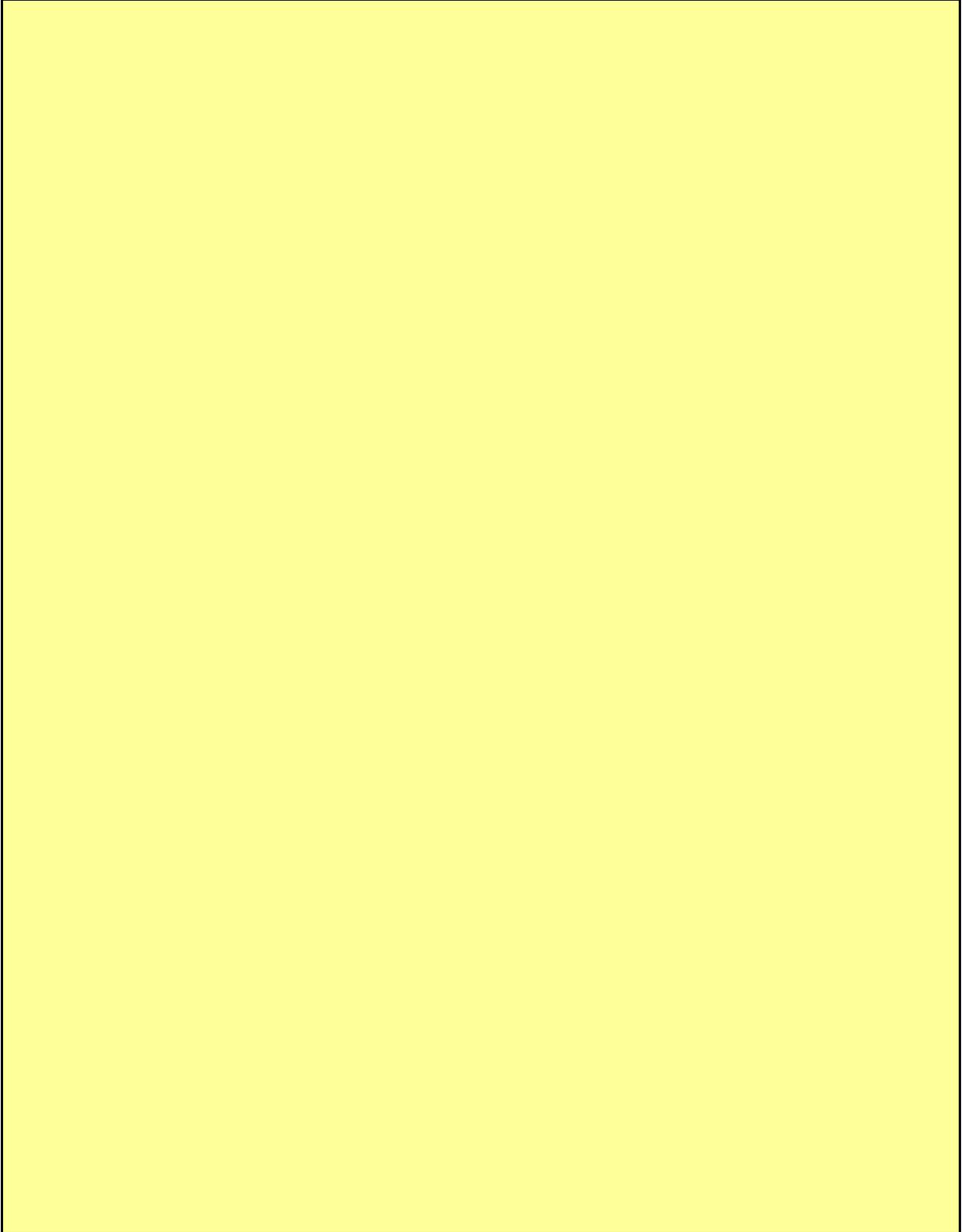
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	空調機の点検を行い、効率の低下した機器を優先に更新と修理を行い空調機の効率化を図る。	R4	R4	
2	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行う。	R4	R4	
3	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏季の電力消費量抑制を行なう。	R4	R4	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	通路などを消灯し電力抑制を行なう。	R4	R4	
5	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管の分岐部にエコジャケットを段階的に設置し、廃熱を抑制する。蒸気漏れがあった場合、すぐに対応し修理を行う。	R4	R4	
6				【上記対策を継続的に実施する】			
7	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	一部の製造エリアを省エネタイプの蛍光灯に変更を行いたい。	R4	R4	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社KADOKAWA			
所在地	東京都千代田区富士見二丁目13番3号			
事業者番号	0618			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,976	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	41 映像・音声・文字情報制作業			
分類番号 (中分類)	41			
事業活動の概要	事業内容	総合エンターテインメント企業として、出版、映像、ゲーム、Webサービス、教育、MD、インバウンド関連などの幅広い事業を展開。ABW (Activity Based Working) を含めたデジタルトランスフォーメーションの推進により、IP (Intellectual Property) の安定的創出と世界への伸展を中核とした「グローバル・メディアミックス」戦略を実践。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	40,624	百万円
		従業員数	1,998	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061800	ところざわサクラタウン 第2駐車場	4
B、C事業所			
B	061801	ところざわサクラタウン	2,972
合 計			2,976

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	ところざわサクラタウン防災センター
		所在地 1	埼玉県所沢市東所沢和田3-31-3
		閲覧可能時間 1	平日9:00~18:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	グループ戦略総務局 オフィスマネジメント部	050-1754-7097	
2			
3			

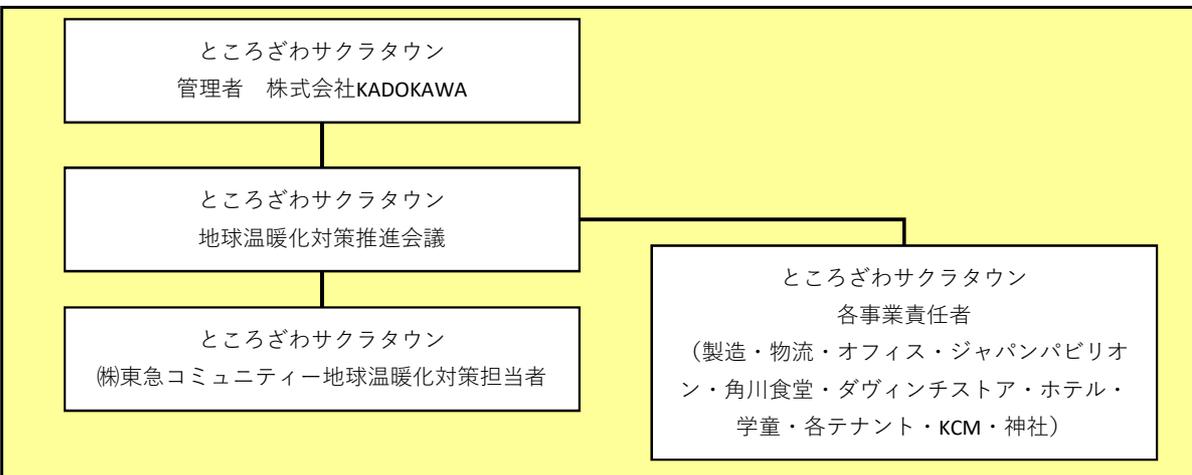
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策として以下の項目を重視しながら取組み、目標を実現します。

1. 設備機器の更新時期での省エネルギー対応機器の導入
2. 照明・空調機器等の稼働時間の見直し
3. 入居テナントに対する省エネルギー推進への啓発活動

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,033	5,251	5,804		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,033	5,251	5,804		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0618	事業所番号	061800
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ところざわサクラタウン 第2駐車場	前年度における事業所数	2
代表事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	松郷138番地3	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	48 運輸に附帯するサービス業		
分類番号(中分類)	48		
事業活動の概要	ところざわサクラタウンの来客用駐車場 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月オープン		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、排出量の抑制は困難である。令和2年度は年度途中からの使用であったため、標準原単位による排出量を基準とし、計画期間内の排出量の維持を目標とする。					
		その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
		その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ところざわサクラタウン 第2駐車場	所沢市松郷138番地3
2	ところざわサクラタウン 第3駐車場	所沢市松郷143番地1
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3	4	4		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	155	6	8	7		
前年度比 (%)		—	33.3	-12.5		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		96.1	94.8	95.5		
その他ガス						
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>						
メタン						
一酸化二窒素						
ハイドロフルオロカーボン						
パーフルオロカーボン						
六ふっ化いおう						
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計		6	8	7		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標単 位						

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月のオープンのため、令和3年度のCO2排出量は増加となる見込みである。
令和3年度 (2021年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 第2駐車場は令和2年5月、第3駐車場は令和2年7月のオープンであり、令和3年度は通年での営業となったため、CO2排出量は増加となった。
令和4年度 (2022年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 2022年度のCO2排出量は対前年度比で12.5%の減少となった。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

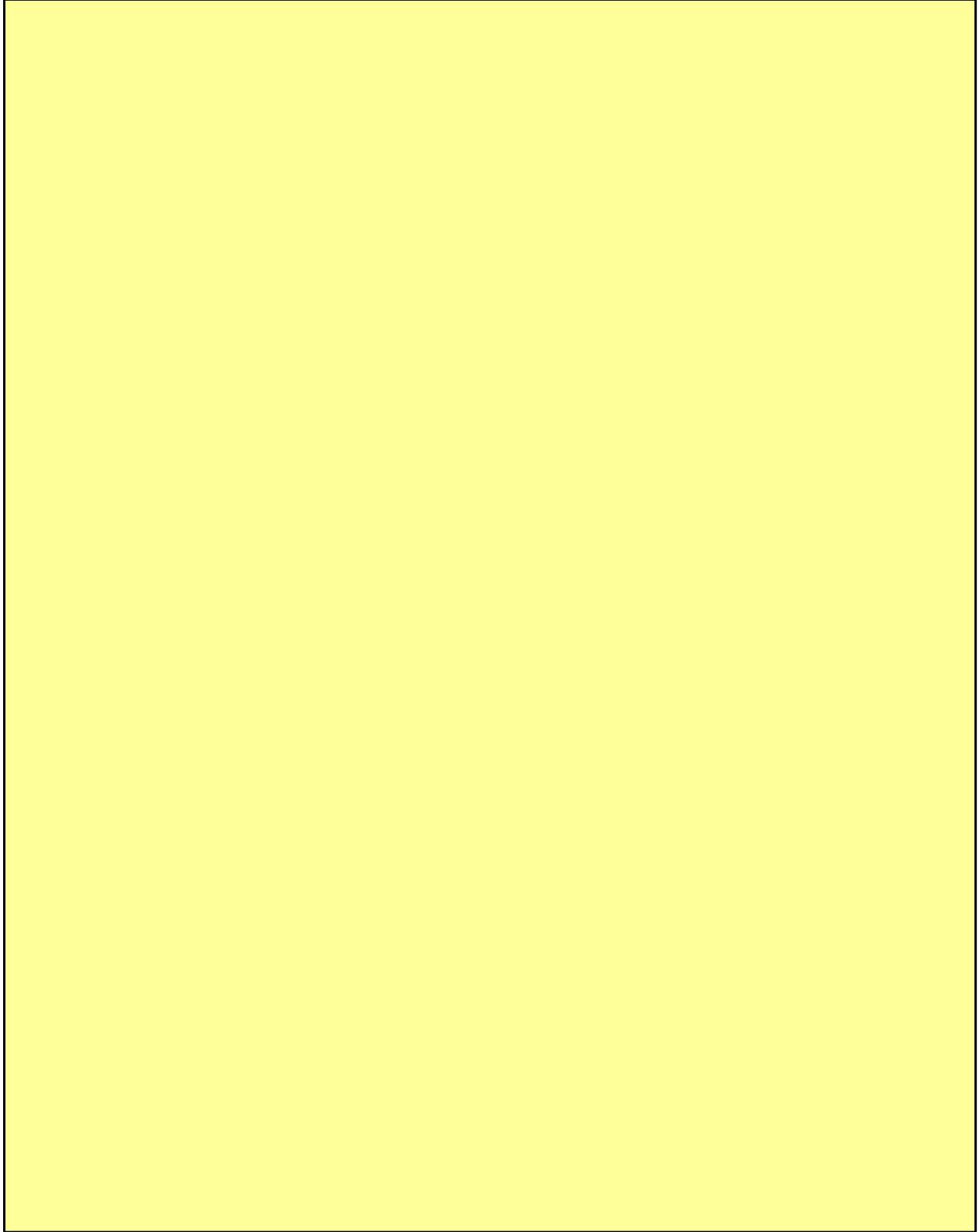
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	屋外照明のタイマー設定時間を見直し、季節にあった適正な点灯時間となるように管理する。	R2	R2	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0618	事業所番号	061801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ところざわサクラタウン		
事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	東所沢和田三丁目31番地3	
産業分類名 (中分類)	41 映像・音声・文字情報制作業		
分類番号 (中分類)	41		
事業活動の概要	事業内容	KADOKAWAが建設・運営する書籍製造・物流工場や所沢キャンパス (新オフィス)、イベントスペース、ホテル、ショップ & レストラン、ダ・ウ・インシア、商業施設ほか、角川文化振興財団による文化複合施設も建設。	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	当施設は運用開始から間もなく、未だ施設の全エリアが本稼働に至っていないため排出量の増加は当面続く見込みとなっている。そのため、全エリアが本格稼働するまでの過渡期間においては、全エリア本稼働時に見込まれる予測排出量 (約8,000 t-CO <sub>2</sub> /年) を基準に、C事業所当初水準の8%を当面の削減目標と設定し、運用を進めてゆく。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,060	2,705	2,972		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,027	5,243	5,797		
前年度比（%）	—	30.2	10.6		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,027	5,243	5,797		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0461	0.0600	0.0663		
前年度比（%）	—	30.2	10.6		
活動規模の指標					
延床面積	87,433.71	87,433.71	87,433.71		
単位	m <sup>2</sup>				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>ところざわサクラタウンは令和2年4月30日に竣工、製造・物流エリアの試運転を令和2年7月から開始、令和2年11月よりグランドオープンとなった。</p> <p>令和3年度は通年での営業となり稼働率も上がるため、CO2排出量は増加する見込みである。</p> <p>また、EV充電器での敷地外運転車両への給電及び自家消費する太陽光発電の電力量が算定から除外されていたため、2022年度実績の報告と合わせて修正を行った。</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>令和3年度は前年度のCO2排出量と比較して30.2%の増加となった。</p> <p>排出量の増加要因として、下記の事項が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度は年度途中からの営業であり、令和3年度は通年での営業であったため電気、ガス使用量が増加</li> <li>・前年度はコロナウィルスの感染拡大による影響で営業時間等の縮小やイベント開催を自粛していたが、制限が緩和されたため電気、ガス使用量が増加</li> <li>・製造エリアの稼働率が上がったため電気、ガス使用量が増加</li> </ul> <p>また、2020年度と同様EV充電器の給電及び太陽光発電の電力量が算定から除外されていたため、2022年度実績の報告と合わせて修正を行った。</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>令和4年度は前年度のCO2排出量と比較して10.6%の増加となった。</p> <p>排出量の増加要因として、下記の事項が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響による入場人数制限等の規制があり稼働率が低かったが、2022年度は年度途中から規制が緩和されたために電力、都市ガスの使用量が増加した。</li> <li>・また、令和3年度に引き続き、製造エリアの稼働率が上がったため電気、ガス使用量が増加した。</li> </ul>						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

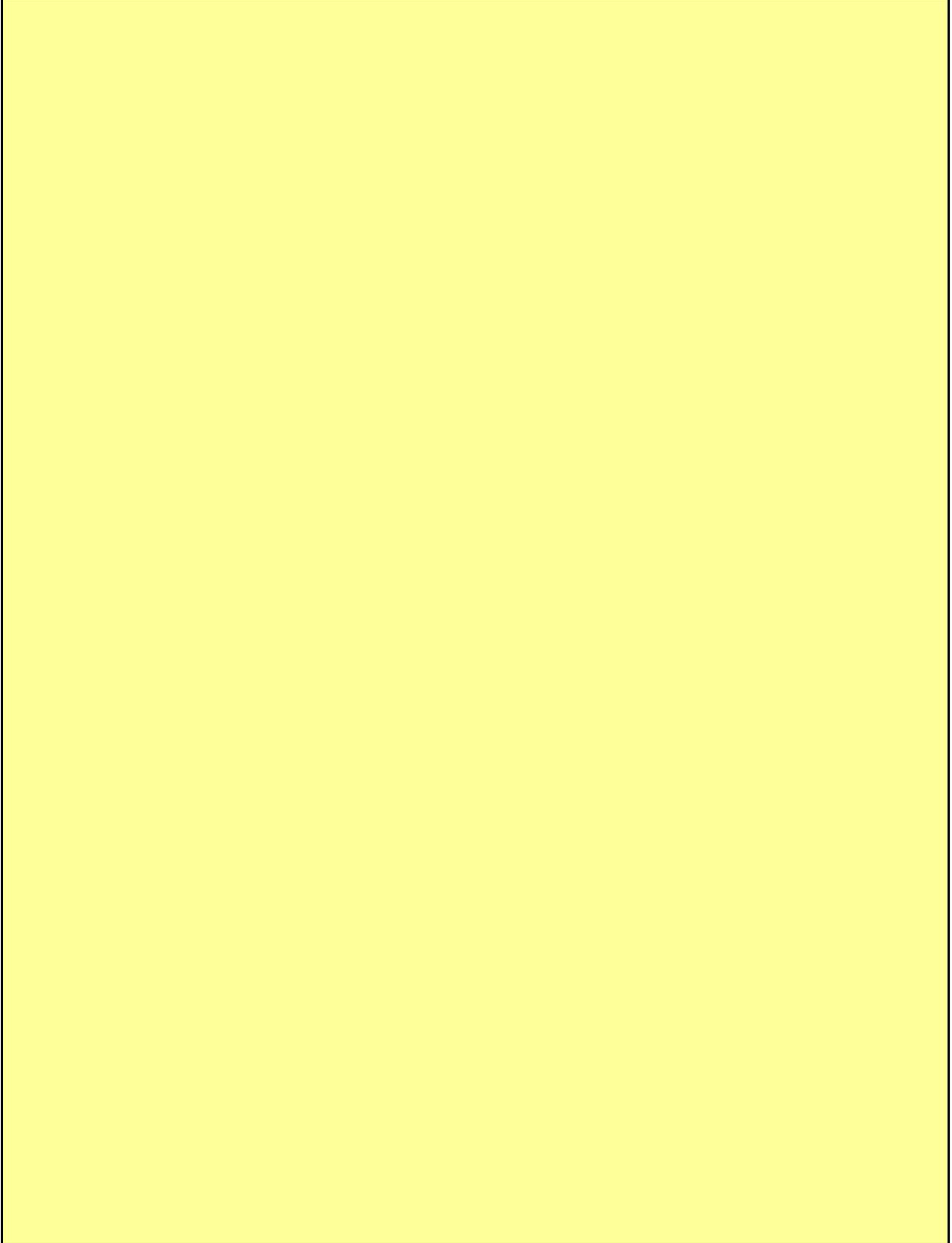
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300		一般管理事項 11_計測及び記録の管理	BEMSにより使用エネルギーの計測及び記録の管理を行う。	R2	R2	
3	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
4	130100		空気調和設備・換気設備 13_空気調和の運転管理	冷暖房の温度設定は政府等の推奨値を参考とし、適切な設定となるように管理する。	R2	R2	
5	150200		受変電設備、照明設備、電気設備 15_照明設備の運用管理	不要時の消灯を実施する。	R2	R2	
6	150300		受変電設備、照明設備、電気設備 15_事務用機器等の管理	パソコン、複合機等の省エネモードを活用する。	R2	R2	
7	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	電気室PAC、給排気ファンの運転を適正化する。	R3	R3	70.9
8	130300		空気調和設備・換気設備 13_換気設備の運転管理	ロックミュージアム機械室の吸排気ファンの運転を適正化する。	R3	R3	3.9
9	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	企画展示室系統の混合ロス防止対策を実施する。	R4	R4	2.8
10	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	収蔵庫の温湿度設定の緩和をする。	R4	R4	1.2
11	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	4F空調機の温湿度設定の緩和をする。	R4	R4	2.7
12	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	5F空調機の温湿度設定の緩和をする。	R4	R4	1.3
13	120300		熱源設備・熱搬送設備 12_運転管理及び効率管理	熱源の往温度設定を適正化する。	R4	R4	8.0
14	120500		熱源設備・熱搬送設備 12_熱搬送設備の運転管理	熱源二次ポンプの制御を適正化する。	R5		4.0
15	130300		空気調和設備・換気設備 13_換気設備の運転管理	駐車場排気ファンの運転を適正化する。	R5		0.5

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社アルビオン			
所在地	東京都中央区京橋1-12-2			
事業者番号	0619			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,651	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の 概要	事業内容	高級化粧品製造・販売 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケアなど化粧品全般の開発、製造および全国の一流百貨店・有力化粧品専門店を通じての販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	760	百万円
		従業員数	3,700	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061900	株式会社アルビオン 大宮支店	13
B、C事業所			
C	061901	株式会社アルビオン 熊谷工場	2,638
合 計			2,651

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	本社
		所在地 1	東京都中央区京橋1-12-2
		閲覧可能時間 1	9:00~17:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

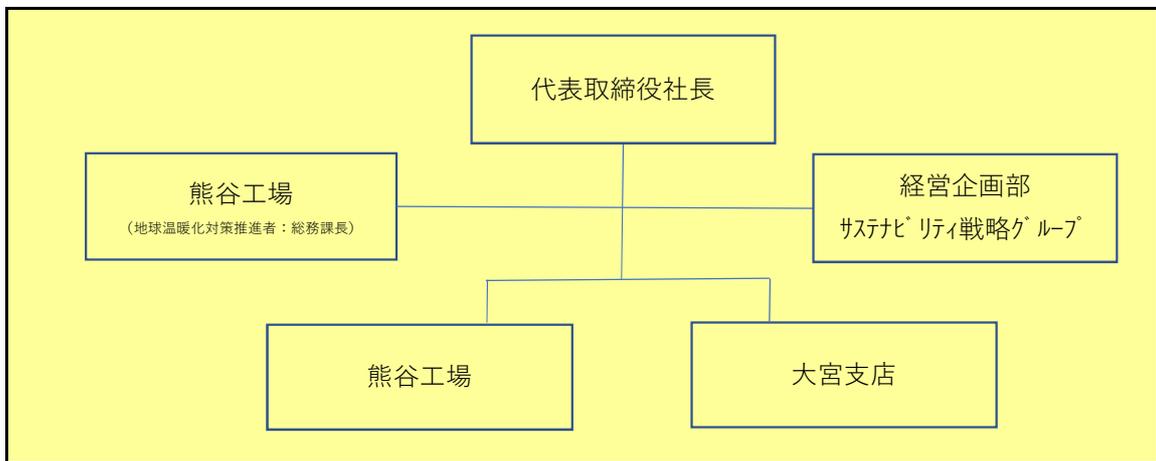
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	経営企画部サステナビリティ戦略G	03-4326-8959	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

アルビオンは、化粧品製造業として、また社会の一員として、環境課題に向き合い、美しい自然や安全な生活環境の保全に努めています。  
 製品を生み出す工場では、国際規格ISO14001に準拠した仕組みを構築。エネルギーの効果的な使用、廃棄物の削減、緑化保全の推進を通して、積極的に、継続的に環境への取り組みを行っています。  
 また、化粧品GMP（Good Manufacturing Practices＝化粧品の製造管理および品質管理に関する技術指針：ISO22716）に従った衛生的な構造設備を整え、指針に則した管理を実施しています。化粧品原料の採用についても、産地の発展と自然保護はもちろん、将来を担う子供たちへの教育支援を行うなど、未来へと続く取り組みに力を注いでいます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,940	6,364	5,221		
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,940	6,364	5,221		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0619	事業所番号	061900
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社アルピオン 大宮支店	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市大宮区宮町	
	字・地番	1-38-1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	オフィス		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	23	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	令和2年度の排出量(23t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年までに5%削減を目標とします。					
削減目標	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
削減目標	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社アルビオン 大宮支店	さいたま市大宮区宮町1-38-1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	12	13	13		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	23	23	25	26		
前年度比 (%)		—	8.7	4.0		
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	-8.7	-13.0		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		23	25	26		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.0374	0.0407	0.0423		
前年度比 (%)		—	8.7	4.0		
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単位					
床面積	m <sup>2</sup>	614.65	614.65	614.65		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	コロナ禍における在宅勤務が解消傾向にあり、オフィスでの勤務時間が増えたことが要因と考えられる。
令和4年度 (2022年度)	コロナ禍における在宅勤務がさらに解消傾向となり、オフィスでの勤務時間が一層増えたことが要因と考えられる。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月毎のエネルギー使用量を把握している	R1以前	R1以前	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>

令和 5 年度

事業者番号	0619	事業所番号	061901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社アルビオン 熊谷工場		
事業所所在地	市区町村	熊谷市船木台	
	字・地番	4-1-1	
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	高級化粧品の製造 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケア など化粧品全般の開発、製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年度の排出量(5,917t-CO <sub>2</sub> )を基準として、毎年1%削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,985	3,222	2,638		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,917	6,339	5,195		
前年度比 (%)	—	7.1	-18.0		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,917	6,339	5,195		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2562	0.2936	0.2825		
前年度比 (%)	—	14.6	-3.8		
活動規模の指標単位					
生産数量	千個	23,093.00	21,590.00	18,388.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更		設備の増減	有
	2020年8月に新たに第一生産棟を増築。それに伴い設備も増加しました					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	増加要因：R2年8月に増築した第一生産棟は実質稼働は8か月間であったが、R3年は通期稼働したためエネルギー使用量が増加しました					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	減少要因：コロナ禍での会社業績に連動した生産数量の減少に従い、エネルギー使用量が減少しました					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)							
	排出上限量 (C = Σ A-D)							
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,917	6,339	5,195			17,451	
	削減率 (F = (A - E) / A)						-	
	排出削減量 (G = A - E)							
各年度の排出量の検証								

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3	R3	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	主要設備の保全管理は年間計画に基づき実施している	R1以前	R1以前	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月毎のエネルギー使用量を集計把握し、前年比・前月比で増減が大きい場合は、理由を確認している。	R1以前	R1以前	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	ムサシ油脂株式会社			
所在地	東京都中央区日本橋本石町4-5-12			
事業者番号	0620			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,021	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	設立：昭和46年8月31日 事業内容：植物油の粗原油生産		
	区分	企業		
	前年度	資本金	40	百万円
		従業員数	24	人
商標又は商号 (連鎖事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	062001	ムサシ油脂株式会社	2,021
合 計			2,021

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	事務所棟通路掲示板
		所在地 1	日高市原宿808-1
		閲覧可能時間 1	月～金 8時～16時 (土日祝を除)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部	042-989-5151	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

企業活動から生じる環境への影響を認識し、地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に努める。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙1を別添する

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

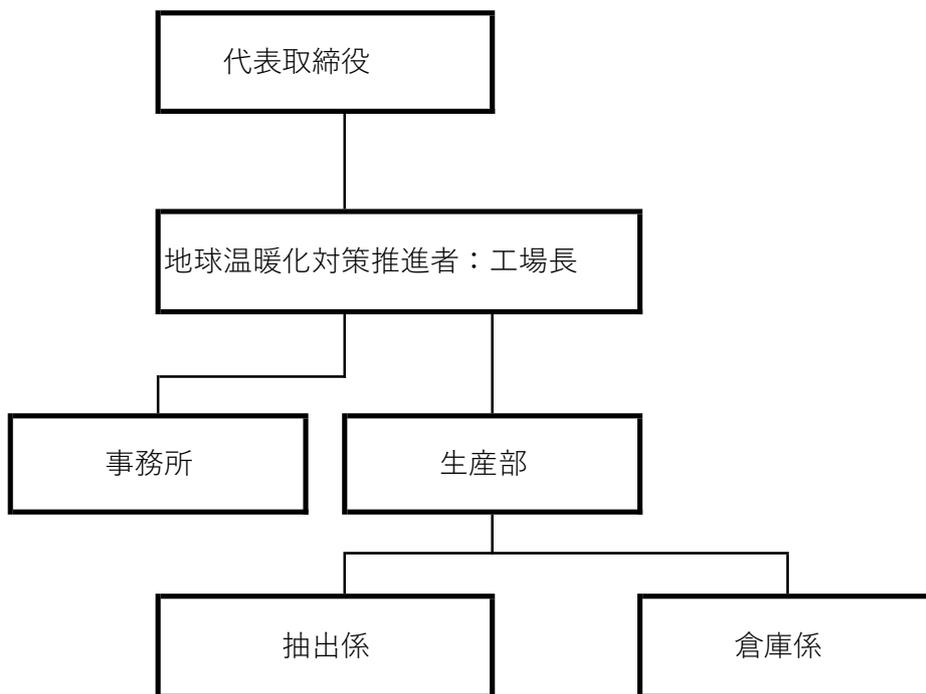
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,747	5,085	5,074		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,747	5,085	5,074		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

# 別紙1 地球温暖化対策における事業者の推進体制



令和 5 年度

事業者番号	0620	事業所番号	062001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ムサシ油脂株式会社		
事業所所在地	市区町村	日高市	
	字・地番	原宿808-1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	植物油粗原油の生産 従業員: 24名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を6%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
			事業所区分		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,889	2,018	2,021		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,747	5,085	5,074		
前 年 度 比 ( % )	—	7.1	-0.2		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,747	5,085	5,074		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0840	0.0882	0.0866		
前 年 度 比 ( % )	—	5.0	-1.8		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
原料（米糠）処理量	t/年	56,512.00	57,628.00	58,568.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	原料処理量の増加による工場稼働日数の増加
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	原料処理量の増加による工場稼働日数の増加及び、ボイラー用燃料に混焼させている「粗脂肪酸」の入荷減少により、重油の使用量が増加する。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	原料処理量増加による工場稼働時間の増加はあったが、社内努力もあって微減
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,747	5,085	5,074			14,906
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

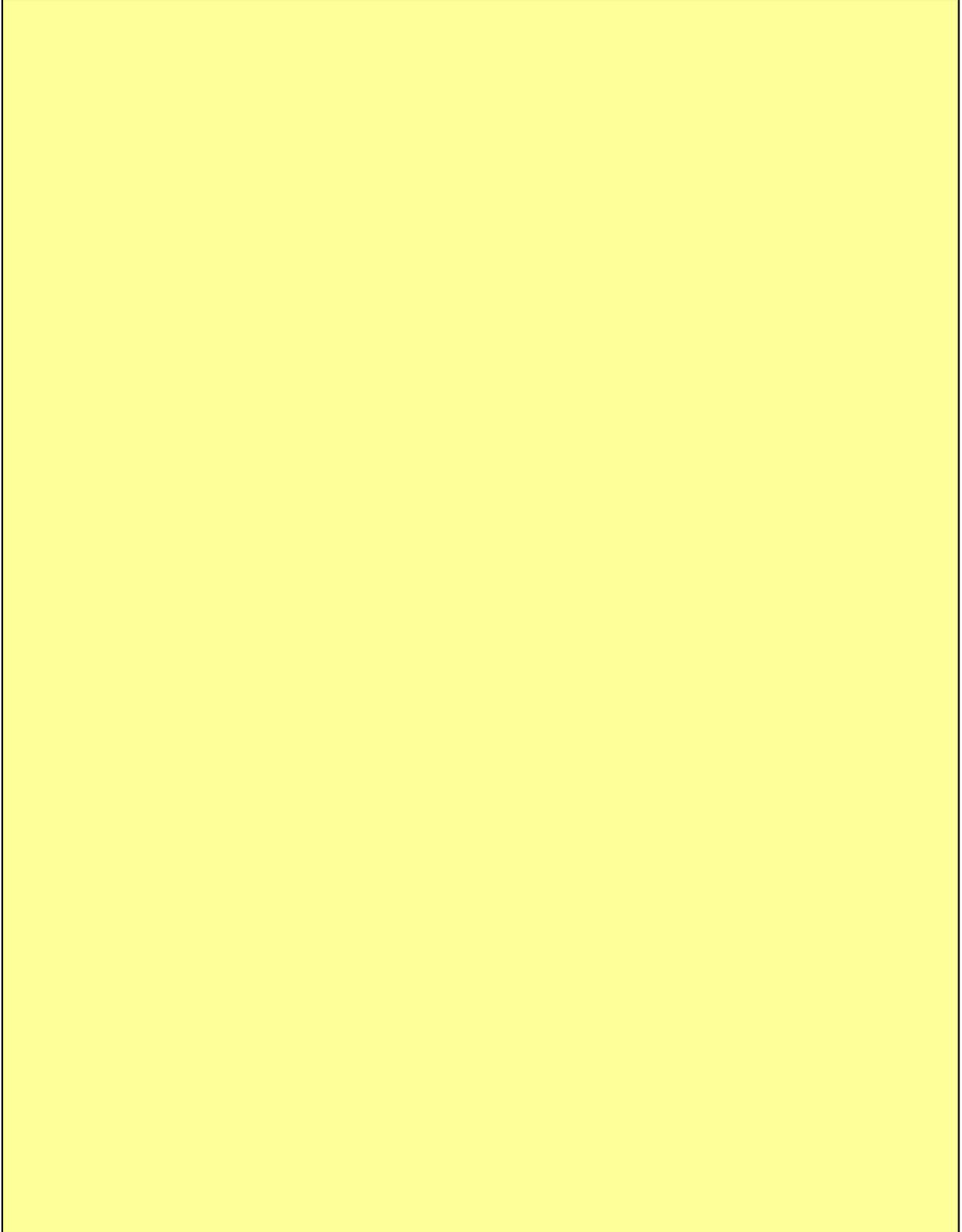
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	生産工程全体の管理を保全計画書により進める(エネルギーロス含む)【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	日報・月報によりエネルギーの使用量を把握及び検討協議【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
3	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	年1回、ボイラーメーカーによる空気比の調整を行う【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	毎週、操業前に煙管掃除・バーナーチップの交換を行う【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
5	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	スチームトラップの保全管理【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
6	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンをボイラー給水に利用【毎年度継続実施項目】	R4	R4	
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷却塔のファンをインバーター制御にする	R1以前	R1以前	
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷却塔の更新	R6	R6	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	東京センチュリー株式会社			
所在地	東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル			
事業者番号	0621			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,928	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	70 物品賃貸業			
分類番号 (中分類)	70			
事業活動の概要	事業内容	国内リース事業、オートモビリティ事業、スペシャルティ事業、国際事業、環境インフラ事業ほか		
	区分	企業		
	前年度	資本金	81,129	百万円
		従業員数	953	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	062101	東京センチュリー株式会社 DPL坂戸Ⅰ、Ⅱ	3,928
合 計			3,928

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	大和ハウスプロパティマネジメント株式会社	03-5214-2540	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

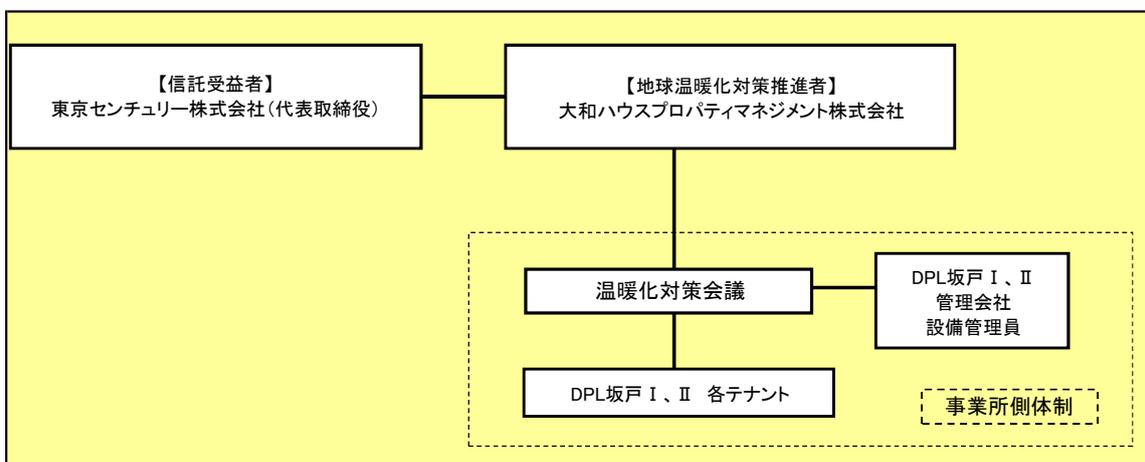
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

東京センチュリーグループは、環境問題への取り組みが重要な経営課題のひとつであると認識し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、事業活動のあらゆる分野において、環境汚染の予防、温室効果ガスの排出削減、気候変動の緩和・適応、生物多様性および生態系の保全など環境問題に配慮し行動することで、持続可能な循環型経済社会および脱炭素社会の実現に貢献します。

【環境基本方針】

1. 事業を通じた地球環境保全
2. 循環型経済社会の実現への貢献
3. 省資源・省エネルギー活動の推進
4. 法令等の順守
5. 継続的改善への取り組み
6. 情報開示

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,196	8,000	7,761		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,196	8,000	7,761		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0621	事業所番号	062101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東京センチュリー株式会社 DPL坂戸 I、II		
事業所所在地	市区町村	坂戸市	
	字・地番	埼玉県坂戸市西インター一丁目2-1, 2-2, 2-3、坂戸市西インター二丁目2-1, 2-2	
産業分類名(中分類)	47 倉庫業		
分類番号(中分類)	47		
事業活動の概要	事業内容	DPL坂戸 I : 2020年3月竣工 DPL坂戸 II : 2023年1月竣工 ・物流倉庫 ・EC、卸売事業	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和5,6年の2か年度は基準排出量から8%の削減を目標とします。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)			t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)			t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第4計画期間は、基準排出量(R7～8は8%、R9～11は15%)に対し削減計画期間の平均削減率を12.2%以上とします。				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,124	4,046	3,928		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,196	8,000	7,761		
前年度比 (%)	—	90.7	-3.0		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	4,196	8,000	7,761		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0235	0.0448	0.0286		
前年度比 (%)	—	90.7	-36.1		
活動規模の指標単位					
床面積	m <sup>2</sup>	178,711.33	178,711.33	271,257.50	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	無		無		無	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年12月頃から本格的に稼働した物件のため、2021年度のCO<sub>2</sub>排出量は前年度比で約90.7%となり大幅に増加</li> <li>・外気温度の変動による空調設備の負荷変動</li> </ul>					
令和4年度 (2022年度)	有		無		有	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存物件であるDPL坂戸Ⅰの電気使用量は、前年度比で約2.9%減少した。</li> <li>・冬期の外気温が例年よりも高く、外気負荷が軽減されたことにより空調に係わる電気使用量が減少した。</li> <li>・2023年2月からDPL坂戸Ⅱが新たに竣工したが、来年度以降に本格稼働となるため2022年度のCO<sub>2</sub>排出量に大きな影響は見受けられなかった。</li> </ul> <p>床面積増：DPL坂戸Ⅱ竣工</p>					
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	4,196	8,000	7,761			19,957
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	エネルギー管理の体制構築を図る	R3	R3	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量把握に努める	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

東京センチュリー株式会社の環境基本方針をウェブサイトで公表しております。  
「東京センチュリー株式会社トップページ」→「サステナビリティ」→「事業の土台を担うサステナビリティ」→「環境」→「環境基本方針」  
<https://www.tokyocentury.co.jp/jp/sustainability/esg/environment/policy.html>

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	三光アルミ株式会社			
所在地	埼玉県鴻巣市赤城台362-24			
事業者番号	0622			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,133	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。 アルミ箔加工品、各種フィルム材料の加工販売。 主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数 : 75名 (2023年3月31日現在) 資本金 : 1億円 (令和5年3月31日現在) 延べ床面積 : 5,568.68㎡		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	75	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	062201	三光アルミ株式会社 本社・工場	2,133
合 計			2,133

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	本社 応接室
		所在地 1	埼玉県鴻巣市赤城台364-24
		閲覧可能時間 1	月～金 9時～17時(土、日、祝日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

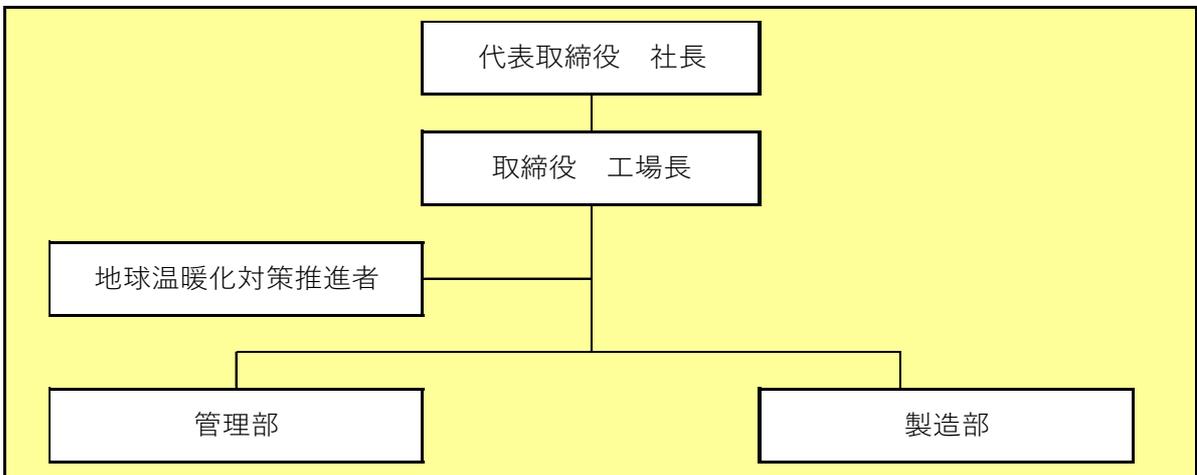
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社 総務課	048-568-2131	sanko_soumu@sankoalumi.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の負荷を減らす工場作りを推進し社会に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,390	4,529	4,334		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,390	4,529	4,334		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0622	事業所番号	062201
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	三光アルミ株式会社 本社・工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	赤城台362-24	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数 : 75名(2023年3月31日現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	21,710	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	3,245	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,049	2,201	2,133		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,390	4,529	4,334		
前年度比 (%)	—	3.2	-4.3		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,390	4,529	4,334		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0368	0.0342	0.0318		
前年度比 (%)	—	-7.0	-7.1		
活動規模の指標	単	位			
生産量	千M	119,415.00	132,499.00	136,434.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産ラインの増加により、CO2排出量が増加したと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	LED照明設備への切替等実施しているが、生産量が増加したため、CO2排出量が増加したと考えられる。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	前年度に続きLED照明設備への切替を実施しほぼ完了となった。また、2021年末から2022年年初めにかけて、屋根の遮熱塗装を実施したため生産量微増に対し、CO2排出量が減少したと考えられる。 生産量は微増となった。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	4,991	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,991	4,991	4,991	4,991	4,991	24,955
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						21,710
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						3,245
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,390	4,529	4,334			13,253
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	12.04%	9.26%	13.16%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	601	462	657			1,720
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

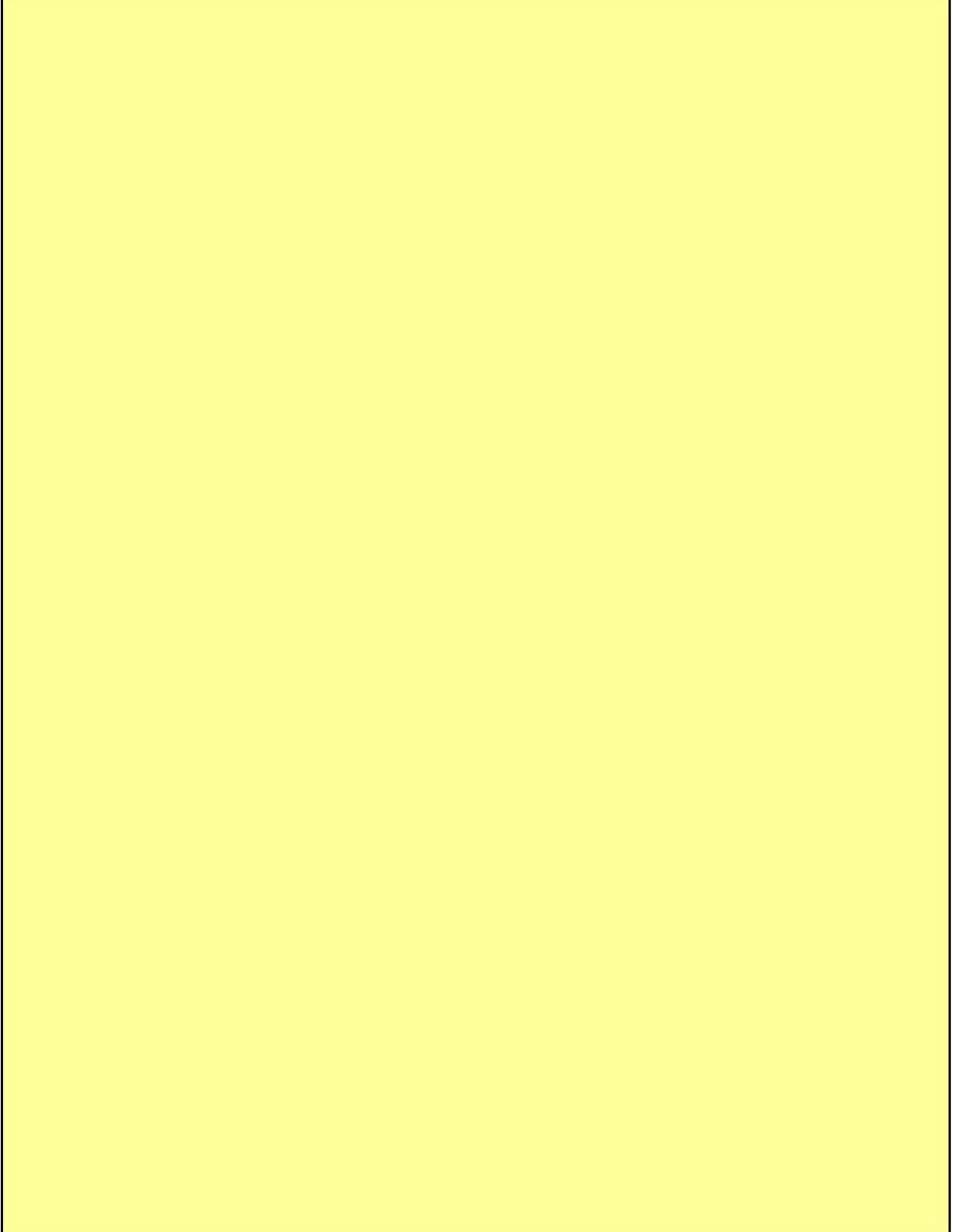
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明設備への切替	R3	R3	
2	310500		一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	エネルギー計測機器の整備、主要設備の効率・負荷の計測・記録	R3	R3	
3	310100		一般管理事項	31_推進体制の整備	削減目標・実行計画の設定・進行管理	R3	R3	
4	490100		その他	49_排出量取引	削減目標未達成の場合は排出量取引制度を活用する	R7以降		
5	490200		その他	49_その他の削減対策	電力会社のグリーンベーシックプランを活用していく	R4	R4	
6	490200		その他	49_その他の削減対策	屋根の遮熱塗装を実施	R3	R3	
7	350600		受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	前年度に続きLED照明設備への切替を実施しほぼ完了	R4	R4	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 広済堂ネクスト			
所在地	東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館13階			
事業者番号	0623			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,685	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	■事業内容： ・情報ソリューション事業「印刷出版事業」		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	470	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## （3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	041301	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場	1,685
合 計			1,685

## （4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場
		所在地 1	埼玉県さいたま市桜区町谷1-4-1
		閲覧可能時間 1	10:00~15:00 (月曜日~金曜日)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## （5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産管理部 生産管理課	048-861-8111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

株式会社広済堂ネクスト さいたま工場（事業所に記載）  
 地球環境を健全な状態で次世代に継承することが重要な責務であることを認識し、以下の活動につき継続的改善を推進します。

(1) 環境保全活動を推進するため、自らの責任で環境目的・目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善を図ります。

(2) 環境関連の法規制を順守し、環境汚染の予防に努めます。

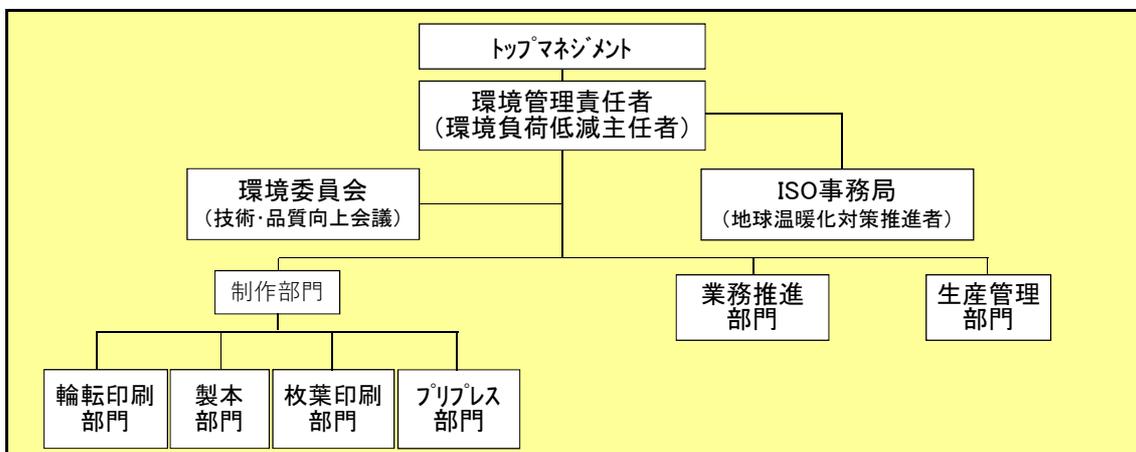
(3) 地球温暖化防止・省エネルギー・省資源の推進、有害物質の使用量削減により、地球環境保全に努めます。

(4) 廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）及び汚染物質の排出削減により、環境負荷の低減に努めます。

(5) 環境調和型製品・技術の開発に努めるとともに、グリーン調達・グリーン購入を推進します。

(6) お客様の情報を守るとともに、環境情報の開示により、社会とのコミュニケーションに努め、地域の環境活動に積極的に貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,316	3,413	3,332		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,316	3,413	3,332		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0623	事業所番号	041301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区	
	字・地番	町谷一丁目4番1号	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	主な製品 商業印刷物、出版印刷物及び官公庁関係印刷物の製版、刷版、印刷、製本、配送及び営業 敷地面積 11,204㎡(第1~3工場合計)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、令和2~6年度の平均削減率を20%以上削減します。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	30,876	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,720	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,183	1,725	1,685		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,316	3,413	3,332	
前年度比 (%)	—	-20.9	-2.4		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,316	3,413	3,332		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2.3559	2.1398	1.8751		
前年度比 (%)	—	-9.2	-12.4		
活動規模の指標					
生産金額	1,832.00	1,594.98	1,777.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	設備の増減として、仕事量の減少により近年稼働率の低下していた輪転印刷機3台、中綴製本機2台、枚葉印刷機1台の撤去を行いました。また、新型コロナウイルスの影響により仕事の受注件数が減り、生産量が低下したことも要因の一つとして挙げられます。上記の理由により、2020年度は2019年度と比較して排出量が低下したと判断いたします。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	2021年度は基準排出量の6%以上に相当するような設備の増減はなく、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響等による生産量低下が主な要因となり排出量が低下したと判断いたします。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	2022年度は基準排出量の6%以上に相当するような設備の増減はなく、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響等による生産量低下が主な要因となり排出量が低下したと判断いたします。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,432	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1	2年度	-792
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,036	7,640	7,640	7,640	7,640	38,596
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						30,876
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,720
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,316	3,413	3,332			11,061
	削減率 (F = (A - E) / A)	46.29%	55.33%	56.39%			—
	排出削減量 (G = A - E)	3,720	4,227	4,308			12,255
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 号	区 分 名 称				
1	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	中間期の外気温度を利用したチラー自動切換システムの導入	R1以前	R1以前	130
2	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (AY-11) 主モーターED化更新	R1以前	R1以前	33
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯及び蛍光灯のLED化	R1以前	R1以前	103
4	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (BY-1、AY-11、BT-12) 乾燥排気ファンインバータ化	R1以前	R1以前	44
5	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (BY-1、AY-11、BT-12) 脱臭温度の適正化	R1以前	R1以前	30
6	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	新棟1階 輪転印刷空調機省エネ改造	R1以前	R1以前	54
7	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	準備時間中の脱臭装置OFF	R1以前	R1以前	67
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第2工場B1F空調機省エネ改造	R1以前	R1以前	20
9	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根に遮熱塗装を施し、室内温度を下げ、空調機使用頻度を減らす。	R1以前	R1以前	100
10	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第3工場屋上空冷チラー更新	R1以前	R1以前	35
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯及び蛍光灯のLED化	R1以前	R1以前	61
12	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	第3工場ボイラ夜間停止	R1以前	R1以前	12
13	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第1工場旧棟空調機更新	R2	R2	157
14	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	枚葉8号機油性化改造	R2	R2	34
15	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	第1工場新棟コンプレッサーの更新	R5		151.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text input, occupying most of the page below the header and section title.

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	エナジーウィズ株式会社			
所在地	東京都千代田区神田練塀町3（AKSビル）			
事業者番号	0624			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	11,453	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	29 電気機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	29			
事業活動の概要	事業内容	蓄電デバイスの製造及び販売並びにこれらに関するシステム・サービス事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	1,000	百万円
		従業員数	1,000	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	041801	エナジーウィズ株式会社 埼玉事業所	11,453
合 計			11,453

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	エナジーウィズ(株)埼玉事業所内
		所在地 1	埼玉県深谷市岡 2 2 0 0
		閲覧可能時間 1	8:00~16:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境安全管理センタ	048-546-1100	
2			
3			

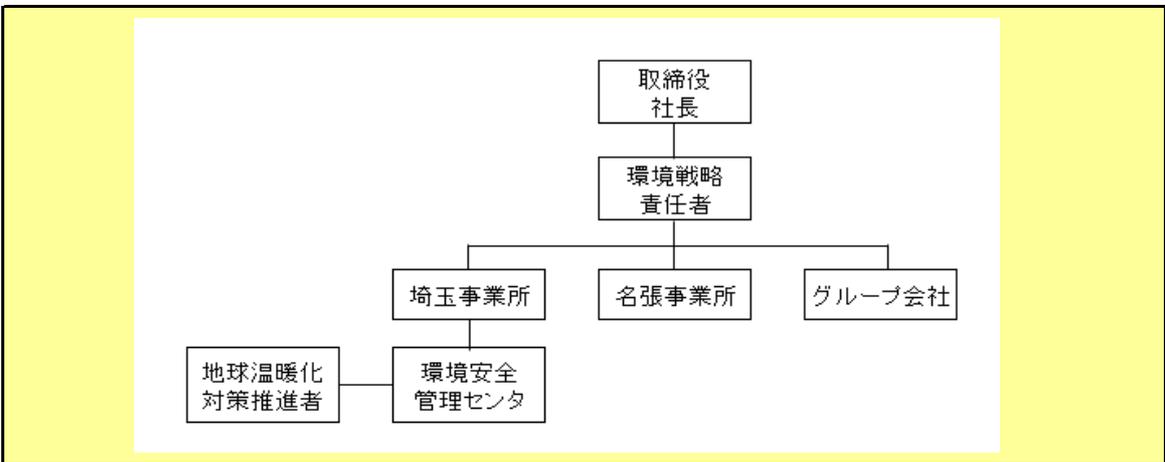
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**【環境マネジメント基本方針】**  
 エナジーウィズは、環境を経営の重要課題の一つと位置付け、環境保全行動指針の下にステークホルダーと連携し、環境マネジメントを推進しています。地球環境と調和した持続可能な社会を実現するため、事業活動、製品、サービスを通じた環境負荷低減および気候変動などに代表される環境課題の解決を、グループ一体となってグローバルに推進していきます。

**【埼玉サイト環境方針】**  
 『人に快適で自然に優しい環境づくりを推進し、  
 美しい地球を未来へつなげよう！』

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	22,316	23,180	23,199		
その他ガス					
温室効果ガスの計	22,316	23,180	23,199		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0624	事業所番号	041801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	エナジーウィズ株式会社 埼玉事業所		
事業所所在地	市区町村	深谷市	
	字・地番	岡2200番地	
産業分類名(中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号(中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	主な商品 自動車用鉛蓄電池 電源システム機器 カートシステム(ゴルフカート) 蓄電システム、産業リチウムイオン電池 従業員数 567名(2023年6月現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	(第3計画期間) 基準排出量(29,126t-CO <sub>2</sub> )に対し平均削減率を20%以上とする。目標に達しない場合は排出量取引を活用する。 (中期目標) 二酸化炭素排出量の完成高原単位を、平成22年度実績(1.176 CO <sub>2</sub> -t/M <sup>2</sup> )を基準として、令和6年度末までに78% (0.916 CO <sub>2</sub> -t/M <sup>2</sup> )に低減する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	116,504	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	29,126	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	11,045	11,475	11,453		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	22,316	23,180	23,199		
前年度比 (%)	—	3.9	0.1		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	22,316	23,180	23,199		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.9015	0.8386	0.7834		
前年度比 (%)	—	-7.0	-6.6		
活動規模の指標単位の 売上高	24,753.40	27,641.50	29,611.70		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	設備等の増減はない。 新型コロナウイルス感染症の影響により生産の変動がありCO <sub>2</sub> が減少、固定費エネルギー消費量の回収が不足、及び売上高が減少したため原単位が悪化した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	設備等の増減はない。 新型コロナウイルス感染症の影響による減産が解消され、物量が増加したためCO <sub>2</sub> が増加しているが、固定費エネルギー消費量の回収増、小さな省エネ効果もあり原単位が改善されている。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	設備等の増減はない。 新型コロナウイルス感染症の影響による減産が解消され、物量が増加したためCO <sub>2</sub> が増加しているが、固定費エネルギー消費量の回収増、小さな省エネ効果もあり原単位が改善されている。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	29,126	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	29,126	29,126	29,126	29,126	29,126	145,630	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							116,504
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							29,126
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	22,316	23,180	23,199			68,695	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	23.38%	20.41%	20.35%			—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	6,810	5,946	5,927			18,683	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	乾燥炉をバーナー直火方式から熱風循環式に変更	R1以前	R1以前	
2	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	充電工程の充電器更新（高効率・大容量充電器の導入）	R1以前	R1以前	
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	省エネバーナー採用	R1以前	R1以前	14.0
4	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	電力監視モニタの導入	R1以前	R1以前	8.0
5	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明LED化	R1以前	R1以前	30.0
6	490100		その他 49_排出量取引	目標未達成の場合は排出量取引を活用する。	R1以前	R1以前	
7	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明の拡充(継続)	R2	R2	
8	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアコン(R22使用)の更新(2022年)	R4	R4	3.0
9	370700		電動応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率整流器の導入(2023年)	R5		20.0
10	490200		その他 49_その他の削減対策	太陽光発電の導入検討	R6		10.0
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section information.

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	UBE三菱セメント株式会社			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング			
事業者番号	0626			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	72,778	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	21 窯業・土石製品製造業			
分類番号 (中分類)	21			
事業活動の概要	事業内容	①セメント、生コンクリート事業 ②石灰石資源事業 ③環境エネルギー関連事業（電力・環境リサイクル等） ④建材事業その他関連事業等		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50,250	百万円
		従業員数	2,131	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	062600	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	54
B、C事業所			
C	028601	UBE三菱セメント株式会社 横瀬工場	72,724
合 計			72,778

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

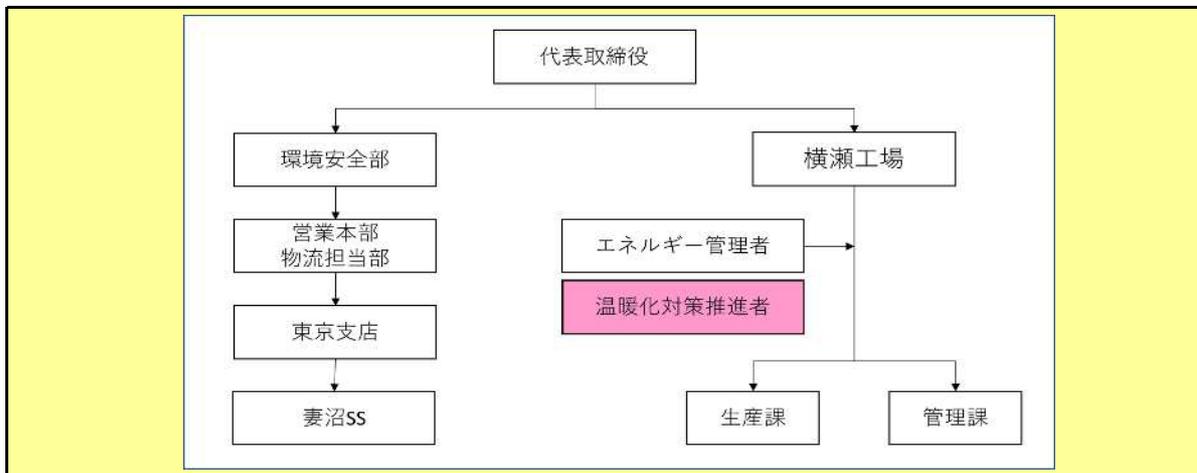
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	横瀬工場 総務課	0494-23-1111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

当社は、中期経営戦略「Infinity with Will 2025 ～MUCCサステナブルプラン 1st STEP～」において、地球温暖化対策を当社グループの最重要課題の一つに位置づけ、カーボンニュートラルに向けた2030年中間目標と事業戦略を策定しました。  
 当社の主力拠点は大型港湾を有する西日本臨海部に集中しており、複合素材メーカーの中で蓄積してきた技術・サプライチェーンを有する強みを生かしたセメントメーカー独自の事業性のある脱炭素スキームを実現することにより、2050年当社グループ全体でのカーボンニュートラルを目指します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	247,739	248,893	222,455		
その他ガス	399,751	395,163	409,944		
温室効果ガスの計	647,490	644,056	632,399		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0626	事業所番号	062600
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	埼玉県熊谷市	
	字・地番	弥藤吾1188	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	53 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業		
分類番号(中分類)	53		
事業活動の概要	セメント卸売業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	99	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.3238	t-CO <sub>2</sub> /千t
	令和元年度の原単位(0.3238t-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> )を基準として、原単位を毎年1%ずつ改善する。						
削減目標	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
削減目標	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	埼玉県熊谷市弥藤吾1188
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
		47	54		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	99		100	112		
前年度比 (%)		—		12.0		
基準となる排出量に対する削減率 (%)			-1.0	-13.1		
その他ガス						
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>						
メタン						
一酸化二窒素						
ハイドロフルオロカーボン						
パーフルオロカーボン						
六ふっ化いおう						
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計			100	112		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3238		0.3702	0.3706		
前年度比 (%)		—		0.1		
基準となる原単位に対する削減率 (%)			-14.3	-14.5		
活動規模の指標単 位						
出荷量	千t		270.14	302.20		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	下記理由により、CO <sub>2</sub> 排出量原単位が前年比5.9%増加した。 【妻沼SS】出荷量の低下によりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出原単位が前年度比で5.9%増加した。
令和4年度 (2022年度)	【妻沼SS】前年度と比較して、出荷量増に伴いCO <sub>2</sub> 排出量は増加したが、エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出原単位の大きな変化は、無かった(前年度比0.1%増加)。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

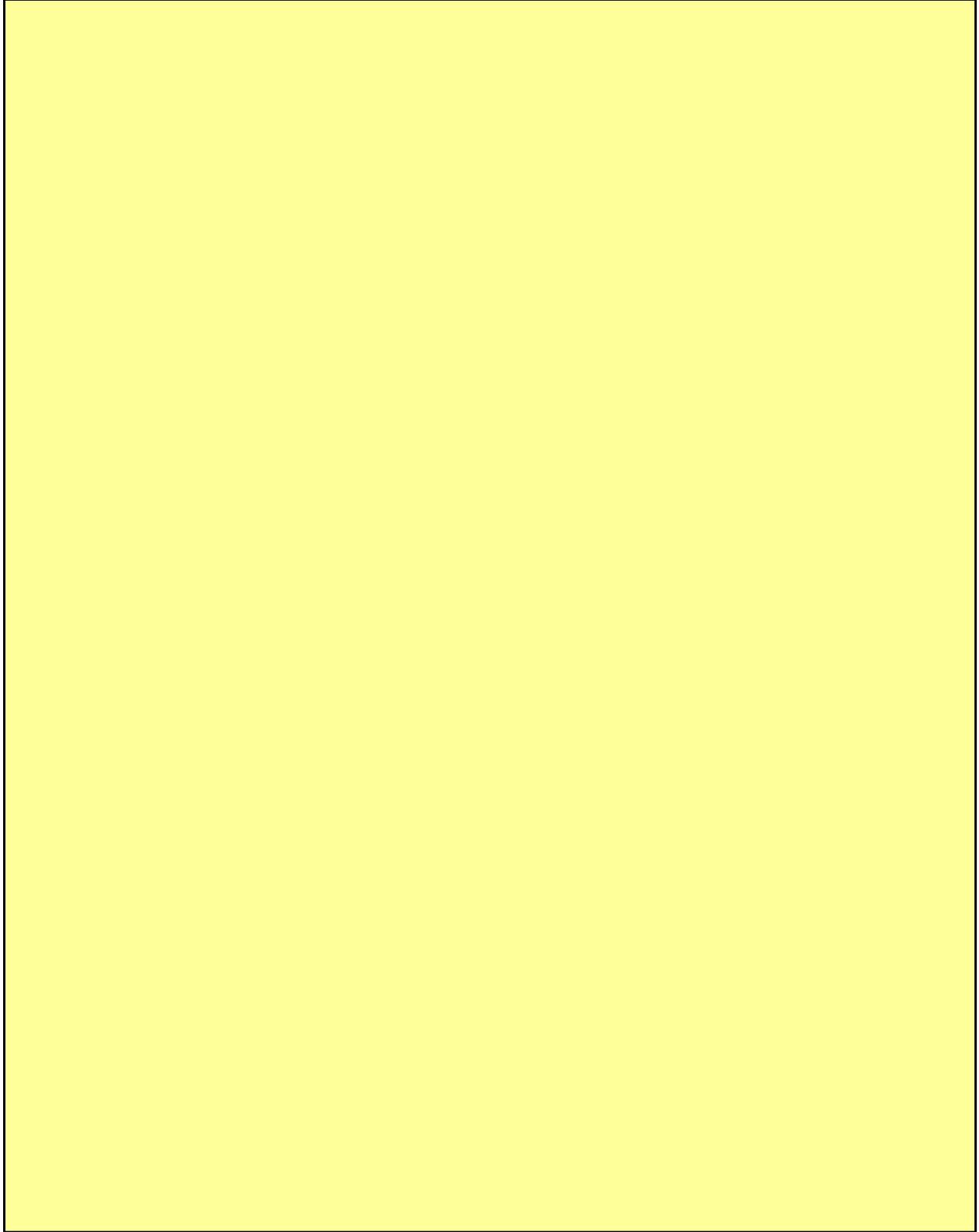
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	老朽コンプレッサーを高効率コンプレッサー(インバータ制御式)に更新する	R7以降		0.1
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率照明ランプ、灯具への更新(水銀灯のナトリウム灯への更新、蛍光灯のLEDへの変更等)	R7以降		0.1
3	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	回転数制御が可能な機器へのINVの導入	R7以降		0.1
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0626	事業所番号	028601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	UBE三菱セメント株式会社 横瀬工場		
事業所所在地	市区町村	秩父郡横瀬町	
	字・地番	大字横瀬2270番地	
産業分類名(中分類)	21 窯業・土石製品製造業		
分類番号(中分類)	21		
事業活動の概要	事業内容	事業内容:セメント及びセメント系固化材、セメント高性能製品の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量289,376t-CO <sub>2</sub> /年に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス	その他ガス排出量は、セメント製造業の特徴であるプロセス起源CO <sub>2</sub> 、及び廃棄物処理量に応じて排出されるCO <sub>2</sub> で構成されており、その数量は弊事業所ではユーザーニーズに応じ増減する。この為その目標量設定は困難であるが、エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量削減を主眼とした廃棄物処理による操業努力を前提とし、総温室効果ガス排出量(エネルギー起源CO <sub>2</sub> +その他ガス)を近年及び今後の生産計画を踏まえ上限900,000t未満と設定致したい。			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	1,157,792	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	289,448	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	80,530	80,373	72,724		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	247,739	248,793	222,343			
前 年 度 比 ( % )	—	0.4	-10.6			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	398,408	393,849	408,630		
	メ タ ン	805	793	793		
	一 酸 化 二 窒 素	524	516	516		
	ハイドロフルオロカーボン	10	4	4		
	パーフルオロカーボン	3				
	六 ぶ っ 化 い お う	1	1	1		
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	647,490	643,956	632,287			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3162	0.3167	0.2744		
前 年 度 比 ( % )	—	0.2	-13.4		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
セメント生産量	t/年	783,395.00	785,476.00	810,352.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	床面積の増減：業者団地新設に伴い、業者団地事務所棟、業者団地作業棟、業者団地トイレを新設し、旧業者団地トイレを撤去した。					
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量（前年度比）の減少要因としては、セメント生産量が2019年度：849,296tから2020年度：783,395tへ減少したこと、熱エネルギー代替である再生油の使用量が増加したことにより、前年度と比較し石炭・コークスの使用量が減少したことが挙げられる。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	床面積の増減：特に大きな変更はなし。					
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量（前年度比）が微増した要因として、廃プラ等の熱量代替となる産業廃棄物処理に欠かせない脱塩設備の老朽化に伴う、熱量代替の使用量低下が挙げられる。昨年度に脱塩設備の増設工事が完了したので、今後は産廃の処理能力向上が見込まれる。 また、生産量が減少している中、汚泥処理量・汚泥原単位がともに過去最高記録（98,265t/年）となったこともあり、エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量の削減に至らなかった。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	床面積の増減：特に大きな変更はなし。					
	対前年度セメント生産量は3.2%増加したが、廃プラ等産業廃棄物処理の増大や再生油の使用量増加で、熱エネルギー原料である一般炭等が削減できた結果、CO <sub>2</sub> 排出量は10.6%減少した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	289,376	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	289,376	289,376	289,376	289,376	289,736	1,447,240
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						1,157,792
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						289,448
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	247,739	248,793	222,343			718,875
	削減率 (F = (A - E) / A)	14.39%	14.02%	23.16%			—
	排出削減量 (G = A - E)	41,637	40,583	67,033			149,253
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施			

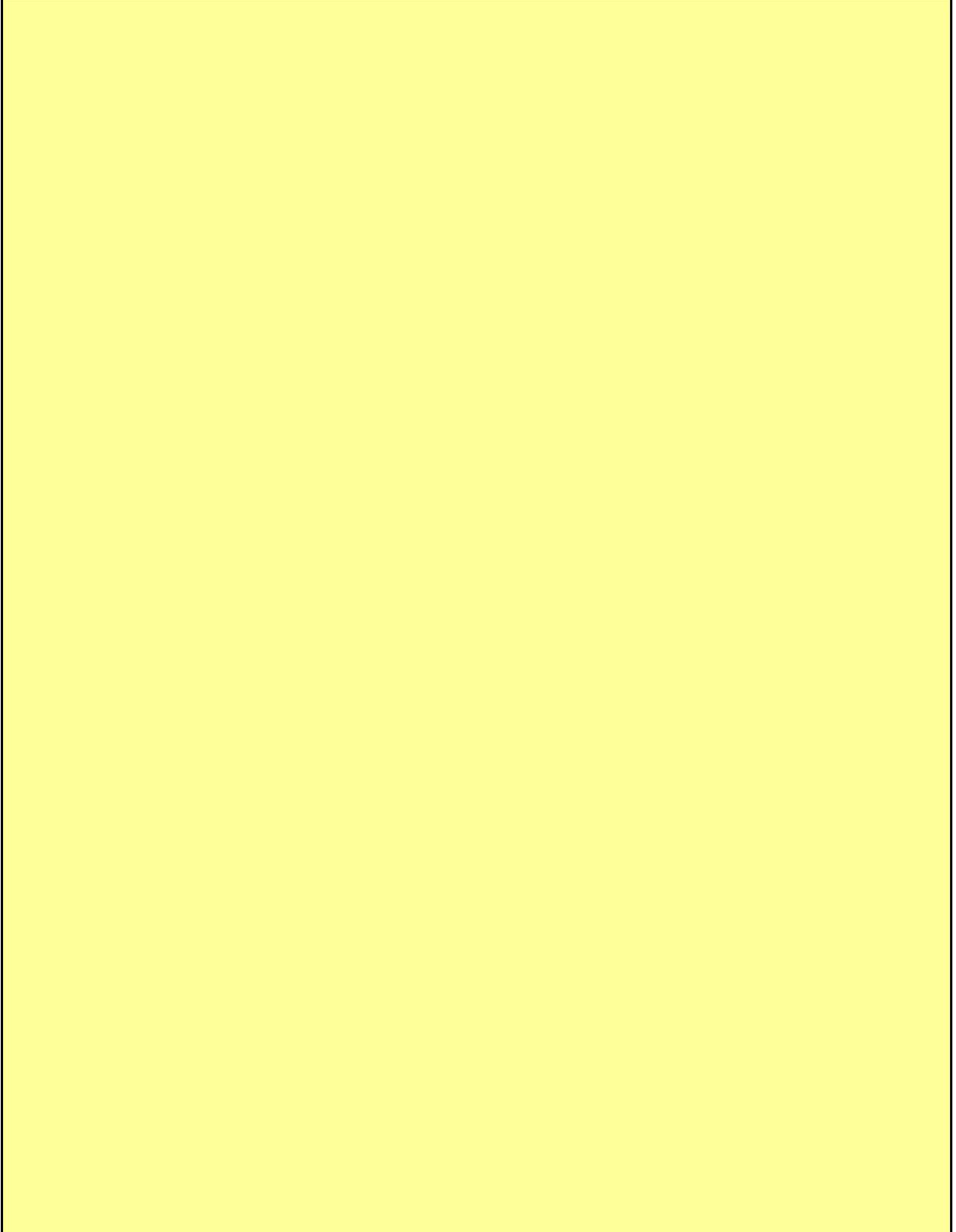
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.1 AQC-IDFインバータ化		R1以前	315.0
2	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.2 K-IDFインバータ更新		R1以前	29.0
3	490200		その他 49_その他の削減対策	No.1AQCロールクラッシャー設置		R1以前	10.0
4	490200		その他 49_その他の削減対策	燃料代替資源処理設備拡大		R1以前	3,686.0
5	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	スプレータワーIDFインバータ化		R1以前	102.0
6	360700		ポンプ、ファン、プロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.1AQC5室ファン停止		R1以前	54.0
7	490200		その他 49_その他の削減対策	再生油タンク増設		R1以前	17,879.0
8	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率バーナーの導入		R7以降	3,614.0
9	490200		その他 49_その他の削減対策	フッ化カルシウム汚泥乾燥粉碎設備導入		R7以降	3,509.0
10	490100		その他 49_排出量取引	削減目標を達成できない場合は、排出量取引を活用する。		R7以降	
11	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率クーラーの導入		R7以降	4,252.0
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 日立ハイテック			
所在地	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号			
事業者番号	0627			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,844	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	29 電気機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	29			
事業活動の 概要	事業内容	設計、製造、販売ならびに保守サービス ①社会インフラ事業 ②産業インフラ事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	7,938	百万円
		従業員数	390	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	016302	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト	1,844
合 計			1,844

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト
		所在地 1	児玉郡上里町嘉美1600番地
		閲覧可能時間 1	9:00~11:30、13:30~16:30 (休業日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

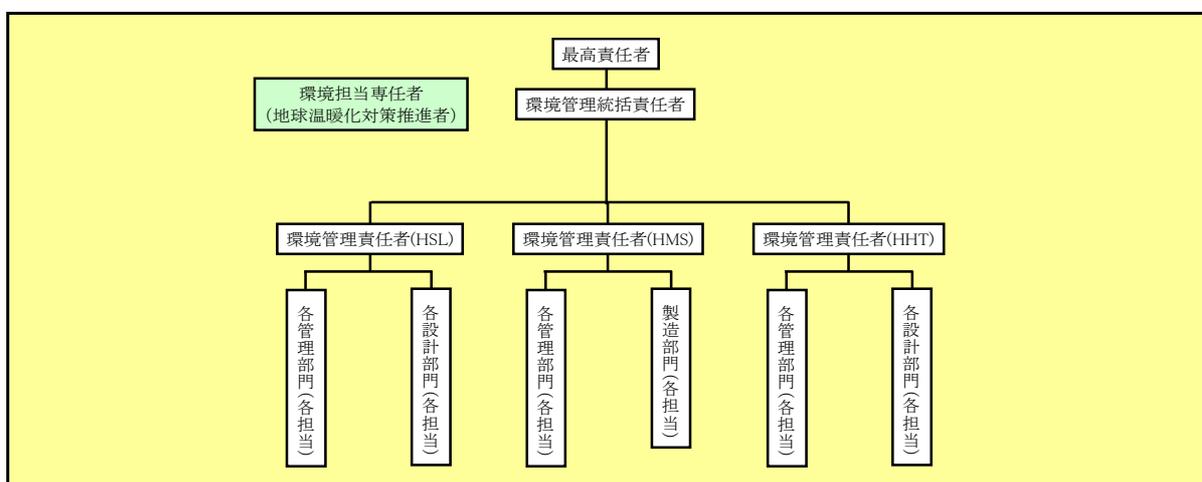
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産技術部	090-1539-6656	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

《日立ハイテク 埼玉地区 環境方針》  
 日立ハイテク 埼玉地区（日立ハイテク 埼玉サイト、日立ハイテクソリューションズ 埼玉事業所、日立ハイテクマニファクチャ&サービス 第十事業所）は、ソリューション事業を中核として高効率なモノづくりと試作開発の迅速化による製品化を通して、最先端技術の絶え間ない追求と法令の順守、環境汚染の予防を行い、社会的責任を果たすとともに「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け、積極的に取組みます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,059	24	21		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,059	24	21		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0627	事業所番号	016302
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト		
事業所所在地	市区町村	児玉郡上里町	
	字・地番	嘉美1600番地	
産業分類名(中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号(中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	設計、製造、販売ならびに保守サービス ①社会インフラ事業 ②産業インフラ事業	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	再エネ電力への転換および熱証書の購入継続により、温室効果ガス排出量の実質ゼロを推進する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	6,326	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	404	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,549	1,717	1,844		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,059	24	21		
前 年 度 比 ( % )	—	-99.2	-12.5		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,059	24	21		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標 単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>(1) R5年3月(R4年度)に、一部付属建屋(組合事務所)の解体に伴い床面積が減少している。</p> <p>(2) CO2排出量に関しては、組合事務所では電気のみを使用であり、R3年度からは化石エネルギーへの転換が図れているため、電気に関するCO2の排出量は「0」となり、組合事務所解体によるCO2排出量の増減はない。</p>						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	3,365	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

5	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)				3,365	3,365	6,730
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)				6.00%	6.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						6,326
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						404
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,059	24	21			3,104
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

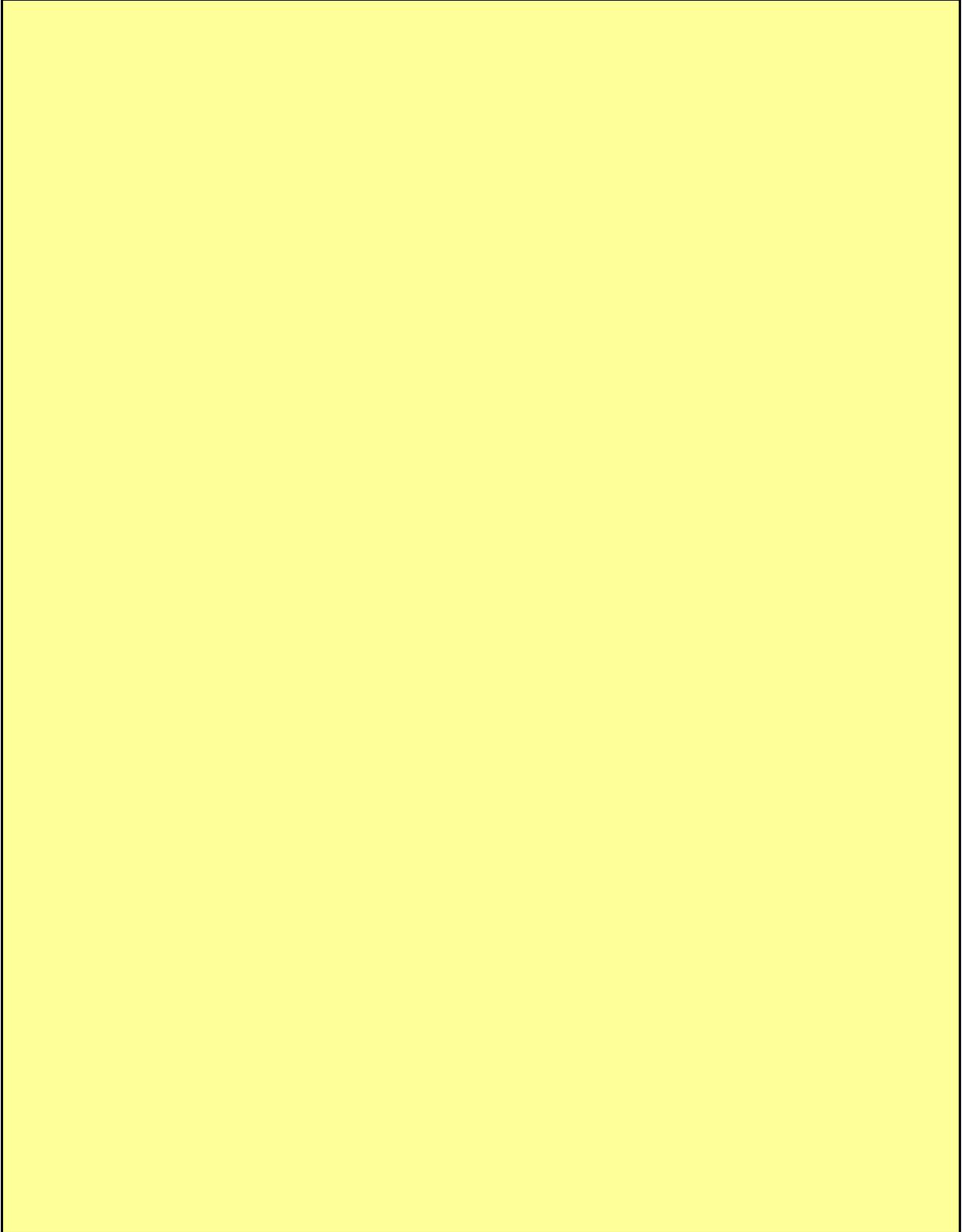
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	ポンプ類老朽化設備更新	R4	R4	77.7
2	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調遠隔監視システム導入	R4	R4	32.1
3	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調適正制御	R4	R4	120.9
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率空調更新	R5	R5	103.8
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアーコンプレッサ更新	R5	R5	16.9
6	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアーコンプレッサ更新 ：老朽化した設備を新規設備に入替え更新	R5	R5	18.1
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアーコンプレッサ更新 ：老朽化した設備を新規設備に入替え更新	R6		18.1
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアーコンプレッサ更新 ：老朽化した設備を新規設備に入替え更新	R7以降		18.1
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社栄喜堂	
所在地		埼玉県入間郡三芳町大字北永井265番地1	
事業者番号		0628	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		1,750	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		09 食料品製造業	
分類番号 (中分類)		09	
事業活動の 概要	事業内容		パン洋菓子製造
	区分		企業
	前 年度	資本金	0.05
従業員数		216	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	048301	株式会社栄喜堂	1,750
合 計			1,750

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 （複数可）	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	株式会社栄喜堂 総務・人事部	049-258-2119	soumu@eikido.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

省エネへの取組みを通じて、環境への配慮を強化する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

代表取締役---担当取締役---総務・人事部---地球温暖化対策推進者（総務・人事部長）---各担当者

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,104	4,113	3,419		
その他ガス					
温室効果ガスの計 合	4,104	4,113	3,419		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0628	事業所番号	048301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社栄喜堂		
事業所所在地	市区町村	入間郡三芳町	
	字・地番	大字北永井265番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	パン洋菓子の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し令和3年度までは削減率を15%以上、令和4年度以降を20%以上とします。				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,916	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	
		削減目標量(計画期間合計)	5,909	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,098	2,103	1,750		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,104	4,113	3,419		
前 年 度 比 ( % )	—	0.2	-16.9		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,104	4,113	3,419		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0176	0.0190	0.0172		
前 年 度 比 ( % )	—	7.6	-9.3		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	万円/年	232,610.20	216,665.20	198,624.20	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍による売り上げ減が影響したと思われる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍により、大口取引先との取引が終了し、小口取引が増えたため、生産効率が悪くなった。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	採算の悪い商品を淘汰し、商品を絞ることで、夜間の生産を一部中止し、生産設備のほか照明・空調などの使用エネルギーも削減した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,565	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,565	6,565	6,565	6,565	6,565	32,825	
	目標削減率の 緩和措置	中小企業等	中小企業等					
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	15.00%	15.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							26,916
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							5,909
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,104	4,113	3,419			11,636	
	削減率 (F = (A - E) / A)	37.49%	37.35%	47.92%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,461	2,452	3,146			8,059	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	燃料転換 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	
2	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	デマンド管理により、電力使用量を削減する	R1以前	R1以前	
3	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の一部と食堂に高効率空調機の導入	R1以前	R1以前	
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	工場のオープン8台を高効率のタイプへ入替	R1以前	R1以前	
5	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R1以前	R1以前	36.0
6	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R1以前	R1以前	96.0
7	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R2	R2	26.0
8	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R3	R3	10.0
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		みたけ食品工業株式会社	
所在地		戸田市本町1-5-7	
事業者番号		0629	
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)		2,027	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		09 食料品製造業	
分類番号 (中分類)		09	
事業活動の概要	事業内容	ごま、上新粉・米粉、きな粉・大豆粉、麦茶、漬材等の製造販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	65 百万円
		従業員数	140 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	062900	みたけ食品工業株式会社 本社	18
B、C事業所			
C	062901	みたけ食品工業株式会社 鴻巣工場	2,009
合 計			2,027

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部	048-596-3160	
2			
3			

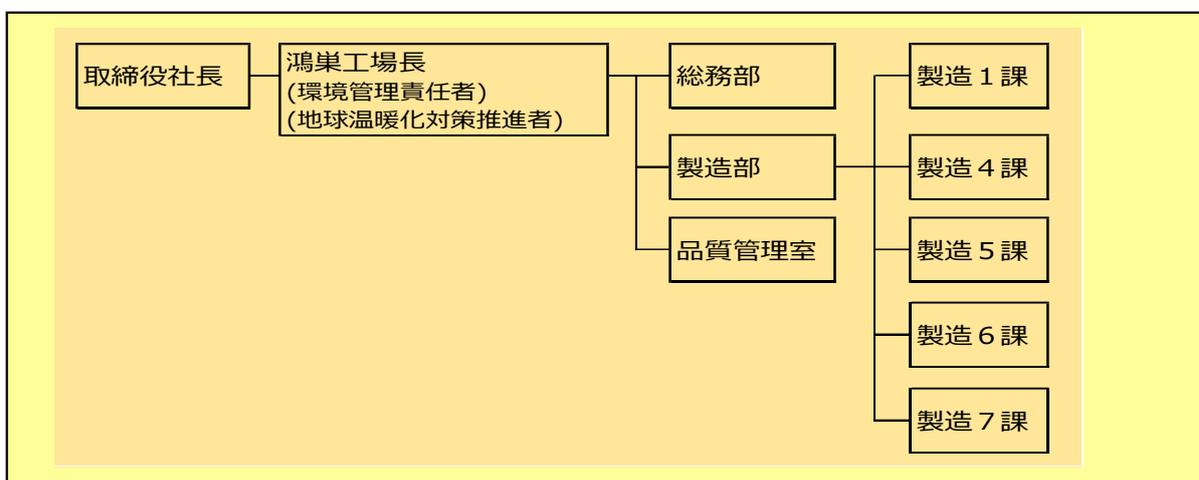
※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

みたけ食品工業株式会社 環境方針  
 みたけ食品工業㈱は、「地球環境の保護」を重要課題のひとつと認識し、企業市民として地域社会との共生を目指し、生産をはじめとした事業活動における環境負荷を低減し、住み良い豊かな環境の保護に努めます。  
 1. 環境関連の法律・規制・協定等の要求事項を順守し、環境保護、環境負荷低減に向けた取り組みを継続的に展開します。  
 2. 全従業員が当環境方針を理解し行動できるように教育を実施するとともに、環境課題の重要性に関する意識向上を図ります。  
 3. 原材料・エネルギー等の効率的利用及び廃棄物の減量化と有効利用に努め、資源とエネルギーの節約に努めます。

2022年7月5日 みたけ食品工業株式会社  
 代表取締役社長 八田武治

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,554	3,793	4,087		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,554	3,793	4,087		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0629	事業所番号	062900
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	みたけ食品工業株式会社 本社	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	本町1-5-7	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社機能(総務、経理、企画)</li> <li>・営業機能(当社製品の販売)</li> <li>・商品開発機能</li> </ul>		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.6346 t-CO <sub>2</sub> /人
	令和3年度の原単位「0.6346 (t-CO <sub>2</sub> /人)」を基準として、令和6年度までに5%削減する。				
	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	みたけ食品工業株式会社 本社	戸田市本町1-5-7
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
			17	18	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	基 準		33	35		
	前 年 度 比 ( % )	—		6.1		
	基 準 と な る 排 出 量 に 対 す る 削 減 率 ( % )					
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハ イ ド ロ フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	パ ー フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計			33	35		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub> 排 出 量 原 単 位	基 準	0.6346	0.6346	0.7000		
	前 年 度 比 ( % )	—		10.3		
	基 準 と な る 原 単 位 に 対 す る 削 減 率 ( % )		0.0	-10.3		
活 動 規 模 の 指 標 単 位						
	従 業 員 数	人	52.00	50.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	令和3年度からエネルギー使用量の把握を開始したため、前年度との比較ができない。 来年度以降、要因分析を行う予定。
令和4年度 (2022年度)	新型コロナ感染状況の変化が主な原因と考えているが、本社での打ち合わせ頻度、土曜日に出社しての研修等が増加したため、温室効果ガス排出量を増加させてしまった。空調設備の温度管理厳格化は未実施の状況。啓蒙活動が中心になるが、地道な省エネ活動を継続するしかない。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

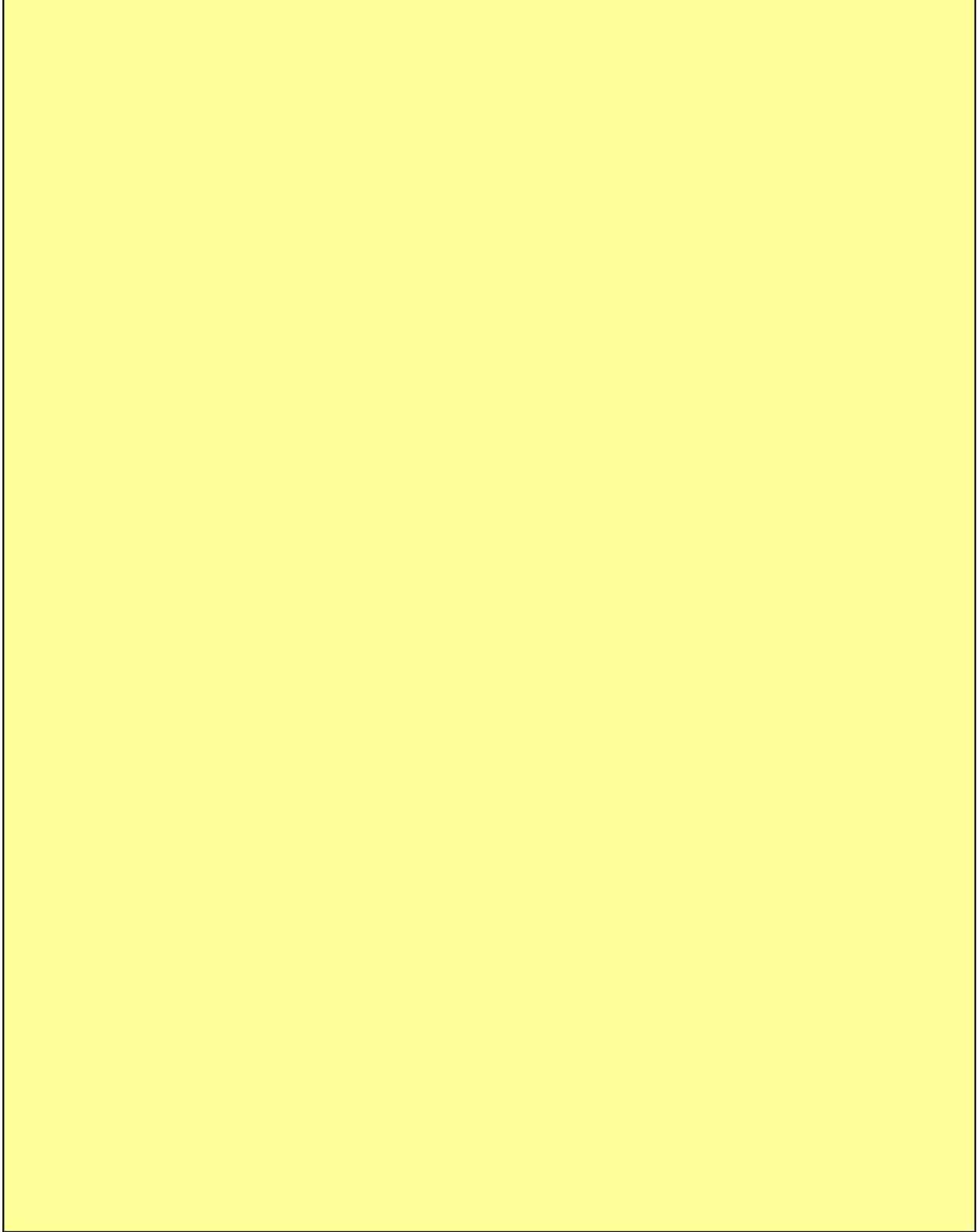
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	書エネ推進体制の明確化	R4	R4	
2	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	不使用時の部屋の消灯	R4	R4	
3	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運転 管理	空調設備の温度管理厳格化	R4		
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0629	事業所番号	062901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	みたけ食品工業株式会社 鴻巣工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	八幡田690	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	ごま、上新粉・米粉、きな粉・大豆粉、麦茶、漬材等の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量から、令和2年度から令和5年度は6%、令和6年度は13%以上の削減とする。(必要に応じて排出量取引を行う)				
	その他ガス	該当しない。				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	16,334	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	1,306	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,743	1,854	2,009		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,554	3,760	4,052		
前 年 度 比 ( % )	—	5.8	7.8		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,554	3,760	4,052		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3603	0.3639	0.3456		
前 年 度 比 ( % )	—	1.0	-5.0		
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産量	t/年	9,864.00	10,332.00	11,724.77	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	無		無		無	
	<p>高エネルギー消費生產品目（胡麻、上新粉、米粉、きな粉、大豆粉）の生産量が増加しCO2排出量が増加した。CO2排出量原単位で比較しても0.4%増とわずかに増加した。今後、工場での「省エネ活動」を推進していく中で、CO2排出量原単位は着実に低減させるように取り組む必要がある。</p>					
令和4年度 (2022年度)	有		無		有	
	<p>太陽光発電を令和5年1月から稼働。順調な稼働継続を実現。本格的に寄与するのは令和5年度以降だが、消費電力削減量は工場全体の4~5%と推定。第8工場稼働を主な理由に、建物床面積増、稼働設備増により工場全体の温室効果ガス総排出量が増加した。高エネルギー消費生產品目（胡麻、上新粉、米粉、きな粉、大豆粉）の生産増加により、排出量原単位は4.8%減少した。第8工場建設による延べ床面積増加分は工場全体の6.9%。令和4年度、第8工場の消費電力実績比率は工場全体の7.7%、CO2排出量比率は4.9%であった。</p>					
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,528	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 ( t-CO <sub>2</sub> /年 )
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,528	3,528	3,528	3,528	3,528	17,640
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						16,334
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						1,306
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,554	3,760	4,052			11,366
	削減率 (F = (A - E) / A)	-0.74%	-6.58%	-14.85%			-
	排出削減量 (G = A - E)	-26	-232	-524			-782
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実 施 予 定 年 度	実 施 した 年 度	推 計 削 減 量(t) (1年度 当 たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	太陽光発電設備の導入	R4	R4	17.3
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	推進体制の明確化	R4	R4	0.0
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	月次エネルギー使用量モニタリング	R4	R4	0.0
4	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	重要機器の定期メンテナンス実施	R1以前		
5	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	未使用設備の停止	R4	R4	5.0
6	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラー運転の効率化	R5		
7	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内設備駆動部Vベルト更新（省エネタイプへの移行）	R5		
8	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内照明器具のLED化（未実施部分）	R5		
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	空気ラインからのエアリーク調査と漏れ箇所の改善	R4	R4	5.0
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	築野食品工業株式会社			
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町新田94			
事業者番号	0630			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 （前年度）	1,732	kL/年		
大規模小売店舗面積 （単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所）		㎡		
産業分類名 （中分類）	09 食料品製造業			
分類番号 （中分類）	09			
事業活動の概要	事業内容	・米ぬか高度有効利用の企画、研究開発 ・こめ油の製造、販売、研究開発・米ぬかを原料とした医薬品原料、化粧品原料、食品添加物の製造、販売、研究開発・工業油脂（脂肪酸、脂肪酸エステル、ポリアミド樹脂、ダイマー酸及びダイマー酸誘導体）の製造、販売、研究開発・廃食油リサイクル・食品飼料添加物の製造、販売、研究開発		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50	百万円
		従業員数	540	人
商標又は商号 （連鎖化事業者のみ）				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063001	築野食品工業株式会社 関東工場	1,732
合 計			1,732

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	事務所玄関ホール
		所在地 1	埼玉県本庄市児玉町秋山2166-6
		閲覧可能時間 1	9:00~17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	製造部	0495-73-1455	kantou-f@tsuno.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

当社は、「環境に優しい製品が人々の健康と美につながる」という理念に基づき、以下3項目を重要事項として掲げ、環境保全型事業の展開を目指しています。

カーボンニュートラル《植物由来原料》  
 築野グループの製品はすべて、米ぬかおよび植物由来のカーボンニュートラルな原料で作られています。

当社の事業はCO2の排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献しています。

ゼロエミッションへの挑戦《燃料リサイクルシステム》  
 生産工程で発生する産業廃棄物を最大限に活用し、工場の燃料として有効活用しています。

油脂リサイクル《工業製品（脂肪酸）》  
 使用済みの食用油や非食用油を石鹼、ペンキ、インクや潤滑油などのオレオケミカル製品の原料として有効利用し、リサイクル事業に貢献しています。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙

## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

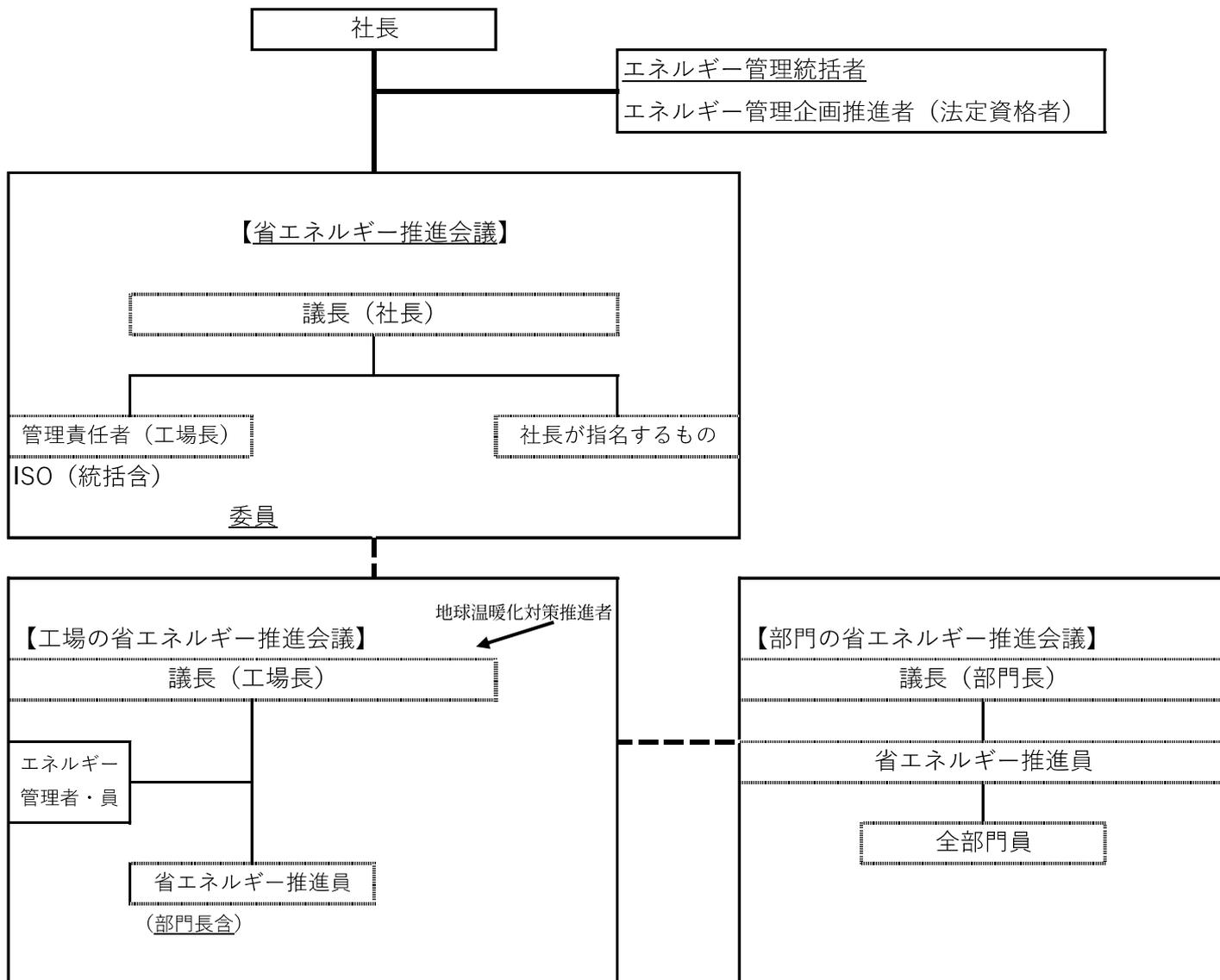
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		4,344	4,288		
その他ガス					
温室効果ガスの計		4,344	4,288		

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

別紙



令和 5 年度

事業者番号	0630	事業所番号	063001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	築野食品工業株式会社 関東工場		
事業所所在地	市区町村	本庄市	
	字・地番	児玉町秋山2166-6	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	こめ油の製造 従業員数：26名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を6%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			1,753	1,732	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>		4,344	4,288	
前年度比 (%)	—		-1.3		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計		4,344	4,288		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		146.0659	144.1829	
前年度比 (%)	—		-1.3		
活動規模の指標単単位					
製品生産量	千t	29.74	29.74		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)						
令和4年度 (2022年度)	無		無		無	
	スチームトラップの適正管理・夏季での蒸気圧力調整・高効率モーターへの更新等を実施。原料処理量は昨年とほぼ同等であったが、1時間当たりの原料処理量が増加した事も要因となり、前年度に対し二酸化炭素排出量削減となった。 更に原単位を下げる様努めていく。					
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

4	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A - D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)		4,344	4,288			8,632
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証			未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保 全管理	保全計画に基づく保守・点検を実施	R1以前	R1以前	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の 管理	主要設備の不可等に係る計測・記録を している	R1以前	R1以前	
3	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の 管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し月 報を作成	R1以前	R1以前	
4	320100	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_燃料の燃焼の合 理化に関する措置	燃焼設備の定期的な保守・点検を実施 している	R1以前	R1以前	
5	320200	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	定期的に水質管理を実施	R1以前	R1以前	
6	320200	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	スチームトラップの定期的な点検・清 掃・交換を実施	R1以前	R1以前	
7	320300	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_放射・伝熱等によ る熱の損失の防止に 関する措置	蒸気配管等保温取付による断熱強化	R1以前	R1以前	
8	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用 に関する措置	蒸気ドレンをボイラー給水等に利用	R1以前	R1以前	
9	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	冷却水の定期的な水質検査の実施	R1以前	R1以前	
10	360700	ポンプ、ファ ン、ブロー ャー、コンプレ ッサー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	コンプレッサーの更新 (効率向上)	R3	R3	
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明の順次LED化実施	R4		
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section information.

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	三芳合金工業株式会社			
所在地	埼玉県入間郡三芳町上富508			
事業者番号	0631			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,192	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	23 非鉄金属製造業			
分類番号 (中分類)	23			
事業活動の概要	事業内容	特殊銅合金の製造		
	区分	企業		
	前年度	資本金	52	百万円
		従業員数	98	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063100	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	715
B、C事業所			
C	063101	三芳合金工業株式会社 本社工場	2,477
合 計			3,192

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

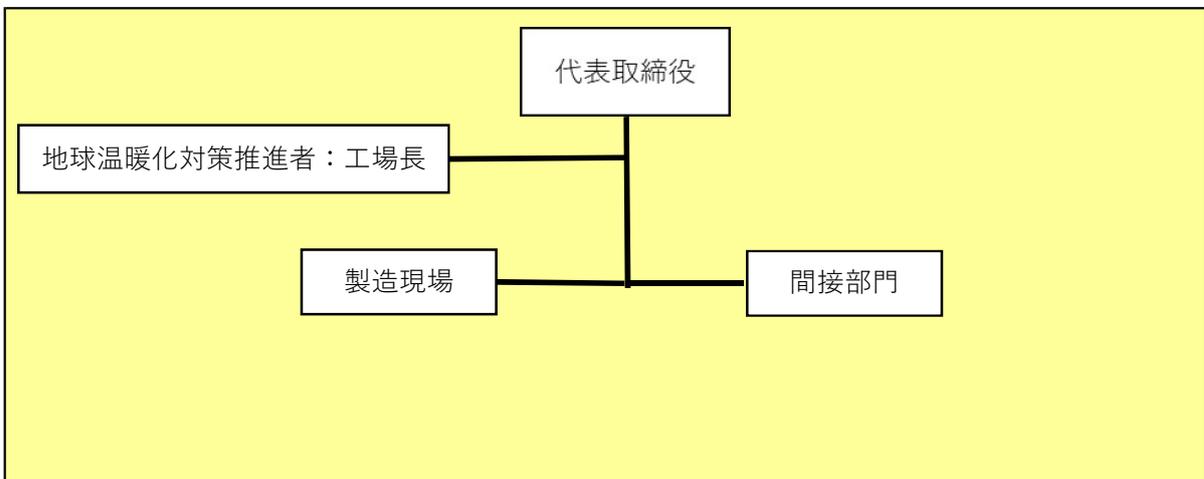
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務課	049-258-3381	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

（基本方針）  
 1. 基本理念三芳合金工業株式会社は、環境問題への取り組みを社会的責務と認識し、人間性豊かな社会の実現に貢献する企業を目指します。  
 2. 行動指針  
 事業活動の全域で、省資源、省エネルギーの推進に努めます。  
 環境保全に適合した製品の購入及び販売の促進に努めます。  
 環境に関するリスクを認識し、社会全体の環境リスクの低減を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,567	5,598	5,635		
その他ガス					
温室効果ガスの 合計	4,567	5,598	5,635		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0631	事業所番号	063100
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	新座市	
	字・地番	畑中2丁目16-7	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	特殊銅合金の製造		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	2.4113 t-CO <sub>2</sub> /t
	毎年原単位0.25%ずつ改善					
その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
その他ガス						

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	新座市畑中2丁目16-7
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	444	634	715		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	基準	856	1,223	1,320		
	前年度比 (%)	—	42.9	7.9		
	基準となる排出量に対する削減率 (%)					
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		856	1,223	1,320		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	2.4113	2.5269	2.0465		
	前年度比 (%)	—	4.8	-19.0		
	基準となる原単位に対する削減率 (%)	0.0	-4.8	15.1		
活動規模の指標	単 位	355.00	484.00	645.00		
	出荷重量 t					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	コロナ禍によって航空機用の受注が激減したため、生産量も低下した。
令和3年度 (2021年度)	インバータ式コンプレッサーへの入れ替えや、増設する熱処理炉は排熱を回収するための熱交換器を付帯させるなど、省エネに資する設備を導入する
令和4年度 (2022年度)	2022年11月頃から脱コロナの影響で海外からの航空機用の受注が回復したため、出荷量は増加傾向。また、製品の品質改善に取り組むとともに東京電力のグリーンベシックプランを導入し排出量の伸びを抑えた。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

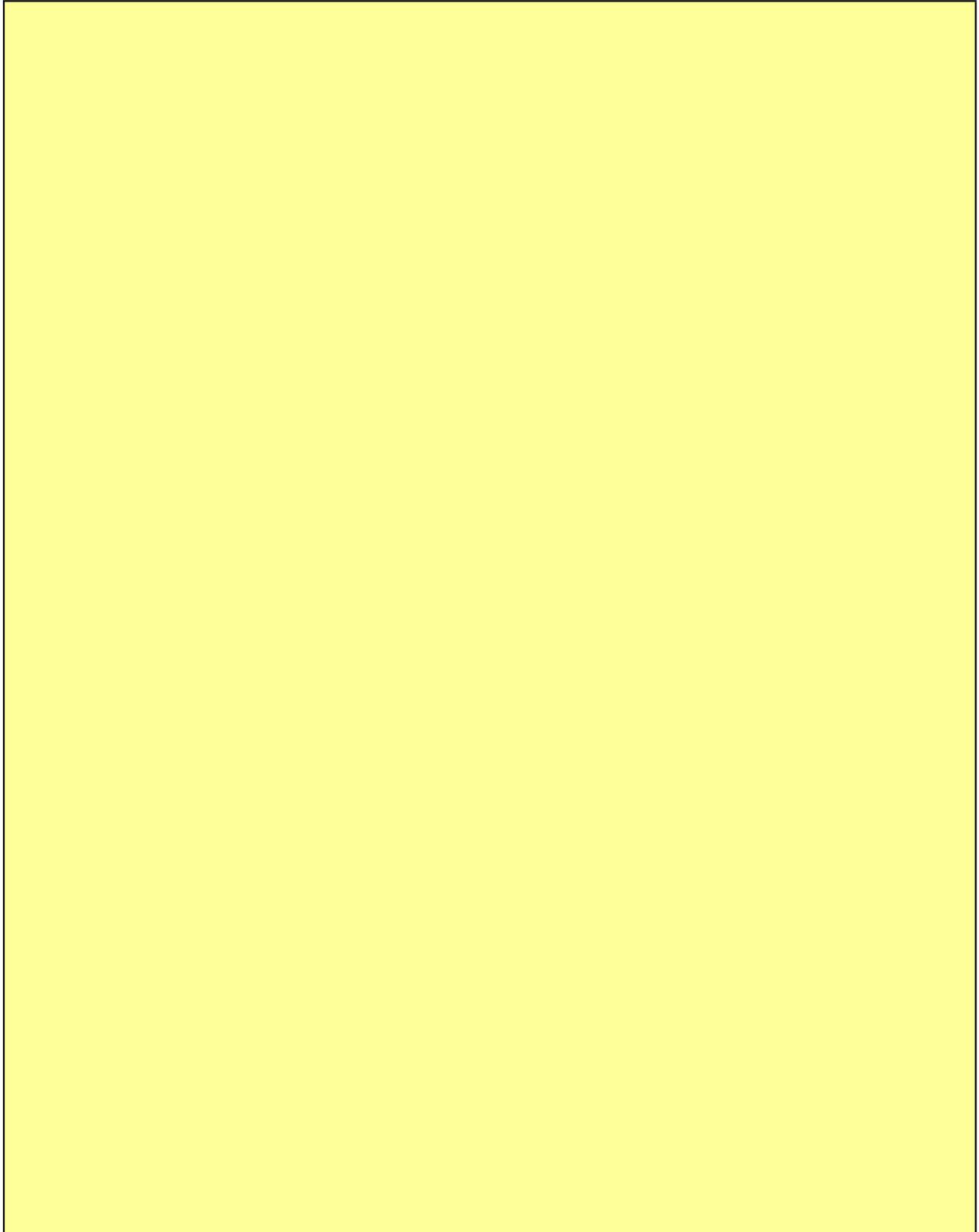
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	月別エネルギー原単位を算出	R3	R3	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0631	事業所番号	063101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	三芳合金工業株式会社 本社工場		
事業所所在地	市区町村	入間郡	
	字・地番	三芳町上富508	
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	特殊銅合金の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し令和5年までは6%、令和6年は13%以上を削減する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,886	2,487	2,477		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,711	4,375	4,315		
前年度比 (%)	—	17.9	-1.4		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,711	4,375	4,315		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.1881	1.9248	1.9315		
前年度比 (%)	—	-12.0	0.4		
活動規模の指標	単位				
出荷重量	t	1,696.00	2,273.00	2,234.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	コロナ禍の影響により減産、雇用調整を行った。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	半導体関連が好調となり、生産量が回復した。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	昨年度の半導体に続き脱コロナの影響で、海外向けの航空機部材の生産が増えた。そのため別拠点、朝霞工場にて製作した航空部材を本社工場にて熱処理をしているため、ガス、電気の使用量が増えている。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)							
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,711	4,375	4,315			12,401	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )							
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

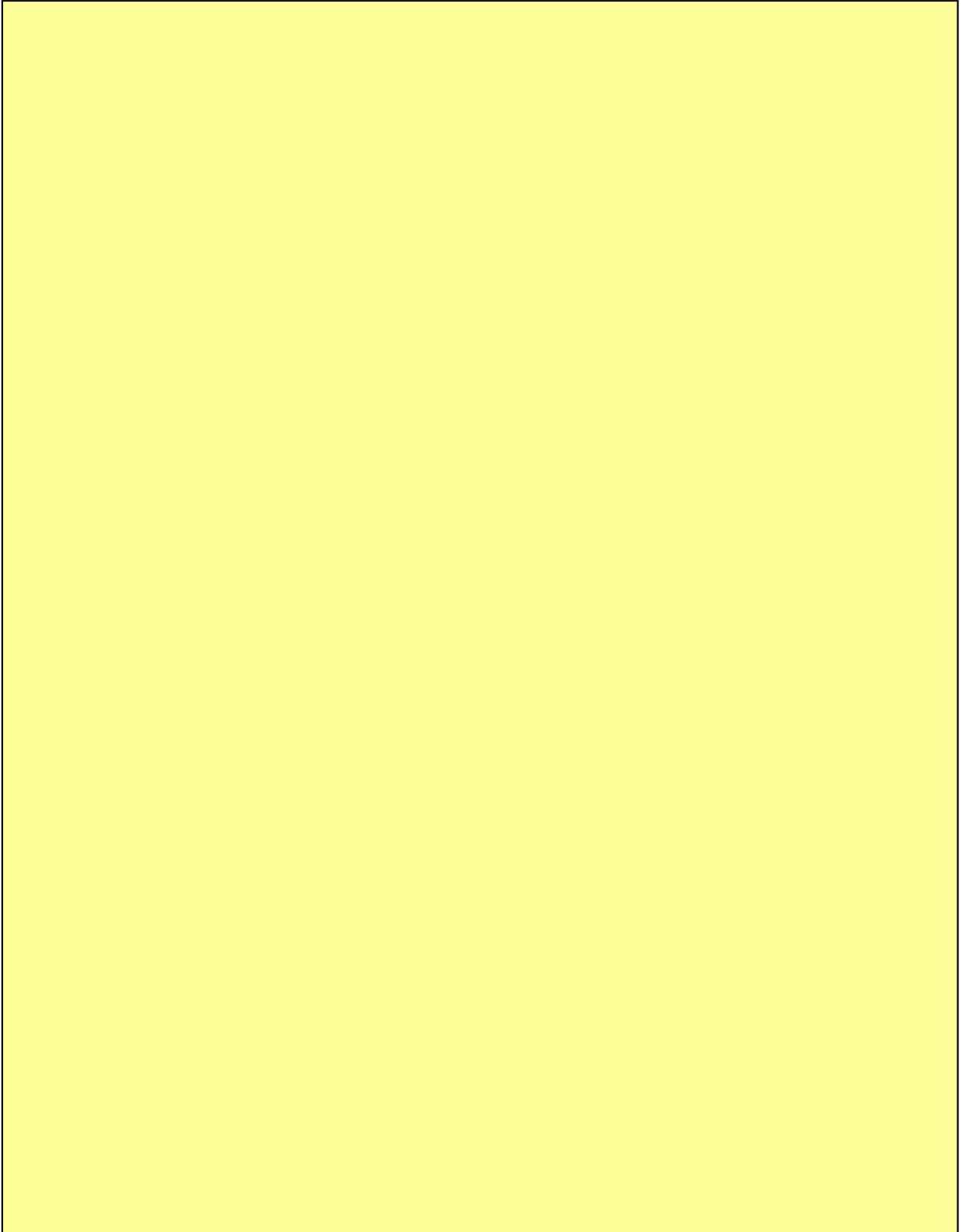
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分   中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	月別エネルギー原単位を算出	R3	R3	
2	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	東京電力のエネルギーマネジメントシステムを導入	R4	R4	21.0
3	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	排熱利用のための熱交換器を付帯した熱処理用ガス炉導入	R5		160.0
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		キューピータマゴ株式会社	
所在地		東京都調布市仙川町二丁目5番地7 仙川キューポート	
事業者番号		0632	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		3,317	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		09 食料品製造業	
分類番号 (中分類)		09	
事業活動の 概要	事業内容		鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売
	区分		企業
	前 年度	資本金	350
従業員数		2,356	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063200	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	1,177
B、C事業所			
C	063201	キューピータマゴ株式会社 飯能工場	2,140
合 計			3,317

## (4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="https://www.kewpie-egg.co.jp/">https://www.kewpie-egg.co.jp/</a>
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	
		所 在 地 1	
		閲 覧 可 能 時 間 1	
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
		閲 覧 可 能 時 間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産技術部環境対策課	03-5384-5111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

キューピーグループサステナビリティ基本方針、キューピーグループ環境基本方針に基づき活動を進めます。

キューピーグループサステナビリティ基本方針

気候変動への対応

原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO2排出量削減をめざします。

キューピーグループ環境基本方針

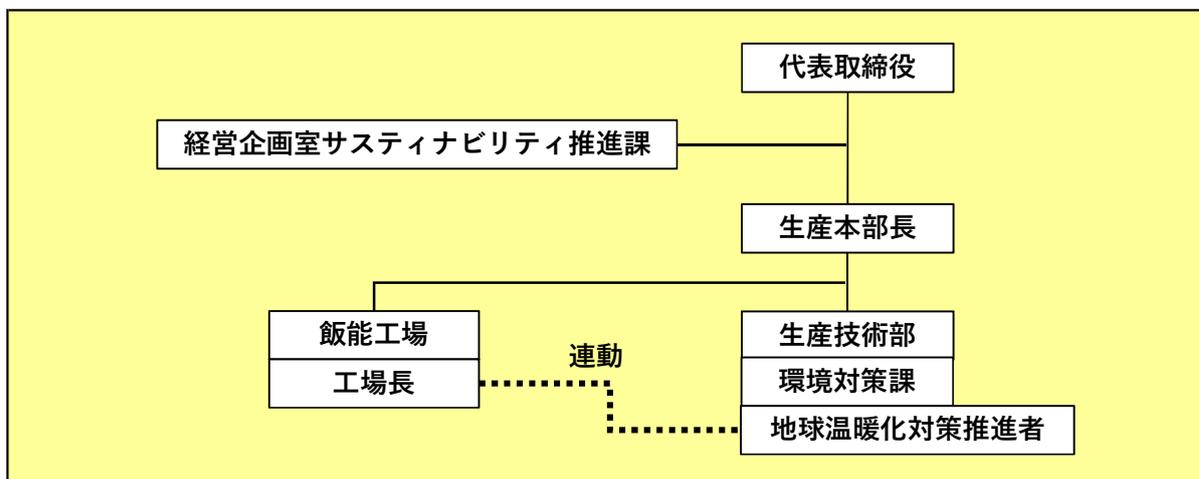
～環境理念～

商品の設計、原料調達から、生産、消費までバリューチェーン全体の活動で、環境への配慮に努めます。

行動指針

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境への影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の順守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,356	6,531	6,448		
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,356	6,531	6,448		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0632	事業所番号	063200
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	入間郡三芳町	
	字・地番	大字北永井51-1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	2,461	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.2097	t-CO <sub>2</sub> /t
		・CO <sub>2</sub> 排出量：令和3年度排出量(2,461t-CO <sub>2</sub> )を基準として、毎年1%削減。 ・原単位：令和3年度原単位(0.2097t-CO <sub>2</sub> /生産量t)を基準として、毎年1%削減					
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	入間郡三芳町大字北永井5-1-1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
	1,206	1,258	1,177		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	2,461	2,360	2,461	2,302		
前 年 度 比 ( % )		—	4.3	-6.5		
基準となる排出量に対する 削 減 率 ( % )		4.1	0.0	6.5		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		2,360	2,461	2,302		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2097	0.2103	0.2097	0.2097		
前 年 度 比 ( % )		—	-0.3	0.0		
基準となる原単位に対する削減率 ( % )		-0.3	0.0	0.0		
活 動 規 模 の 指 標 単 位						
生産量	t	11,223.90	11,737.00	10,976.73		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	生産量は前年度対比4.5%増加、これに伴いCO <sub>2</sub> 排出量は前年度対比4.3%増加となった。ピロー商品と呼ばれる小袋で殺菌後に冷凍を実施するエネルギー使用量が多い商品が前年度より710t増加した為、これがエネルギー使用量の増加要因となった。
令和4年度 (2022年度)	2022年10月後半から発生した鳥インフルエンザの影響により原料である鶏卵が入荷出来ず、生産数は前年度対比93.5%となった。CO <sub>2</sub> 排出量は前年度対比93.5%、エネルギー原単位前年度同数となった。生産調整を行いながらライン停止日や稼働時間短縮を設ける等を実施したが、エネルギー使用量を大きく抑制する事が出来なかった。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

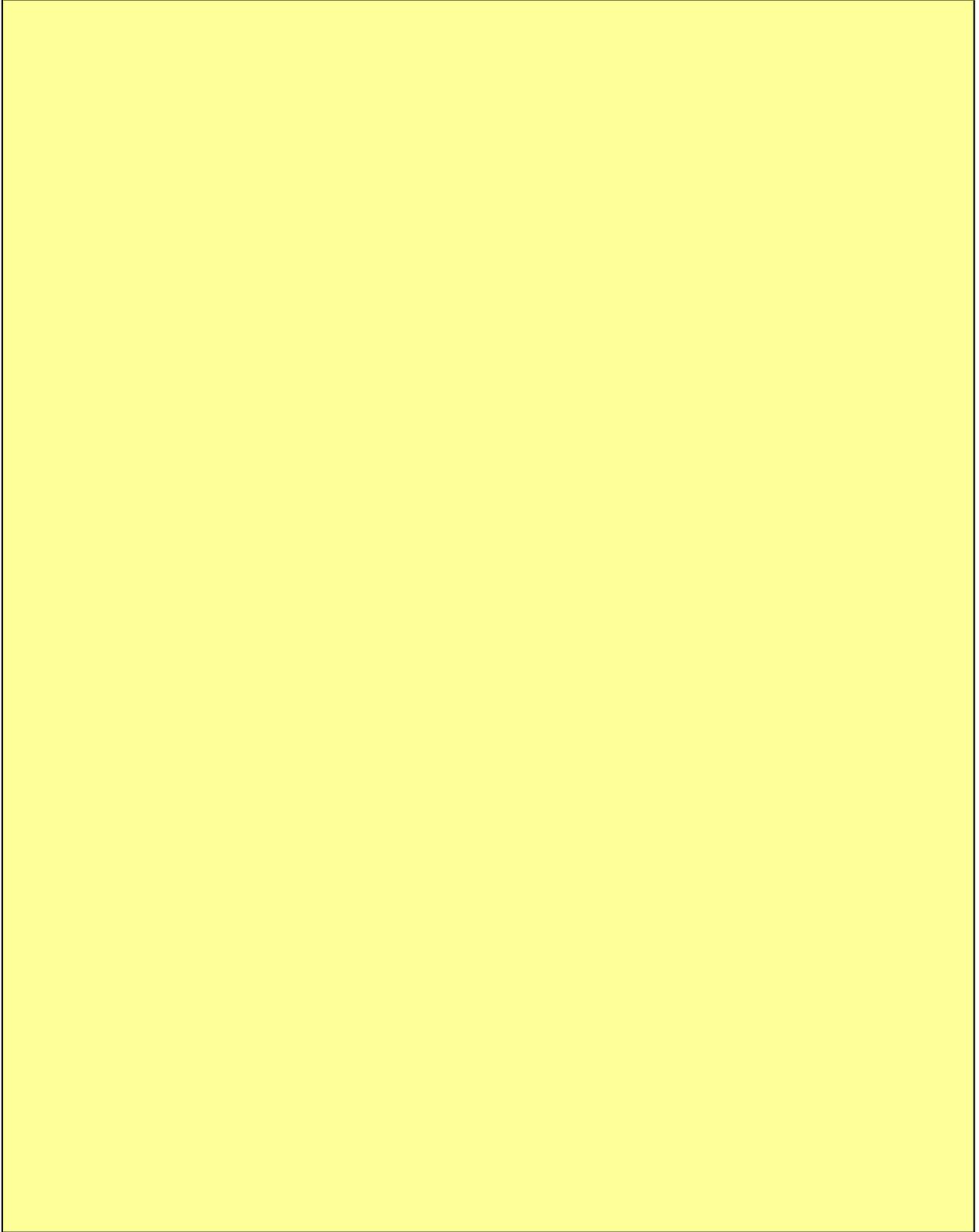
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新	R3	R3	5.8
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新	R4	R4	3.3
3	490200	その他	49_その他の削減対 策	室外機夏場散水装置	R4	R4	1.0
4	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	スチームトラップ変更	R4	R4	5.0
5	360700	ポンプ、ファ ン、ブロー ー、コンプレ ッサー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	コンプレッサー室給排気改善。室温を下 げて、夏場のコンプレッサー電力負荷の 低減を図る	R5		
6	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラー更新(3台中1台)ボイラー効 率改善	R5		
7	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラー更新(3台中2台)ボイラー効 率改善	R6		
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0632	事業所番号	063201
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	キューピータマゴ株式会社 飯能工場		
事業所所在地	市区町村	飯能市	
	字・地番	茜台3-4	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売 従業員数: 91名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し令和5年までは6%、令和6年は13%以上を削減する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	36,748	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	2,937	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,045	2,104	2,140		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,996	4,070	4,146		
前 年 度 比 ( % )	—	1.9	1.9		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,996	4,070	4,146		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1694	0.1689	0.1675		
前 年 度 比 ( % )	—	-0.3	-0.8		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t	23,589.20	24,093.00	24,751.46	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量は前年度対比2.1%増加、これに伴いCO <sub>2</sub> 排出量は前年度対比1.6%増加となった。ピロー商品と呼ばれる小袋で殺菌後に冷凍を実施するエネルギー使用量が多い商品が前年度より1,107t増加した為、これがエネルギー使用量の増加要因となった。21年2月に導入した太陽光発電設備が年間を通じて186,816kWh発電出来たため、電気購入量の削減につながった。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量は前年度対比102.7%で増加、CO <sub>2</sub> 排出量前年度対比101.9%と増加となった。エネルギー原単位としては、99.2%と僅かであるが削減に転じている。ピロー商品と呼ばれる小袋で殺菌後に冷凍を実施するエネルギー使用量が多い商品が前年度比126.2%、1,437t増加した為、これがエネルギー使用量の増加要因となっている。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,937	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,937	7,937	7,937	7,937	7,937	39,685	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							36,748
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							2,937
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,996	4,070	4,146			12,212	
	削減率 (F = (A - E) / A)	49.65%	48.72%	47.76%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	3,941	3,867	3,791			11,599	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	自家消費型の太陽光発電システム（容量120kW）導入	R3	R3	49.0
2	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	スチームトラップ変更	R4	R4	55.0
3	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラー運転圧力の再度見直し及び、ボイラー本体内部保温	R4	R4	10.0
4	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー運転時の吐出圧力の再度見直し	R4	R4	37.2
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明への更新	R5		
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

自家消費型の太陽光発電システム（容量120kW）にて令和4年度169千kWh発電し、購入電気を削減することができた。発電量は、工場使用電気の2.7%に相当します。  
ボイラー及び、コンプレッサーの設定圧力の見直しを実施し、最適圧力での運用によりエネルギー使用量の削減が図れた。

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	エスピースパイス工業株式会社		
所在地	東京都文京区後楽2丁目20番16号		
事業者番号	0633		
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	1,684	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	設立年月：1961年4月 事業内容：粉体香辛料及び香辛調味料の製造・販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	32
	従業員数	260	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063301	エスビースパイス工業株式会社 埼玉工場	1,684
合 計			1,684

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	エスビースパイス工業(株)製造部	048-991-2021	
2			
3			

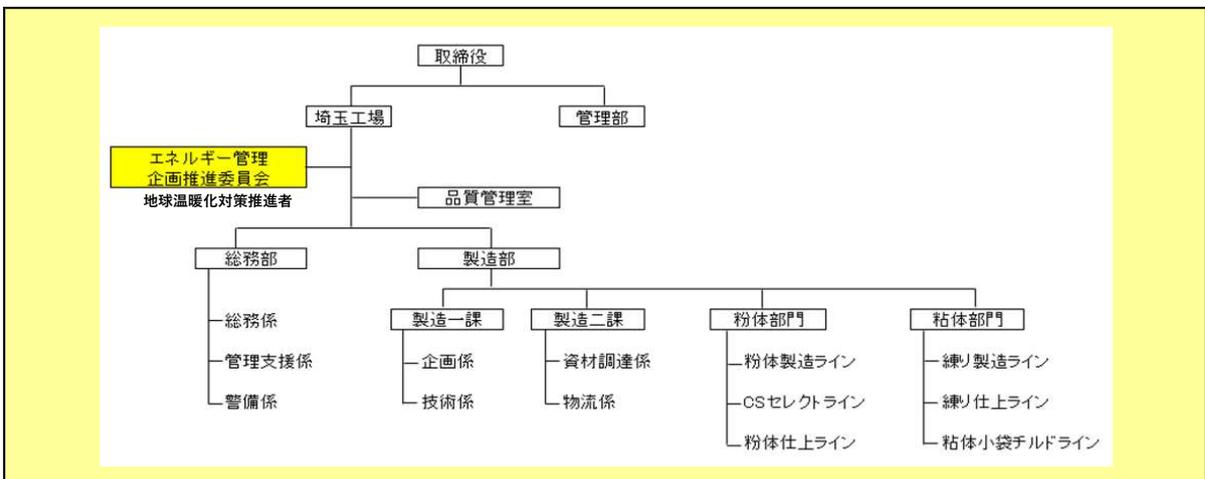
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境方針  
 「食卓に、自然としあわせを。」という企業理念のもと、エスピー食品グループは、積極的に環境保全に取り組み、豊かな地域・社会づくりに貢献します。

1. 国内外法規制遵守  
 国内外の環境関連の法規制を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、環境保全のさらなる向上を図ります。
2. 環境目的・目標の設定  
 環境目的・目標を設定し、その達成状況を確認するとともに、環境保全活動の継続的改善を図ります。
3. 環境負荷の低減  
 省エネルギー・省資源、廃棄物の減量化・再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
4. 商品開発  
 環境負荷と安全性を十分考慮した商品開発に努めます。
5. 環境教育  
 環境教育により、全社員に環境方針の理解と環境問題に対する意識向上を図ります。
6. 地域との共生  
 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域の環境保全活動に積極的に参加します。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,755	3,678	3,397		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,755	3,678	3,397		

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0633	事業所番号	063301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	エスビースパイス工業株式会社 埼玉工場		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡松伏町	
	字・地番	大字築比地1032	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	粉体香辛料及び香辛調味料の製造・販売 従業員数：260人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量3,755t - CO<sub>2</sub>を基準として、毎年2%削減します。</li> <li>令和5年度からは、C事業者になる見込みであるため、毎年、基準排出量の6%を削減します。</li> </ul>				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	/		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,863	1,823	1,684		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,755	3,678	3,397		
前 年 度 比 ( % )	—	-2.1	-7.6		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,755	3,678	3,397		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	367.4168	357.4344	334.7788		
前 年 度 比 ( % )	—	-2.7	-6.3		
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産重量	10.22	10.29	10.15		
	千ton				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の2019年10月に新棟（C棟）が竣工した。これに伴い、エネルギー使用量が増加した。ちなみに、令和元年（2019年度）のエネルギー原油換算値は、1,410KLであった。</li> <li>・ 令和2年度（2020年度）はC棟がフル稼働したことで、エネルギー原油換算値が1,863KL（前年度比132%）と1,500KLを超えた。これにより、特定事業者となった。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、人が密集する部屋のドアを開放し換気している。この対策によりエアコン使用時の負荷が増大している。</li> </ul>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年8月、LPGボイラー4台の更新。（カタログ値で燃焼効率が96%→97%）</li> <li>・ 2021年9月、第二工場内に粉体充填包装設備の導入を終え、生産を開始。</li> <li>・ 2022年1月、第二工場粉体充填包装ラインでⅡ直生産を開始。</li> <li>・ 2022年2月、第二工場ロボットパレタイザエリアの照明設備をセンサ式に変更。（ムダな点灯を無くす）</li> <li>・ 2022年3月、B棟厚生棟男子女子更衣室の照明設備をLED化し、且つ人感センサ式に変更。（ムダな点灯を無くす）</li> </ul>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直近1年以内（2022.7～2023.6）に実施した省エネ活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ エネルギー管理企画推進委員会を中心とした省エネ活動（合計80件） <ul style="list-style-type: none"> <li>※ エア漏れ・蒸気漏れ・照明消し忘れの撲滅</li> </ul> </li> <li>○ 生産計画担当者を中心とした生産の効率化 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 稼働時間の最適化、休日出勤の抑制</li> </ul> </li> <li>○ 全社共通で生産性向上活動の推進（生産能力UP） <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 充填ショット数UP、混合時間の短縮等</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 (C = Σ A-D)						
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,755	3,678	3,397			10,830
	削減率 (F = (A - E) / A)						—
	排出削減量 (G = A - E)						
各年度の排出量の検証							

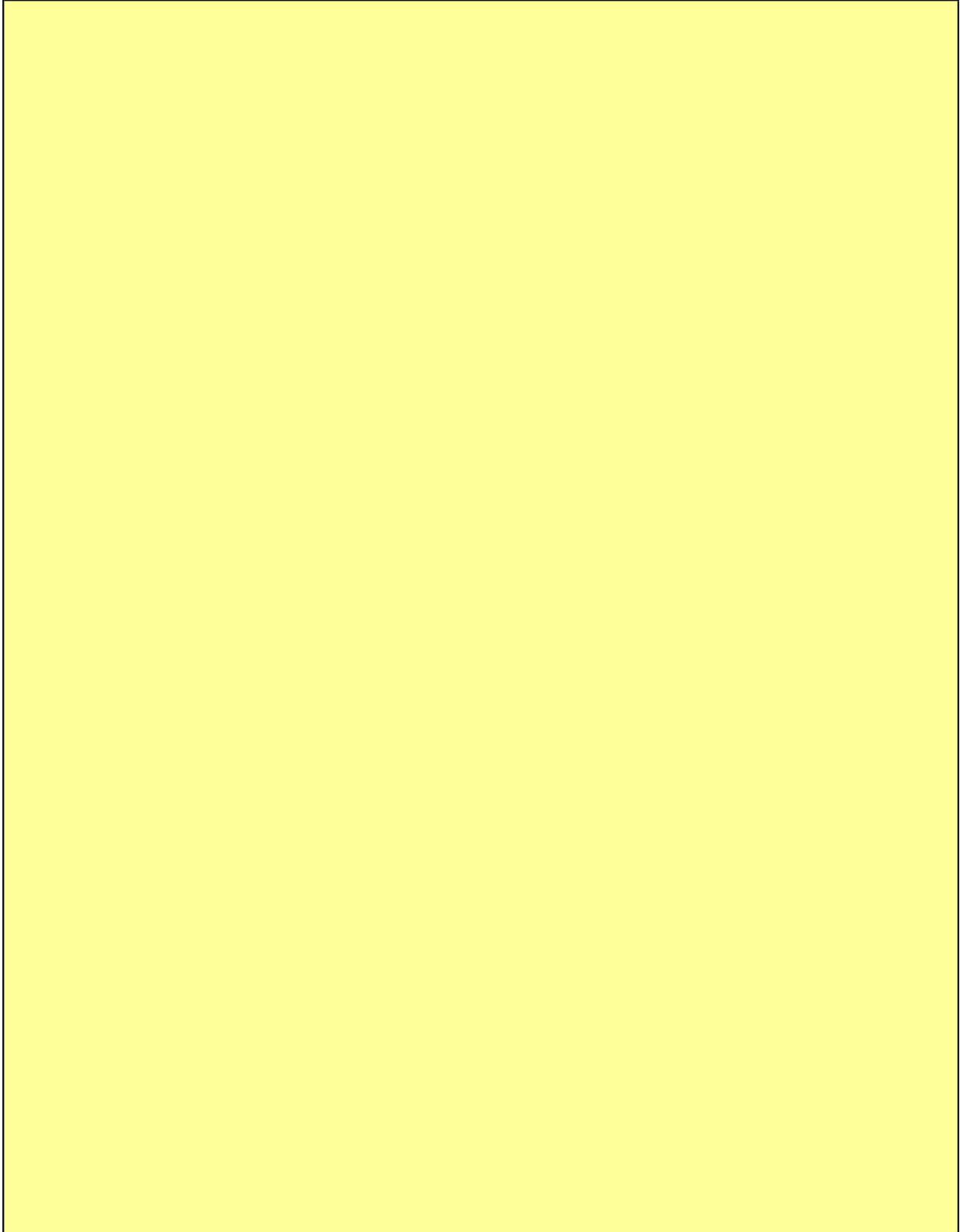
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、「省エネ法」に適合した管理体制を構築する	R3	R3	
2	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	エネルギー使用量を月ごとに一覧にまとめ管理する	R1以前	R1以前	
3	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	蒸気漏れの迅速な修理により、熱エネルギーの損失を低減する	R1以前	R1以前	
4	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	計画的なボイラーの更新	R3	R3	
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機の負荷低減を目的として、外部からの日射熱の遮断やフィルター定期清掃を実施する	R1以前	R1以前	
6	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	各室ごとに適切な設定温度を定め、温湿度計の設置により温度管理を実施する	R1以前	R1以前	
7	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	計画的な空調設備の更新	R5		
8	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	計画的な照明設備の更新	R5		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	はつかり麵株式会社			
所在地	新潟県三条市大野畑2-72			
事業者番号	0634			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,388	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	設立年月日：平成23年9月5日 事業内容：めん類製造及び販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	20	百万円
		従業員数	100	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063401	はつかり麵株式会社	2,388
合 計			2,388

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 事務所 応接室
		所在地 1 川越市南大塚2-4-20
		閲覧可能時間 1 月～金 9時～17時 (土日・祝日を除く)
		閲覧場所 2
		所在地 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	営業部	049-243-3528	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

(基本方針)

1 基本理念  
環境にやさしい工場づくりを目指し、企業の発展かつ社会的責任を果たす。

2 基本方針  
基本理念に基づき、次の環境マネジメント活動を実施する。  
①環境目標を定め、CO2削減に向けた改善活動を推進する。  
②事業活動に関連する法的要求等を遵守する。  
③事業活動による環境負荷を低減し、社会全体の省エネに貢献する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙（組織図）参照ください。

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

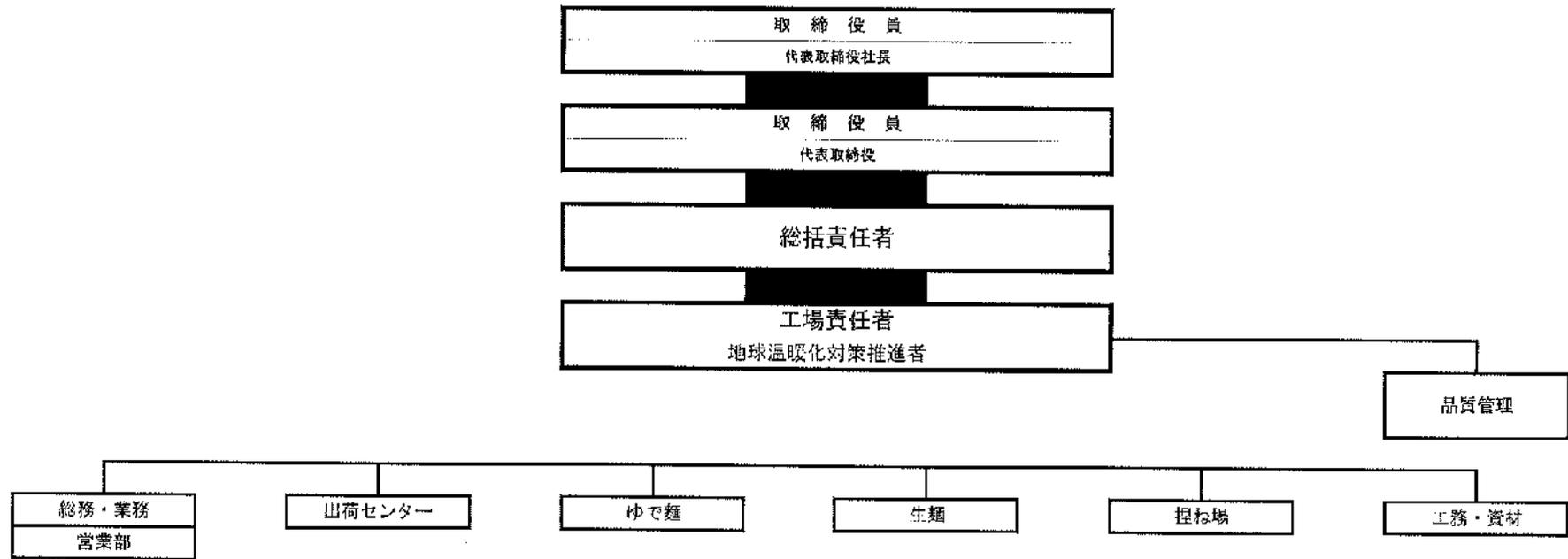
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,854	4,303	4,643		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,854	4,303	4,643		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

はつかり麵株式会社 組織図 (13期) 2023年度10月現在



注：工場責任者＝地球温暖化対策推進者

令和 5 年度

事業者番号	0634	事業所番号	063401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	はつかり麵株式会社		
事業所所在地	市区町村	川越市南大塚	
	字・地番	2-4-20	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	めん類製造及び販売 従業員数: 100名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間(令和5年まで)の平均削減率を6%以上とする。令和6年は13%以上とする。 また、必要に応じて排出量取引を活用する			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,497	2,215	2,388		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,854	4,303	4,643		
前 年 度 比 ( % )	—	-11.4	7.9		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,854	4,303	4,643		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	13.2986	12.6559	12.7205		
前 年 度 比 ( % )	—	-4.8	0.5		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
稼働日数	日/年	365.00	340.00	365.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場地下及び1F及び2Fの冷却工事を実施</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷水チラーの修繕を3度実施したため、機器効率が改善されCO<sub>2</sub>排出量が減少した。</li> </ul>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	取引先が増えた為に、生産数量の増加に伴いCO <sub>2</sub> 排出量が微増した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,854	4,303	4,643			13,800	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )							
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率ボイラの導入	R5		80.0
2	320400		熱交換器等 32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンの有効活用	R5		5.0
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの台数制御		R1以前	1.0
4	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水チラーの修繕	R3	R3	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

2022年度末に埼玉県補助事業（省エネ診断事業）にて工場内のエネルギー診断を実施しました。その診断で得られた結果をもとに、今後省エネに向けた改善を行っていく所存です。

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	社会医療法人財団 石心会		
所在地	神奈川県川崎市幸区都町39番地1		
事業者番号	0635		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,387	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	83 医療業		
分類番号 (中分類)	83		
事業活動の 概要	事業内容	健診から高度人工透析医療、在宅医療、福祉までトータルな 医療・福祉サービスを展開	
	区分	その他	
	前年度	資本金	百万円
		従業員数	3,165 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063500	さやま総合クリニック	471
B、C事業所			
C	063501	埼玉石心会病院	2,916
合 計			3,387

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

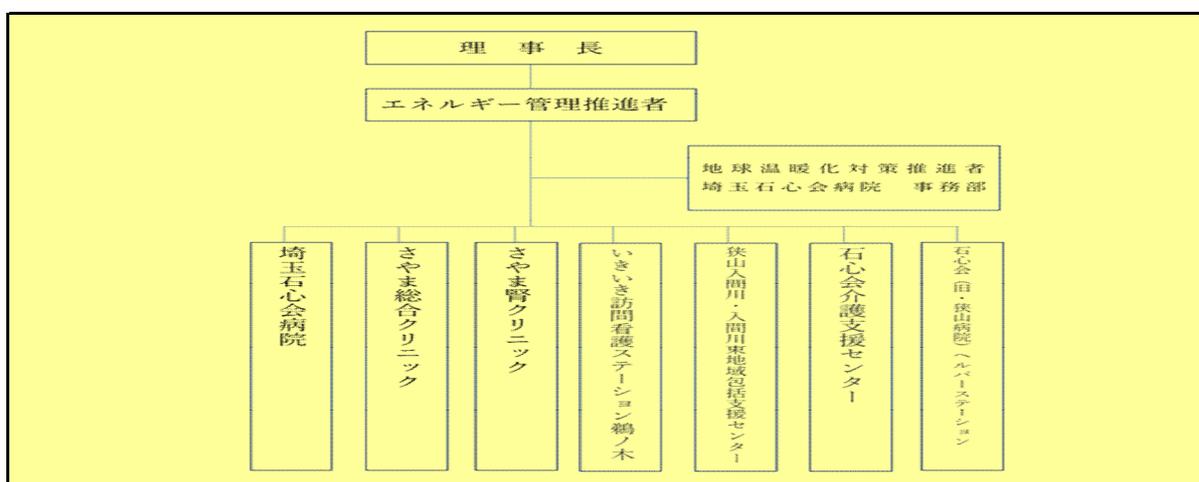
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	埼玉石心会病院 事務部	04-2953-6611	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

基本方針 ・環境保  
 全に関連する法令を遵守します。  
 ・SDG委員会活動を中心に職員への省エネルギー対策を周知を行います。  
 ・地球温暖化計画対策を進めながら、当病院の基本理念に基づき、「断らない医療、患者主体の医療、地域に根ざし、地域に貢献する医療」を行います。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		6,049	6,649		
その他ガス					
温室効果ガスの計		6,049	6,649		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0635	事業所番号	063500
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	さやま総合クリニック	前年度における事業所数	3
代表事業所所在地	市区町村	狭山市入間川	
	字・地番	4-15-25	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	従業員数 さやま総合クリニック245人、さやま腎クリニック78人 地域ケアセンター31人 (R5.3.31現在) 外来数31,000人/月		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	4	年度	~	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	936	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位		t-CO <sub>2</sub> /
	・令和4年度の排出量(936t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年度末までに10%削減を目標とします。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位		
	その他ガス						

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	さやま総合クリニック	狭山市入間川4-15-25
2	さやま腎クリニック	狭山市入間川4-15-20
3	さやま地域ケアセンター	入間川2丁目37番20号
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			471		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	936			936		
前年度比（％）		—				
基準となる排出量に対する削減率（％）				0.0		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計				936		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比（％）		—				
基準となる原単位に対する削減率（％）						
活動規模の指標	単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	空調、及び照明設備等の適切な省エネ管理で排出量増加を抑止する。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

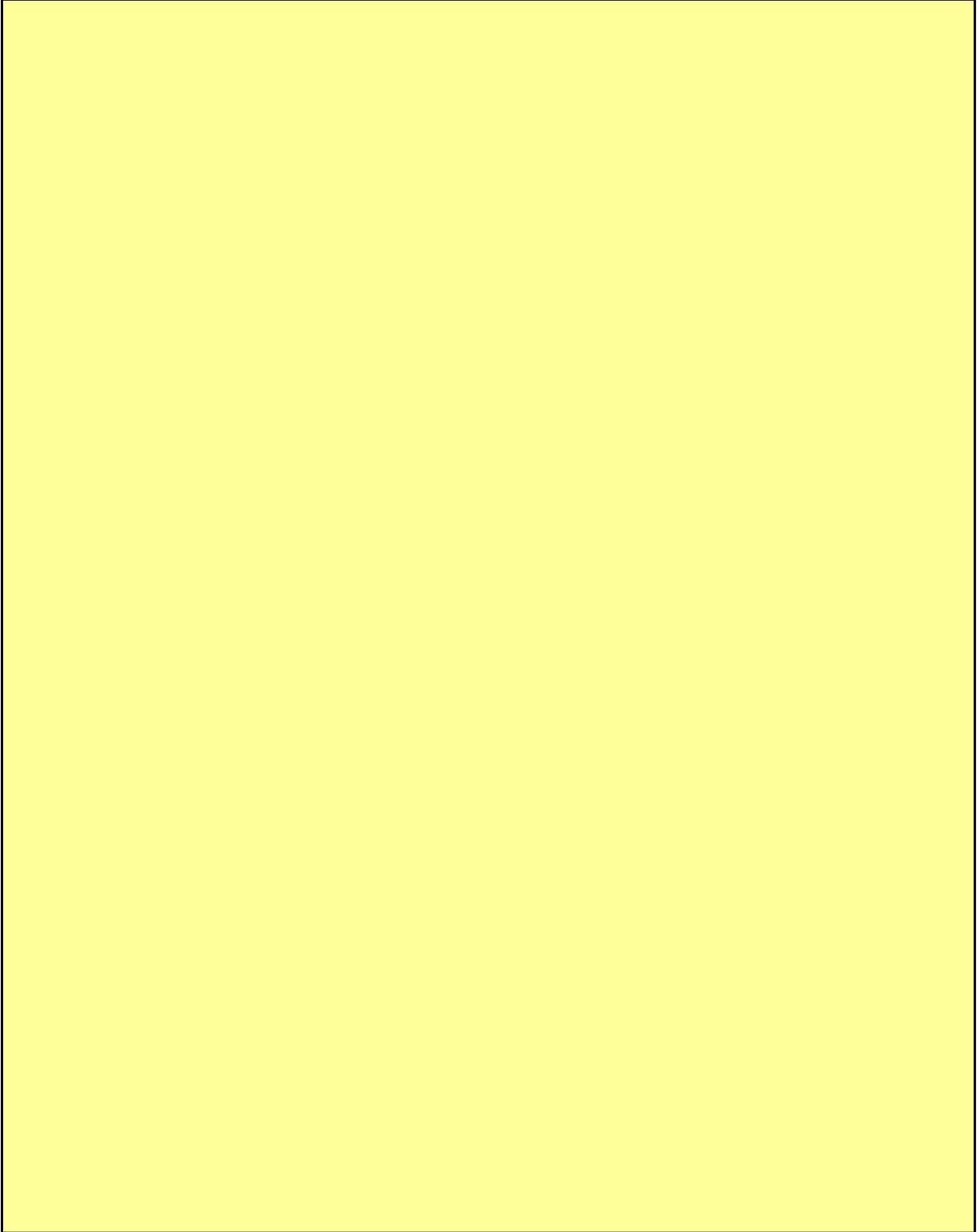
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	諸室不在時、未使用時の照明、空調の停止及び巡回確認の実施	R4	R4	
2	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	LED照明の間引き及び消灯	R4	R4	
3	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調設備の適切な温度管理	R4	R4	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0635	事業所番号	063501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉石心会病院		
事業所所在地	市区町村	狭山市	
	字・地番	入間川2-37-20	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	従業員数: 1,200人(R5.3.31現在 パート含む) 病床数: 450床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3期計画期間は年度平均で基準排出量の8%削減を目標にする。 (必要に応じ排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	23,842	t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量(計画期間合計)	2,074	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第4期計画期間は年度平均で基準排出量の15%削減を目標にする。 (必要に応じ排出量取引を活用する)				
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			3,062	2,916	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>		6,049	5,713		
前 年 度 比 ( % )	—		-5.6		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		6,049	5,713		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.1651	0.1570		
前 年 度 比 ( % )	—		-4.9		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
床面積	m <sup>2</sup>	36,630.57	36,389.14		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	1A病棟増設（R3 11月竣工 12月運用開始） 延べ床面積1143㎡ 主な負荷としては空調、照明、コンセント等が電気、給湯がプロパンガス。 令和3年11月より令和4年3月までのCO2排出量の増加として、電力の単独メーターがないため、前年度と比較し推定で113,121Kwh、プロパンガスは使用量（請求書ベース）で84.7m3、温室効果ガスの排出量は約50t増加と推測しております。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	倉庫として使用していた、民家2軒を解体・撤去(令和4年12月撤去済) 延床面積241㎡減となった。 空調関係設備や照明等のこまめな節電対策により、排出量が減少した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,479	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

3	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)		6,479	6,479	6,479	6,479	25,916
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)		8.00%	8.00%	8.00%	8.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						23,842
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						2,074
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)		6,049	5,713			11,762
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )		6.64%	11.82%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )		430	766			1,196
各年度の排出量の検証			未実施	未実施			

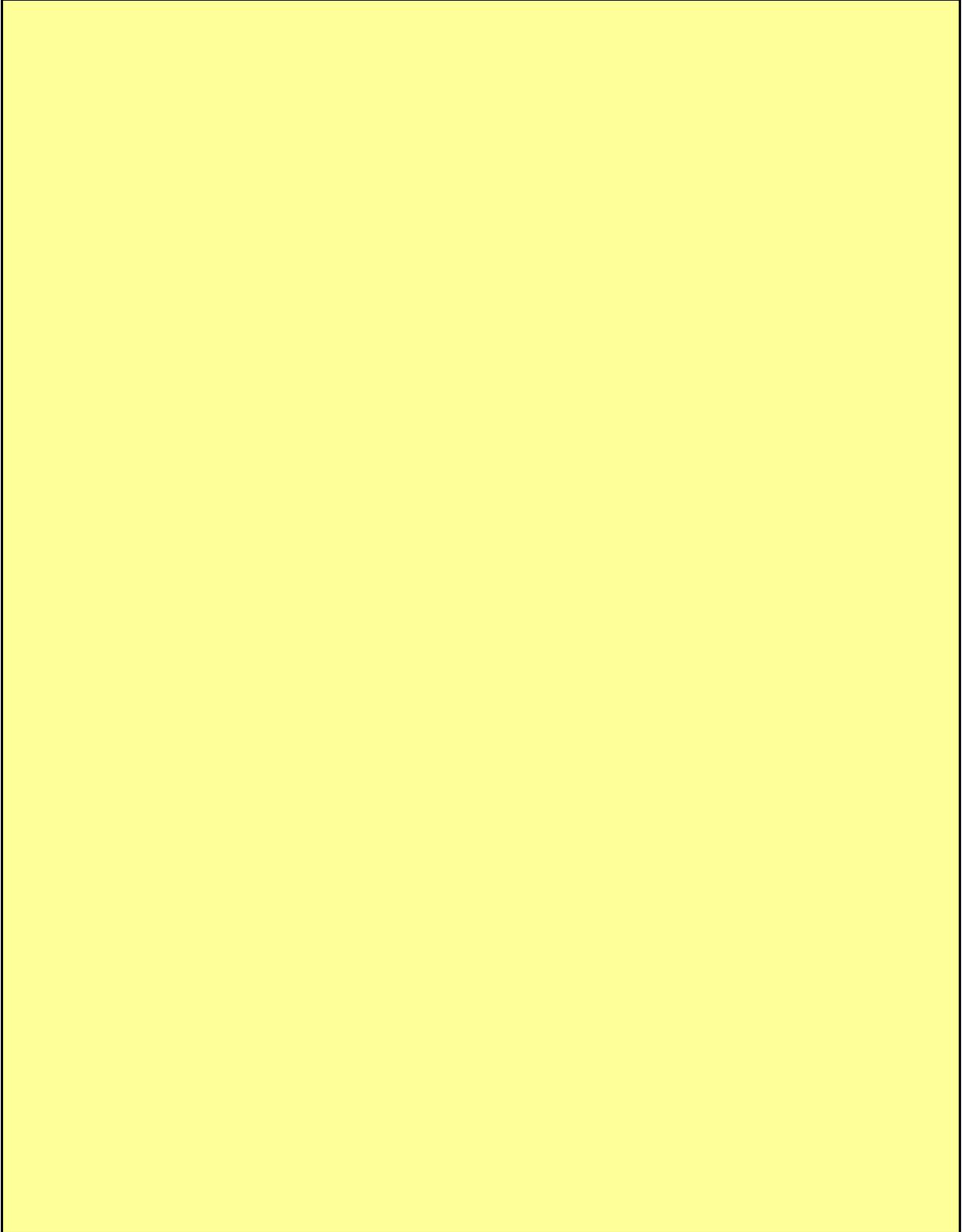
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	院内にエネルギー担当者を任命し、啓もう活動を実施	R4	R4	
2	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	諸室不在時、未使用時の照明、空調の停止及び巡回確認の実施	R4	R4	
3	130300		空気調和設備・換気設備 13_換気設備の運転管理	外調機の時限停止(夜間、休日)	R4	R4	130.0
4	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	暖房便座電源off(6月～10月)	R4	R4	3.3
5	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	暖房便座温度を高→低(11月～5月)	R4	R4	2.4
6	150200		受変電設備、照明設備、電気設備 15_照明設備の運用管理	LED照明の間引き及び消灯	R4	R4	10.7
7	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	空調機の室外機本体及び周辺床遮熱塗装による室外機運転効率アップ(15%削減)	R4	R4	586.0
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	アーケランズ株式会社			
所在地	新潟県三条市上須頃445番地			
事業者番号	0636			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	11,944	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)	(三郷店)22408	㎡		
産業分類名 (中分類)	60 その他の小売業			
分類番号 (中分類)	60			
事業活動の 概要	事業内容	小売事業（ホームセンター）、卸売事業、外食事業、不動産業、フィットネス事業、EC事業、リフォーム事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	6,462	百万円
		従業員数	12,575	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063600	ビバホーム上尾店	10,388
B、C事業所			
C	206801	アーケランズ株式会社 スーパービバホームさいたま新都心店・関東本部	1,556
合 計			11,944

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	関東本部 6階
		所在地 1	埼玉県さいたま市浦和区上木崎1丁目13番1号
		閲覧可能時間 1	月～金 10時～17時（土日除く、祝日）要事前連絡
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	SC事業部 SC運営課	048-610-0609	
2			
3			

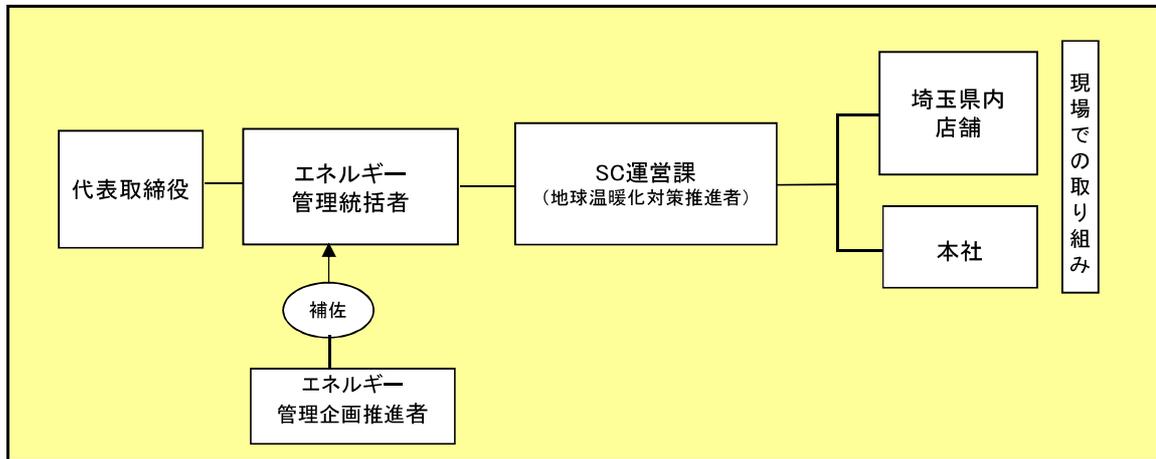
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

私達は、事業活動の環境効率を向上させ、環境への負荷を低減させます。特に、地球規模の課題である温暖化防止については、低炭素社会の実現に向けて重点的に取り組みます。

- ①環境負荷の少ない「省エネ型」の店舗運営を実践します。
- ②環境に配慮した商品づくりとお客様への提供を推進します。
- ③お客様と共に行動します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	22,430	24,117	23,421		
その他ガス					
温室効果ガスの計	22,430	24,117	23,421		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0636	事業所番号	063600
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ビバホーム上尾店	前年度における事業所数	20
代表事業所所在地	市区町村	上尾市	
	字・地番	上304	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	60 その他の小売業		
分類番号(中分類)	60		
事業活動の概要	総合小売業、住宅リフォーム及びプロショップ(各種工具、作業衣料、住宅設備機器、建築資材などを取り扱う専門店)		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	23.7454 <small>t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>×百万h</small>
	【第3計画期間】 令和2年度の排出量原単位を基準として、毎年1%以上ずつ改善する。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ビバホーム上尾店	上尾市上304
2	ビバホーム草加店	草加市谷塚仲町488
3	スーパービバホーム深谷店	深谷市上柴町東二丁目29番地8
4	ビバホーム日高店【6/26迄】 ビバホームプロ日高店【8/3開店】	日高市大字鹿山551番地
5	ビバホーム浦和さいど店	さいたま市緑区道祖土2丁目9番地22号
6	ビバホーム志木店	志木市柏町一丁目6番75号
7	スーパービバホーム鴻巣店	鴻巣市大字箕田1771番地1
8	ビバホーム東松山インター店	東松山市大字石橋1585番地10
9	スーパービバホーム埼玉大井店	ふじみ野市西鶴ヶ岡1丁目3番15号
10	スーパービバホーム三郷店	三郷市ピアラシティ1丁目1番地140
11	スーパービバホーム加須店	加須市下高柳1丁目7番
12	スーパービバホーム狭山日高インター飯能店	飯能市大字芦刈場字中原446番地
13	スーパービバホーム岩槻店	さいたま市岩槻区府内3丁目7番1号
14	スーパービバホーム春日部店	春日部市下柳769番地1
15	スーパービバホーム西川越店	川越市大字小室55番地
16	スーパービバホーム本庄店	本庄市中央2丁目4番60号
17	スーパービバホーム東松山モール店	東松山市神明町2丁目11番6号
18	スーパービバホーム蕨錦町店	蕨市錦町1-12-1
19	ホームセンタームサシ久喜菖蒲店	久喜市菖蒲町菖蒲7004番
20	DOG&CAT NICO PET 与野店	さいたま市中央区本町西5丁目5-7
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	9,891	10,706	10,388		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		19,400	21,001	20,368		
前年度比 (%)		—	8.3	-3.0		
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		19,400	21,001	20,368		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	23.7454	23.7454	19.6782	17.3705		
前年度比 (%)		—	-17.1	-11.7		
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	17.1	26.8		
活動規模の指標単単位		817.00	1,067.22	1,172.56		
床面積×年間営業時間	m <sup>2</sup> ×百万h					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	20年度に大型店（モール：本庄店・東松山モール店）を出店したため
令和3年度 (2021年度)	2022年1月 ビバホーム東松山インター店閉鎖、2021年3月オープンしたスーパービバホーム蕨錦町店が1年経過
令和4年度 (2022年度)	アークランドサカモトがビバホームを吸収合併したことによりアークランズ株式会社に社名変更となり、対象となる事業所が旧アークランドサカモトの2店舗分増えた（ホームセンタームサシ久喜菖蒲店、DOG&CAT NICO PET与野店）が、全社水光熱費削減活動を推進した結果、旧ビバホームの店舗においては電力使用量、ガス使用量を前年より削減できた事でエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量を前年に比べ3%削減できた。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区分 名称					
		大区分	中区分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	本社にて対象店舗全店の電力使用量を管理し、各店の担当者(店次長・総務担当者)と連動	R1以前	R1以前	20.0
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	デマンド監視装置の導入により、自店のムダな運用を見直す	R1以前	R1以前	30.0
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月別目標値の設定とデマンド目標値を設定し、電力使用量の管理とデマンド更新防止	R1以前	R1以前	50.0
4	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	空調設備の効率的運営については各店の改善事例を横展開して情報共有	R1以前	R1以前	50.0
5	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H30 GHP空調のみえる化を実現し、本社従業員への啓発活動を継続推進	R1以前	R1以前	40.0
6	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H31スーパービバホーム三郷店に新型GHP空調を導入(入替)。効果は最低▲20%以上のCO2削減となります。	R1以前	R1以前	50.0
7	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H32スーパービバホーム埼玉大井店に新型GHP空調を導入(入替)。効果は最低▲20%以上のCO2削減となります。	R1以前	R2	50.0
8	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	スーパービバホーム狭山日高インター飯能店の空調設備入替え	R4	R4	50.0
9	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し(使用量10%削減)	R4	R4	1,600.0
10	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間(電源ON/OFF)の見直し(使用量10%削減)	R4	R4	400.0
11	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し(令和3年度比で使用量20%削減)	R5		1,700.0
12	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間(電源ON/OFF)の見直し(令和3年度比で使用量20%削減)	R5		400.0
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 5 年度

事業者番号	0636	事業所番号	206801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	アーケランズ株式会社 スーパービバホームさいたま新都心店・関東本部		
事業所所在地	市区町村	さいたま市浦和区	
	字・地番	上木崎1丁目13番1号	
産業分類名(中分類)	60 その他の小売業		
分類番号(中分類)	60		
事業活動の概要	事業内容	総合小売業及び住宅リフォーム	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、R3年度までは各年度8%以上、R4年度以降は各年度15%以上の削減率とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	31,054	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	4,316	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,545	1,588	1,556		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,030	3,116	3,053		
前年度比 (%)	—	2.8	-2.0		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,030	3,116	3,053		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	3.3555	3.3362	3.2758		
前年度比 (%)	—	-0.6	-1.8		
活動規模の指標単 位	903.00	934.00	932.00		
従業員数	人				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	昨年から比較して変わらず。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量の増加要因は、コロナ禍の影響が緩和され、営業時間や定休日が元に戻った事による電力使用量UPによるもの。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	水光熱費高騰に伴い、全社活動としての電気・ガスの運用改善を実施したため（無駄な照明のカット、照明設備の稼働時間管理、空調の稼働時間の見直し並びに温度設定管理など）					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,074	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,074	7,074	7,074	7,074	7,074	35,370	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	8.00%	8.00%	15.00%	15.00%	15.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							31,054
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							4,316
実績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,030	3,116	3,053			9,199	
	削減率 (F = (A - E) / A)	57.17%	55.95%	56.84%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	4,044	3,958	4,021			12,023	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	環境組織を構築、第三計画期間も継続	R1以前	R2	5.0
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	デマンド監視装置の導入により本社及びホームセンター店舗の数値を分析し削減対策を実施。第三計画期間も継続	R1以前	R2	5.0
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	最新型LED照明器具を導入、運用面でも営業外時間の使用を管理しています。第三計画期間も継続	R1以前	R2	1.0
4	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月の使用料の見える化(本社6F、7F)により全従業員に使用量削減を指導しています。	R1以前	R2	2.0
5	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	GHP空調のみえる化を推進します(本社)週管理の実施により啓発活動を強化します。	R1以前	R2	3.0
6	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し(使用量10%削減)	R4	R4	290.0
7	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間(電源ON/OFF)の見直し(使用量10%削減)	R4	R4	25.0
8	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し(令和3年使用量10%削減)	R5		290.0
9	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間(電源ON/OFF)の見直し(令和3年使用量10%削減)	R5		25.0
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, enclosed within a black border. The area is currently blank.

令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		医療法人徳洲会	
所在地		東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階	
事業者番号		0637	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		3,591	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		83 医療業	
分類番号 (中分類)		83	
事業活動の 概要	事業内容	医療業	
	区分	その他	
	前年度	資本金	百万円
		従業員数	1,100 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063700	医療法人徳洲会 皆野病院	1,035
B、C事業所			
C	063701	医療法人徳洲会 羽生総合病院	2,556
合 計			3,591

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1 羽生総合病院 総務課
		所在地 1 埼玉県羽生市下岩瀬446
		閲覧可能時間 1 AM9:00～PM:17:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

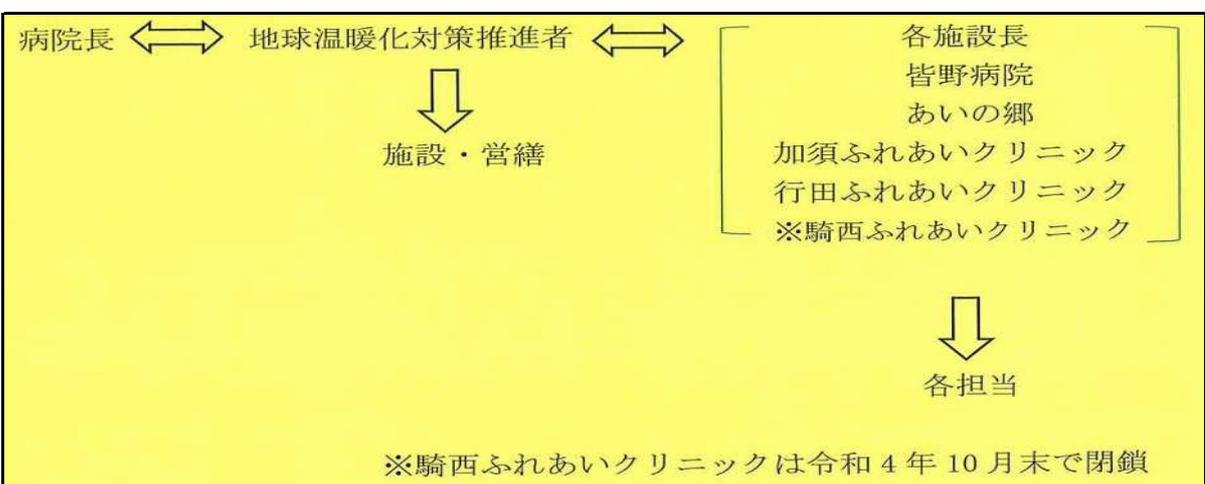
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	施設・営繕	048-501-6533	setubi@fureaihosp.or.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

不必要なエネルギー消費を無くし、最適で高効率なエネルギーの使用を目指す。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,806	7,862	8,074		
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,806	7,862	8,074		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0637	事業所番号	063700
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	医療法人徳洲会 皆野病院	前年度における事業所数	6
代表事業所所在地	市区町村	秩父郡皆野町	
	字・地番	皆野2031-1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	医療業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	温室効果ガス排出を毎年、前年比で0.2%削減				
	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	医療法人徳洲会 皆野病院	秩父郡皆野町皆野2031-1
2	介護老人保健施設あいの郷	羽生市桑崎196-1
3	騎西ふれあいクリニック	加須市騎西1352-3
4	加須ふれあいクリニック	加須市下三俣1790-1
5	行田ふれあいクリニック	行田市持田3-15-23
6	須影ほのぼのホーム	羽生市下川崎八幡前394-1395
7		
8	※騎西ふれあいクリニックは令和4年10月末で閉鎖	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	586	1,013	1,035		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		1,292	2,217	2,269		
前年度比 (%)		—	71.6	2.3		
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温室効果ガスの合計		1,292	2,217	2,269		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.1138	0.1076	0.1138		
前年度比 (%)		—	-5.5	5.8		
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単 位					
延べ床面積	m <sup>2</sup>	11,354.00	20,606.75	19,939.75		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	高効率設備に更新したことによる省エネルギー効果で排出量が減少した。
令和3年度 (2021年度)	新型コロナウイルス感染患者増加に伴い入院患者も増加した為。
令和4年度 (2022年度)	令和5年10月末で騎西ふれあいクリニック(667㎡)閉鎖に伴い延べ床面積が減少した。 夏場の気温が高く、冷房で使用する吸収式冷温水発生器の運転時間等の増加で灯油の使用量が増加した。 また、クリニック等でエアコンの使用が増え、電気も使用量が増加した為。
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

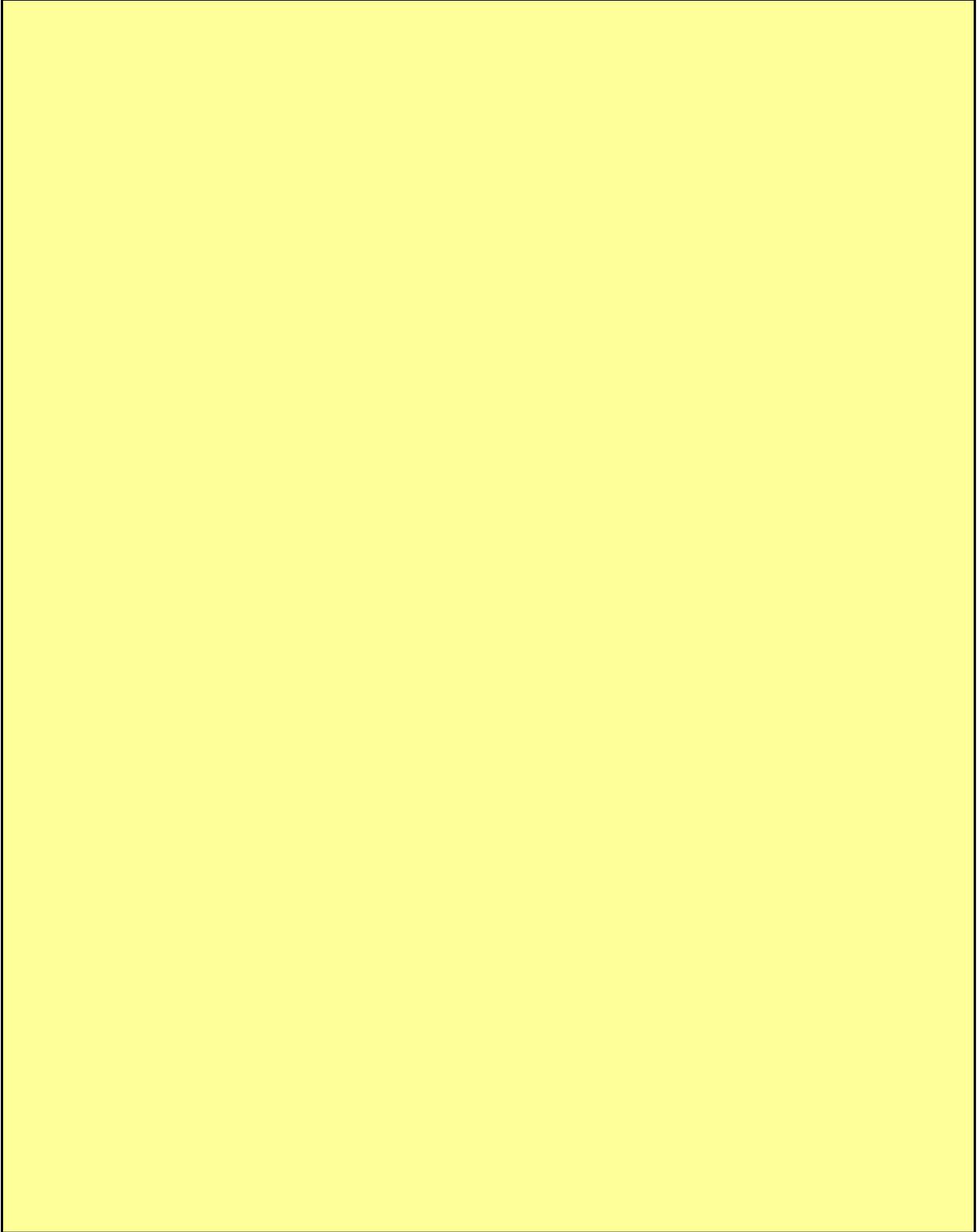
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	照明設備をLEDに変更【継続実施】	R3	R3	
2	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運転 管理	エアコンの買換えを行う際には省エネ対応の 商品を	R2	R2	
3	110200	一般管理事 項	11_主要設備等の保 全管理	老朽した設備の修理、点検回数を増やす。	R2	R2	
4	110200	一般管理事 項	11_主要設備等の保 全管理	老朽化した設備の修繕、入れ替え	R4	R4	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0637	事業所番号	063701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	医療法人徳洲会 羽生総合病院		
事業所所在地	市区町村	羽生市	
	字・地番	下岩瀬446	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	病床数311床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	平成31年度排出量を基準として削減計画期間の平均削減率を8%を目標とする。				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,426	2,498	2,556		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,514	5,645	5,805		
前年度比 (%)	—	2.4	2.8		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,514	5,645	5,805		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1778	0.1690	0.1730		
前年度比 (%)	—	-4.9	2.4		
活動規模の指標	単位				
延べ床面積	m <sup>2</sup>	31,021.00	33,409.96	33,551.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
夏場の気温が高く、多くエアコンを使用した。また、2021年1月から新型コロナウイルス感染症病棟(仮設)80床を増床稼働指せたため増加した。						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
新型コロナウイルス蔓延の為、診療行為の増大による排出量増加。						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
ワークプレイスを拡張した為、面積の増加(141.04㎡)。 夏場の気温が高く、冷房で使用する吸収式冷温水発生器の運転時間等の増加で重油の使用量が増加した。 新規の医療器械(ダビンチ・ハイブリット手術台・バイプレーン血管造影装置)を複数設置した為、電気の使用量も増加した。						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,514	5,645	5,805			16,964
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

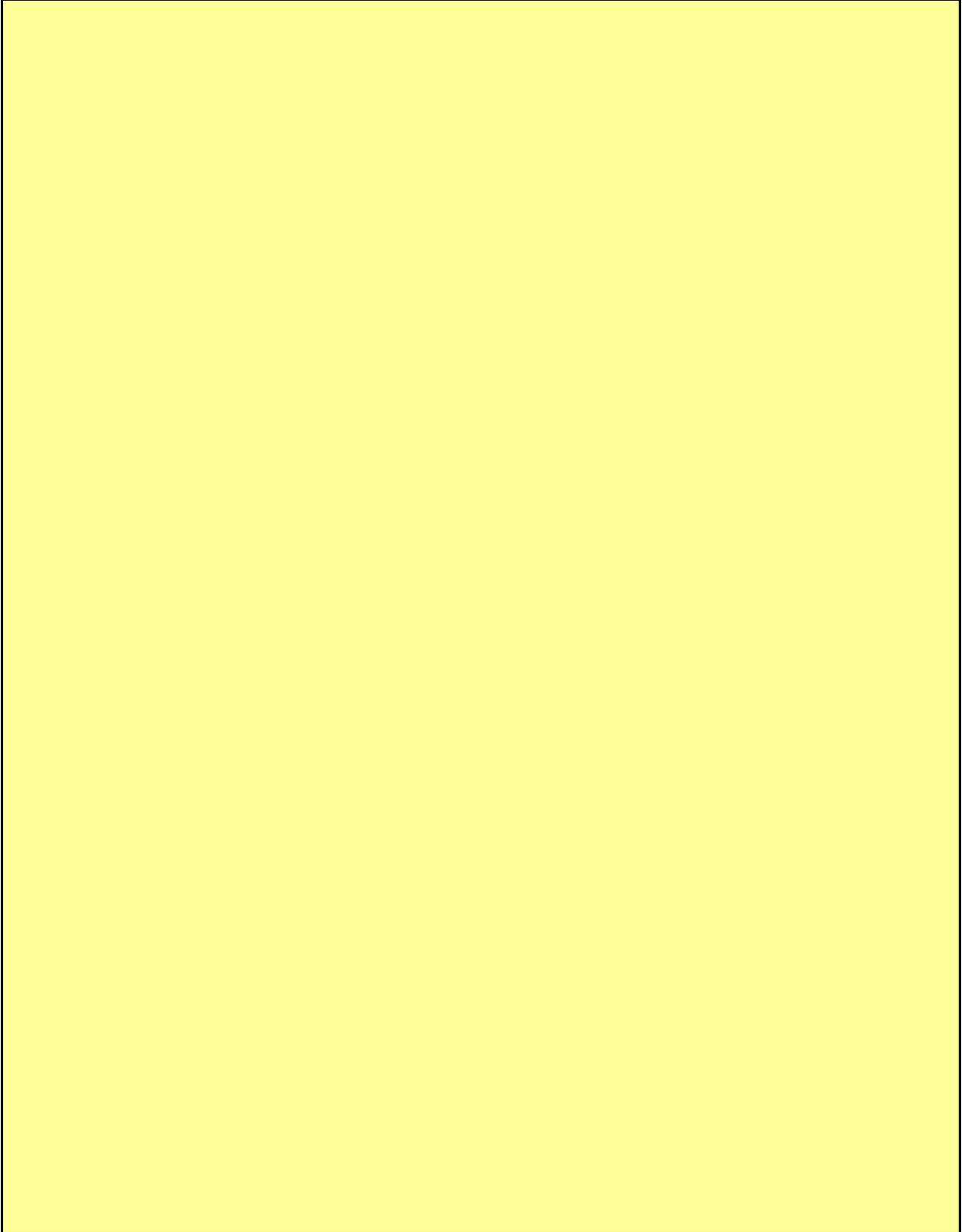
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	デマンドでのエネルギー管理【毎年度継続実施】	R3	R3	
2	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	エアコンの温度管理 夏季28℃【毎年度継続実施】	R3	R3	
3	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	エアコンの間欠運転を行い、稼働時間を削減する。	R3	R3	
4	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エアコンの間欠運転を行い、稼働時間を削減する。	R4	R4	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社ファイントゥデイインダストリーズ		
所在地	埼玉県久喜市清久町5番		
事業者番号	0638		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	5,017	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>	
産業分類名 (中分類)	16 化学工業		
分類番号 (中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	シャンプー・リンス、クリーム、洗顔料などのパーソナルケア製品の生産	
	区分	企業	
	前年度	資本金	100 百万円
		従業員数	668 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所 種別	事業所 番号	事業所名	前年度の原油換算 エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	003601	(株) ファイントゥデイインダストリーズ	5,017
合 計			5,017

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合 は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社ファイントゥデイインダストリーズ
		所在地 1	埼玉県久喜市清久町5番
		閲覧可能 時間 1	平日9時から16時
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能 時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	エンジニアリング部	070-3859-0385	
2			
3			

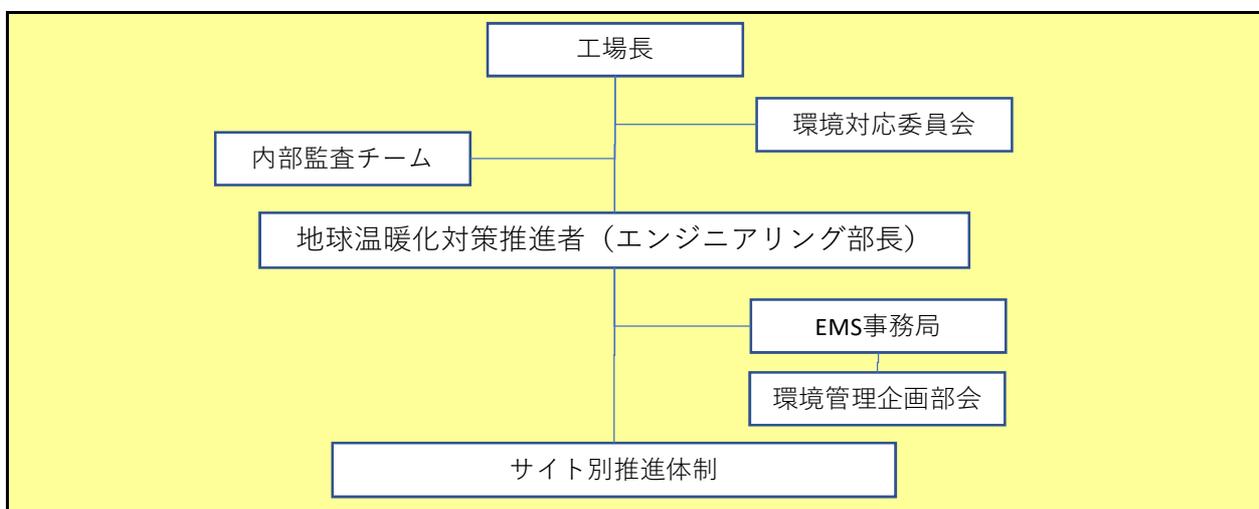
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

【環境方針】

私たちは、事業活動を通じ地球環境保全に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。  
 1. 環境関連の法規制、協定などの遵守に加え、自主管理基準値を設定し、環境汚染の予防に努めます。  
 2. CO2、水、廃棄物の削減活動を推進し、生物多様性の保全に積極的に取り組み、環境に優しい工場を目指します。  
 3. 環境に配慮した技術の開発に取り組みます。  
 4. 環境意識の工場となる風土づくりに取り組みます。  
 5. 地域社会とのコミュニケーションを充実させ、協同して環境活動に取り組みます。  
 《この環境方針は社外に公表します》

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	9,650	7,536	6,045		
その他ガス					
温室効果ガスの計	9,650	7,536	6,045		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0638	事業所番号	003601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	(株) ファイントゥデイインダストリーズ		
事業所所在地	市区町村	久喜市	
	字・地番	清久町5番	
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	主な製造品 シャンプー・リンス・クリーム・洗顔料 従業員668名(令和5年6月時点)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率20%とする			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	49,336	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	12,334	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,948	5,046	5,017		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	9,650	7,536	6,045		
前 年 度 比 ( % )	—	-21.9	-19.8		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	9,650	7,536	6,045		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2611	0.1736	0.1484		
前 年 度 比 ( % )	—	-33.5	-14.5		
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産数量	36,954.00	43,402.00	40,732.00		
	万個/年				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<p>【増加の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>充填設備の再配 (化粧品・小型パウチパック製品の生産体制の整備)</li> </ul> <p>【減少の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産数量減 2020年36,954万個 2019年度43,270万個</li> <li>省エネ設備投資の推進 (照明LED化工事)</li> </ul> <p>令和2年度は、 充填設備の再配により約70t<sub>CO2</sub>の増加があったものの、 生産数量の大幅減と照明のLED化により約1000t<sub>CO2</sub>減少したため 結果、令和元年に対し959tのCO<sub>2</sub>減少となった。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<p>【増加の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>充填設備の導入 (ジャーライン導入)</li> </ul> <p>【減少の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ設備投資の推進 (空調外調機にミラクロイル検討、照明LED化の継続推進)、低炭素電力の導入</li> <li>生産数量増 2021年度43,402万個、2020年度36,954万個</li> </ul>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<p>【増加の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造および充填設備の再配置</li> </ul> <p>【減少の要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>証明LED化の継続推進、老朽化した空調機の更新、受変電設備の更新</li> <li>生産数量減 2022年度40,732万個、2021年度43,402万個</li> </ul>					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	12,334	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	12,334	12,334	12,334	12,334	12,334	61,670	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							49,336
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							12,334
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	9,650	7,536	6,045			23,231	
	削減率 (F = (A - E) / A)	21.76%	38.90%	50.99%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,684	4,798	6,289			13,771	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済				

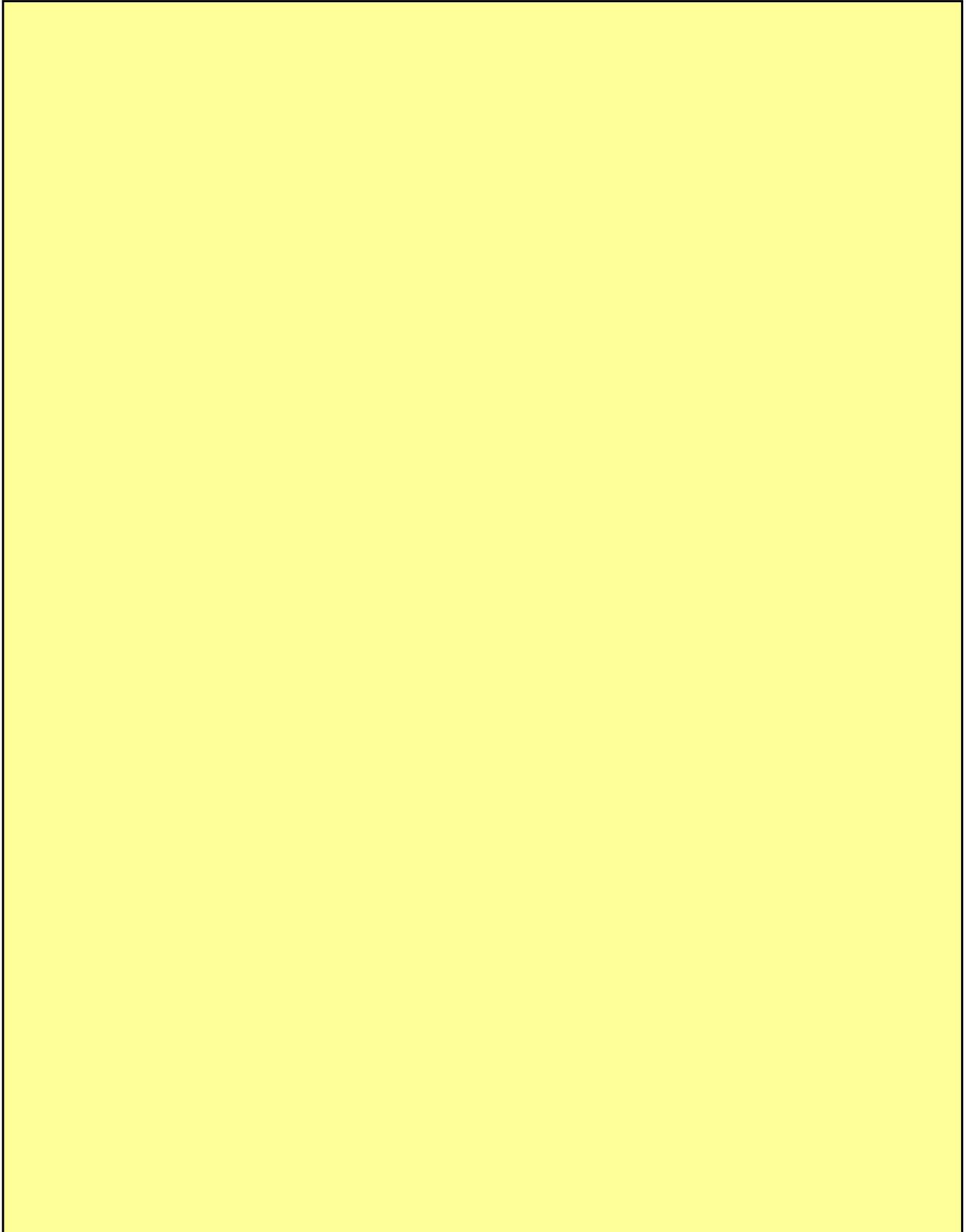
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	環境対応委員会(1回/月)、環境管理企画部会(2回/年)、内部監査計画実施	R4	R4	
2	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	エネルギー使用量を毎月月報として集計	R4	R4	
3	150100		受変電設備、 照明設備、 電気設備 15_受変電設備の管理	充填建屋の受変電設備を更新	R4	R4	
4	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	製造・充填建屋、倉庫建屋他の照明LED化工事	R4	R4	33.0
5	130200		空気調和設 備・換気設備 13_空気調和設備の 効率管理	空調機の老朽更新	R4	R4	5.0
6	110300		一般管理事項 11_計測及び記録の 管理	電気使用量のみえる化(EMSシステムの導入)	R4	R4	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 YKベークینگカンパニー			
所在地	大阪府大阪市東淀川区豊新2-16-14			
事業者番号	0639			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,302	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の概要	事業内容	パン・洋菓子・冷凍生地・デリカ食品の製造販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	310	百万円
		従業員数	1,396	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	045701	株式会社 YKベーキングカンパニー 東京工場	2,302
合 計			2,302

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 東京工場 工務課 工務係
		所在地 1 埼玉県戸田市川岸1-2-36
		閲覧可能時間 1 9時～17時（土日除く）
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	工務課	048-442-2971	tk-koumu@ykbaking.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

「地域社会への貢献」を企業使命と捉え、環境負荷の少ない企業活動を推進し、環境保全に努めます。

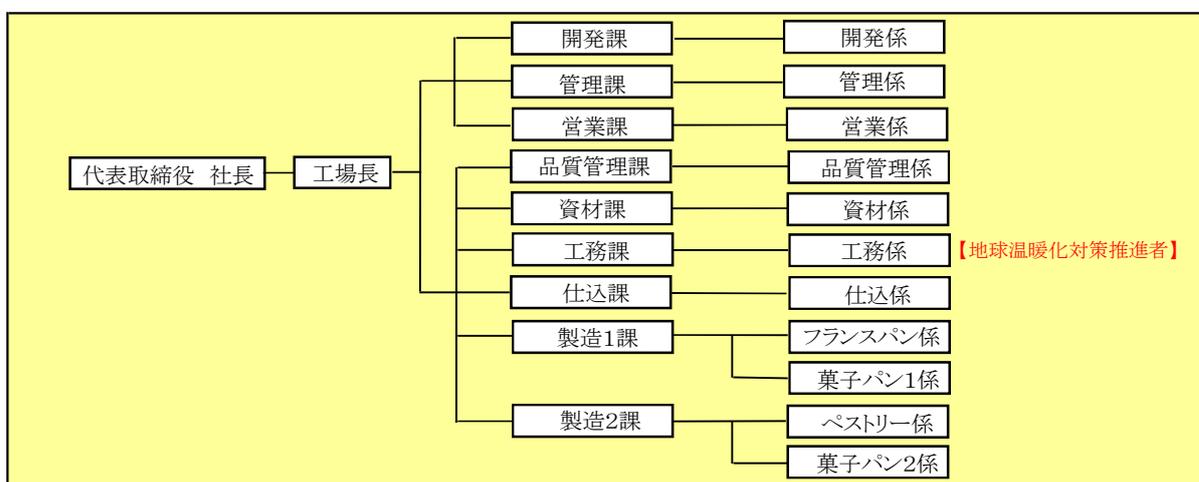
①企業活動による環境への影響を考慮し、廃棄物等の極少化、資源・エネルギーの有効活用およびリサイクル活動に積極的に努めます

②関連する環境法規制を遵守すると共に、独自に目標を定め自主的な活動に取り組みます

③従業員へ環境に対する教育を実施し、ひとりひとりの理解を深め環境保全活動を励行します

④地域社会へ貢献します

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,536	4,536	4,499		
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,536	4,536	4,499		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0639	事業所番号	045701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 YKベーキングカンパニー 東京工場		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	川岸1-2-36	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	パン製造 営業拠点 製品仕分け・配送拠点 従業員数: 約300人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	・基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,316	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,329	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,321	2,322	2,302		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,536	4,536	4,499		
前 年 度 比 ( % )	—	0.0	-0.8		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,536	4,536	4,499		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.7831	0.7281	0.6608		
前 年 度 比 ( % )	—	-7.0	-9.2		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産高	百万円/年	5,792.08	6,229.72	6,808.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比104.4%  活動規模の指標（生産高）は前年度比104.8%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増加比率と生産高の増加比率では若干ではありますが生産高の方が上昇していることからエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は0.4%の改善となっています。要因としては生産効率の向上や省エネ活動によるエネルギー使用の改善が考えられます。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比100.0%  活動規模の指標（生産高）は前年度比107.6%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度と同等に対して生産高の増加が大きいことからエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は前年度比7.0%の改善となっています。要因としては東京事業所での生産集約や生産効率の向上、また省エネ活動によるエネルギー使用の改善が考えられます。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比99.2%  活動規模の指標（生産高）は前年度比109.3%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度とほぼ同等に対し、生産高が増加することができ、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は前年度比9.2%の改善となっています。要因としては東京工場での生産集約や生産効率向上、原材料である小麦粉単価上昇につき、一部の製品値上げの影響が考えられます。</p>					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,329	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,329	7,329	7,329	7,329	7,329	36,645
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						29,316
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						7,329
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,536	4,536	4,499			13,571
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	38.11%	38.11%	38.61%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,793	2,793	2,830			8,416
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアコンプレッサー更新 (22kWから15kWインバーター付に更新)	R4	R4	30.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯器具をLED照明器具へやりかえ実施。61台。	R3	R3	25.6
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内蛍光灯のLED照明器具へやりかえ実施 (1356台：全体の93.5%)	R4	R4	569.0
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	川越製薬株式会社			
所在地	埼玉県川越市南台1-3-2			
事業者番号	0640			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,980	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の 概要	事業内容	医薬品等の製造販売・輸入、研究開発 (サノフィ株式会社川越事業所を承継)		
	区分	企業		
	前年度	資本金	10	百万円
		従業員数	318	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	016001	川越製薬株式会社 川越工場	2,980
合 計			2,980

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1 川越製薬株式会社 川越工場
		所在地 1 埼玉県川越市南台1-3-2
		閲覧可能時間 1 9：00～16：00（昼休み時間を除く）事前連絡要
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

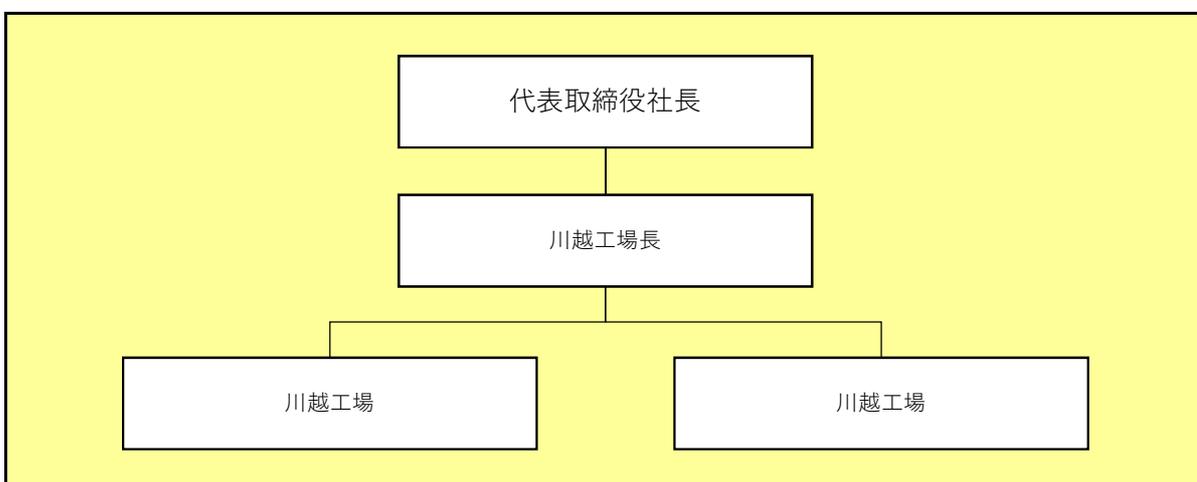
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	HSE・総務部	049-243-1273	saitama-ghg@adragos-pharma.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

別紙参照

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,846	5,186	4,614		
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,846	5,186	4,614		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

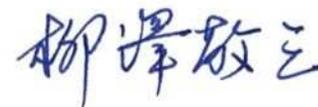
## HSE policy

- Implement and maintain an occupational safety and health/environmental (HSE) management system, and work on continuous improvement.
- Aim to foster a corporate culture in which all employees and organizations take responsibility for realizing occupational safety, health, and environmental conservation from their respective standpoints, and work spontaneously.
- Contribute to the conservation of the global environment by minimizing the environmental impact of our operations and the consumption of natural resources and energy and using chemical substances.
- Build a working environment where employees can continue to be healthy, safe, and comfortable in both mind and body.
- Strive to disclose information so that everyone in the community can feel at ease and engaged.
- Appropriately allocate the necessary management resources to achieve the above.

## HSE 方針

- 労働安全衛生／環境マネジメントシステムを構築、維持し、継続的な改善に取り組みます。
- 社内すべての従業員・組織が、それぞれの立場で労働安全衛生や環境保全を実現する上での責任を認識し、自発的に取り組む企業文化を醸成します。
- 事業活動による環境への影響や、資源・エネルギーの消費、化学物質による環境負荷を最低限に抑え、地球環境の保全に貢献します。
- 従業員が心身共に健康、安全、快適な職場環境を維持します。
- 地域の皆様に我々の活動を理解してもらい、安心していただけるよう、情報公開に努めます。
- 上記実行のために、必要な経営資源を適切に配分します。

川越製薬株式会社  
代表取締役社長  
柳澤 敬三



川越製薬株式会社  
取締役 川越工場 工場長  
黒米 正憲



令和 5 年度

事業者番号	0640	事業所番号	016001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	川越製薬株式会社 川越工場		
事業所所在地	市区町村	川越市	
	字・地番	南台一丁目3番地2	
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	医薬品の検査、包装 従業員数：318名 敷地面積：56,189 m <sup>2</sup>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】 省エネルギー対策計画の推進により、令和2年度から令和6年度末までの排出量を基準排出量(8,708t-CO <sub>2</sub> )に対し、年平均20%以上削減する。			
	その他ガス	該当なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	34,832	t-CO <sub>2</sub>	第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	8,708	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,604	3,146	2,980		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,846	5,186	4,614		
前年度比 (%)	—	-24.2	-11.0		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	6,846	5,186	4,614		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1880	0.1424	0.1267		
前年度比 (%)	—	-24.2	-11.0		
活動規模の指標	単位				
延床面積	m <sup>2</sup>	36,410.00	36,410.00	36,410.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>下記の要因により、全体として、CO<sub>2</sub>排出量が前年比で約4%減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年10月に医薬品製造工場から包装工場へと移行した。製造機器の停止により消費電力量が減少した。</li> <li>・2020年11月以降に低炭素電力の購入を開始した。</li> <li>・バーコード捺印・検査機×1台の導入により消費電力量が微増となった。</li> <li>・空調機AC-20に外調機を導入。冷水及び蒸気消費量が減少した。</li> <li>・中間製品保管室、固形製剤包装室(2)、外灯、非常灯の一部のLED化を実施。消費電力量がわずかに減少した。</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>下記の要因により、CO<sub>2</sub>排出量が前年比で約24%減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年05月に医工場(1)の空調機AC-7を休止した。電力及び蒸気消費量が減少した。</li> <li>・2021年08月に錠剤検査室(7)の照明をLED化した。</li> <li>・2021年10月に医工場(5)を休止した。電力及び蒸気消費量が減少した。</li> <li>・2021年11月より低炭素電力の購入割合を50%に増加させた。</li> <li>・2022年01月に医工場(1)の一部を休止した。電力及び蒸気消費量が減少した。</li> </ul>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>下記の要因により、CO<sub>2</sub>排出量が前年比で約11%減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年04月～2023年10月まで消費電力の50%を低炭素電力とした。</li> <li>・2022年10月に事務棟(2)検査室(6)を移転し、空調機AC-9よりもサイズの小さい空調機AC-6を使用することとした。</li> <li>・2022年12月に施設棟の照明をLED化した。</li> <li>・2022年12月に医工場(3)のクリーンルーム以外の照明をLED化した。</li> </ul>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	8,708	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,708	8,708	8,708	8,708	8,708	43,540	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							34,832
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							8,708
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,846	5,186	4,614			16,646	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	21.38%	40.45%	47.01%			—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,862	3,522	4,094			9,478	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

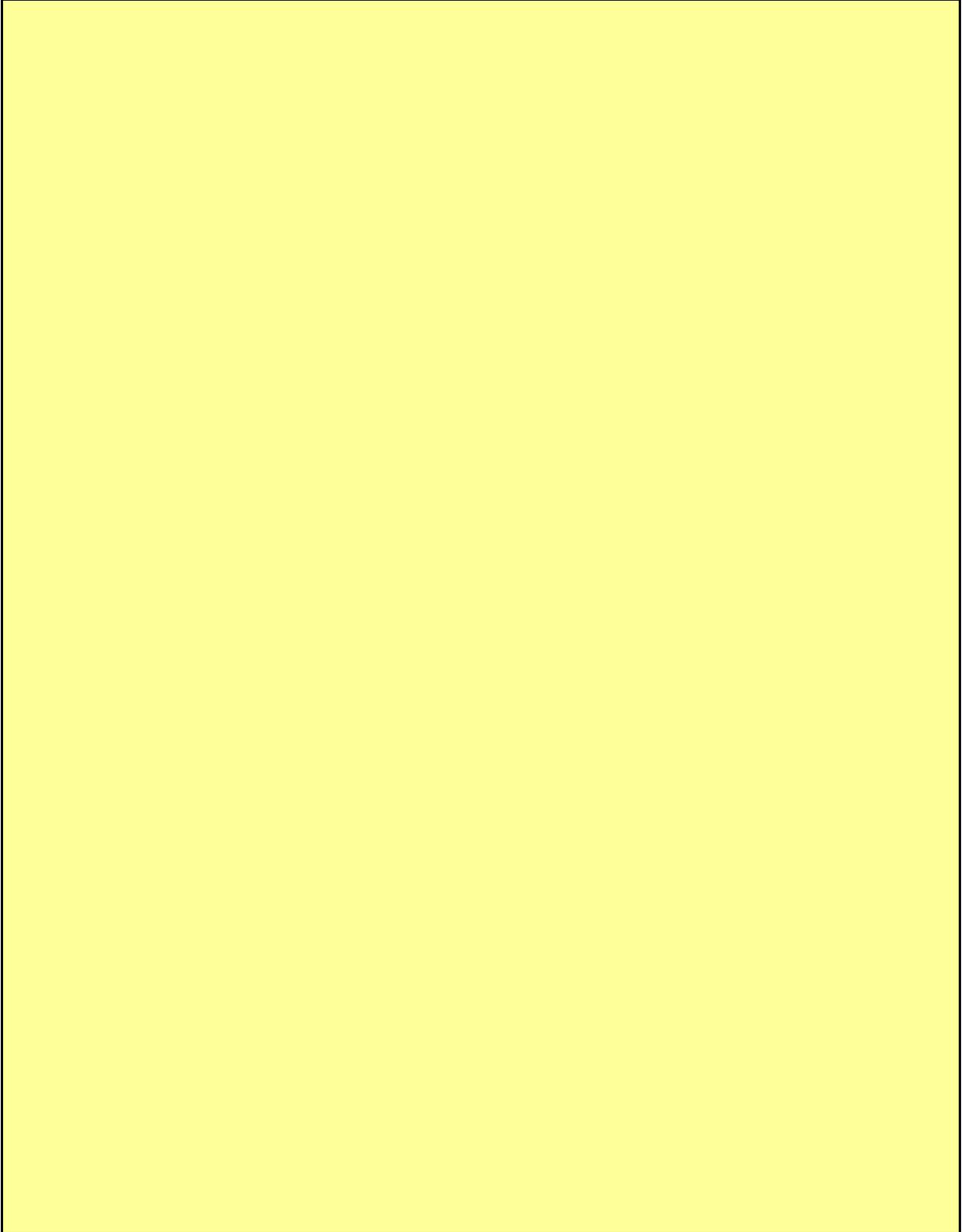
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	医薬品工場(3) AC-20に外調機方式を導入	R2	R2	21.0
2	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	医薬品工場(1)AC-1、2の統合	R3	R3	700.0
3	490200		その他	49_その他の削減対策	医薬品工場(5)の休止	R3	R3	75.0
4	490200		その他	49_その他の削減対策	低炭素電力の購入(アクアプレミアム)	R2	R2	600.0
5	490200		その他	49_その他の削減対策	低炭素電力の購入(グリーンベーシックプラン)	R3	R3	900.0
6	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	事務棟(1)、医工場(3)、施設棟の照明のLED化	R4	R4	18.0
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社STIデリカ			
所在地	東京都港区南青山1-15-14 新乃木坂ビル4F			
事業者番号	0641			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	1,933	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の概要	事業内容	焼魚、サラダ系そう菜製造し、コンビニエンスチェーンに供給		
	区分	企業		
	前年度	資本金	10	百万円
		従業員数	280	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	064101	株式会社STIデリカ	1,933
合 計			1,933

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 STIデリカ 白岡工場
		所在地 1 埼玉県白岡市下大崎747-2
		閲覧可能時間 1 9:00~18:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	管理部	0480-90-5361	
2			
3			

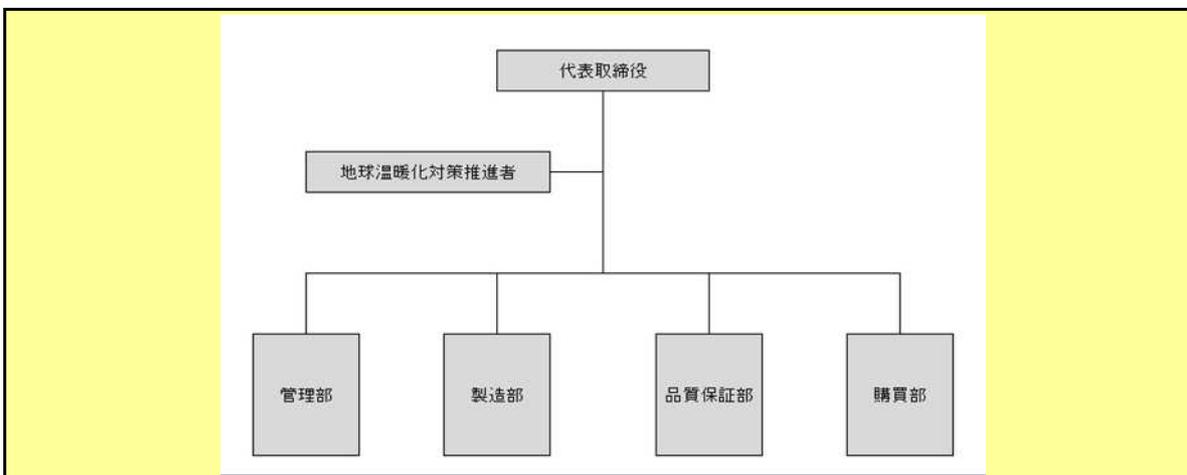
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

（基本方針）  
 地球環境保全是経営の最重要課題のひとつであると認識し、持続可能な社会の実現に向けて、継続的な改善活動に取り組んでまいります。

①環境目的及び環境目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的改善を推進する。  
 ②事業活動に関連する環境関連法規制等を遵守する。  
 ③創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,180	3,775	4,017		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,180	3,775	4,017		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0641	事業所番号	064101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社STIデリカ		
事業所所在地	市区町村	白岡市下大崎	
	字・地番	747-2	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	焼魚、サラダ系そう菜を製造して コンビニエンスチェーンへの販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		5	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を6%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間			年度	~		年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,549	1,820	1,933		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,180	3,775	4,017		
前 年 度 比 ( % )	—	18.7	6.4		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,180	3,775	4,017		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0004	0.0001	0.0001		
前 年 度 比 ( % )	—	-70.3	2.0		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	食	7,136,890.00	28,517,279.00	29,739,534.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
生産数量の大幅増加により製造機械等工場全体の稼働時間が増加し、CO <sub>2</sub> 排出量が18.7%増加した。						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
生産数量が前年比4.3%増加、製造機械等工場全体の稼働時間が増加したため、CO <sub>2</sub> 排出量が6.4%増加した。						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

5	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,180	3,775	4,017			10,972
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

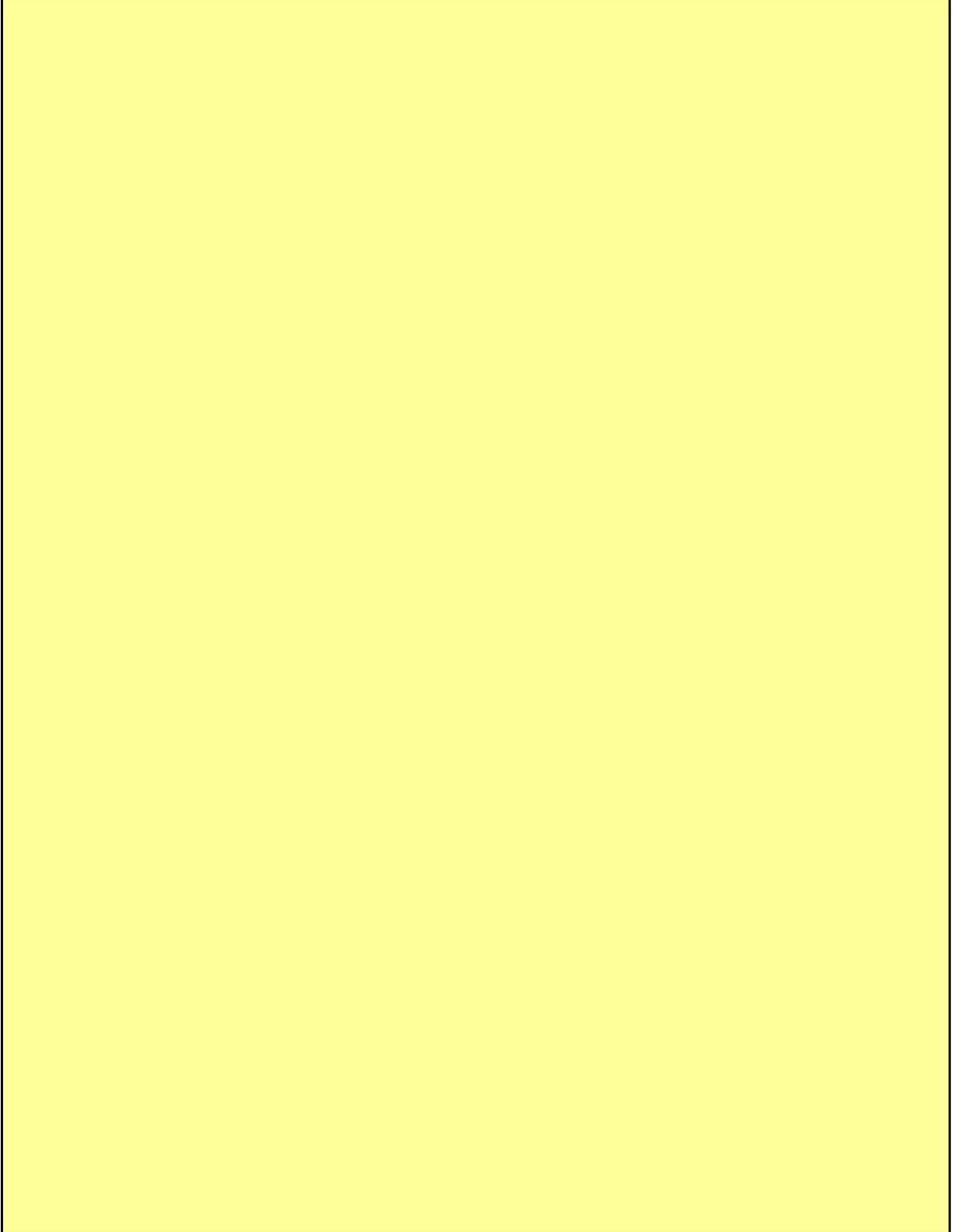
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	省エネ、地球温暖化対策推進会議 (1回/月)	R5	R5	
2	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し記録表を作成	R5	R5	
3	410700		事務用機器 41_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	退社時におけるQA機器の電源OFFの徹底 (待機電力削減)	R5	R5	1.0
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	竹田印刷株式会社			
所在地	名古屋市昭和区白金1丁目11番10号			
事業者番号	0643			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,269	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	○カタログ・パンフレット、美術印刷物、書籍等の商業 用・出版用印刷物の企画・デザイン・印刷 ○マルチメディア関連の企画・制作 ○半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および機械機器 類の販売 ○文具・日用雑貨等のネット販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50	百万円
		従業員数	464	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	006001	竹田印刷株式会社 越谷工場	1,269
合 計			1,269

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	越谷工場
		所在地 1	埼玉県越谷市大字西方2603
		閲覧可能時間 1	月～金曜日, 9～17時 (祝日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

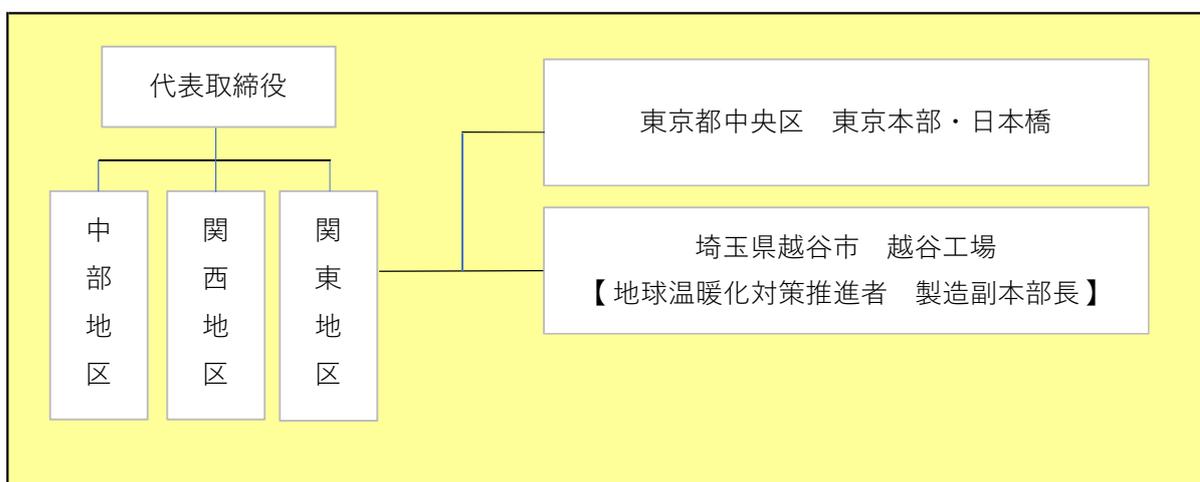
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部総務課	048-987-6684	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

紙媒体とデジタル媒体の融合を促進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系保護を含め環境保全意識の向上を図り環境への負荷を減らす取組を積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,289	2,992	2,487		
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,289	2,992	2,487		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0643	事業所番号	006001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	竹田印刷株式会社 越谷工場		
事業所所在地	市区町村	越谷市	
	字・地番	大字西方2603番地	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	事業内容:印刷 従業員数:64名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。(達成できない場合、排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	14,784	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
		削減目標量(計画期間合計)	3,696	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,679	1,528	1,269		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,289	2,992	2,487		
前 年 度 比 ( % )	—	-9.0	-16.9		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,289	2,992	2,487		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0076	0.0080	0.0088		
前 年 度 比 ( % )	—	5.9	10.5		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	千枚/年	434,987.00	373,606.00	281,083.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>電気使用量前年比89%・ガス使用量前年比85%共に輪転印刷機の受注減少が主な要因（輪転生産枚数前年比87%・輪転就業時間前年比85%）です。 9月に37kwコンプレッサー（インバーター式）1台の更新を行っている為、数値として把握はできませんが、電気使用量の低減に影響しているものと思われます。 数値として把握できませんが、5月よりデマンド監視装置を導入し、ピーク抑制の管理等を行っています。</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>電気使用量前年比92%・ガス使用量前年比89%共に輪転印刷及び枚葉印刷の受注減少が主な要因（輪転生産枚数前年比87%・輪転就業時間前年比87%・枚葉生産枚数比73%枚葉就業時間前年比81%）です。 影響する要素 6月-37kwコンプレッサー（インバーター式）1台の更新-電気使用量の低減 上中里事業所移転による影響 12月-空調の新設（28kw×1, 34kw×1, 17kw×2）-電気使用量の増加 1月-製造部門に関わるPC等の機器を越谷工場へ移設-電気使用量の増加 1月-人員15名の増加-電気使用量の増加</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>電気使用量前年比86%・ガス使用量前年比75%共に輪転印刷及び枚葉印刷の受注減少が主な要因（輪転生産枚数前年比76%・輪転就業時間前年比80%・枚葉生産枚数比68%枚葉就業時間前年比72%）です。 影響する要素 印刷受注減少</p>						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,551	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1	2年度	-916
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,940	3,635	3,635	3,635	3,635	18,480	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							14,784
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							3,696
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,289	2,992	2,487			8,768	
	削減率 (F = (A - E) / A)	16.52%	17.69%	31.58%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	651	643	1,148			2,442	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施				

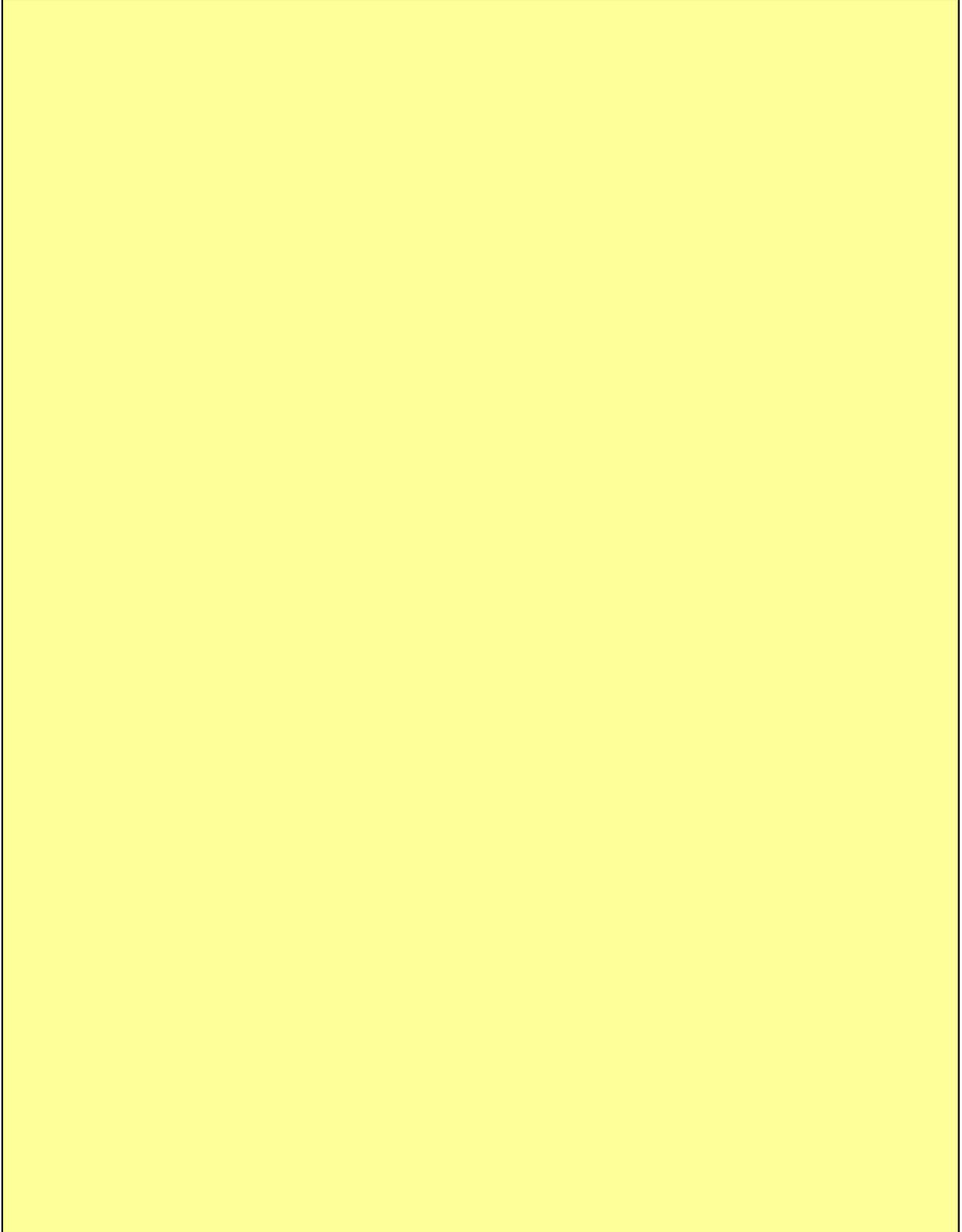
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	エネルギー使用状況の監視	R3	R3	
2	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	各設備のメンテナンスの実施	R3	R3	
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	エネルギー消費原単位の算出 デマンド監視装置による確認、運用	R3	R3	
4	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	仕事の状況に応じて機械を停止	R3	R3	
5	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	設定温度での運用 中間季における外気冷房の実施	R3	R3	
6	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	ブラインドの利用 シートシャッターによる外気の遮断 ビニールカーテンの利用	R3	R3	
7	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアフィルタの清掃 更新の検討	R3	R3	
8	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	主任技術者による定期点検・清掃・器具の改修	R3	R3	
9	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサーの更新検討 台数制御運転 定期清掃 メーカーによる点検	R3	R3	
10	390700	昇降機	39_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	メーカーによる定期点検・清掃・改修の実施	R3	R3	
11	410700	事務用機器	41_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	不使用時は電源を切る 保守点検の実施	R3	R3	
12	490100	その他	49_排出量取引	必要に応じて排出量取引を活用する	R7以降		
13	490200	その他	49_その他の削減対策	低炭素電力への切り替えを検討	R3	R3	
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社グレープストーン			
所在地	東京都中央区銀座5-6-15			
事業者番号	0644			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,863	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	食品製造、販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	900	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	064400	グレープストーン浦和工場	1,094
B、C事業所			
C	038202	グレープストーン桶川工場	1,769
合 計			2,863

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	(株)グレープストーン桶川工場
		所在地 1	埼玉県桶川市赤堀二丁目17
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

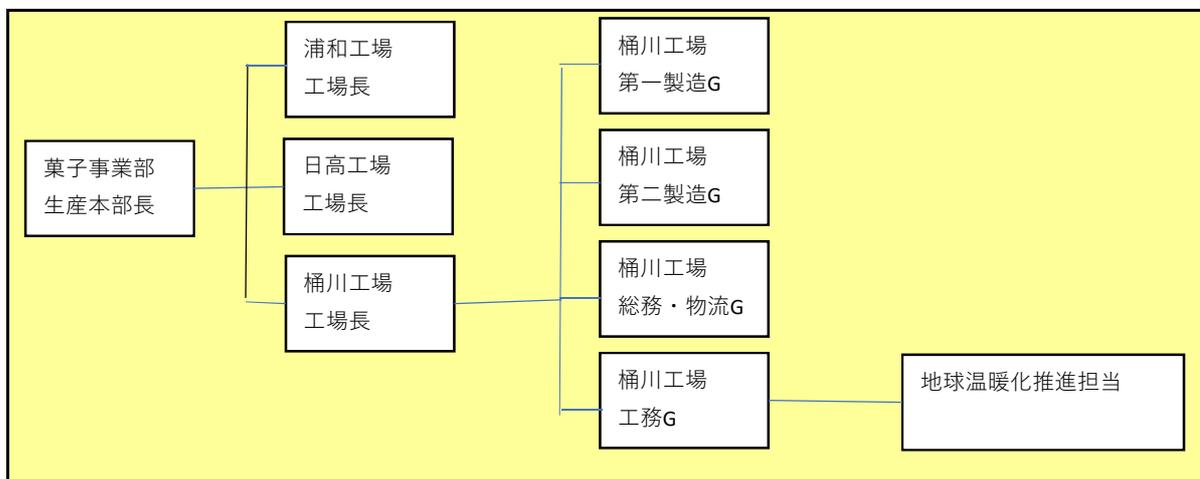
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	グレープストーン桶川工場	048-729-1780	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

常に地球環境と事業活動の深い関りを認識し、「クリーンな商品」を「クリーンな工場、オフィス」から「クリーンな物流、販売店」を通してお客様にお届けし、社会の持続的な発展を目指します。また、法規制、地球協定、業績規範の遵守はもとより、社会・地域貢献、自主的・持続的な改善、汚染の未然防止に取り組んでいきます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,809	3,020	5,681		
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,809	3,020	5,681		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0644	事業所番号	064400
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	グレープストーン浦和工場	前年度における事業所数	2
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区	
	字・地番	田島7-23-1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	菓子製造		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		4	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	2,150	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	t-CO <sub>2</sub> /t
	令和4年度を基準(2,150t-CO <sub>2</sub> )として排出量を毎年1%ずつ改善していきます。					
その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
その他ガス						

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	グレープストーン浦和工場	さいたま市桜区田島7-23-1
2	グレープストーン日高工場	日高市新堀新田28-1
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			1,094		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,150			2,150		
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)				0.0		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計				2,150		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位				2.7112		
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単 位			793.00		
生産量	t					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	空調室内機洗浄（浦和工場、日高工場）→CO <sub>2</sub> 排出量減に貢献 小規模生産ラインの更新（日高工場）→CO <sub>2</sub> 排出量減に貢献
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

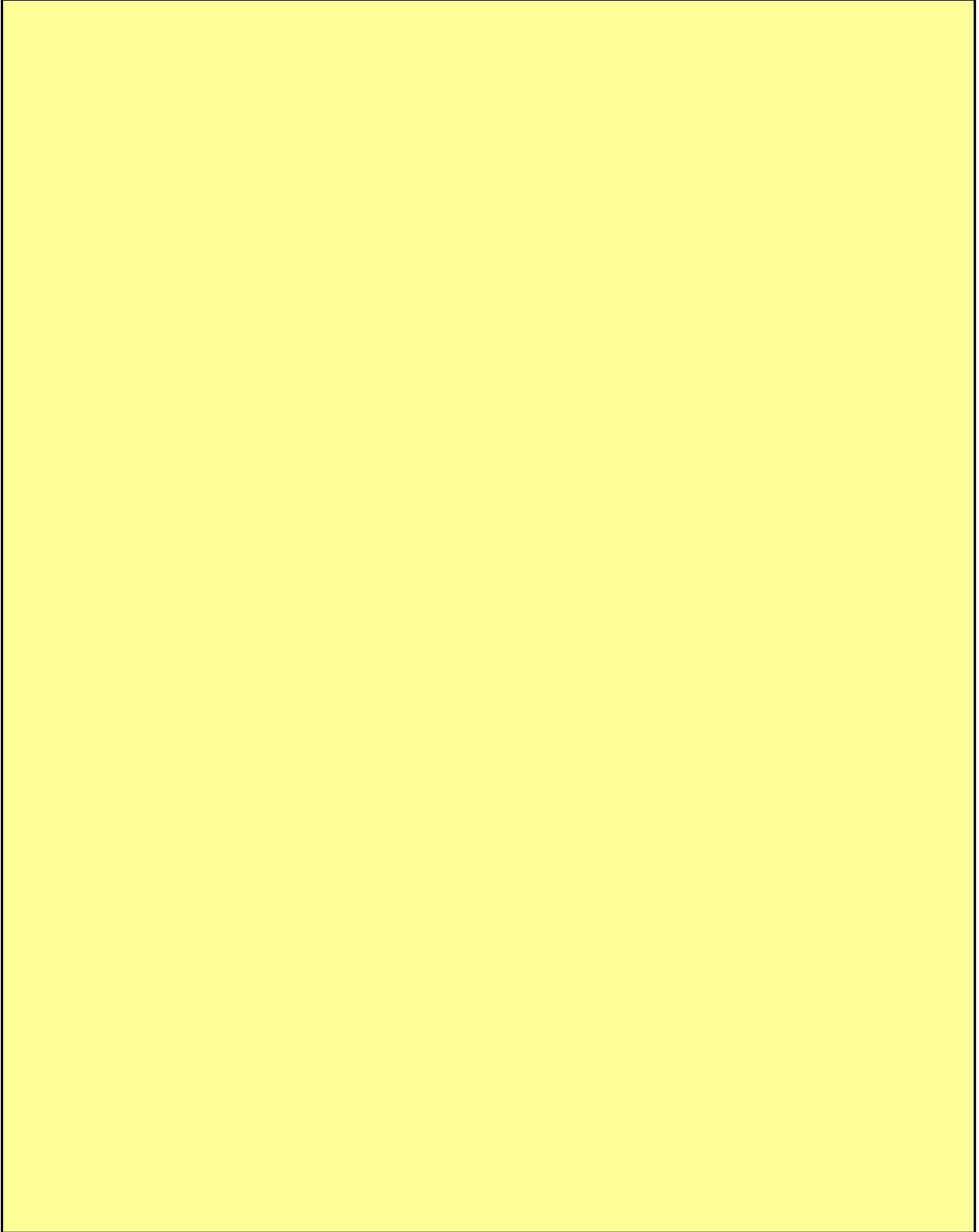
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明のLED化	R5		
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

事業者番号	0644	事業所番号	038202
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	グレープストーン桶川工場		
事業所所在地	市区町村	桶川市	
	字・地番	赤堀2-17	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	菓子製造、自動車部品研究開発	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量(4,644 t-co <sub>2</sub> )に対し、削減計画期間の令和2年度から4年度の目標削減率は13%、令和5年度以降は20%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,551	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	3,669	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,411	1,522	1,769		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,809	3,020	3,531		
前 年 度 比 ( % )	—	7.5	16.9		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,809	3,020	3,531		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0044	0.0027	0.0019		
前 年 度 比 ( % )	—	-39.6	-29.2		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	kg	632,430.00	1,125,109.00	1,858,340.00	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無	新型コロナの影響により桶川工場のエネルギー使用量大半を占めるテナントのお菓子製造が極端に落ち、更には7月は記録的な冷夏もあり、年間電気使用量が△20%減となった。9月に排水処理棟を増設した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナウィルスの影響を受けた菓子製造量が回復してきた為、電気使用量及びLPG使用量が増加した。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍の影響が薄れ、生産量が増えたことにより排出量が増加した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	4,644	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,644	4,644	4,644	4,644	4,644	23,220
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	13.00%	13.00%	13.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						19,551
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						3,669
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,809	3,020	3,531			9,360
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	39.51%	34.97%	23.97%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,835	1,624	1,113			4,572
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済			

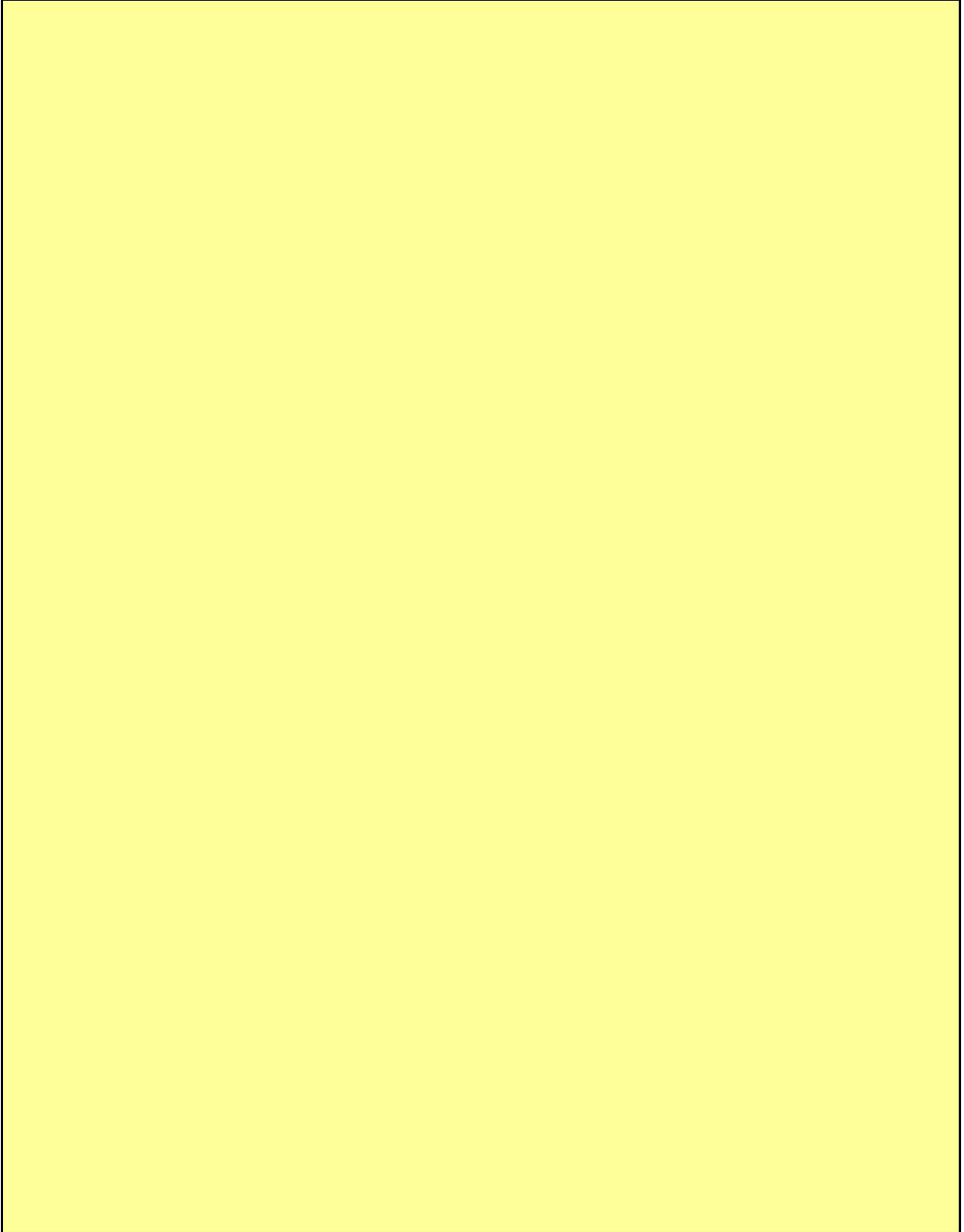
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	付帯設備の新設更新に伴う省エネ	R2	R2	
2	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	月別把握	R2	R2	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機器更新に伴う省エネ効果	R2	R2	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅱ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社トッパンフォトマスク		
所在地	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター33階		
事業者番号	0645		
燃料等使用量の原油換算の合計量(前年度)	5,087	kL/年	
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡	
産業分類名(中分類)	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業		
分類番号(中分類)	28		
事業活動の概要	事業内容	フォトマスクの製造・販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	400 百万円
		従業員数	1,794 人
商標又は商号 <small>(連鎖化事業者のみ)</small>			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
Bテナント等	064501	株式会社トッパンフोटマスク 朝霞工場	5,087
B、C事業所			
合 計			5,087

（4）公表方法

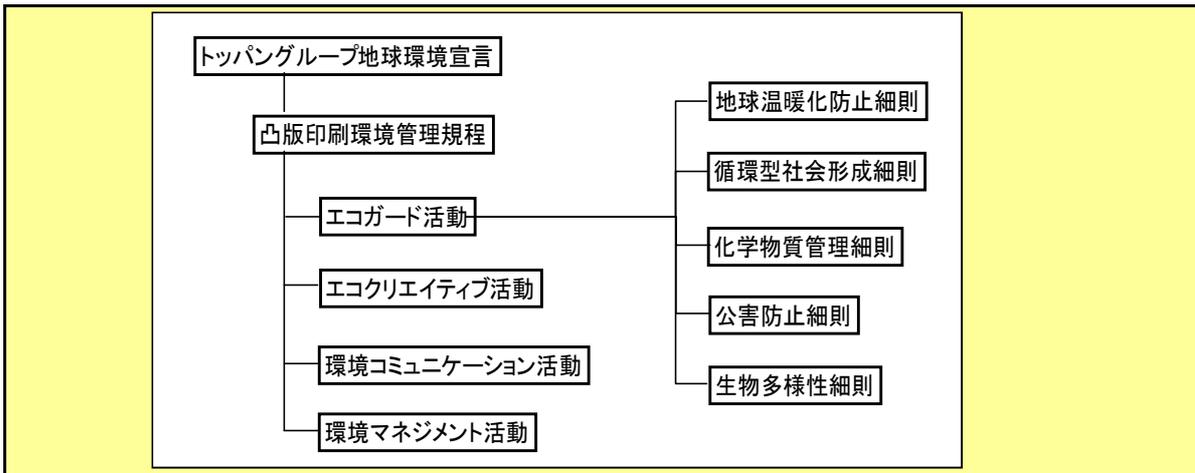
	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	トッパンフोटマスク朝霞工場
		所在地 1	新座市野火止7丁目21番33号
		閲覧可能時間 1	9:00～15:00（平日に限る）
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

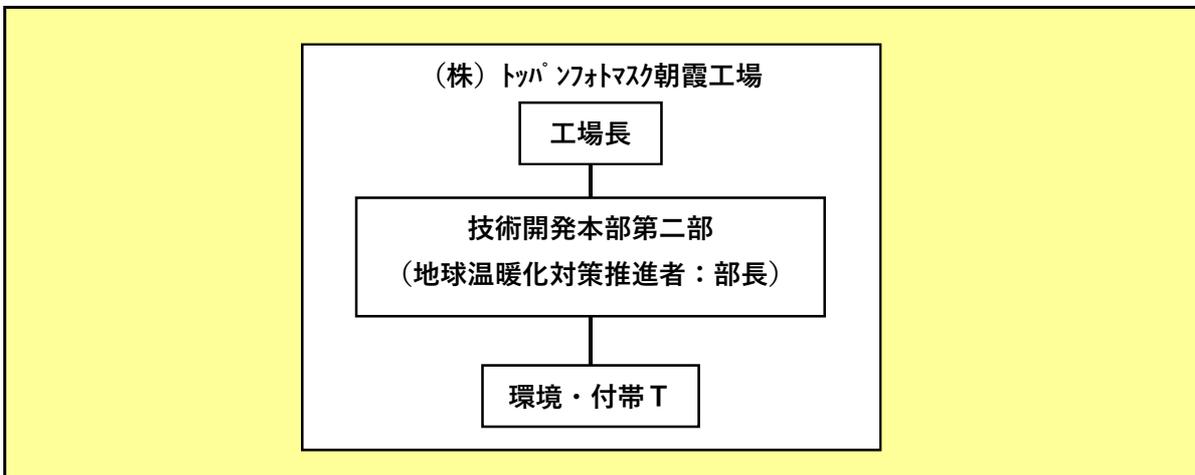
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境・施設 T	048-482-4716	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針



3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			10,047		
その他ガス					
温室効果ガスの 合計			10,047		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

## TOPPANグループ地球環境宣言

私たちは責任ある国際社会の一員として、  
TOPPANグループで働く者全員が、  
未来を見据えた地球環境の保全に配慮した企業活動を通じて、  
持続可能な社会の実現に努めます。

### 基本方針

1. 私たちは、環境に関する全ての法令及び社内規程を遵守します。
2. 私たちは、地球の未来のために、限りある資源の有効活用と、あらゆる環境負荷の低減に努めます。
3. 私たちは、先見性をもって環境に配慮した製品の開発と普及を促進し、お客さまの環境活動に貢献します。
4. 私たちは、社内外の広範な人びとと環境に関するコミュニケーションの活性化を図り、相互理解に努めます。
5. 私たちは、国際社会における企業活動においても、環境保全に積極的に取り組みます。

1992年4月策定  
2023年10月改定

令和 5 年度

事業者番号	0645	事業所番号	064501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社トッパンフオトマスク 朝霞工場		
事業所所在地	市区町村	新座市	
	字・地番	野火止7丁目21番33号	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	凸版印刷株式会社 朝霞工場		
産業分類名（中分類）	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業		
分類番号（中分類）	28		
事業活動の概要	フオトマスク、シリコンシテンシルマスク、ナノインプリント用モールド <sup>®</sup> の製造		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		5	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.7968 t-CO <sub>2</sub> /百万円
	昨年度比でエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位を1%改善する。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			5,087		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>				10,047		
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス						
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>						
メタン						
一酸化二窒素						
ハイドロフルオロカーボン						
パーフルオロカーボン						
六ふっ化いおう						
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計				10,047		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.7968			0.7968		
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)				0.0		
活動規模の指標	単 位					
生産高	百万円			12,609.05		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	(初年度につき記入なし)
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

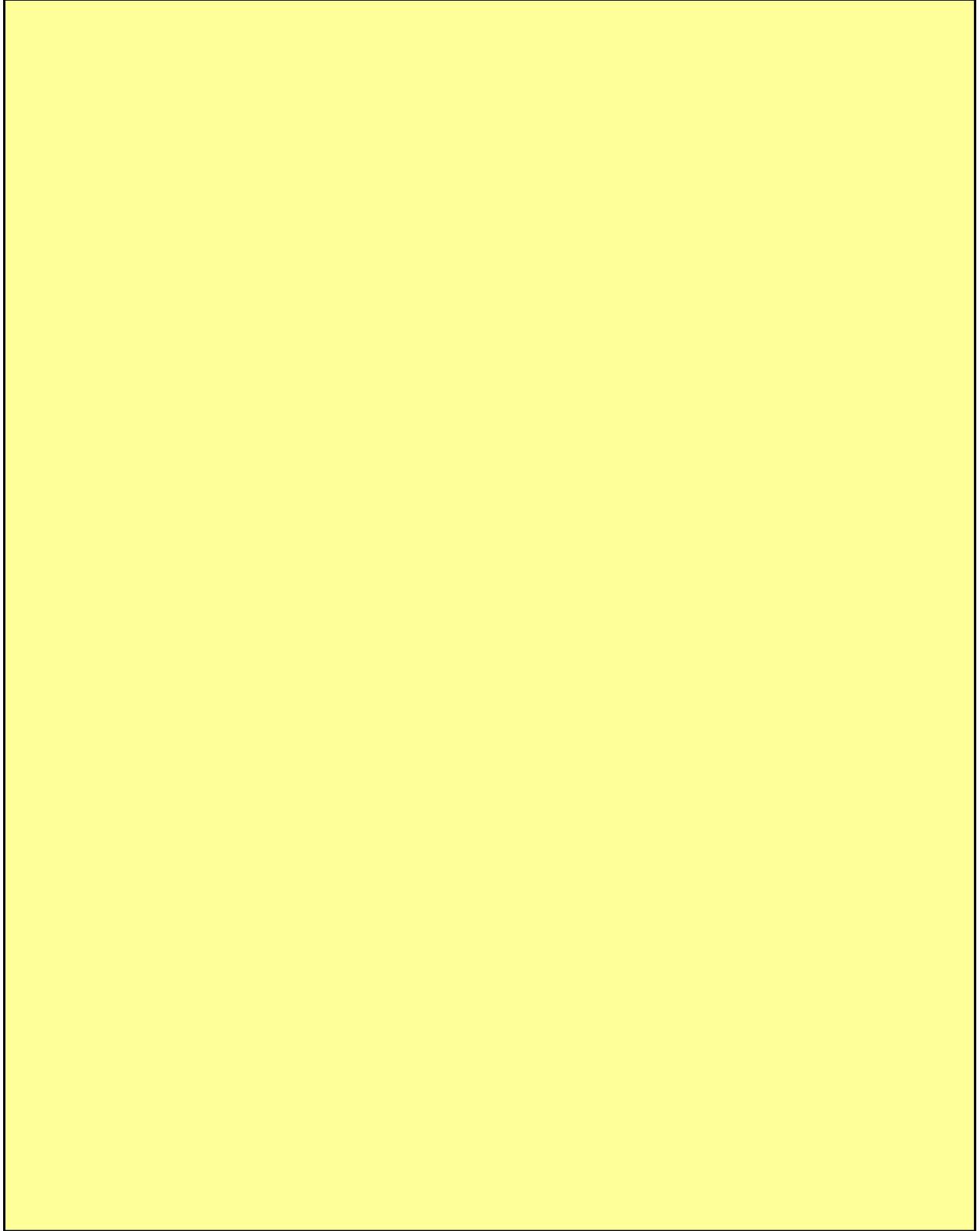
## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	ファンコイルユニット用冷水ポンプの停止による電力削減	R4	R4	59.0
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社レゾナック	
所在地		東京都港区芝大門1-13-9	
事業者番号		0646	
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)		8,312	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		16 化学工業	
分類番号 (中分類)		16	
事業活動の概要	事業内容	主要製品・商品 ◆石油化学(オレフィン、有機化学品、合成樹脂)◆化学品(機能性化学品、産業ガス、基礎化学品、情報電子化学品、コーティング材)◆エレクトロニクス(ハードディスク、SiCエピソード、化合物半導体、リチウムイオン電池材料)◆無機(黒鉛電極、セラミックス、ファインセラミックス)◆アルミニウム(レーザービームプリンター用シリンダー、押出品、鍛造品、熱交換器)◆その他(建材、卸売)	
	区分	企業	
	前年度	資本金	182,146 百万円
	前年度	従業員数	25,803 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	064600	株式会社レゾナック 秩父発電所	230
B、C事業所			
C	030001	株式会社レゾナック 秩父事業所	8,082
合 計			8,312

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 株式会社レゾナック 秩父事業所 受付
		所在地 1 秩父市下影森1505
		閲覧可能時間 1 8:00~16:45 (土日祝日を除く)
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
○	その他	秩父事業所「CSRサイトレポート」

## (5) 公表の担当部署

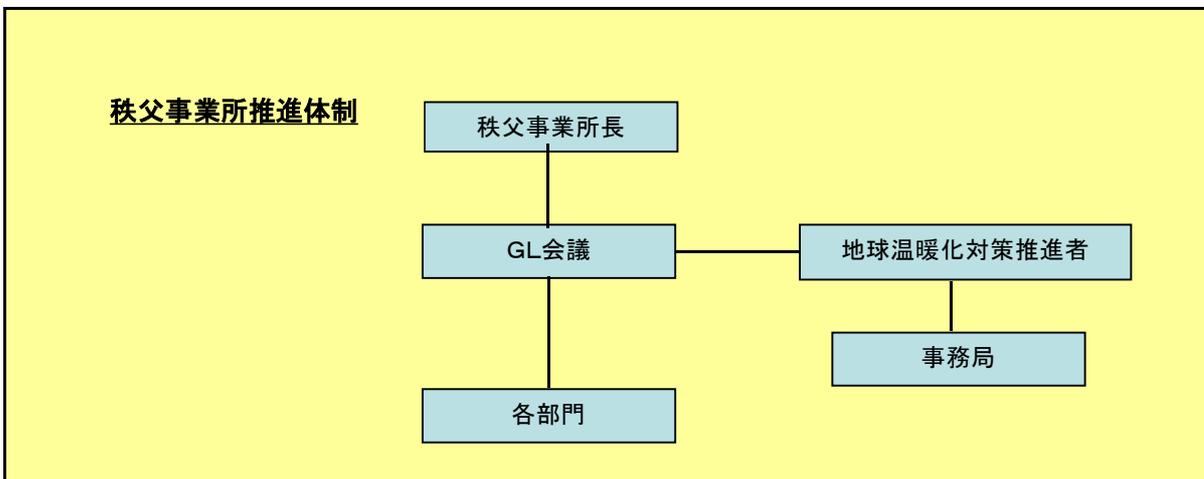
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部 環境安全グループ	0494-23-6111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境方針**  
 <基本理念>株式会社リナック秩父事業所(環境に係る業務を受託している関係会社を含む)は、秩父山麓の豊かな緑と荒川水系の恵まれた自然環境の中にあり、荒川を利用した水力発電所を備え、化合物半導体等、エレクトロニクス関連の多彩な製品群を生産すると共に、新たな研究開発の展開にも取り組んでいます。私達は、地球環境の保全が最重要課題であると認識し、自らの事業活動から生じる環境負荷の低減に取り組み、豊かでより良い地球環境の実現に向けて努力します。<行動方針>1. 事業所は、企業の社会的責任を深く認識し、地域社会との対話を深め、理解と信頼の向上に努めます。2. 環境に関する法規制及びその他の要求事項を遵守するため、自主管理基準を設定し、環境の保全に努めます。3. 事業所は、ライフサイクルの視点を考慮し、活動・製品・サービスに係わる環境側面・環境影響を評価、環境負荷の低減等に向けた目標を設定し、その活動を積極的に推進します。4. 事業所の活動が環境に及ぼす影響を認識し、継続的な改善と汚染の予防並びに持続可能な資源の利用に努めます。5. 環境パフォーマンスの向上を図ると共に、状況の変化を反映させるべく定期的に見直しを行います。6. 事業所は、この環境方針を全従業員並びに協力会社に周知すると共に社外に公表します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	15,641	15,839	16,847		
その他ガス					
温室効果ガスの合計	15,641	15,839	16,847		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0646	事業所番号	064600
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社レゾナック 秩父発電所	前年度における事業所数	4
代表事業所所在地	市区町村	秩父市	
	字・地番	久那1114	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	33 電気業		
分類番号(中分類)	33		
事業活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>秩父発電所 2017年より発電した電力は東京電力へ売電。水力発電所(2基 7910kW)、水取入れ口及び沈砂池：無人運転</li> <li>浦山揚水場 汲み上げた水は工場で使用。「5. 自由記述覧参照」無人運転</li> </ul>		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	432	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス	浦山揚水場が令和1年12月より東電からの直接受電になりA事業所となったため、令和2年度の排出量(432t-CO <sub>2</sub> )を基準として、計画期間の削減量を1%以上とします。発電所は水力発電した電力を使用しているが、定期的メンテナンス等による発電停止及び瞬停電時に購入電気を使用します。				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社レゾナック 秩父発電所	秩父市久那1114
2	株式会社レゾナック 秩父発電所 取入れ口	秩父市大滝4829-4
3	株式会社レゾナック 秩父発電所 沈砂池	秩父市荒白久1795
4	株式会社レゾナック 浦山揚水場	秩父市荒川久那3756-3
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	220	225	230		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	432	432	442	451		
前年度比（%）		—	2.3	2.0		
基準となる排出量に対する削減率（%）		0.0	-2.3	-4.4		
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		432	442	451		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比（%）		—				
基準となる原単位に対する削減率（%）						
活動規模の指標	単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発電所の使用電力は、通常は水力発電した電力を使用していますが定期的メンテナンス等による停止及び瞬停電時に購入電気を使用しています。令和2年は5月に東電の送電線改造工事があり、前年より多く停止し通常1年分より使用量が増えています。</li> <li>●取入れ口、沈砂池の使用電力は、装置メンテ時の駆動電源及び常夜灯（保安用）での使用のみで、使用量も少ない。無人運転であり、通常年との変化はありません。</li> <li>●浦山揚水場の使用電力は、揚水汲上げポンプで使用しています。台風や悪天候での川の氾濫や、好天が続き上流の浦山ダムの排出水が無くなった時にポンプを停止しなくてはいけなくなります。</li> </ul> <p>令和元年は大規模台風（台風19号）の影響で7日間程度停止していますが、令和2年は大きな災害は無く、災害による停止はなく通常年と同じ程度でしたので去年より使用量は増えていると思われれます。</p>
令和3年度 (2021年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発電所の使用電力は、通常は水力発電した電力を使用していますが定期的メンテナンス等による停止及び瞬停電時に購入電気を使用しています。</li> <li>●取入れ口、沈砂池の使用電力は、装置メンテ時の駆動電源及び常夜灯（保安用）での使用のみで、使用量も少ない。無人運転であり、通常年との変化はありません。</li> <li>●浦山揚水場の使用電力は、揚水汲上げポンプで使用しています。台風や悪天候での川の氾濫や、好天が続き上流の浦山ダムの排出水が無くなった時にポンプを停止しなくてはいけなくなります。</li> </ul> <p>令和元年は大規模台風（台風19号）の影響で7日間程度停止していますが、令和3年は大きな災害は無く、災害による停止はなく通常年と同じ程度でしたので去年より使用量は増えていると思われれます。</p>
令和4年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発電所の使用電力は、通常は水力発電した電力を使用していますが定期的メンテナンス等による停止及び瞬停電時に購入電気を使用しています。</li> <li>●取入れ口、沈砂池の使用電力は、装置メンテ時の駆動電源及び常夜灯（保安用）での使用のみで、使用量も少ない。無人運転であり、通常年との変化はありません。</li> <li>●浦山揚水場の使用電力は、揚水汲上げポンプで使用しています。台風や悪天候での川の氾濫や、好天が続き上流の浦山ダムの排出水が無くなった時にポンプを停止しなくてはいけなくなります。</li> </ul> <p>令和4年は大きな災害は無く、災害による停止はなく通常年と同じ程度でしたので去年より使用量は増えていると思われれます。</p>
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	取入れ口と沈砂池の照明と防犯灯をLED 照明に変更		R1以前	0.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	発電所の照明をLED照明に変更		R2	0.0
3				R3年度は特にありません			
4				R4年度は特にありません			
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	発電所の水槽の照明LED化		R5	0.0
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

○株式会社レブナック秩父事業所 浦山揚水場について

・事業所内で使用する工業用水（冷却水、純水、消火栓等の水）を浦山揚水場で荒川支流の浦山川より汲上げ使用しています。令和1年12月までは、事業所から揚水場まで配線があり使用電力を事業所（メータを経由して）より送電していました。設備の老朽化により、令和1年12月より、東電送電線より直接受電しています。

令和 5 年度

事業者番号	0646	事業所番号	030001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社レゾナック 秩父事業所		
事業所所在地	市区町村	秩父市	
	字・地番	下影森1505	
産業分類名(中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号(中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	化合物半導体材料・パワー半導体の開発・製造 アルミニウム系粉末合金の開発・製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	規準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	76,368	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	19,092	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	7,464	7,567	8,082		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	15,209	15,397	16,396		
前年度比 (%)	—	1.2	6.5		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	15,209	15,397	16,396		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	6.6600	6.0721	3.0533		
前年度比 (%)	—	-8.8	-49.7		
活動規模の指標	単位				
生産量	m <sup>2</sup> /年	2,283.65	2,535.71	5,369.98	

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有	冷夏による使用電力の少量化と、変圧器の更新、高効率化による使用電力の減少。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	S i C基板設備（昇華炉）の増加による使用電力の増加と、電子材4棟空調用チラー設備の更新・高効率化による使用電力の減少。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	2022年12月でレアアース事業生産終了の為、LPG（Kg）、灯油の使用量が減少。 S i C生産量増加による使用電力増加。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	19,092	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	19,092	19,092	19,092	19,092	19,092	95,460
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						76,368
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						19,092
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	15,209	15,397	16,396			47,002
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	20.34%	19.35%	14.12%			—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	3,883	3,695	2,696			10,274
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済			

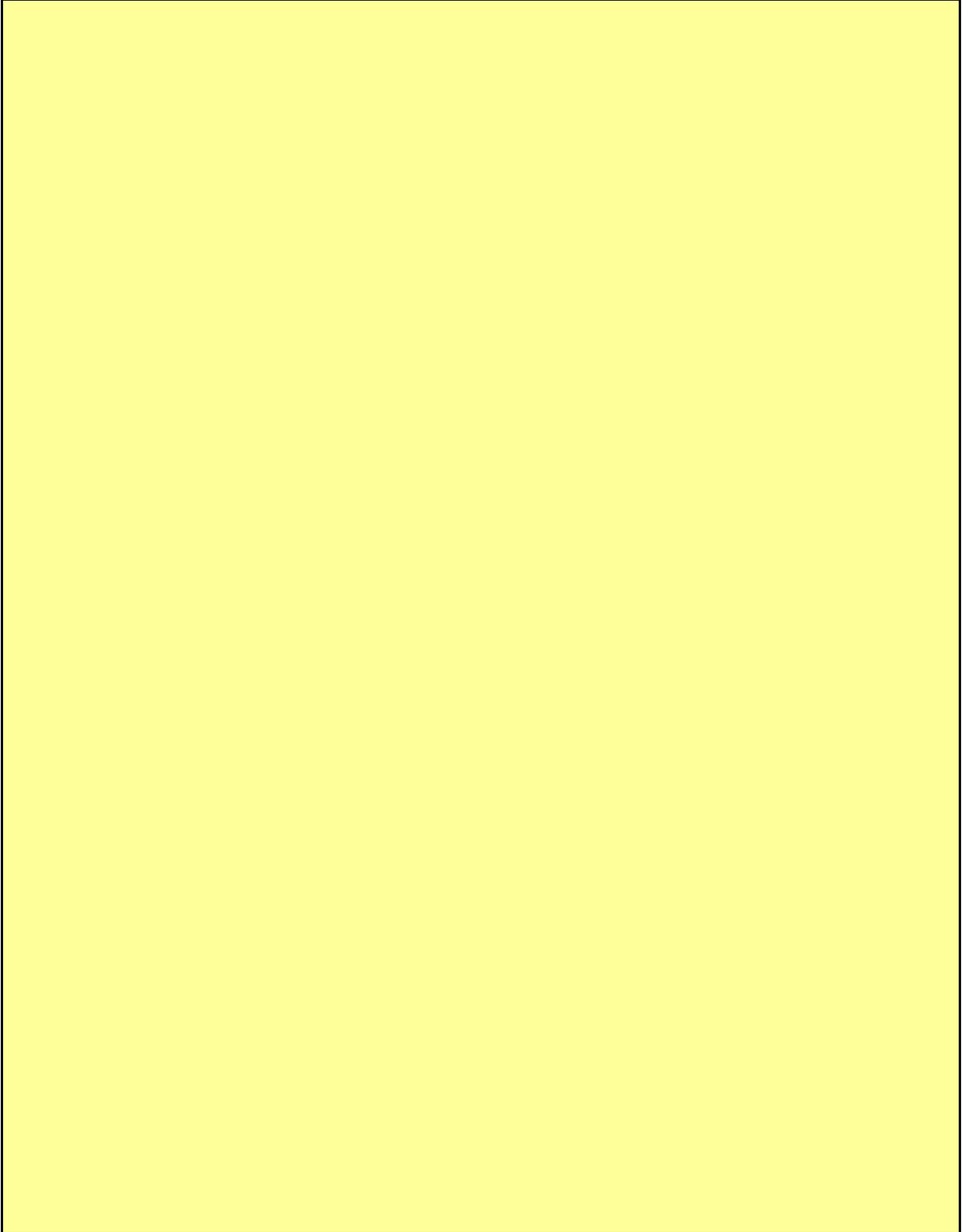
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する措置	電子材第8棟他 変圧器 高効率化更新	R2	19.0	
2	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する措置	レアアース第4工場他 不要な変圧器 停止	R2	34.0	
3	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	SHORIK工場 水銀灯照明のLED 照明化	R2	2.0	
4	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	SHORIK工場 コンプレッサ 高 効率化更新	R2	4.0	
5	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する措置	クロマックス変台 変圧器 高効率化 更新	R4	R4	3.1
6	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	電子材第4棟 空調用チラー設備 高効 率化更新	R3	21.0	
7	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	電子材第4棟 コンプレッサ 高効率 化更新	R3	2.0	
8	130100		空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運転 管理	厚生棟食堂空調更新(高効率化)	R4	4.4	
9	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	8棟東側照明LED化	R4	11.2	
10	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	厚生棟3階照明LED化	R4	1.4	
11	130100		空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運転 管理	3棟エピ室空調機更新	R5	14.0	
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	DHLCF合同会社		
所在地	東京都千代田区永田町2丁目4番8号		
事業者番号	0647		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,049	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	64 貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関		
分類番号 (中分類)	64		
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：オープンエンド型私募ファンド 運用開始時期：2020年12月1日 保有物件数：7物件（2023/4 現在）	
	区分	企業	
	前年度	資本金	百万円
		従業員数	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	064701	DPL川口領家	2,049
合 計			2,049

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	大和ハウス・アセットマネジメント(株) 会議室
		所在地 1	東京都千代田区永田町二丁目4番8号
		閲覧可能時間 1	月～金 9:00～18:00 (祝日、年末年始を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	私募ファンド本部	03-3595-1312	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

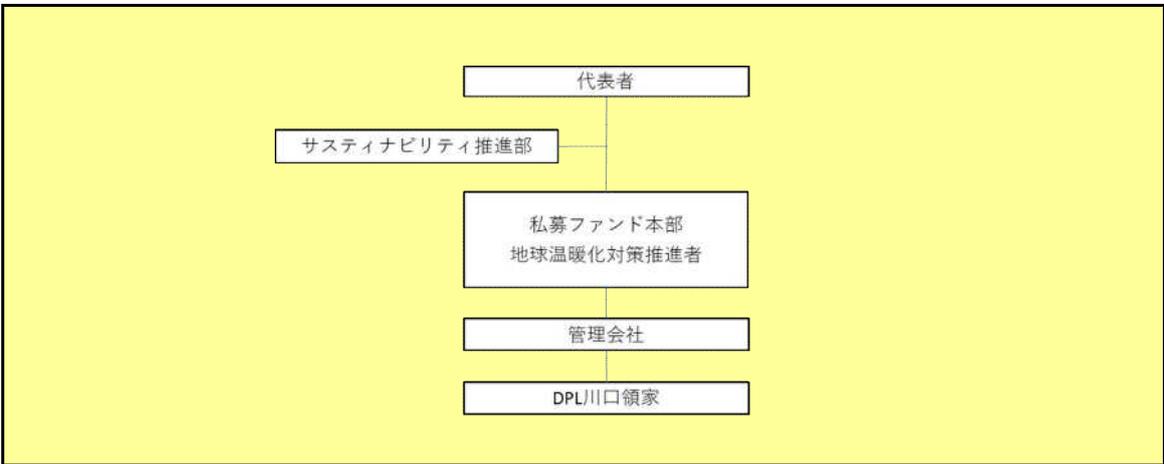
サステナビリティ方針（抜粋）

①地球温暖化防止  
 脱炭素社会の実現に向け、省エネルギー設備の導入などによる省エネ対策を推進します。また、再生可能エネルギー発電設備の導入や導入物件の取得を検討します。

⑤社内体制の構築と従業員への取り組み  
 サステナビリティを推進するための社内体制を構築し、役職員の教育・訓練を定期的に行い、人財の育成に取り組めます。また、安全かつ健康的に働くことのできる職場・多様な従業員が柔軟に働ける職場作りを目指します。

⑧法規制等の遵守とリスクマネジメント  
 ESGに関する法令を遵守します。また、不動産取得時のリスク評価における環境・社会的影響の考慮や人権啓発の推進など、適切なリスクマネジメントに努めます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		4,218	4,028		
その他ガス					
温室効果ガスの計		4,218	4,028		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0647	事業所番号	064701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	DPL川口領家		
事業所所在地	市区町村	川口市	
	字・地番	領家五丁目14番35号	
産業分類名 (中分類)	47 倉庫業		
分類番号 (中分類)	47		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：オープンエンド型私募ファンド 運用開始時期：2020年12月1日 保有物件数：7物件 (2023/4 現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	4	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	2021年度を基準として原単位を毎年1%ずつ改善			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
事業所区分					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			2,146	2,049	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>		4,218	4,028		
前年度比 (%)	—		-4.5		
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計		4,218	4,028		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.0590	0.0564		
前年度比 (%)	—		-4.5		
活動規模の指標	単位				
延床面積	m <sup>2</sup>	71,459.69	71,459.69		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

物流施設では、テナントの使用状況によるところが大きいが、運用改善や稼働状況により前年比で微減となった。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	サステイナビリティ推進部とのMtg	R5	R4	
2	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	PM・BM会社との情報交換会議の実施	R5	R4	
3	150200		受変電設備、 照明設備、 電気設備 15_照明設備の運用 管理	LED器具の更新・計画（竣工時からLED であり寿命による更新を検討）	R7以降		
4	130100		空気調和設 備・換気設備 13_空気調和の運転 管理	空調更新	R7以降		
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 5 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社武蔵野ロジスティクス			
所在地	埼玉県入間郡三芳町大字上富167			
事業者番号	0656			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,702	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	44 道路貨物運送業			
分類番号 (中分類)	44			
事業活動の 概要	事業内容	設立年月日：1977年9月 一般貨物運輸業、倉庫業、自動車整備事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	26	百万円
		従業員数	970	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	065601	株式会社武蔵野ロジスティクス本社・埼玉物流センター・首都圏フローズンセンター	1,702
合 計			1,702

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	管理部・総務課
		所在地 1	埼玉県入間郡三芳町大字上富167
		閲覧可能時間 1	平日10:00~16:00 *事前に電話連絡のうえ、来社下さい。
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	管理部・総務課	049-258-3000	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

<環境基本指針>

株式会社武蔵野ロジスティクスは、社員一人一人が環境に対する意識の向上を図り、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組み、法規制を遵守し地域社会への貢献を目指します。

行動指針

- (1) 低公害車の導入(具体数値の設定)を促進いたします。
- (2) 走行距離、燃料給油量の管理を徹底し、燃費向上を目指します。
- (3) 車両の点検整備の基準を設定し、徹底します。
- (4) ドライバー個々が、エコドライブに取り組みます。
  - ①速度制限を守る。②不必要なアイドリングをしない。③空ふかしをしない。
  - ④急発進・急加速をしない。⑤タイヤ空気圧等点検・整備を徹底する。
- (5) グリーン購入、廃棄物の適正処理を推進します。

株式会社武蔵野ロジスティクス全事業所について、ソフト・ハードの両面から費用対効果を重視しながら、CO2削減を積極的に対策推進する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

管理統括責任者(門岡社長)⇒ 実行推進者(地球温暖化対策推進者)⇒各事業所責任者(各所長)⇒各事業所 推進リーダー ⇒ 各事業所毎に組織編制

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量(事業所合算)の推移

CO<sub>2</sub>換算(t-CO<sub>2</sub>)

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			3,368		
その他ガス					
温室効果ガスの計			3,368		

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 5 年度

事業者番号	0656	事業所番号	065601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社武蔵野ロジスティクス本社・埼玉物流センター・首都圏フローズンセンター		
事業所所在地	市区町村	埼玉県入間郡三芳町	
	字・地番	大字上富167	
産業分類名 (中分類)	44 道路貨物運送業		
分類番号 (中分類)	44		
事業活動の概要	事業内容	一般貨物運輸業、倉庫業、自動車整備業 ①本社②車両技術センター ③埼玉物流センター ④首都圏フローズンセンター ※新設	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		5	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和7年度からは、C事業所になる見込みであるため、令和4年度を当面の基準として、令和4年度の排出量を6%以上削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
				1,702	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>			3,368		
前年度比（%）	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計			3,368		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位			0.6852		
前年度比（%）	—				
活動規模の指標単 売上高			4,915.53		
	百万円				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)						
令和4年度 (2022年度)	有		無		有	
	<p>冷凍倉庫（首都圏フローゼンセンター）が2022年5月に竣工し、同年7月より稼働開始となったことで電力使用量が大幅増加した。これにより原油換算1500 kL超となり、本件報告対象となったもの。 新冷凍倉庫はCO<sub>2</sub>冷媒冷凍機を採用し、稼働当初から省電力・省CO<sub>2</sub>対策を行っている。</p>					
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	倉庫内空調更新 (計27台)	R1以前	R1以前	
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	事務所・倉庫内照明LED更新(計:422台)	R1以前	R1以前	
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	月別エネルギー使用量の把握、売上高等との比較検証	R1以前	R1以前	
4	410700	事務用機器	41_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	事務用機器の節電	R1以前	R1以前	
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機設定温度の遵守 事務所設定 (冷房28℃、暖房20℃) 倉庫内設定 (チルド3℃、冷凍-25℃)	R1以前	R1以前	
6	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明設備の節電	R1以前	R1以前	
7	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	ドライバーミーティングで内容を盛り込み実施する。(月1回)	R4	R4	
8	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	燃費実績表を掲示して運転者毎に燃費を意識させ、更なる燃料経費削減を目指す。	R4	R4	
9	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	CO2冷媒空調・冷凍機の導入検討	R5		5.0
10	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関する推進組織の整備	R5		
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄